2016年度

シラバス

交流文化学科

秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に入学年度・所属学部・学科名等が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科		済： 経済学科	律： 法律学科
英： 英語学科		営： 経営学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科		環： 国際環境経済学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学科			免： 2013年度以降入学の教職課程登録者
全： 交流文化学科以外の全学部学科			

2. シラバスページの見方（右図参照）

①入学年度

09年度……2009年度入学者
09～12年度……2009～2012年度入学者
13年度以降……2013年度以降入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト、参考文献

⑧評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
到達目標	⑤	
事前・事後学修の内容	⑥	
テキスト、参考文献	⑦	
評価方法	⑧	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。

――― 目　次 ―――

2009～2016 年度入学者開設科目一覧表
学科基礎科目 ---------- 2
学科共通科目 ---------- 4
学科専門科目 ---------- 9
外国語学部共通科目開設一覧表 ---------- 13
担当者別シラバス ---------- 15

【参考資料】（英語レベル表）

2009 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®	TOEFL®		実用英語技能検定
		PBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、
学内で実施した TOEIC®テストのスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。

学内で実施した TOEIC®テスト以外のスコアを利用する場合は、
既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

交流文化学科　授業科目

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜 時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化概論i	鈴木　涼太郎	春	水 3	2	1	全	15
交流文化概論ii	山口　誠 / 須永　和博	春	金 1	2	1	全	16
交流文化概論iii	永野　隆行	秋	火 5	2	1	全	17
基礎演習Ⅰ	高橋　雄一郎	春	水 1	2	1	全	18
基礎演習Ⅱ	高橋　雄一郎	秋	水 1	2	1	全	18
基礎演習Ⅰ	島田　啓一	春	水 1	2	1	全	19
基礎演習Ⅱ	島田　啓一	秋	水 1	2	1	全	19
基礎演習Ⅰ	山口　誠	春	水 1	2	1	全	20
基礎演習Ⅱ	山口　誠	秋	水 1	2	1	全	20
基礎演習Ⅰ	鈴木　涼太郎	春	水 1	2	1	全	21
基礎演習Ⅱ	鈴木　涼太郎	秋	水 1	2	1	全	21
基礎演習Ⅰ	須永　和博	春	水 1	2	1	全	22
基礎演習Ⅱ	須永　和博	秋	水 1	2	1	全	22
英語圏の文学と文化概論	児嶋　一男	春	火 2	2	1	全	23
英語圏の文学と文化概論	児嶋　一男	秋	火 2	2	1	全	23
英語圏の文学と文化概論	上野　直子	春	木 4	2	1	全	24
英語圏の文学と文化概論	上野　直子	秋	木 4	2	1	全	24
英語の世界Ⅰ	田川　憲二郎	春	木 2	2	2	全	25
英語の世界Ⅰ　再履修	倉林　秀男	秋	月 5	2	2	全	25
English for BusinessⅠ	各担当教員	春		1	2	全	26
English for BusinessⅡ	各担当教員	秋		1	2	全	26
Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火 1	1	1	全	27
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	D. ブラドリー	秋	火 1	1	1	全	27
Listening & Speaking	D. ブラドリー	春	火 2	1	1	全	28
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	D. ブラドリー	秋	火 2	1	1	全	28
Listening & Speaking	田川　憲二郎	春	金 3	1	1	全	29
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	田川　憲二郎	秋	金 3	1	1	全	29
Listening & Speaking	日野　克美	春	火 3	1	1	全	30
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	日野　克美	秋	火 3	1	1	全	30
Listening & Speaking	日野　克美	春	火 1	1	1	全	31
Listening Practice for TOEFL®＆TOEIC®	日野　克美	秋	火 1	1	1	全	31
Grammar for TOEFL®＆TOEIC®Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	32
Grammar for TOEFL®＆TOEIC®Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	32
Reading StrategiesⅠ	伊藤　兵馬	春	木 3	1	1	全	33
Reading StrategiesⅡ	伊藤　兵馬	秋	木 3	1	1	全	33
Reading StrategiesⅠ	倉林　秀男	春	月 5	1	1	全	34
Reading StrategiesⅡ	町田　喜義	秋	月 5	1	1	全	34
Reading StrategiesⅠ	瀬戸　千尋	春	月 4	1	1	全	35
Reading StrategiesⅡ	瀬戸　千尋	秋	月 4	1	1	全	35
Reading StrategiesⅠ	伊藤　兵馬	春	月 2	1	1	全	36
Reading StrategiesⅡ	伊藤　兵馬	秋	月 2	1	1	全	36
Reading StrategiesⅠ	佐藤　芳明	春	水 2	1	1	全	37
Reading StrategiesⅡ	佐藤　芳明	秋	水 2	1	1	全	37
Reading StrategiesⅢ	佐藤　芳明	春	水 3	1	2	全	38
Reading StrategiesⅣ	佐藤　芳明	秋	水 3	1	2	全	38
Reading StrategiesⅢ	河原　宏之	春	月 4	1	2	全	39
Reading StrategiesⅣ	河原　宏之	秋	月 4	1	2	全	39
Reading StrategiesⅢ	関根　路代	春	水 1	1	2	全	40
Reading StrategiesⅣ	関根　路代	秋	水 1	1	2	全	40
Reading StrategiesⅢ	白川　貴子	春	水 2	1	2	全	41
Reading StrategiesⅣ	白川　貴子	秋	水 2	1	2	全	41
Reading StrategiesⅢ	白川　貴子	春	水 1	1	2	全	42
Reading StrategiesⅣ	白川　貴子	秋	水 1	1	2	全	42

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜 時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Writing Strategies Ⅰ	R. J. バロウズ	春	火 5	1	1	全	43
Writing Strategies Ⅱ	伊藤　兵馬	秋	火 2	1	1	全	43
Writing Strategies Ⅰ	伊藤　兵馬	春	月 4	1	1	全	44
Writing Strategies Ⅱ	伊藤　兵馬	秋	月 4	1	1	全	44
Writing Strategies Ⅰ	R. J. バロウズ	春	火 3	1	1	全	45
Writing Strategies Ⅱ	R. J. バロウズ	秋	火 3	1	1	全	45
Writing Strategies Ⅰ	M. ダーリン	春	月 4	1	1	全	46
Writing Strategies Ⅱ	M. ダーリン	秋	月 4	1	1	全	46
Writing Strategies Ⅰ	D. グライムズ	春	金 2	1	1	全	47
Writing Strategies Ⅱ	D. グライムズ	秋	金 2	1	1	全	47
Comprehensive English Ⅰ	N. H. ジョスト	春	月 2	1	1	全	48
Comprehensive English Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	月 2	1	1	全	48
Comprehensive English Ⅰ	K. ミーハン	春	金 2	1	1	全	49
Comprehensive English Ⅱ	K. ミーハン	秋	金 2	1	1	全	49
Comprehensive English Ⅰ	A. ジェネス	春	月 3	1	1	全	50
Comprehensive English Ⅱ	A. ジェネス	秋	月 3	1	1	全	50
Comprehensive English Ⅰ	D. マッキー	春	木 3	1	1	全	51
Comprehensive English Ⅱ	D. マッキー	秋	木 3	1	1	全	51
Comprehensive English Ⅰ	A. マグズ	春	月 2	1	1	全	52
Comprehensive English Ⅱ	A. マグズ	秋	月 2	1	1	全	52
Comprehensive English Ⅰ	D. ベーカー	春	木 3	1	1	全	53
Comprehensive English Ⅱ	D. ベーカー	秋	木 3	1	1	全	53
Comprehensive English Ⅰ	K. ミーハン	春	月 3	1	1	全	54
Comprehensive English Ⅱ	K. ミーハン	秋	月 3	1	1	全	54
Comprehensive English Ⅰ	M. ボイル	春	水 4	1	1	全	55
Comprehensive English Ⅱ	M. ボイル	秋	水 4	1	1	全	55
Comprehensive English Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月 2	1	1	全	56
Comprehensive English Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月 2	1	1	全	56
Comprehensive English Ⅰ	M. ダーリン	春	月 3	1	1	全	57
Comprehensive English Ⅱ	M. ダーリン	秋	月 3	1	1	全	57
Comprehensive EnglishⅢ	E. フランコ	春	木 3	1	2	全	58
Comprehensive EnglishⅣ	E. フランコ	秋	木 3	1	2	全	58
Comprehensive EnglishⅢ	D. グライムズ	春	金 1	1	2	全	59
Comprehensive EnglishⅣ	D. グライムズ	秋	金 1	1	2	全	59
Comprehensive EnglishⅢ	A. マグズ	春	木 3	1	2	全	60
Comprehensive EnglishⅣ	A. マグズ	秋	木 3	1	2	全	60
Comprehensive EnglishⅢ	E. フランコ	春	木 1	1	2	全	61
Comprehensive EnglishⅣ	E. フランコ	秋	木 1	1	2	全	61
Comprehensive EnglishⅢ	D. グライムズ	春	月 5	1	2	全	62
Comprehensive EnglishⅣ	D. グライムズ	秋	月 5	1	2	全	62
E-learning Ⅰ	島田　啓一	春	木 4	1	1	全	63
E-learning Ⅱ	島田　啓一	秋	木 4	1	1	全	63

学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ (Life And Language In The Amazonian Jungle)	J. N. ウェンデル	春のみ	月1	2	2	全	64
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Cool Japan:1900-2016)	J. E. マジャール	春秋	月2	2	2	全	65
英語専門講読Ⅰ (Language, Thought, and Culture)	J. N. ウェンデル	春のみ	月2	2	2	全	66
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Exploring Language Teaching)	浅岡　千利世	春秋	月2	2	2	全	67
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Immigration, Social Change & Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2	全	68
英語専門講読Ⅰ (生成文法の統語論と意味論)	鈴木　英一	春秋	月3	2	2	全	69
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語圏伝承童謡を読む)	大木　理恵子	春秋	月4	2	2	全	70
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Children's Classics)	前沢　浩子	春秋	月4	2	2	全	71
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (日本社会の再確認)	町田　喜義	春秋	月4	2	2	全	72
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Situating your Eating Habit in the Social Context)	三吉　美加	春秋	月4	2	2	全	73
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Rising Son)	N. H. ジョスト	春秋	火1	2	2	全	74
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (平和構築Ⅰ/平和構築Ⅱ)	未定	春秋	火1	2	2	全	75
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディスコース分析)	佐藤　芳明	春秋	火2	2	2	全	76
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語教育・SLA最前線)	羽山　恵	春秋	火2	2	2	全	77
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩──Gary Snyderの最新詩集This Present Momentを読む)	原　成吉	春秋	火3	2	2	全	78
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language & Education)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	全	79
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (映画『Matrix』批評)	柿田　秀樹	春秋	火3	2	2	全	80
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (国際安全保障)	佐野　康子	春秋	火3	2	2	全	81
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ小説)	島田　啓一	春秋	火3	2	2	全	82
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (異文化コミュニケーションの基礎 / 異文化コミュニケーション理論と応用)	瀬戸　千尋	春秋	火3	2	2	全	83
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (日英語の使役構文の比較)	安井　美代子	春秋	火3	2	2	全	84
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代東南アジア諸国の経済・政治)	金子　芳樹	春秋	火4	2	2	全	85
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Prejudice and discrimination in contemporary Japan / Making sense of study abroad experience)	工藤 和宏	春秋	火4	2	2	全	86
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史／米国ユダヤ人史)	佐藤　唯行	春秋	火4	2	2	全	87
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (世界ブランドと国際関係)	竹田　いさみ	春秋	火4	2	2	全	88

学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名（副題）	担当者	開講区分	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ （音声に現れることばの不思議）	青柳　真紀子	春のみ	水1	2	2	全	89
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	金子　芳樹	春秋	水1	2	2	全	90
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （アメリカの広告文化史研究 ① / アメリカの広告文化史研究 ②）	板場　良久	春秋	水2	2	2	全	91
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む）	金谷　優子	春秋	水2	2	2	全	92
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （地球市民のためのフェアトレード入門）	北野　収	春秋	水2	2	2	全	93
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （英語圏の現代演劇）	児嶋　一男	春秋	水2	2	2	全	94
英語専門講読Ⅱ （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	杉山　晴信	秋のみ	水2	2	2	全	95
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （英語でグローバル社会を語る）	竹田　いさみ	春秋	水2	2	2	全	96
英語専門講読Ⅱ （「客室乗務員」の社会学）	山口　誠	秋のみ	水2	2	2	全	97
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （実践的な英語の聴解・発音教育）	中田　ひとみ	春秋	水4	2	2	全	98
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （外国人が旅するJapan①：Lonely Planet編 / 外国人が旅するJapan②：Michelin＆比較分析編）	山口　誠	春秋	木1	2	2	全	99
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （Diplomacy and International Relations）	伊藤　兵馬	春秋	木2	2	2	全	100
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （ツーリズムの現状と課題 / 航空の現状と歴史）	井上　泰日子	春秋	木3	2	2	全	101
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （Global Woman Ⅰ /Global Woman Ⅱ）	上野　直子	春秋	木3	2	2	全	102
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （日本のビート詩人、Nanao Sakaki の詩を読む）	遠藤　朋之	春秋	木3	2	2	全	103
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （コミュニケーションモデルズ / イノベーションのコミュニケーション）	佐々木　輝美	春秋	木3	2	2	全	104
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （通訳訓練のための原書講読）	柴原　早苗	春秋	木3	2	2	全	105
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （ツーリズム研究の基礎概念 / ツーリズム研究の現代的課題）	鈴木　涼太郎	春秋	木3	2	2	全	106
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察）	水本　義彦	春秋	木3	2	2	全	107
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （オーストラリアの詩）	国見　晃子	春秋	木4	2	2	全	108
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （認知言語学）	小早川　暁	春秋	木4	2	2	全	109
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （Sherlock Holmes in simple English）	片山　亜紀	春秋	金2	2	2	全	110
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （Reading oral histories）	小西　卓三	春秋	金2	2	2	全	111
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （Deconstructing “Japaneseness”）	須永　和博	春秋	金2	2	2	全	112
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ （Conflict, Peace and Development）	石川　幸子	春秋	金3	2	2	全	113

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	英語の世界Ⅱ	小早川　暁	春	木5	2	2	全	114
	英語の世界Ⅱ	府川　謹也	秋	金1	2	2	全	114
	観光英語Ⅰ	落合　康男	春	木2	2	2	英	115
	観光英語Ⅱ	落合　康男	秋	木2	2	2	英	115
	通訳案内士の英語Ⅰ	日野　克美	春	木1	2	2	英	116
	通訳案内士の英語Ⅱ	日野　克美	秋	木1	2	2	英	116
	Business Writing	各担当教員	春		2	2	英	117
	Business Writing	各担当教員	秋		2	2	英	117
2013年度以降入学者	Advanced Writing（Research）	M. ボイル	春	月4	2	3	全	118
	Advanced Writing（Research）	M. ボイル	秋	月4	2	3	全	118
	Advanced Writing（Research）	E. J. ナオウミ	春	火2	2	3	全	119
	Advanced Writing（Research）	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	3	全	119
	Advanced Writing（Business）	D. ブラドリー	春	火3	2	3	全	120
	Advanced Writing（Research）	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	全	120
	Advanced Writing（Business）	J. E. マジャール	春	火4	2	3	全	121
	Advanced Writing（Creative）	S. S. スティラー	春	火4	2	3	全	122
	Advanced Writing（Creative）	S. S. スティラー	秋	火4	2	3	全	122
	Advanced Writing（Creative）	B. D. タッチャー	春	火5	2	3	全	123
	Advanced Writing（Research）	M. ボイル	春	水3	2	3	全	124
	Advanced Writing（Research）	M. ボイル	秋	水3	2	3	全	124
	Advanced Writing（Research）	A. マグズ	春	木2	2	3	全	125
	Advanced Writing（Research）	A. マグズ	秋	木2	2	3	全	125
	Advanced Writing（Research）	K. エラ	春	木3	2	3	全	126
	Advanced Writing（Research）	K. エラ	秋	木3	2	3	全	126
	Advanced Writing（Research）	K. フォード	春	金4	2	3	全	127
	Advanced Writing（Research）	K. フォード	秋	金4	2	3	全	127
2012年度以前入学者	Academic Writing	M. ボイル	春	月4	2	2	全	118
	Academic Writing	M. ボイル	秋	月4	2	2	全	118
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	全	119
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	全	119
	Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	全	120
	Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	全	120
	Academic Writing	J. E. マジャール	春	火4	2	2	全	121
	Academic Writing	S. S. スティラー	春	火4	2	2	全	122
	Academic Writing	S. S. スティラー	秋	火4	2	2	全	122
	Academic Writing	B. D. タッチャー	春	火5	2	2	全	123
	Academic Writing	M. ボイル	春	水3	2	2	全	124
	Academic Writing	M. ボイル	秋	水3	2	2	全	124
	Academic Writing	A. マグズ	春	木2	2	2	全	125
	Academic Writing	A. マグズ	秋	木2	2	2	全	125
	Academic Writing	K. エラ	春	木3	2	2	全	126
	Academic Writing	K. エラ	秋	木3	2	2	全	126
	Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	全	127
	Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	全	127
	翻訳Ⅰ	高田　宣子	春	火5	2	2	全	128
	翻訳Ⅰ	高田　宣子	秋	火5	2	2	全	128
	翻訳Ⅰ	上野　直子	春	水2	2	2	全	129
	翻訳Ⅰ	山中　章子	春	水5	2	2	全	130
	翻訳Ⅰ	山中　章子	秋	水5	2	2	全	130
	翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	春	木3	2	2	全	131
	翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	秋	木3	2	2	全	131
	翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	春	木4	2	2	全	132
	翻訳Ⅰ	柴田　耕太郎	秋	木4	2	2	全	132
	翻訳Ⅱ	P. ネルム	春	水4	2	2	全	133
	翻訳Ⅱ	P. ネルム	秋	水3	2	2	全	133
	翻訳Ⅱ	白川　貴子	春	水3	2	2	全	134
	翻訳Ⅱ	白川　貴子	秋	水3	2	2	全	134

学科共通科目

	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
	College Grammar	河原　宏之	春	月3	2	2	全	135
	College Grammar	河原　宏之	秋	月3	2	2	全	135
	College Grammar	河原　宏之	春	月5	2	2	全	136
	College Grammar	河原　宏之	秋	月5	2	2	全	136
	College Grammar	佐藤　芳明	春	火3	2	2	全	137
	College Grammar	佐藤　芳明	秋	火3	2	2	全	137
	College Grammar	小早川　暁	春	火5	2	2	全	138
	College Grammar	小早川　暁	秋	火5	2	2	全	138
	College Grammar	佐藤　芳明	春	水4	2	2	全	139
	College Grammar	田川　憲二郎	春	金2	2	2	全	140
	College Grammar	田川　憲二郎	秋	金2	2	2	全	140
	College Grammar	府川　謹也	秋	金2	2	2	全	141
	College Grammar	靱江　静	春	金3	2	2	全	142
	College Grammar	靱江　静	秋	金3	2	2	全	142
	College Grammar	靱江　静	春	金4	2	2	全	143
	College Grammar	靱江　静	秋	金4	2	2	全	143
2013年度以降入学者	Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	全	144
	Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	全	144
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	145
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	145
	Communication Skills	M. フッド	春	月2	2	2	全	146
	Communication Skills	M. フッド	秋	月2	2	2	全	146
	Communication Skills	M, ダーリン	春	月5	2	2	全	147
	Communication Skills	M, ダーリン	秋	月5	2	2	全	147
	Communication Skills	R. ダラム	春	火1	2	2	全	148
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	148
	Communication Skills	R. ダラム	春	火2	2	2	全	149
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火2	2	2	全	149
	Communication Skills	J. スネール	春	火3	2	2	全	150
	Communication Skills	J. スネール	秋	火3	2	2	全	150
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	全	151
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	全	151
	Communication Skills	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	全	152
	Communication Skills	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	全	152
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	全	153
	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	全	154
	Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	全	154
	Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	全	155
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	155
	Communication Skills	R. ダラム	春	木3	2	2	全	156
	Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	157
	Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	157
2012年度以前入学者	Communicative English	K. フォード	春	月1	2	2	全	144
	Communicative English	K. フォード	秋	月1	2	2	全	144
	Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	全	145
	Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	全	145
	Communicative English	M. フッド	春	月2	2	2	全	146
	Communicative English	M. フッド	秋	月2	2	2	全	146
	Communicative English	M, ダーリン	春	月5	2	2	全	147
	Communicative English	M, ダーリン	秋	月5	2	2	全	147
	Communicative English	R. ダラム	春	火1	2	2	全	148
	Communicative English	R. ダラム	秋	火1	2	2	全	148
	Communicative English	R. ダラム	春	火2	2	2	全	149
	Communicative English	R. ダラム	秋	火2	2	2	全	149
	Communicative English	J. スネール	春	火3	2	2	全	150
	Communicative English	J. スネール	秋	火3	2	2	全	150
	Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	全	151
	Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	全	151
	Communicative English	R. ウィルコックス	春	火5	2	2	全	152
	Communicative English	R. ウィルコックス	秋	火5	2	2	全	152
	Communicative English	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	全	153
	Communicative English	J. スネール	春	木2	2	2	全	154
	Communicative English	J. スネール	秋	木2	2	2	全	154
	Communicative English	R. ダラム	春	木2	2	2	全	155
	Communicative English	R. ダラム	秋	木2	2	2	全	155
	Communicative English	R. ダラム	春	木3	2	2	全	156
	Communicative English	P. マッケビリー	春	金1	2	2	全	157
	Communicative English	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	全	157

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Discussion	P. マッケビリー	春	月1	2	2	全	158
Discussion	P. マッケビリー	秋	月1	2	2	全	158
Discussion	N. H. ジョスト	春	月3	2	2	全	159
Discussion	N. H. ジョスト	秋	月3	2	2	全	159
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	全	160
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	全	160
Discussion	B. D. タッチャー	春	木5	2	2	全	161
Discussion	B. D. タッチャー	秋	木5	2	2	全	161
Discussion	L. K. ハーキンス	春	金2	2	2	全	162
Discussion	L. K. ハーキンス	秋	金2	2	2	全	162
Discussion	S. S. スティラー	春	金4	2	2	全	163
Discussion	S. S. スティラー	秋	金4	2	2	全	163
Public Speaking Ⅰ	D. マッキー	春	水2	2	2	全	164
Public Speaking Ⅰ	D. マッキー	秋	水2	2	2	全	164
Public Speaking Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	月4	2	2	全	165
Public Speaking Ⅱ	R. ダラム	秋	木3	2	2	全	165
Debate Ⅰ	N. H. ジョスト	春	火2	2	2	全	166
Debate Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	火2	2	2	全	166
13年度以降 Academic Lecture	J. E. マジャール	春	火3	2	2	全	167
13年度以降 Academic Lecture	D. シュールズ	秋	月4	2	2	全	167
13年度以降 Academic Lecture	伊藤　兵馬	春	木4	2	2	全	168
13年度以降 Academic Lecture	伊藤　兵馬	秋	木4	2	2	全	168
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水3	2	2	全	169
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	秋	水3	2	2	全	169
13年度以降 Listening and Pronunciation	中田　ひとみ	春	水5	2	2	全	170
13年度以降 英語の音声	青柳　真紀子	春	火4	2	2	全	171
13年度以降 英語の音声	中田　ひとみ	秋	水5	2	2	全	171
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	水1	2	2	全	172
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	水1	2	2	全	172
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	水2	2	2	全	173
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	水2	2	2	全	173
通訳Ⅰ	柴原　早苗	春	木1	2	2	全	174
通訳Ⅰ	柴原　早苗	秋	木1	2	2	全	174
通訳Ⅱ	柴原　早苗	春	木2	2	2	全	175
通訳Ⅱ	柴原　早苗	秋	木2	2	2	全	175
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	月1	2	2	全	176
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	月1	2	2	全	176
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	月2	2	2	全	177
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	月2	2	2	全	177
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	春	火3	2	2	全	178
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	秋	火3	2	2	全	178
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	春	水3	2	2	全	179
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	秋	水3	2	2	全	179
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木3	2	2	全	180
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木4	2	2	全	181
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	秋	金1	2	3	全	182
メディア英語Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	全	183
メディア英語Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	全	183
メディア英語Ⅰ	海老沢　達郎	春	火2	2	2	全	184
メディア英語Ⅰ	海老沢　達郎	秋	火2	2	2	全	184
メディア英語Ⅰ	関根　路代	春	水3	2	2	全	185
メディア英語Ⅰ	関根　路代	秋	水3	2	2	全	185
メディア英語Ⅰ	国見　晃子	春	木2	2	2	全	186
メディア英語Ⅰ	国見　晃子	秋	木2	2	2	全	186
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	春	金1	2	2	全	187
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	秋	金1	2	2	全	187
メディア英語Ⅰ	工藤　和宏	春	金1	2	2	全	188
メディア英語Ⅰ	P. ネルム	秋	金2	2	2	全	188
メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	全	189
メディア英語Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	全	189
メディア英語Ⅱ	関根　路代	春	水2	2	2	全	190
メディア英語Ⅱ	関根　路代	秋	水2	2	2	全	190
メディア英語Ⅱ	P. ネルム	春	金2	2	2	全	191
メディア英語Ⅱ	工藤　和宏	秋	金1	2	2	全	191
シネマ英語	D. シュールズ	秋	月3	2	2	全	192
シネマ英語	高田　宣子	春	火3	2	2	全	193
シネマ英語	高田　宣子	秋	火3	2	2	全	193
シネマ英語	高田　宣子	春	火4	2	2	全	194
シネマ英語	高田　宣子	秋	火4	2	2	全	194
シネマ英語	国見　晃子	春	木3	2	2	全	195
シネマ英語	国見　晃子	秋	木3	2	2	全	195

学科専門科目

ツーリズム

科目名	担当者	開講学期	曜 時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ツーリズム交流論	鈴木　涼太郎	秋	木 5	2	2	全	196
ツーリズム・リスク論	竹田　いさみ	秋	月 3	2	2	全	197
ツーリズム文化論	鈴木　涼太郎	秋	火 3	2	2	外	198
ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）（2013年度以降入学者）／ツーリズム・メディア論（2012年度以前入学者）	山口　誠	秋	金 1	2	2	全	199
ツーリズム・マネジメント論	鈴木　涼太郎	春	火 3	2	2	外	200
国際会議・イベント事業論	井上　泰日子	秋	月 1	2	2	外	201
ツーリズム政策論	井上　泰日子	秋	月 3	2	2	外	202
旅行・宿泊産業論	井上　泰日子	秋	木 4	2	2	外	203
航空産業論	井上　泰日子	春	月 3	2	2	外	204
サステイナブル・ツーリズム論	2016年度不開講						
地域開発論（2013年度以降入学者）／市民参加のまちづくり論（2012年度以前入学者）	北野　収	秋	火 2	2	2	外・済	205
オルタナティブ・ツーリズム論	須永　和博	秋	金 5	2	2	外	206
ツーリズム人類学	須永　和博	春	金 5	2	2	外	207
ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論）（2013年度以降入学者）／ツーリズム地誌論（2012年度以前入学者）	須永　和博	秋	金 4	2	2	全	208
フィールドワーク論	須永　和博	春	金 4	2	2	全	209
インターンシップ（2012年度以前入学者）	井上　泰日子	春	木 4	2	2	全	210
インターンシップ（2013年度以降入学者）	井上　泰日子	春	木 4	4	2	全	210

トランスナショナル文化

科目名	担当者	開講学期	曜 時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
トランスナショナル文化論	高橋　雄一郎	春	木 5	2	2	全	211
トランスナショナル・メディア論	山口　誠	春	木 2	2	2	英	212
メディア・ライティング論	2016年度不開講						
トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究）（2013年度以降入学者）／パフォーマンス研究（2012年度以前入学者）	高橋　雄一郎	秋	木 5	2	2	全	213
表象文化論	高橋　雄一郎	春	木 4	2	2	外	214
開発文化論	北野　収	春	月 3	2	2	外・済	215
トランスナショナル社会学	北野　収	秋	火 1	2	2	外	216
食の文化論	北野　収	春	月 2	2	2	外	217
トランスナショナル文化特殊講義（トランスナショナルな公共圏を求めて）（2013年度以降入学者）	高橋　雄一郎	秋	木 4	2	2	全	218
トランスナショナル文化特殊講義（「観る」ことの文化史）（2013年度以降入学者）	山口　誠	秋	木 2	2	2	全	219
英語圏のエリア・スタディーズa	佐藤　唯行	春	火 2	2	2	全	220
英語圏のエリア・スタディーズb	P. ネルム	秋	水 4	2	2	全	221
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅰ）	阿部　明日香	春	月 4	2	2	全	222
ヨーロッパの文化（フランスの美術Ⅱ）	2016年度不開講						
ヨーロッパの文化（ドイツ語概論a）	金井　満	春	火 4	2	2	全	223
ヨーロッパの文化（ドイツ語概論b）	金井　満	秋	火 4	2	2	全	223
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅰ）	松橋　麻利	春	木 2	2	2	全	224
ヨーロッパの文化（フランスの音楽Ⅱ）	松橋　麻利	秋	木 2	2	2	全	224
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏芸術・文化概論a）	山本　淳	春	木 1	2	2	全	225
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏芸術・文化概論b）	山本　淳	秋	木 1	2	2	全	225
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏文学・思想概論a）	渡部　重美	春	木 4	2	2	全	226
ヨーロッパの文化（ドイツ語圏文学・思想概論b）	渡部　重美	秋	木 4	2	2	全	226

学科専門科目

グローバル社会

科目名	担当者	開講学期	曜 時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
グローバル社会論a	竹田　いさみ	春	火 3	2	2	全	227
グローバル社会論a	竹田　いさみ	秋	火 3	2	2	全	227
グローバル社会論b	水本　義彦	春	火 3	2	2	全	228
グローバル社会論b	永野　隆行	秋	火 3	2	2	全	228
国際協力論	金子　芳樹	春	火 2	2	2	全	229
国際開発論	竹田　いさみ	春	月 3	2	2	全	230
国際交流論	石川　幸子	春	金 2	2	2	全	231
国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	秋	火 2	2	2	全	232
英語圏の国際関係a	永野　隆行	秋	月 2	2	2	全	233
英語圏の国際関係b	水本　義彦	秋	火 5	2	2	全	234
グローバル・ヒストリーa(2013年度以降入学者)	水本　義彦	春	木 2	2	2	全	235
グローバル・ヒストリーb(2013年度以降入学者)	水本　義彦	秋	木 2	2	2	全	235
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	石川　幸子	秋	金 2	2	2	全	236
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	佐野　康子	秋	火 4	2	2	全	237
グローバル社会特殊講義(2013年度以降入学者)	永野　隆行	秋	水 1	2	2	全	238
グローバル社会文献セミナー(2013年度以降入学者)	佐野　康子	春	火 4	2	3	全	239
グローバル社会文献セミナー(2013年度以降入学者)	石川　幸子	春	金 4	2	3	全	240
グローバル社会文献セミナー(2013年度以降入学者)	石川　幸子	秋	金 4	2	3	全	240
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅰ)	平田　周	春	月 3	2	2	全	241
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅱ)	平田　周	秋	月 3	2	2	全	241
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅰ)	2016年度不開講						
ヨーロッパの社会(フランスの政治経済Ⅱ)	廣田　愛理	秋	水 2	2	2	全	242
ヨーロッパの社会(ドイツ語圏歴史概論a)	上村　敏郎	春	火 1	2	2	全	243
ヨーロッパの社会(ドイツ語圏歴史概論b)	上村　敏郎	秋	火 1	2	2	全	243

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
ドイツ語	ドイツ語(Ia 総合1)	S. ヴィーク	春	火4	1	1	全	245
	ドイツ語(Ib 総合1)	S. ヴィーク	秋	火4	1	1	全	245
	ドイツ語(Ia 総合2)	S. ヴィーク	春	木2	1	1	全	246
	ドイツ語(Ib 総合2)	S. ヴィーク	秋	木2	1	1	全	246
	ドイツ語(Ia 総合3)	辻本　勝好	春	金4	1	1	全	247
	ドイツ語(Ib 総合3)	辻本　勝好	秋	金4	1	1	全	247
	ドイツ語(IIa 総合1)	H. J. トロル	春	月2	1	2	全	248
	ドイツ語(IIb 総合1)	H. J. トロル	秋	月2	1	2	全	248
	ドイツ語(IIa 総合2)	H. J. トロル	春	金2	1	2	全	249
	ドイツ語(IIb 総合2)	H. J. トロル	秋	金2	1	2	全	249
	ドイツ語(IIa 総合3)	井村　行子	春	火2	1	2	全	250
	ドイツ語(IIb 総合3)	井村　行子	秋	火2	1	2	全	250
	ドイツ語(IIIa 応用)	E. ビリック	春	火1	1	3	全	251
	ドイツ語(IIIb 応用)	E. ビリック	秋	火1	1	3	全	251
フランス語	フランス語(Ia 総合1)	大原　知子	春	月1	1	1	全	252
	フランス語(Ib 総合1)	大原　知子	秋	月1	1	1	全	252
	フランス語(Ia 総合2)	B. ピケ	春	金4	1	1	全	253
	フランス語(Ib 総合2)	B. ピケ	秋	金4	1	1	全	253
	フランス語(Ia 応用)	野澤　督	春	木2	1	1	全	254
	フランス語(Ib 応用)	野澤　督	秋	木2	1	1	全	254
	フランス語(IIa 総合1)	平井　康和	春	金2	1	2	全	255
	フランス語(IIb 総合1)	平井　康和	秋	金2	1	2	全	255
	フランス語(IIa 総合2)	F. X. レット	春	金3	1	2	全	256
	フランス語(IIb 総合2)	F. X. レット	秋	金3	1	2	全	256
	フランス語(IIa 応用)	竹内　久雄	春	月2	1	2	全	257
	フランス語(IIb 応用)	竹内　久雄	秋	月2	1	2	全	257
	フランス語(IIIa 応用)	C. ラビニヤス	春	木1	1	3	全	258
	フランス語(IIIb 応用)	C. ラビニヤス	秋	木1	1	3	全	258
スペイン語	スペイン語(Ia 総合1)	蔦原　亮	春	火4	1	1	全	259
	スペイン語(Ia 総合1)	柴田　バネッサ	春	火4	1	1	全	259
	スペイン語(Ib 総合1)	蔦原　亮	秋	火4	1	1	全	259
	スペイン語(Ib 総合1)	柴田　バネッサ	秋	火4	1	1	全	259
	スペイン語(Ia 総合2)	櫻井　道子	春	木2	1	1	全	260
	スペイン語(Ia 総合2)	髙橋　睦	春	金4	1	1	全	260
	スペイン語(Ib 総合2)	櫻井　道子	秋	木2	1	1	全	260
	スペイン語(Ib 総合2)	髙橋　睦	秋	金4	1	1	全	260
	スペイン語(Ia 会話)	P. ラゴ	春	月1	1	1	全	261
	スペイン語(Ia 会話)	G. ベギリスタイン	春	月1	1	1	全	261
	スペイン語(Ib 会話)	P. ラゴ	秋	月1	1	1	全	261
	スペイン語(Ib 会話)	G. ベギリスタイン	秋	月1	1	1	全	261
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	火2	1	2	全	262
	スペイン語(IIa 会話1)	C. ガリード	春	金2	1	2	全	262
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	火2	1	2	全	262
	スペイン語(IIb 会話1)	C. ガリード	秋	金2	1	2	全	262
	スペイン語(IIa 会話2)	P. ラゴ	春	月2	1	2	全	263
	スペイン語(IIa 会話2)	G. ベギリスタイン	春	金3	1	2	全	263
	スペイン語(IIb 会話2)	P. ラゴ	秋	月2	1	2	全	263
	スペイン語(IIb 会話2)	G. ベギリスタイン	秋	金3	1	2	全	263
	スペイン語(IIa 総合)	北岸　団	春	月2	1	2	全	264
	スペイン語(IIa 総合)	髙橋　睦	春	金3	1	2	全	264
	スペイン語(IIb 総合)	北岸　団	秋	月2	1	2	全	264
	スペイン語(IIb 総合)	髙橋　睦	秋	金3	1	2	全	264

第二外国語（英語プラス1言語）

言語	科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
スペイン語	スペイン語(IIIa 応用)	荒沢　千賀子	春	木1	1	3	全	265
	スペイン語(IIIa 応用)	磯田　沙織	春	水4	1	3	全	265
	スペイン語(IIIb 応用)	荒沢　千賀子	秋	木1	1	3	全	265
	スペイン語(IIIb 応用)	磯田　沙織	秋	水4	1	3	全	265
中国語	中国語(Ia 講読・文法)	丸山　貴士	春	木2	1	1	全	266
	中国語(Ib 講読・文法)	丸山　貴士	秋	木2	1	1	全	266
	中国語(Ia 会話1)	張　亜紅	春	月1	1	1	全	267
	中国語(Ib 会話1)	張　亜紅	秋	月1	1	1	全	267
	中国語(Ia 会話2)	蔡　暁軍	春	金4	1	1	全	268
	中国語(Ib 会話2)	蔡　暁軍	秋	金4	1	1	全	268
	中国語(IIa 講読・文法)	阿邉　淳	春	火2	1	2	全	269
	中国語(IIb 講読・文法)	阿邉　淳	秋	火2	1	2	全	269
	中国語(IIa 会話1)	星野　芳欣	春	月2	1	2	全	270
	中国語(IIb 会話1)	星野　芳欣	秋	月2	1	2	全	270
	中国語(IIa 会話2)	秦　敏	春	金2	1	2	全	271
	中国語(IIb 会話2)	秦　敏	秋	金2	1	2	全	271
	中国語(IIIa 応用)	近藤　光雄	春	木1	1	3	全	272
	中国語(IIIb 応用)	近藤　光雄	秋	木1	1	3	全	272
韓国語	韓国語(Ia 総合1)	森　勇俊	春	土1	1	1	全	273
	韓国語(Ib 総合1)	森　勇俊	秋	土1	1	1	全	273
	韓国語(Ia 総合2)	森　勇俊	春	土2	1	1	全	274
	韓国語(Ib 総合2)	森　勇俊	秋	土2	1	1	全	274
	韓国語(Ia 応用)	沈　元燮	春	木2	1	1	全	275
	韓国語(Ib 応用)	沈　元燮	秋	木2	1	1	全	275
	韓国語(IIa 総合1)	沈　元燮	春	火2	1	2	全	276
	韓国語(IIb 総合1)	沈　元燮	秋	火2	1	2	全	276
	韓国語(IIa 総合2)	沈　元燮	春	金2	1	2	全	277
	韓国語(IIb 総合2)	沈　元燮	秋	金2	1	2	全	277
	韓国語(IIa 応用)	白　寅英	春	金3	1	2	全	278
	韓国語(IIb 応用)	白　寅英	秋	金3	1	2	全	278
	韓国語(IIIa 応用)	羅　一等	春	火1	1	3	全	279
	韓国語(IIIb 応用)	羅　一等	秋	火1	1	3	全	279

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	阿部　明日香	春	水3	2	1	養・経・法	281
総合講座	廣田　愛理	秋	水3	2	1	養・経・法	281
総合講座	木村　佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	282
総合講座	木村　佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	282
情報科学概論a	呉　浩東	春	月2	2	1	養・経・法	283
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						
(情報処理演習)[総合]	田中　雅英	春	火2	2	1	養・経・法	284
(情報処理演習)[総合]	田中　雅英	春	火3	2	1	養・経・法	284
(情報処理演習)[総合]	金子　憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	284
(情報処理演習)[英語]	内田　富男	春	水2	2	1	養・経・法	285
(情報処理演習)[英語]	内田　富男	秋	水2	2	1	養・経・法	285
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	木2	2	1	養・経・法	286
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金1	2	1	養・経・法	286
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金2	2	1	養・経・法	286
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	木2	2	1	養・経・法	286
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金1	2	1	養・経・法	286
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金2	2	1	養・経・法	286
(応用)情報科学各論	各担当教員						
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	287
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子　憲一	春	木3	2	1	養・経・法	287
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中　雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	287
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	287
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	288
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	288
(Word中級)	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	289
(Word中級)	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	289
(Word中級)	松山　恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	289
(Word中級)	田中　雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	289
(Word中級)	松山　恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	289
(Office中級)	休講						
(Office中級)	休講						
(言語情報処理1)	羽山　恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	290
(言語情報処理2)	羽山　恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	290
(HTML)情報科学各論	各担当教員						
(HTML初級)	金子　憲一	春	木4	2	1	養・経・法	291
(HTML初級)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	291
(HTML初級)	田中　雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	291
(HTML初級)	金子　憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	291
(HTML中級)	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	292
経済原論a	野村　容康	春	木3	2	2	養・経・法	293
経済原論b	野村　容康	秋	木3	2	2	養・経・法	293
社会心理学a	樋口　匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	294
社会心理学b	樋口　匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	294

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

2016 年度

交流文化学科シラバス

09 年度以降	交流文化概論 i	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、交流文化学科での学びに関する基本的な視座を身につけるための入門科目であり、学科の全教員によるオムニバス形式で行われる。 交流文化学科では、「人と文化の越境現象＝ツーリズム」という理解に基づき、国家や民族、宗教や言語の壁を越えて交流する文化について研究していく。そのなかで本科目では、ツーリズムが学科の学びの基礎である語学教育を含めた多様な学問分野といかにかかわっているのかについて講義を行う。本講義の目的は、①ツーリズムをみる多様な視点の存在を知ること、②現実を理解し、知を生み出す作法としてのディシプリン（学問分野）について理解すること、③本学科の学びにおける「ツーリズム」と「語学」の意義と範囲について理解すること、④ツーリズムという現象を通して、国内外を問わず人間社会における文化的営みや政治経済の諸相について思考する態度を養うことである。	1、オリエンテーション（鈴木涼太郎） 2、ツーリズムとキャリア（鈴木涼太郎） 3、ツーリズム研究とは（鈴木涼太郎） 4、ツーリズムと文化①（鈴木涼太郎） 5、ツーリズムと文化②（須永和博） 6、ツーリズムとメディア（山口誠） 7、ツーリズムと文学（島田啓一） 8、ツーリズムと移民・難民（高橋雄一郎） 9、ツーリズムと言語（日野克美） 10、外国人からみたツーリズム（N.H.ジョスト） 11、ツーリズムと農業・農村（北野収） 12、ツーリズムと経済政策・観光産業（井上泰日子） 13、ツーリズムと航空産業（井上泰日子） 14、ツーリズムと現代社会（鈴木涼太郎） 15、まとめ（鈴木涼太郎）

到達目標	広範な領域にわたるツーリズム関連科目を学ぶ者の入門編として、ツーリズムに関する基礎知識を習得し、人間の基本的欲求としての旅と観光行為の意味を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教員の指示に従い各自が必要な予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業ごとに行われる小レポートおよび小テスト（100%） 欠席回数が 4 回以上の者は単位認定の資格を失う。

09 年度以降	交流文化概論 ii	担当者	山口　誠 須永 和博

講義目的、講義概要	授業計画
「トランスナショナル（越境的)」な視点で現代の社会や文化を捉える能力や態度は、これからの地球時代を生きる私たちにとっての重要なリテラシーのひとつです。「文化」「国家」「社会」など自明だとされてきた前提を離れて、異なる視点から複眼的に物事を理解するためのいくつかのヒントを提供することが本授業のねらいです。特に、人類学と社会学の理論や方法論に依拠しつつ、いくつかのトピックスをとりあげ、大学での学びにおいて必須となる基礎的な概念の理解と思考の方法について習得します。 前半は、文化人類学という学問を参照枠としながら、「異文化」を理解するための基本的な視点や感性を身につけることを目指します。 後半は、社会学の考え方を土台として、「交流」「文化」「国家」など重要概念の成り立ちと、その誕生の理由を歴史的に理解し、今後の大学生活において各自が応用できる「知の種」を手に入れることを試みます。	1. ガイダンス・人類学的思考とは 2. 自己紹介―人類学・観光・タイ（須永） 3. トランスナショナル文化とは 1（須永） 4. トランスナショナル文化とは 2（須永） 5. グローバリゼーションズ―ハラール産業の事例（須永） 6. 多文化社会としての日本 1（須永） 7. 多文化社会としての日本 2（須永） 8. 自己紹介―違和感と社会学（山口） 9. 文化とは：交流×文化＝？（山口） 10. 国家とは：ナショナルな想像力と共同体（山口） 11. 社会とは：システムと主体（山口） 12. 自由とは：個人主義と民主主義（山口） 13. 近代とは：モダンとポストモダン（山口） 14. メディアとは：「現実」と「虚構」（山口） 15. まとめ・期末試験対策

到達目標	トランスナショナル研究の役割と重要性など、トランスナショナル研究に関する基礎知識を習得し、トランスナショナルを分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の授業で示す事例や重要概念について図書館などでさらに調べ、より深く学ぶこと。
テキスト、参考文献	特に定めません。
評価方法	期末試験で評価します。ただし、期末試験の受験資格は欠席回数が 4 回未満の者に限ります。

09 年度以降	交流文化概論 iii	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
半期の授業を通じて、現代国際関係を、主に「戦争」を通じて考えます。授業では教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自ら積極的に学ぶ姿勢を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになって欲しい。 ２～３週間に１回程度、国際情勢に関心を持ってもらうために、新聞記事から面白そうなものをピックアップして紹介し、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設けます。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。 授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても説明を加えますので、2 年生以降の専門科目の勉強にも役立つでしょう。	1. 国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス 2. グローバリゼーションとは何か？ 3. 国際関係論はなぜ生まれたのか？ 4. 国際関係における個人・国家 5. 戦争とは何か①その定義 6. 戦争とは何か②国際関係の構造と戦争 7. 戦争とは何か③戦争と国家～戦争は何をもたらすのか 8. 授業前半の総括と質疑応答 9. 戦争とは何か④戦争観の変化 10. 戦争とは何か⑤国際関係における正義と戦争 11. 戦争とは何か⑥新しい紛争～21 世紀の紛争の特徴とは何か 12. 戦争とは何か⑦戦争の主体～民間軍事会社（ＰＭＣ）の登場 13. 戦争とは何か⑧積極的平和と消極的平和 14. 戦争とは何か⑨国際秩序と国家 15. まとめ（質疑応答）＆国際関係をさらに学ぶには

到達目標	国際関係研究の役割、および国際関係時事に関する基礎知識を習得し、グローバル社会を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト、参考文献	第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する。
評価方法	不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 大学で何を、いかに勉強し、どのように発表（レポート、論文、口頭発表）していくか、大学での学びの基礎をしっかりと身につけると共に、少人数の演習（ゼミ）型のクラスで、活発なディスカッションをおこなうこと。 【講義概要】 図書館やデータベースを使ったリサーチの仕方、レポートや論文の書き方、文献一覧表の作成の仕方などを学び、授業中で口頭発表（プレゼンテーション）をおこなうと共に、秋学期末までに完成させるリサーチの準備をする。春学期は題材として、日本における移民や難民、その他のマイノリティ集団を念頭に、多文化共生、文化多様性について考える。	1. 高校と大学の学びの違い 2. 大学で発すべき「問い」と研究の進め方 3. 草加ツアーまたは『ブラジルから来たおじいちゃん』 4. プレゼンテーションのまとめ方 5. 発表とディスカッション 6. 発表とディスカッション 7. 発表とディスカッション 8. 情報収集と図書館の利用法 9. 発表とディスカッション 10. 発表とディスカッション 11. 発表とディスカッション 12. 発表とディスカッション 13. 個人研究の進め方 14. まとめとディスカッション 15. まとめとディスカッション

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテクスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。
テキスト、参考文献	『まんが・クラスメイトは外国人―多文化共生 20 の物語』（明石書店）
評価方法	授業内での発表、小レポート、学期末レポートによる。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
グループによるリサーチ、プレゼンテーション中心の春学期から、各個人でリサーチを完成させ、口頭発表（プレゼンテーション）をおこなうと共に、論文形式で提出することを学ぶ。	1. イントロダクション 2. レポート・論文の書き方、まとめ方 3. レポート・論文の書き方、まとめ方 4. レポート・論文の書き方、まとめ方 5. レポート・論文の書き方、まとめ方 6. レポート・論文の書き方、まとめ方 7. レポート・論文の書き方、まとめ方 8. レポート・論文の書き方、まとめ方 9. 発表とディスカッション 10. 発表とディスカッション 11. 発表とディスカッション 12. 発表とディスカッション 13. 発表とディスカッション 14. 発表とディスカッション 15. まとめ

到達目標	「基礎演習　I」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	主にプリントを使用。
評価方法	春学期に同じ。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　交流文化学科1年生の演習形式の必修科目です。大学ではどのように勉強したらよいかを、実際に自分でテーマを探し、それについて調べ、自分自身の考えをまとめて発表し、他の学生と討論することにより学んでいく授業です。基本的なアカデミック・スキル(大学で学ぶ技能)を身につけ、リサーチやプレゼンテーションの仕方、レポートの書き方の基本について学び、実習するのが、この授業の目的です。 講義概要 　まず、基本的なアカデミック・スキル(Study Skills)について学びます。次に、毎週、課題文献を読み、レジュメを作成し、グループで順番にプレゼンテーションをしてもらいます。最後に、レポートの書き方について解説し、プレゼンをしたテーマに関係するレポートを書いて提出してもらいます。	1. クラスガイダンス: 春学期の授業計画他 2. Study Skills (1): key words [クラスメートを知る] 3. SS (2): 聞く力・ノートをとる [クラスメートを紹介] 4. SS (3): 読む力 [文献を読む 1] 5. SS (4): 課題発見力 [文献を読む 2] 6. SS (5): 情報収集力と整理力 7. 文献を読み、グループ発表する(1) 8. 文献を読み、グループ発表する(2) 9. 文献を読み、グループ発表する(3) 10. 文献を読み、グループ発表する(4) 11. 文献を読み、グループ発表する(5) 12. 文献を読み、グループ発表する(6) 13. アカデミック・ライティングの基本(1) [書く力 1] 14. アカデミック・ライティングの基本(2) [書く力 2] 15. 引用の仕方[書く力 3]

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指示された課題(テキストの指定範囲を読むことや提出・発表課題の作成など)をこなして授業に臨みます。事後は、テキストの再読や授業ノートのまとめをして、学んだことを定着を図ります。
テキスト、参考文献	テキスト：山田剛史，林創(2011)『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 参考文献：授業で随時紹介
評価方法	プレゼンを含む授業参加度と複数回提出の課題 40%、最終レポート 60%をもとに総合的に評価します。4 回以上欠席すると、単位取得資格を失います。遅刻は、2 回で欠席 1 回扱いとします。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「基礎演習 I」の継続です。交流文化やツーリズムに関するトピックをグループや個人で調査・研究して、それらをクラスメートの前でグループ発表と個人発表をして、さらにそれらについて討論をすることを通じて、学問への取り組み方と批判的思考力(critical thinking)を身につけていきます。 講義概要 　各自が、交流文化やツーリズムに関するテーマを選び、グループと個人のプレゼンテーションを 1 回ずつしてもらいます。そして、学期末に、各自が、プレゼンテーションを発展させたレポートを作成し、提出します。	1.　Presentation skills (1) [プレゼンテーション力 1] 2.　Presentation skills (2) [プレゼンテーション力 2] 3-5.　5 グループに分かれて、各グループが 1 回発表 6-14. 個人プレゼンテーション(毎週 3-4 名程度) 15.　まとめとレポートについて

到達目標	「基礎演習　I」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指示された課題(テキストの指定範囲を読むことや提出・発表課題の作成など)をこなして授業に臨みます。事後は、テキストの再読や授業ノートのまとめをして、学んだことを定着を図ります。
テキスト、参考文献	テキスト：山田剛史，林創(2011)『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房 参考文献：授業で随時紹介
評価方法	プレゼンを含む授業参加度と複数回提出の課題 40%、最終レポート 60%をもとに総合的に評価します。4 回以上欠席すると、単位取得資格を失います。遅刻は、2 回で欠席 1 回扱いとします。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、大学生に求められる基本的な考え方とアカデミック・スキルを学びます。第一に、「勉強」と「研究」は異なるため、大学では「研究」の考え方を習得し、卒業後も持続して成長できる「思考」の基盤をつくることを目指して、その基本的な部分を本演習で身につけます。 第二に、大学レベルの「読む」「書く」「聞く」「話す」の4スキルを意識し、それぞれの具体的な技法を関連する課題によって学びます。たとえば本やデータを「読む」ことは、誰でも自然とできるわけではなく、大学で学ぶべきレベルの「読み方」と、それを「思考」につなげる具体的なスキルを習得する必要があります。他の「書く」「聞く」「話す」も同じであり、本演習ではレポートの作成・情報の収集方法・グループ討論・プレゼンテーションの方法などアカデミック・スキルの基礎を実践的に学びます。 第三に、春学期では「書く」ことを重要テーマとし、作文などの文章執筆によって「思考」を明確にし、また深めていく方法を重点的にトレーニングして、秋学期の演習につなげます。	1. ガイダンス：授業の進め方について、自己紹介 2. クリティカル・リーディング①：読解の基礎 3. クリティカル・リーディング②：「比較」と「連想」 4. メディア・リテラシー①：「読む」と「読み解く」 5. 文章実習①：「書く」とは何か 6. 文章実習②：ノートテイキングと「聞く」思考 7. メディア・リテラシー②：「伝える」とは何か 8. 文章実習③：作文の合評会（「良い文章」とは？） 9. 文章実習④：「読む」と「書く」の連動に向けて 10. レジュメを作る①：レポートとレジュメの違い 11. レジュメを作る②：全員で同じ文献のレジュメを作る 12. 図書館の活用方法（本と論文だけではない図書館術） 13. グループ研究①（英文記事から思考する） 14. グループ研究②（「話す」の基礎） 15. グループ研究③（口頭プレゼンテーション・マッチ）

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の予習と課題に取り組み、図書館などを活用して主体的に事後の復習に取り組んでください。 詳細は初回のガイダンスで指示します。
テキスト、参考文献	世界思想社編集部『大学生 学びのハンドブック 3 訂版』世界思想社、2015 年
評価方法	授業の参加度、課題の提出状況、期末レポートにより総合的に評価します。 なお 4 回以上の欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定資格を失います。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この演習では、春学期に学んだ「読む」「書く」「聞く」「話す」の 4 スキルを高度化し、さらに「調べる」と「考える」の 2 スキルを加えて、2 年次以降の大学生活において自由に思考するための基礎知力を習得し養成することを目指します。 具体的には、①アクティブ・リーディングの技法を学び、②それをグループで選定した文献において実践し、③レジュメと口頭でプレゼンテーションして他の履修者と討論し、④さらに関連する論や情報を調べてコンパクトな研究発表に挑戦する、というプログラムによって、上記の 6 スキルを組み合わせて実践することに取り組みます。 また春学期の「書く」ことに引き続き、秋学期では「映像分析の方法（基礎）」や「取材の方法（思考に結び付ける取材の方法）」を取り入れ、「書く」ことで「思考」するスキルの応用と高度化にも試みます。 春学期と比べて、グループでの自由研究が増えるため、授業時間外での研究活動を主体的かつ積極的におこなうことが求められます。	1. アクティブ・リーディング①：批判的思考の基礎 2. 「調べる」と「考える」：要約、解説、論説の検討 3. アクティブ・リーディング②：批判的思考の応用 4. アクティブ・リーディング③：グループ研究の方法 5. グループ・プレゼンテーションと討論① 6. グループ・プレゼンテーションと討論② 7. グループ・プレゼンテーションと討論③ 8. グループ・プレゼンテーションと討論④ 9. グループ・プレゼンテーションと討論⑤ 10. 映像分析の方法（基礎） 11. 自由研究発表と討論① 12. 自由研究発表と討論② 13. 自由研究発表と討論③ 14. 自由研究発表と討論④ 15. 評論文合評会、まとめ

到達目標	「基礎演習　I」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前の予習と課題に取り組み、図書館などを活用して主体的に予習と復習に取り組んでください。 詳細は初回のガイダンスで指示します。
テキスト、参考文献	世界思想社編集部『大学生 学びのハンドブック 3 訂版』世界思想社、2015 年
評価方法	授業の参加度、課題の提出状況、期末レポートにより総合的に評価します。 なお 4 回以上の欠席（遅刻 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定資格を失います。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 春学期の基礎演習では、講義と演習を織り交ぜながら図書館を利用した文献検索の方法や、レポートやレジュメなどを用いた研究発表などの基本的な作法について学ぶ。授業順は使用施設の都合などにより入れ替わることがある。	1、ガイダンス 2、大学での学びのマナー 3、大学での学びとキャリア 4、研究の倫理 5、図書館ガイダンス 6、レポートの書き方① 7、レポートの書き方② 8、レジュメの作り方 9、クリティカルリーディングとは 10、レジュメを使った発表① 11、レジュメを使った発表② 12、レジュメを使った発表③ 13、レジュメを使った発表④ 14、レジュメを使った発表⑤ 15、まとめ

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備には授業外で図書館などを活用した学修が必要となる。 授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内小課題 60%　期末課題 40% 4 回以上の欠席は単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
大学での学びに必要とされる基本的な知識やスキルを習得する。また大学で学んだことが将来とどのように関連するのかについて各自が考え、学生生活における学習活動をより有意義にすることを目指す。 秋学期の基礎演習では、春学期の作業を踏まえながらグループ、個人で大テーマのもと課題を各自設定し、研究プロジェクトに取り組む。文献・資料の収集からプレゼンテーションの準備までを行い、授業後半ではクラス内で発表を行う。	1、ガイダンス 2、研究のためのプレゼンテーション 3、研究のための調査 4、課題発表① 5、課題発表② 6、課題発表③ 7、課題発表④ 8、課題発表⑤ 9、課題発表⑥ 10、課題発表⑦ 11、課題発表⑧ 12、課題発表⑨ 13、課題発表⑩ 14、課題発表⑪ 15、まとめ

到達目標	「基礎演習　I」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備には授業外で図書館などを活用した学修が必要となる。 授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で紹介する。
評価方法	授業内小課題 60%　期末課題 40% 4 回以上の欠席は単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 I	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本演習は、1. グループ・ワークによる小研究（＝実践的な学習）を通じて、大学で勉強・研究するための基礎的な考え・技法を身につけること、2. グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況のなかでの文化の動態について学問的に分析する能力を養うこと、を目的としている。 本演習ではまず、担当者が数回、文献資料収集やフィールドワーク技法、プレゼンテーション技法、レポート作成法等について講義を行なう。そしてこの講義をふまえた上で、後半はグループごとに指定した課題（世界の食文化）に関する小研究を行なってもらう。 小研究の詳細については、初回授業で説明する。	1. 自己紹介 2. 趣旨説明・グループ分け 3. 講義 1：研究とは何か 4. 講義 2：文献資料収集の作法 5. 講義 3：文献資料の読解・引用の流儀 6. 講義 4：フィールドワークの技法 7. 講義 5：プレゼンテーション・レポート作成技法 8. 発表・議論 9. 発表・議論 10. 発表・議論 11. 発表・議論 12. 発表・議論 13. 発表・議論 14. 発表・議論 15. まとめ

到達目標	レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞等で、ツーリズムや移民、難民、戦争などグローバルな諸現象について情報収集をすること。
テキスト、参考文献	佐藤望ほか（編）2012『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』慶応義塾大学出版会
評価方法	小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	基礎演習 II	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、グループごとの小研究・プレゼンテーションを毎回行なう。 自分で調べたことをクラスメートの前で発表し、議論することを通じて、大学で勉強する際に必要なアカデミック・スキルを磨くと同時に、研究を行なうための感性や想像力を養う。	1. ガイダンス 2. 発表・議論 3. 発表・議論 4. 発表・議論 5. 発表・議論 6. 発表・議論 7. 発表・議論 8. 発表・議論 9. 発表・議論 10. 発表・議論 11. 発表・議論 12. 発表・議論 13. 発表・議論 14. 発表・議論 15. まとめ

到達目標	「基礎演習　I」の学習成果のうえに、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方といった、基礎的なスタディー・スキルを向上させ、さらに実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞等で、ツーリズムや移民、難民、戦争などグローバルな諸現象について情報収集をすること。
テキスト、参考文献	特に定めない。
評価方法	小レポート・小研究の成果発表、学期末レポートの成果をふまえ、総合的な評価をする。ただし、4 回以上欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図る。 講義概要 　それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということを、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評的に考えていく。	第 1 回：導入――文学と文化とは？ 第 2 回：想像力の重要性と文化 第 3 回：人種　1――ケルト人 第 4 回：人種　2――ケルト文化 第 5 回：イギリス島の人種のルーツ 第 6 回：物語と英語の始まり 第 7 回：信仰と人間観 第 8 回：Shakespeare　1 第 9 回：Shakespeare　2 第 10 回：ジャーナリズムの誕生――報道の責任 第 11 回：小説の誕生――社会と人間 第 12 回：19 世紀のおもしろ小説 第 13 回：アイルランド移民とアメリカ 第 14 回：20 世紀から 21 世紀の小説に 第 15 回：まとめ――文学と人間

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、英文資料の日本語訳をノートに用意して出席してください。
テキスト、参考文献	英文資料（B5 で 4 ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図る。 講義概要 　それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということを、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評的に考えていく。	第 1 回：導入――文学と文化とは？ 第 2 回：想像力の重要性と文化 第 3 回：人種　1――ケルト人 第 4 回：人種　2――ケルト文化 第 5 回：イギリス島の人種のルーツ 第 6 回：物語と英語の始まり 第 7 回：信仰と人間観 第 8 回：Shakespeare　1 第 9 回：Shakespeare　2 第 10 回：ジャーナリズムの誕生――報道の責任 第 11 回：小説の誕生――社会と人間 第 12 回：19 世紀のおもしろ小説 第 13 回：アイルランド移民とアメリカ 第 14 回：20 世紀から 21 世紀の小説に 第 15 回：まとめ――文学と人間

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、英文資料の日本語訳をノートに用意して出席してください。
テキスト、参考文献	英文資料（B5 で 4 ページ程度）を毎回配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。1. 自分自身の「現在と此所」を、近現代 500 年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。2. 歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。3. 現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。4. あらゆる現実・フィクションには、いくつもの側面があることに敏感になろう。 なおこの講義は英国とその（旧）植民地で書かれた散文を中心としたものである。	1. 英語圏とは、英語とは 2. 社会・文学・歴史 3. 語る聞く文学から読む文学へ(1) 4. 語る聞く文学から読む文学へ(2) 5. 小説の誕生と帝国(1) 6. 小説の誕生と帝国(2) 7. 世紀を越えるベストセラー(1) 8. 世紀を越えるベストセラー(2) 9. 世紀を越えるベストセラー(3) 10. テクストとその受容(1) 11. テクストとその受容(2) 12. テクストとその受容(3) 13. もうひとつの物語(1) 14. ポストコロニアルの視点 15. もうひとつの物語(2)

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には授業で使用するハンドアウトにあらかじめ目を通しておくこと。事後には必要に応じて復習をし、理解不十分な箇所については次の回に質問すること。
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布する。参考文献は随時紹介する。
評価方法	授業内活動（提出物含む）30% 、定期試験　70%

09 年度以降	英語圏の文学と文化概論	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。1. 自分自身の「現在と此所」を、近現代 500 年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。2. 歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。3. 現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。4. あらゆる現実・フィクションには、いくつもの側面があることに敏感になろう。 なおこの講義は英国とその（旧）植民地で書かれた散文を中心としたものである。	1. 英語圏とは、英語とは 2. 社会・文学・歴史 3. 語る聞く文学から読む文学へ(1) 4. 語る聞く文学から読む文学へ(2) 5. 小説の誕生と帝国(1) 6. 小説の誕生と帝国(2) 7. 世紀を越えるベストセラー(1) 8. 世紀を越えるベストセラー(2) 9. 世紀を越えるベストセラー(3) 10. テクストとその受容(1) 11. テクストとその受容(2) 12. テクストとその受容(3) 13. もうひとつの物語(1) 14. ポストコロニアルの視点 15. もうひとつの物語(2)

到達目標	英語圏の文学史と文化史の基礎知識を習得し、基本的な手法をもって文学作品を鑑賞のうえ批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には授業で使用するハンドアウトにあらかじめ目を通しておくこと。事後には必要に応じて復習をし、理解不十分な箇所については次の回に質問すること。
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布する。参考文献は随時紹介する。
評価方法	授業内活動（提出物含む）30% 、定期試験　70%

09 年度以降	英語の世界 I	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
かつて、言語の形式の大部分は恣意的に決まっていると考えられてきましたが、ここ数十年の認知言語学の研究により、そのかなりの部分が我々の世界経験に基づいて合理的、必然的に形成されていることがわかってきました。母語話者はその原理を無意識にかつ直観的に理解できますが、非母語話者は意識的に探究し、学ぶ必要があります。本講義では、英語のさまざまな表現がなぜそのような形になっているのかを徹底的に考え、母語話者の直観に迫り、彼らに近い感覚で英語を操作する能力の足掛かりを得ることを目指します。 　文法を学ぶことで、正確な英語をより快適に作り出せるようになることを経験してもらい、文法学習と実用的な英語習得が実は直結していることを知ってもらいたいと思います。疑問や意見を積極的に表明することのできる明るい雰囲気の授業にしたいと思います。	1. 日本語を介さずに英語を理解する 2. 文法形式とスキーマ 3. 形が違えば意味は違う 4. 比喩の役割 5. 多義語とは何か？ 6. 単語の配列と意味 7. 特定と非特定 8. 有界性と非有界性 9. 時制は２つしかない 10. 統語的な相 11. 仮定法 12. 動詞の相 13. 並置 14. 倒置 15. さらに何を学ぶべきか

到達目標	英語学の視点をもって、単語の意味・イントネーション・語法・構文などに関する基礎知識を習得し、英語を的確に用いることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、予告された表現の文法解説の私案を用意し、事後は、授業での解説と自身の案を比較する。
テキスト、参考文献	① 今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法』開拓社 ② 担当者が用意するプリント
評価方法	小テスト 30%、レポート 20%、期末試験 50% の配分で算出する。

09 年度以降	英語の世界 I　再履修	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 「英語らしい表現方法・考え方」は「英語という言語の仕組み」と密接に結びついています。これは「日本語らしい表現方法・考え方」とはずいぶん異なっていますので、その違いを明確にしながら考えを深めることで、英語らしい表現方法や考え方を理解し、実践することができるようになることが目的です。 【講義概要】 授業は講義とディスカッションがメインとなります。ディスカッションをきちんと行うためにはテキストに出てきた文法事項や語彙項目について、各自具体例を探してきて発表してもらいます。学んだことを自ら深めることを通じて、英語の世界の扉を自ら開いてもらいたいと思います。	1. イントロダクション：和訳は英語をわからなくする 2. コミュニケーションに必要な文法とは？ 3. 訳すことで生ずる誤解 4. 日常言語の中の比喩 5. 多義語の意味も、比喩によってつながっている 6. 形と意味 I 7. a と the の使い方・名詞の二つの用法 8. 中間のまとめ 9. 時制の表現法 10. 相の概念 11. 過去形と丁寧表現 12. 動詞の二つの用法 13. 形と意味Ⅱ 14. 形と意味Ⅲ 15. まとめ ★授業内容は進度に応じて変更する可能性がある

到達目標	英語学の視点をもって、単語の意味・イントネーション・語法・構文などに関する基礎知識を習得し、英語を的確に用いることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所は必ず読んでから出席し、毎回授業後に出される課題を行うこと。
テキスト、参考文献	今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法』開拓社
評価方法	試験（中間・期末）60%、課題提出 30%、リアクションペーパー10%

09 年度以降	English for Business I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
小学校高学年で英語の授業が必修となり、また、大学では学生の海外への短期留学を増加させるために、或いは、世界各国から優秀な人材を集め、競争に勝ち抜くために、４学期制を実施・検討している大学もあるようです。更に、社内公用語を英語に変更する企業が出現した現状を考えると、教育界・実業界等で、世界に通ずる英語の習得が重要課題となっていることは明らかです。 本講義では、ビジネス場面における基礎レベルの英語運用能力を幅広く習得し、上級科目である「Business Writing」、「英語ビジネス・コミュニケーション」、「英語ビジネス・コミュニケーション実務」等を履修するための予備的な実力を養成します。 **Writing** では、**ビジネス英文メール**の中でよく使用される**独特な英語表現**を勉強し、世界に通ずる実践的な学習となるよう指導していきます。**Reading** では、英字新聞などに使用されているビジネスに関する基本的な語彙と語彙の説明や経済英語独特の表現を学び、英字新聞ビジネス記事の基本的な読み方を学習いたします。	各担当教員が第１回目の授業で提示致します。

到達目標	初学者を対象に、ライティング、リーディングを問わずビジネス場面において基礎レベルの英語を運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	Writing：海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』（DTP 出版、2014 年） Reading: プリント使用
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	English for BusinessⅡ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「English for BusinessⅡ」では、「English for BusinessⅠ」の「講義目的･講義概要」で書かれた、**Writing** と **Reading** の続きを行い、**Writing** と **Reading** の更なる能力向上に努めます。ビジネス英文メールの書き方の習得と同時に、企業内のさまざまなことも学び、外国への留学手続き、国際的に活躍する企業への就職活動、そして就職してからの業務遂行に役立つことができるよう指導致します。国際社会に対応できるように、**Writing と Reading を関連させて総合的なビジネス英語**の基本を学んでいきます	各担当教員が第１回目の授業で提示致します。

到達目標	「English for Business I」の学習成果のうえに、簡単なビジネス通信文の読み書き、日常的なビジネス文書の読み書き、電話、面談等による簡単な商談、社交会話において、英語を運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト・プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	Writing：海老沢達郎・功力義雄著『English for Business』（DTP 出版、2014 年） Reading: プリント使用
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	Listening & Speaking（火１）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. One component of the course is to study online with EnglishCentral. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Roleplay 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review 15. Feedback

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, over an hour each week.
テキスト、参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
評価方法	Grades will be based on in-class performance (35%), classroom exercises (35%) and test results (30%)

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（火１）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the Listening and Speaking class, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. One component of the course is to study online with Dokkyo LINGUAPORTA. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. TV sitcom 10. Tourism in the Lake District 11. TV sitcom 12. Festivals 13. Music 14. Review 15. Feedback

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, over an hour each week.
テキスト、参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
評価方法	Grades will be based on in-class performance (35%), classroom exercises (35%) and test results (30%)

09 年度以降	Listening & Speaking（火２）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will work on developing listening comprehension skills. Listening activities will be followed by guided conversations and discussions on the topics introduced in the listenings in order to increase fluency in spoken English. One component of the course is to study online with EnglishCentral. The course plan contains a list of topics which may be changed according to the response of the students.	1. Introduction to the course 2. Talking about work 3. Some national stereotypes 4. London 5. Living in the country 6. Wales 7. General knowledge quiz 8. Role play 9. TV sitcom 10. A famous author 11. Discussion 12. In the year I was born 13. Emigrants 14. Review 15. Feedback

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, over an hour each week.
テキスト、参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
評価方法	Grades will be based on in-class performance (35%), classroom exercises (35%) and test results (30%).

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（火２）	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
We will continue the form of lesson established in the Listening and Speaking class, this time expanding the materials to include reading matter to help students build their English skills so that they can think and respond in English on the topics covered. One component of the course is to study online with Dokkyo LINGUAPORTA. The list of topics in the course plan may be changed according to the response of the students.	1. Consolidation 2. Travel and national preconceptions 3. Language learning 4. The media 5. Health 6. Health and alternative remedies 7. Phrasal verbs 8. General knowledge quiz 9. TV sitcom 10. Tourism in the Lake District 11. TV sitcom 12. Festivals 13. Music 14. Review 15. Feedback

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary and reading for classroom activities: 30 minutes. Supplementary online listening homework: on average, over an hour each week.
テキスト、参考文献	There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.
評価方法	Grades will be based on in-class performance (35%), classroom exercises (35%) and test results (30%).

09 年度以降	Listening & Speaking	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
言語が音声を媒体として意味を伝えるものである以上、母語話者の発音に近づく努力を放棄するわけにはいきません。非母語話者だからという理由で発音での妥協を重ねると、母語話者に理解してもらえないという事態を招くことになり、英語を学ぶことの意味そのものが失われてしまうでしょう。 　こうした発想から、本講座では観光業で用いられる英語表現を収録した音源を聴きながら、英語音声の発音の仕方を徹底的に考え、練習します。また、speakingと表裏一体をなすlisteningについても学習と練習を重ね、両者の相乗効果を狙います。 　母語話者が英語の音素をどう認識しているかに注目しつつ、リエゾンや音の脱落、リズムなど、英語音声の特徴的な現象を無意識にかつ自然に再現できるようになることを目指します。 　さらに、補完教材としてEラーニングサイトも使用します。	1. イントロダクション 2. 力の抜き方 3. 力の入れ方 4. 音の長さ 5. 音素という概念 6. 母語話者が用いる音声のアルファベット表記 7. long vowels 8. short vowels 9. 子音 10. 子音 11. ストレス 12. 文のリズム 13. リエゾン 14. 音の脱落 15. まとめ

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定された英文を暗唱できるようにし、事後は発音法を徹底的に復習し身につけること。
テキスト、参考文献	伊集院幸子・茂木由美子『ホテルの英会話ハンドブック』三修社
評価方法	平常点(20%)，Ｅラーニングサイトに基づく小テスト(30%)，期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
TOEFL や TOEIC の得点力をアップするには、これらの試験の対策教材そのものを英語力アップの材料ととらええることが重要です。 　本講座では、TOEFL の listening section の対策教本を使いながら、そこに現れるさまざまな英語の語彙や表現を学び、実際に使えるようになることを目指します。実用のために学ぶ、という姿勢が結局は得点力の向上につながることを実感しましょう。 　さらに、TOEFL の Listening 問題に出てくる基本的な単語やそれらを含む表現を起点として、Internet の検索能力を駆使しながらさまざまテキストや画像、動画を見つけ出し、それらを学習材料にして有機的な表現力のネットワークを構築することを試みます。 　TOEFL にせよ TOEIC にせよ、実用的な英語力としっかりした発音能力を持っていることこそが得点力の基盤となるという発想に基づき、良い意味で「騒がしい」英語学習を展開していきたいと思います。	1. イントロダクション 2. 食糧についての表現 3. 交通機関についての表現 4. 学校についての表現 5. 文房具についての表現 6. 自転車についての表現 7. スマートフォンについての表現 8. 観光についての表現 9. 健康についての表現 10. 歴史についての表現 11. 物理学についての表現 12. 化学についての表現 13. 数学についての表現 14. 言語についての表現 15. まとめ

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にリスニングの英文のスクリプトを熟読し、事後は徹底的に音読すること。
テキスト、参考文献	喜田慶文『TOEFL テストリスニング問題 190』旺文社
評価方法	平常点(20%)，Ｅラーニングサイトに基づく小テスト(30%)，期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	Listening & Speaking（火３）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。 歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。 Pair work /Group workを行い、大量に話し、聴く練習を取り入れる。	1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. Lesson 14

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	身近なトピックについての語彙を予習する。事後学修として、授業で行った活動のまとめを英語で記録する。毎日英語での Journal を書き、授業時に提出し点検を受ける。
テキスト、参考文献	参考書 学生の学生による学生のための和英辞書　（新翠舎）
評価方法	授業参加度 40%　課題 10%　試験 20% 定期的に行われる小テスト 30%（E-Learning での自宅学習が反映される）

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（火３）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC 及び TOEFL 等の試験に対応できるよう配慮する。	1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. Lesson 14

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	身近なトピックについての語彙を予習する。事後学修として、授業で行った活動のまとめを英語で記録する。毎日英語での Journal を書き、授業時に提出し点検を受ける。
テキスト、参考文献	適宜指示する
評価方法	授業参加度 40%　課題 10%　試験 20% 定期的に行われる小テスト 30%（E-Learning での自宅学習が反映される）

09 年度以降	Listening & Speaking（火１）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
英語の音の本質を理解し、日本語の特質との違いを把握させることを主眼とする。 歌には言語の特質が端的に現れる。歌詞と曲を集中的に学ぶことは英語の音の特質を把握する効果的方法の一つである。本授業ではよく知られた歌を取り上げ英語のリズムの特徴を理解し、さらに再現できることを目指す。 Pair work /Group workを行い、大量に話し、聴く練習を取り入れる。	1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. Lesson 14

到達目標	英語の聴解能力と発音技能、基本的な会話能力を向上させ、適確に発話できるようにする。
事前・事後学修の内容	身近なトピックについての語彙を予習する。事後学修として、授業で行った活動のまとめを英語で記録する。毎日英語での Journal を書き、授業時に提出し点検を受ける。
テキスト、参考文献	参考書 学生の学生による学生のための和英辞書　（新翠舎）
評価方法	授業参加度 40%　課題 10%　試験 20% 定期的に行われる小テスト 30%（E-Learning での自宅学習が反映される）

09 年度以降	Listening Practice for TOEFL® & TOEIC®（火１）	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
春学期で英語音の特徴を理解し身に付けたことを前提として、実践的 Listening の訓練を行い TOEIC 及び TOEFL 等の試験に対応できるよう配慮する。	1. Orientation 2. Lesson 1 3. Lesson 2 4. Lesson 3 5. Lesson 4 6. Lesson 5 7. Lesson 6 8. Lesson 7 9. Lesson 8 10. Lesson 9 11. Lesson 10 12. Lesson 11 13. Lesson 12 14. Lesson 13 15. Lesson 14

到達目標	「Listening & Speaking」の学習成果をより向上させ、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	身近なトピックについての語彙を予習する。事後学修として、授業で行った活動のまとめを英語で記録する。毎日英語での Journal を書き、授業時に提出し点検を受ける。
テキスト、参考文献	適宜指示する
評価方法	授業参加度 40%　課題 10%　試験 20% 定期的に行われる小テスト 30%（E-Learning での自宅学習が反映される）

09 年度以降	Grammar for TOEFL®&TOEIC® I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英語の語法と文法の知識を身につけてもらうことである。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切で、そこから学習し始めると、次第に英語という言語の学術的研究にたいして理解を深め、表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む英語母語話者のモノの見方がどのような表現方法となって表れているか、と探っていく習慣を身につけていく学習方法が、結局は効率の良い英語の学習方法であるということがわかるようになる。この授業では、テキストを基にした講義から、そのような規則性を探るにあたっての考え方のヒントをつかんでもらいたい。 なお、この授業は「英語の世界 I」と密接な関係にあるので、そちらも欠かさず出席し、この授業同様、予習・復習を怠ることのないようにしてほしい。	1. 現在と過去のコト 2. 未来のコト 3. 動詞で語るコト 4. 続き 5. 話し手の態度の表現（助動詞） 6. 続き（助動詞の過去形、副詞・形容詞） 7. 続き（助動詞の関連表現） 8. 表に出ない行為者（能動文と受動文） 9. 続き 10. HAVE, BE, ING のちから 11. 続き 12. 動詞の共演者と構文タイプ 13. 続き 14. 続き 15. 続き

到達目標	「英語の世界 I」の学習成果のうえに、英語の語法・文法に対する知識をさらに深め、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを２回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。
テキスト、参考文献	田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法　文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会
評価方法	最終成績は定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

09 年度以降	Grammar for TOEFL®&TOEIC® II	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
ことばを使う表現主体（話し手）と文法とはけして無関係ではないという立場から、表現する主体者を中心に据えて英文法を考える。そして、表現主体が周りの世界をいかに捉え、いかに描写するかという観点から英文法を見ると、ある事態を表現するのに「なぜそうは言えてもこうは言えないのか？」ということには意味的な動機付けのあることに気づく。したがって、文法がわかるということはその意味的動機付けの仕組がわかるということであり、それはとりもなおさず「なぜそうは言えてもこうは言えないのか」という説明ができるようになるということである。 そうなると、英文法学習というのは暗記力の良し悪しの問題ではなくなり、「なるほど？」と納得しながら学ぶものであることがわかり、例えば現在完了形と過去形の使い分け、冠詞 a と the の使い分け、はだか名詞と a や-s が付いた名詞の違い、あるいは I'm standing on/in the street. の意味の違いがわかるようになる。	1. 形容詞を中心とした構文 2. 動詞の文法の総括 3. モノ（名詞）の文法 4. 続き 5. 修飾語とその配列順 6. あとから言い足していく語り方（後置修飾） 7. 続き 8. 代名詞と指示詞、そして名詞節 9. 続き 10. 副詞で状況を語る 11. 続き 12. さまざまな副詞表現 13. 仮想の状況を設定する 14. 情報の接続と論理 15. 続き

到達目標	「英語の世界 I」の学習成果のうえに、英語の語法・文法に対する知識をさらに深め、TOEFL®や TOEIC®の試験に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（テキストを２回読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、課題に取り組み、小テストのおさらい）を怠らないこと。
テキスト、参考文献	田中茂範『NHK 新感覚☆わかる使える英文法　文法がわかれば英語はわかる！』日本放送出版協会
評価方法	最終成績は定期試験 4 割、小テストと課題 3 割および授業における参加度 3 割による。詳細あるいは変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

09 年度以降	Reading Strategies I （木３）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Students enrolled in this course are expected to increase the ability to think in English, and increase English vocabulary. Furthermore, students are expected to deepen the understanding of foreign cultures and literatures. The course is also designed to prepare basic English skills for students considering to pursue academics in English speaking countries in the future. Students will be given new reading material each week, mostly focusing on international affairs and current affairs. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. There will be quizzes and/or assignments every week. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	The instructor will select reading materials and distribute handouts each week.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ（木３）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. Students are expected to further improve the skills acquired in the spring semester, by reading advanced reading materials. Students will be given new reading material each week, mostly focusing on international affairs and current affairs. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, key word search, vocabulary building, and reading aloud. There will be quizzes and/or assignments every week. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	The instructor will select reading materials and distribute handouts each week.
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	倉林　秀男

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 英文を正確に読むということは、そこに書かれている内容を理解することができるということである。仮に抽象的な内容が書かれた英文であったとしても、しっかり考えればその意味が理解できるはずである。そのためこの授業では読解力だけではなく思考力もあわせて向上させるために、＜ことば＞と＜文化＞について書かれたやや抽象的な文章を読み解く訓練を行っていく。 【講義概要】 教科書の指定された箇所をしっかり精読し、グループ毎に訳文をチェックし合い発表してもらいます。また、テキストの単元毎に扱われているトピックに関する事例をグループ毎にリサーチして発表することを通じ、テキストの内容理解を図ります。	1. Orientation 2. Concepts We Live By 3. The Systematicity of Metaphorical Concepts 4. Metaphorical Systematicity 5. Orientational Metaphors 6. Metaphor and Cultural Coherence 7. Ontological Metaphors 8. Presonification 9. Metonymy 10. How Is Our Conceptual System Grounded? 11. How Metaphor Can Give Meaning to Form 12. New Meaning 13. Presentation (1) 14. Presentation (2) 15. Wrap up session

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を精読し、内容をノートにまとめてくる。授業後に課される課題についてグループで話し合いをしてプレゼンテーション資料を作成する。
テキスト、参考文献	George Lakoff & Mark Johnson.著（橋本功編注）　*Metaphors We Live* By　松柏社
評価方法	中間・期末試験 50%、授業内発表 40%、リアクションペーパー10%

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・日本社会（文化）、異文化間コミュニケーション、カナダ社会（文化）、その他の文献のパラグラフ・リーディングとする。 ・併せて日本語の文章表現力を高める。 ・辞書を持参すること。	1. 概要説明 2. 講義：コミュニケーション論 3. 同上：文化・社会について 4. 会読① 5. 同上② 6. 同上③ 7. 同上④ 8. 同上⑤ 9. 同上⑥ 10. 同上⑦ 11. 同上⑧ 12. 同上⑨ 13. 同上⑩ 14. 同上⑪ 15. まとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：キーワードを探る／事後：テキスト内容と社会・文化事象との関連を考える
テキスト、参考文献	コピーを配付する
評価方法	平常点：15%／定期試験：85%

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は，英文を精確に「読む」ための技術と姿勢を身につけることを目的としています．「読む」ことと「訳す」ことは別のことです．授業は，このことを徹底して意識しながら進めていきます． 英文を精確に読むためには，英文の構造や指示語や指示対象，修飾・被修飾の関係，接続詞・関係詞・副詞など論理を示す語句を正しく理解しなければなりません．また，「訳す」ことが目的ではなく，内容を「理解して学習する」ことが目的なので，記述の背景や筆者の意図なども意識しながら読んでいきます． 「読む」という行為について，日本語と外国語を区別することなく，「英語を日本語のように読む」ことを目指してください．「読む」行為は，あくまでも何かを学ぶための手段でしかありません．	1. Course Orientation 2. 諸概念と英文の構造 3. Chapter 1: 動詞句の構造と認識 4. Chapter 1: 名詞句の構造と認識 5. Chapter 1: 修飾語句の構造と認識 6. Chapter 2: 関係詞の働き 7. Chapter 2: 接続詞の働きと準動詞の扱いについて 8. Chapter 2: 分詞構文について 9. Chapter 3 10. Chapter 3 11. Chapter 3 12. Chapter 4 13. Chapter 4 14. Chapter 4 15. 春学期のまとめ ※ 理解度により進度が変わることがあります．

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の英文や語句・背景について十分に予習すること．また，既習箇所を繰り返し読み返して，自動化を図るべく徹底して復習すること．
テキスト、参考文献	Becker, C. (2012). American and English Ideals (rev. ed.). 英宝社.
評価方法	学期末試験（60%），授業レポート（20%），意欲・関心・態度など（20%）で評価します．

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は，春学期に学習した「英文を精確に読む」ことを土台として，より多くの量の英文をより速く読めるようになるための技術を，2 段階に分けて学習し，その能力を身につけることを目的としています． まず，パラグラフの構造を理解した上で，精確に読むべき箇所と scanning や skimming の技術を使って読む箇所を判断し，要約できるようになることを目指します．次に，長いエッセイについて全体の構造を理解し，「意味段落」を意識しながら全体を要約して説明できるようになることを目指します． この段階に入っても，英文を精確に読めることが求められることは言うまでもありません，また，背景知識についての学習も，引き続き求められます． 最終的には，英文を読むことにおいて，「自動化」が起こるようにしたいと考えます．	1. Chapter 5 2. Chapter 5 3. Chapter 5 4. Chapter 6 5. Chapter 6 6. Chapter 7 7. Chapter 7 8. Chapter 8 9. Chapter 8 10. 中間まとめ 11. Chapter 9 12. Chapter 10 13. Chapter 11 14. Chapter 12 15. 秋学期のまとめ

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の英文や語句・背景について十分に予習すること．また，既習箇所を繰り返し読み返して，自動化を図るべく徹底して復習すること．
テキスト、参考文献	Becker, C. (2012). American and English Ideals (rev. ed.). 英宝社.
評価方法	中間・期末試験（60%），授業レポート（20%），意欲・関心・態度など（20%）で評価します．

09 年度以降	Reading Strategies I （月２）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Students enrolled in this course are expected to increase the ability to think in English, and increase English vocabulary. Furthermore, students are expected to deepen the understanding of foreign cultures and literatures. The course is also designed to prepare basic English skills for students considering to pursue academics in English speaking countries in the future. Students will be using the textbook indicated below. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, keyword search, vocabulary building, and reading aloud. There will be quizzes and/or assignments every week. This course is taught in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.	1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Anderson, Neil J., *Active Skills for Reading Student Book 3,* 3rd ed. (Boston: National Geographic Learning, 2014).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ（月２）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. Students are expected to further improve the skills acquired in the spring semester, by reading advanced reading materials. Students will be using the textbook indicated below. During class, students are expected to engage in activities such as discussion, summation, keyword search, vocabulary building, and reading aloud. There will be quizzes and/or assignments every week. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Reading and Discussion (1) 3. Reading and Discussion (2) 4. Reading and Discussion (3) 5. Reading and Discussion (4) 6. Reading and Discussion (5) 7. Reading and Discussion (6) 8. Midterm Examination 9. Reading and Discussion (7) 10. Reading and Discussion (8) 11. Reading and Discussion (9) 12. Reading and Discussion (10) 13. Reading and Discussion (11) 14. Reading and Discussion (12) 15. Course Review

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Anderson, Neil J., *Active Skills for Reading Student Book 3,* 3rd ed. (Boston: National Geographic Learning, 2014).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Reading Strategies I	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
英文の戦略的な読み方を多様な視点から学び実践する。 　英文のテクストを、情報ユニットとして眺めた場合、語彙項目、チャンク（句・節・慣用表現）、センテンス、パラグラフ、パッセージ全体の各レベルで捉えることができる。そのうち、語彙については、未知の語句に遭遇した場合にどう対処すべきか。チャンクはどのように意味処理すればスムーズな読みが可能となるのか。センテンス同士のあいだに作用する「結束性（cohesion）」はどう確認するのか。パッセージ全体にはいかなる「一貫性（coherence）」が流れているのか。その一貫性を維持すべく、各パラグラフはどう構成されているのか。その構成の仕方は、ジャンル等の影響を受けているか。これらの諸問題について新たな「気づき(awareness-raising)」を得て、戦略的な読みの方法を身につける。それがこの授業のねらいである。 　戦略的な読みの方法を活かして、参加者全員（グループ or 個人）にプレゼンテーションをしてもらう予定。	1. なんのために英文を読むのか（意図・目的） 2. テクストとコンテクスト 3. パラテクスト情報の活用 4. 語彙レベル I（語根・接頭辞・接尾辞） 5. 語彙レベル II（基本語のコア） 6. 語彙レベル III（拡張語彙ネットワーク） 7. チャンクとチャンキング I（直読直解） 8. チャンクとチャンキング II（comprehension check） 9. チャンクとチャンキング III（reconstruction） 10. コアから文法へ（from lexical core to grammar） 11. 結束性と情報構造（referential tracking） 12. 一貫性とジャンル 13. プレゼンテーション I 14. プレゼンテーション II 15. プレゼンテーション III ※上記の内容はクラス状況に応じて変更することがある。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出）。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	授業時に資料配布。Web 上（PorTa 等）をで教材をシェアする場合もある（具体的方法は授業時に指示する）。参考文献：MEW（いいずな書店）など。
評価方法	活動へのコミットメント＝25%；アサインメント＝25%；プレゼンテーション＝25%；ファイナル・ペーパー&自己評価＝25%。４回以上欠席の場合は単位を与えない。

09 年度以降	Reading StrategiesⅡ	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期（Reading Strategies I）のねらいを深化させて、英文の戦略的な読み方を多様な視点から学び実践する。 　英文のテクストを、情報ユニットとしてみると、語彙・チャンク・センテンス・パラグラフ・パッセージ等のレベルがある。ここでは、チャンクに焦点をあてて記述してみたい。チャンクとチャンクがつながり意味の流れを生むのがチャンキングという現象である。このチャンキングをどのように行えばスムーズな情報処理が可能となるのか。また、チャンクとチャンキングの意味処理はボトムアップ（↑）だが、これをどのようにトップダウン（↓）の情報処理と融合させて、速読・(前向き）推論・(後向き）統合・要約・換言等の行為へと接続すればよいか。トップダウンの視点で欠かせないのが、一貫性(coherence)やジャンルに関する理解、背景知識等である。その他、読解の質を高める要素として、動機づけ・興味関心・信念等の心理的側面も重要である。また、メタファーの解釈も読解力強化には欠かせない要素である。 　春学期同様、参加者全員に戦略的読みの方法を活かしたプレゼンテーションを課す予定。	1. 英文読解の新たな指導法 I（教える側の視点に立って） 2. 英文読解の新たな指導法 II（教える側の視点に立って） 3. チャンクとテクストタイプ（応用編） 4. チャンクとチャンキング（reciprocal teaching） 5. チャンクとチャンキング（reacting & paraphrasing） 6. トピックと拡張語彙ネットワーク I 7. トピックと拡張語彙ネットワーク II 8. テクストタイプ I　Contrast & Comparison 9. テクストタイプ II　Chronological Development 10. テクストタイプ III　Problem & Solution 11. 心理的側面：動機づけ・興味関心・信念 12. コアの効用：多義・連語・文法・比喩 13. プレゼンテーション I 14. プレゼンテーション II 15. プレゼンテーション III ※上記の内容はクラス状況に応じて変更することがある。

到達目標	英語の語彙を増やすとともに英語読解力を高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出）。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	授業時に資料配布。Web 上（PorTa 等）で教材をシェアする場合もある（具体的方法は授業時に指示する）。参考文献：MEW（いいずな書店）など。
評価方法	活動へのコミットメント＝25%；アサインメント＝25%；プレゼンテーション＝25%；ファイナル・ペーパー&自己評価＝25%。４回以上欠席の場合は単位を与えない。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、Reading Strategies I, IIで学んだことを踏まえて、戦略的な読みの方法を洗練させることをねらいとする。以下の４種の活動を授業の支柱として位置づける。 1) Intensive Reading : 時事的題材、文学的題材、学術論文等のジャンルから、比較的短く内容の濃いパッセージを選び、語彙・文法的視点、パラグラフ展開、レトリックパターン等の観点から緻密な解釈を行う。必要に応じて、和訳や要約のタスクを課すこともある。 2) Faster Reading : スキャニングやスキミングのスキルを含め、短時間で多量の情報処理を行うための読み方を鍛える。 3) Effective Reading: 読む題材や目的に応じて、読みの速度や深度を調整しながら読む訓練を行う。題材として、Web上のパッセージ等も有効に活用したい。 4) Vocabulary Building : 語形成（接頭辞・語根・接尾辞）の知識を活かして未知語の推測力も鍛える。さらに、話題別語彙ネットワークにより語彙力増強を計る。 参加者全員（グループ or 個人）に戦略的な読みの視点を活かしたプレゼンテーションを行ってもらう予定。	1. Introduction 2. Chunking Method 3. Lexical Core Approach 4. Rhetoric Patterns 5. Word Formation 6. Cohesion, Repetition, Keywords 7. Translation Studies 8. Summarizing & Paraphrasing 9. Skimming & Paragraph Reading 10. Web Learning Activities 11. Self Assessment 12. Presentation Design Workshop 13. Presentation I 14. Presentation II 15. Presentation III ※上記内容はクラス状況に応じて柔軟に調整を行うものとする。 割当教室　A – 201 関連情報リンク： http://www.eslgold.com/reading/skills.html http://www.rong-chang.com/reading.htm http://www.sussex.ac.uk/s3/?id=79

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出）。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	基本的に、授業時に資料配布。PorTa で教材をシェアする場合もある。 参考文献：MEW（いいずな書店）など。
評価方法	授業時の積極的態度・通常のアサインメント・プレゼンテーション・自己評価・オンライン学習に関連した課題・テスト等に基づいて、総合的に評価する。４回以上欠席の場合は単位を与えない。

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、Reading Strategies I, II, さらに、III（春学期）で学んだことを踏まえて、戦略的な読みの方法を洗練させることをねらいとする。以下の４種の活動を授業の支柱として位置づけるが、題材の難度はより高く設定し、より多量の情報を含むテクストを扱う。 1) Intensive Reading : 時事的題材、文学的題材、学術論文等のジャンルから、比較的短く内容の濃いパッセージを選び、語彙・文法的視点、パラグラフ展開、レトリックパターン等の観点から緻密な解釈を行う。必要に応じて、和訳や要約のタスクを課すこともある。 2) Faster Reading : スキャニングやスキミングのスキルを含め、短時間で多量の情報処理を行うための読み方を鍛える。 3) Effective Reading: 読む題材や目的に応じて、読みの速度や深度を調整しながら読む訓練を行う。題材として、Web上のパッセージ等も有効に活用したい。 4) Vocabulary Building : 語形成（接頭辞・語根・接尾辞）の知識を活かして未知語の推測力も鍛える。さらに、話題別語彙ネットワークにより語彙力増強を計る。 参加者全員（グループ or 個人）に戦略的な読みの視点を活かしたプレゼンテーションを行ってもらう予定。	1. Introduction 2. Chunking Method 3. Lexical Core Approach 4. Rhetoric Patterns 5. Word Formation 6. Cohesion, Repetition, Keywords 7. Translation Studies 8. Summarizing & Paraphrasing 9. Commenting & Reacting 10. Web Learning Activities 11. Motivation, Identity & Axiology 12. Presentation Design Workshop 13. Presentation I 14. Presentation II 15. Presentation III ※上記内容はクラス状況に応じて柔軟に調整を行うものとする。 割当教室　A - 201 関連情報リンク： http://www.eslgold.com/reading/skills.html http://www.rong-chang.com/reading.htm http://www.sussex.ac.uk/s3/?id=79

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出）。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	基本的に、授業時に資料配布。PorTa で教材をシェアする場合もある。 参考文献：MEW（いいずな書店）など。
評価方法	授業時の積極的態度・通常のアサインメント・プレゼンテーション・自己評価・オンライン学習に関連した課題・テスト等に基づいて、総合的に評価する。４回以上欠席の場合は単位を与えない。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading：Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 **オンライン学習プログラム：**交流文化学科のカリキュラムの一環として、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。これに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映される。	第１回 導入 第２回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英語における語彙力の増強、および読む目的に応じて精読や速読など味わい方や読み方を変えて読むことができるようになる技術学習である。 Vocabulary building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測したり、単語の用法を学んだりする。 Intensive reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読む。一度に読む量は少なくても文章を味わって読む読み方。文学作品（散文、詩、演劇など）やジャーナリスティックな文、論文などを教材として用いる。 Faster reading：Scanning や Skimming の技法も含めて、短時間に多くの文を読むことを実践的に学ぶ。 **オンライン学習プログラム：**交流文化学科のカリキュラムの一環として、オンライン学習プログラムを課外学習用に採用している。これに沿っての日々の練習度合いが成績の一部に反映される。	第１回 導入 第２回～第 14 回 初回授業にて指示します。 第 15 回 まとめ ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前に Intensive Reading は訳せるレベルでの読み込みを行ってください。 授業後に演習読解は習った語彙と構文の復習を行ってください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。
評価方法	平常点（30%）、試験（40%）、オンライン学習プログラム（30%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、Reading Strategies I, IIで学習したことを踏まえ、さまざまな文章や文体を以下の活動を通して、戦略的に読むことを目的とする。 1) Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、単語の用法を学ぶ。 2) Intensive Reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3) Faster Reading: scanningやskimmingの技法も含め、短時間に多くの文を読む。 4) Effective Reading: 読む目的に合わせて精読したり速読したりして、柔軟に読む方法を身につける。 また、毎回の授業で個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 初回授業にて指示する。 第 15 回 まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。
評価方法	授業内での発表と参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)、オンライン学習プログラム(30%)

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春に引き続き本講義では、さまざまな文章や文体を以下の活動を通して、戦略的に読むことを目的とする。 1) Vocabulary Building: 文脈や接辞を利用して知らない単語の意味を推測し、単語の用法を学ぶ。 2) Intensive Reading: 文章の中での言葉遣いや文中に込められた背景的知識に注目して読む。 3) Faster Reading: scanningやskimmingの技法も含め、短時間に多くの文を読む。 4) Effective Reading: 読む目的に合わせて精読したり速読したりして、柔軟に読む方法を身につける。 また、毎回の授業で個人やグループでのプレゼンテーション及び、ディスカッションを行う。	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回～第 14 回 初回授業にて指示する。 第 15 回 まとめ

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。
評価方法	授業内での発表と参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)、オンライン学習プログラム(30%)

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ（水１）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義では語彙を増やし、目的に応じて多角的に英文を読みとる力を養います。 講義概要 　テキストを読み、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。発表や小テスト、ディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。 　辞書は毎回必ず持参すること。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10. リーディング演習 11. リーディング演習 12. リーディング演習 13. リーディング演習 14. リーディング演習 15. 総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	提出物（小テスト等）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ（水１）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 　具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。オリエンテーションには必ず出席してください。 　毎回必ず辞書を持参すること。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10. リーディング演習 11. リーディング演習 12. リーディング演習 13. リーディング演習 14. リーディング演習 15. 総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	提出物（小テスト等）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅢ（水１）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　この講義では語彙を増やし、目的に応じて多角的に英文を読みとる力を養います。 講義概要 　テキストを読み、わかったつもりから確かな理解へと読解力を磨いていきます。発表や小テスト、ディスカッションなども取り入れます。詳細は初回のオリエンテーションで説明しますので、オリエンテーションには必ず出席してください。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。 　辞書は毎回必ず持参すること。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	提出物（小テスト等）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Reading StrategiesⅣ（水１）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、リーディングの力を強化していきます。春学期で身につけた読解力を定着させ、発展させることを目指します。 講義概要 　具体的な詳細は初回のオリエンテーションで説明します。オリエンテーションには必ず出席してください。 　毎回必ず辞書を持参すること。 　なお、課外学習用にオンライン学習プログラムを採用します。	1.　オリエンテーション 2.　リーディング演習 3.　リーディング演習 4.　リーディング演習 5.　リーディング演習 6.　リーディング演習 7.　リーディング演習 8.　リーディング演習 9.　リーディング演習 10.　リーディング演習 11.　リーディング演習 12.　リーディング演習 13.　リーディング演習 14.　リーディング演習 15.　総括

到達目標	１年次の学習成果のうえに、英語の語彙をさらに増やすとともに英語読解力をさらに高め、日本語を介さず英語で論理的に思考できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を予習しておいてください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	提出物（小テスト等）および授業参加態度 70%、オンライン学習プログラムの学習内容に関連した小テストや課題 30%

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ （火５）	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Course Introduction Week 2: Beginning to Work Week 3: Giving & Receiving Presents Week 4: A Favourite Place Week 5: An Exceptional Person Week 6: Trends & Fads Week 7: White Lies Week 8: Explanations & Excuses Week 9: Problems Week10:StrangeStories Week 11: Differences Week 12: Difficult Decisions Week 13: Finding Answers Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) & report preparation (30 minutes+)
テキスト、参考文献	'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & electronic dictionary or smartphone
評価方法	30% Classwork, 40% Homework Reports, 30% Final Report

09 年度以降	Writing StrategiesⅡ （火２）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students write a coherent paragraph, which is a necessary process in composing most forms of academic, business, professional and general-purpose writing in English. The course will focus on various aspects of good writing such as how to organize paragraph structures and use certain paragraph patterns. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.	1. Introduction to Paragraphs (1) 2. Introduction to Paragraphs (2) 3. Five Elements of Good Writing (1) 4. Five Elements of Good Writing (2) 5. Types of Paragraphs (1) 6. Types of Paragraphs (2) 7. Midterm Examination 8. Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (1) 9. Descriptive Essays: Moving from Paragraph to Essay (2) 10. Comparison Essays (1) 11. Comparison Essays (2) 12. Cause-Effect Essays (1) 13. Cause-Effect Essays (2) 14. Classification Essays (1) 15. Classification Essays (2)

到達目標	「Writing Strategies Ⅰ」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Folse, Keith S., Solomon, Elena Vestri, and Clabeaux, David, *Great Writing 3: From Great Paragraphs to Great Essays,* 3rd ed. (Boston: National Geographic Learning/ Cengage Learning, 2014).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing Strategies Ⅰ（月４）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The main purpose of this course is to help students write English sentences using correct grammar. Furthermore, the course makes students aware of commonly made mistakes and at the same time, it introduces self-help strategies to help students analyze problems and revise their writing. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO before the first class.	1. Introduction 2. Social Relationships (1) 3. Social Relationships (2) 4. Social Relationships (3) 5. Science and Detection (1) 6. Science and Detection (2) 7. Science and Detection (3) 8. Midterm Examination 9. City Solutions (1) 10. City Solutions (2) 11. City Solutions (3) 12. Danger Zones (1) 13. Danger Zones (2) 14. Danger Zones (3) 15. Course Review

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Vargo, Mari, and Blass, Laurie, *Pathways 3: Reading, Writing, and Critical Thinking* (Boston: National Geographic Learning, 2014).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing StrategiesⅡ（月４）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students write a coherent paragraph, which is a necessary process in composing most forms of academic, business, professional and general-purpose writing in English. The course will focus on various aspects of good writing such as how to organize paragraph structures and use certain paragraph patterns. This course is conducted using the textbook indicated below. Students enrolled in this course are expected to engage in textbook exercises and various other activities. This course is taught in English.	1. Introduction 2. Global Appetites (1) 3. Global Appetites (2) 4. Global Appetites (3) 5. Medical Innovators (1) 6. Medical Innovators (2) 7. Medical Innovators (3) 8. Midterm Examination 9. World Languages (1) 10. World Languages (2) 11. World Languages (3) 12. Survival Instinct (1) 13. Survival Instinct (2) 14. Survival Instinct (3) 15. Course Review

到達目標	「Writing StrategiesⅠ」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Vargo, Mari, and Blass, Laurie, *Pathways 3: Reading, Writing, and Critical Thinking* (Boston: National Geographic Learning, 2014).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	Writing Strategies I （火３）	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to master basic paragraph structuring to through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Course Introduction Week 2: Beginning to Work Week 3: Giving & Receiving Presents Week 4: A Favourite Place Week 5: An Exceptional Person Week 6: Trends & Fads Week 7: White Lies Week 8: Explanations & Excuses Week 9: Problems Week 10: StrangeStories Week 11: Differences Week 12: Difficult Decisions Week 13: Finding Answers Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) & report preparation (30 minutes+)
テキスト、参考文献	'Writing Paragraphs' by Dorothy Zemach & Carlos Islam & electronic dictionary or smartphone
評価方法	30% Classwork, 40% Homework Reports, 30% Final Report

09 年度以降	Writing StartegiesⅡ （火３）	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will take students from paragraph structuring to essay writing through a process approach. Areas covered will include generating ideas, organizing, drafting, reviewing & revising. In addition to regular homework assignments, students will be expected to produce a number of printed reports on subjects of their own choosing. It is necessary to have access to a computer & a printer as hand-written assignments will not be accepted. In addition to regular attendance, students must bring a dictionary to class each week, if possible, an electronic one.	Week 1: Process & Pre-Writing Week 2: The Structure of a Paragraph Week 3: The Development of a Paragraph Week 4: Descriptive & Process Paragraphs Week 5: Opinion Paragraphs Week 6: Comparison & Contrast Paragraphs Week 7: Problem/Solution Paragraphs Week 8: The Structure of an Essay Week 9: Outlining an Essay Week 10: Introductions&Conclusions Week 11: Unity & Coherence Week 12: Footnotes, References & Citations Week 13: Essays for Examinations Week 14: Course Review Week 15: Final Evaluation

到達目標	「Writing Strategies Ⅰ」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Exercises from the text book will be set as homework (30 minutes) & report preparation (30 minutes+)
テキスト、参考文献	'Writing Essays' by Dorothy Zemach & Lisa Ghulldu & electronic dictionary or smartphone
評価方法	30% Classwork, 40% Homework Reports, 30% Final Reports

09 年度以降	Writing Strategies I	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide a basic introduction to the process of paragraph writing with an emphasis on grammatical accuracy and cohesion. Students will learn various methods of pre-writing and then put their ideas into sentences. In addition, students will gain an awareness of common grammatical problems in writing made by Japanese students.	Week 1: Course Introduction Week 2: Unit 1 - Brainstorming Week 3: Unit 1 - Expository paragraphs Week 4: Unit 1 - Topic sentences Week 5: Unit 1 - Paragraph format Week 6: Giving feedback and editing writing Week 7: Unit 2 - Analyzing a paragraph Week 8: Unit 2 - Supporting sentences Week 9: Unit 2 - Transitions Week 10: Unit 2 - Conjunctions Week 11: Unit 3 - Using facts and examples Week 12: Revising and editing paragraphs Week 13: Analyze common grammatical errors Week 14: Unit 3 - Direct and indirect speech Week 15: Review & Feedback

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the contents of the textbook covered in each lecture. Students will make weekly entries in their journal which will be read and shared in class.
テキスト、参考文献	*Writing from Within 2* Curtis Kelly & Arlen Gargagliano Cambridge
評価方法	Writing Assignments 50% Journal Writing 25% Quizzes 10% Participation 15%

09 年度以降	Writing StrategiesⅡ	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ● Students will need an English-English dictionary ● The class will be conducted completely in English.	Week 1: Unit 4 - Avoiding repetition Week 2: Unit 5 – Cause & effect paragraphs Week 3: Unit 5 – Introductory paragraphs Week 4: Unit 5 – Making an outline Week 5: Unit 6 – Using modals Week 6: Unit 6 – Process paragraphs Week 7: Unit 6 – Writing an article Week 8: Unit 6 - Using modifiers Week 9: Unit 7 – Concluding paragraphs Week 10: Unit 7 – Using commas Week 11: Unit 8 – Comparisons-contrasts Week 12: Unit 8 – Giving advice Week 13: Unit 9 – Describing personal goals Week 14: Unit 9 – Persuasive paragraphs Week 15: Review & Feedback

到達目標	「Writing Strategies Ⅰ」の学習成果のうえに、単文の英訳技能、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルを向上させ、より正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the contents of the textbook covered in each lecture. Students will make weekly entries in their journal which will be read and shared in class.
テキスト、参考文献	*Writing from Within 2* Curtis Kelly & Arlen Gargagliano Cambridge
評価方法	Writing Assignments 50% Journal Writing 25% Quizzes 10% Participation 15%

09 年度以降	Writing Strategies I （金２）	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory academic writing course. Students should be taught how to write a unified, coherent paragraph, which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course. However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph 2. To learn how to properly format a typed paragraph 3. To help students write about themselves and their experiences 4. To help students write clear, coherent and properly-structured paragraphs 5. To help students analyze s and revise their writing 6. To help students become familiar with computer literacy	1. Introduction / Free Writing 2. Opinion Paragraph / Recognizing Factors 3. Topic Sentence / Brainstorming 4. Paragraph Overview / Using a Word Processer 5. Concluding Sentences / Revising 6. Descriptive Paragraph / Narrowed Topic Sentence 7. Cutting and Adding Detail / Mind Map 8. Concluding Sentences / Since and Because 9. Sentence Variety / Comma Splices 10. Narrative Paragraph 11. Spider Map / Analyzing a Topic Sentence 12. Concluding a Narrative / Present Perfect 13. Peer Revision / Self-evaluation 14. In-class Writing Test 15. Review and Wrap-up

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read text and handouts assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (brainstorming, writing drafts, doing exercises, etc.)
テキスト、参考文献	Pavlic & Segal, *Interaction 2 Writing, Silver Edition.* McGraw Hill
評価方法	Opinion Paragraph: 20%, Descriptive Paragraph: 20%, Narrative Paragraph: 20%, Writing Test: 20%, Participation, Contribution and Homework: 20%

09 年度以降	Writing Startegies II （金２）	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on the student group) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Developing fluency and well-structured paragraphs is the main focus of this course However, students in Group C should also practice writing for accuracy at the same time. Overall Objectives 1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization 2. To help students learn how others organize ideas through peer review 3. To help students write clear, focused, and well organized paragraphs 4. To help students analyze their problems and revise their writing 5. To help students become familiar with computer literacy	1. Introduction / Narrative Essay (Anecdotes) 2. Topic and Introduction Sentence / Timeline Organizer 3. Using Two Paragraphs / Past Perfect 4. Identifying Omissions / Identifying Digressions 5. Argument Essay / Generating Ideas Via Discussion 6. Making Arguments – Reasons and Supporting Detail 7. Organization an Argument / Editing for Grammar 8. Compare and Contrast Essay / Choose a topic 9. Introductory Paragraph / Thesis Statement 10. Organizing the Body / Similarities and Differences 11. Conclusion / Revisions 12. Narrative Essay (Interview) / Prepare for Interview 13. Conducting the Interview / Organizing 14. In-class Writing Test 15. Review and Wrap-up

到達目標	単文の英訳技能のポイント、および英語で論文を作成するために必要なアカデミック・ライティング・スキルの基礎を習得し、正確な英文章を書くことができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read text and handouts assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (brainstorming, writing drafts, doing exercises, etc.)
テキスト、参考文献	Pavlic & Segal, *Interaction 2 Writing, Silver Edition.* McGraw Hill
評価方法	Narrative Essay 1: 15%,　Argument Essay: 15%, Compare/Contrast Essay: 15% Narrative Interview 15%, Writing Test: 20%, Participation, Contribution and Homework: 20%

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The course will have as its foundation a set textbook. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. Additionally, we will look at a number of TED Talks, which will serve as a platform for discussion & presentation. As there will be student-centred, group learning activities, it is important for all students to maintain a friendly learning relationship with others.	Week 1: Course introduction Week 2: If only: The Way Things Should Be Week 3: If only: The Way Things Should Be Week 4: Travel: Making my Way in the World Week 5: Travel: Making my Way in the World Week 6: Life's Choices: Discussion Week 7: Life's Choices: Discussion Week 8: A Look into the Future: Views Week 9: A Look into the Future: Views Week 10: Preparation for Presentations Week 11: Graded Presentations Week 12: Graded Presentations Week 13: Graded Presentations Week 14: Course Review Week 15: Final Class: Summations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare an article for discussion, and to review topics and issues discussed in class including vocabulary and new expresses.
テキスト、参考文献	Course text will be introduced during the first lesson.
評価方法	Grades are based on class in-class performance 25%, presentations 50%, and quizzes 25%.

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The primary aim of this course is to help students further develop their competency in communicative English. The course will have as its foundation a set course text. Each class will cover half a unit of the text. In addition to the course text, students will be involved in various class activities including: student presentations; individual speeches; advanced reading and listening activities. Students in this class should demonstrate an eagerness to improve their English skills while also striving to further their understanding of the topics discussed. As there will be student-centred, group learning activities, it is important for all students to maintain a friendly learning relationship with others.	Week 1: Course Introduction Week 2: Environmental Issues Week 3: Environmental Issues Week 4 Cultural Issues in Japan Week 5: Cultural Issues in Japan Week 6: Cultural Issues outside of Japan Week 7: Cultural Issues outside of Japan Week 8: Food Issues around the World Week 9: Food Issues around the World Week 10: Making a Japan a better Place to Live Week 11: Making a Japan a better Place to Live Week 12: Student Presentations Week 13: Student Presentations Week 14: Student Presentations and Review Week 15: Summations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare an article for discussion, and to review topics and issues discussed in class including vocabulary and new expresses.
テキスト、参考文献	Course text will be introduced during the first lesson.
評価方法	Grades are based on class in-class performance 25%, presentations 50%, and quizzes 25%.

09 年度以降	Comprehensive English I （金２）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2. Memories and keepsakes 3. Opinions about food 4. Crimes and mysteries 5. Trends 6. Errands 7. Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13. Travel preparation 14. Destinations 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Grades will be based on in-class performance(40%), presentations(30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English II （金２）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2. Imagination,dreams,and rules 3. Career plans 4. Media 5. Men and women 6. Cultural differences 7. Big business 8. Health 9. Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Grades will be based on in-class performance(40%), presentations(30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course we will study a variety of topics that are familiar and relevant to students, and practice all 4 skills of reading, listening, writing, and speaking. Each topic will be covered over 2 weeks. In the first week the topic will be introduced through group reading and listening activities. In the second week, we will have a class discussion on the topic, and write a short timed report. Every student will also be required to give a short presentation once during the course. Through this course, students will gain confidence in expressing their opinions in English in both speaking and writing.	1. Introduction class 2. Topic 1 Introduction/ Listening 3. Topic 1 Discussion/ Writing 4. Topic 2 Introduction/ Listening 5. Topic 2 Discussion/ Writing 6. Topic 3 Introduction/ Listening 7. Topic 3 Discussion/ Writing 8. Mid-term review class 9. Topic 4 Introduction/ Listening 10. Topic 4 Discussion/ Writing 11. Topic 5 Introduction/ Listening 12. Topic 5 Discussion/ Writing 13. Topic 6 Introduction/ Listening 14. Topic 6 Discussion/ Writing 15. Final Review class

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading, research , discussion & presentation preparation
テキスト、参考文献	All materials will be provided in class.
評価方法	4 Written reports 40%　Discussion & Presentation 30%　Class participation 30%

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A．ジェネス

講義目的、講義概要	授業計画
In the autumn semester the class will follow the same format as in spring. However we will deal with more challenging, academic topics than in the first semester. Instead of discussing the topics, we will hold more formal debates, and instead of short reports, students will write timed essays, which will be helpful to any students planning to take the TOEFL test.	1. Introduction class 2. Topic 1 Introduction/ Listening 3. Topic 1 debate/ Writing 4. Topic 2 Introduction/ Listening 5. Topic 2 debate/ Writing 6. Topic 3 Introduction/ Listening 7. Topic 3 debate/ Writing 8. Mid-term review class 9. Topic 4 Introduction/ Listening 10. Topic 4 debate/ Writing 11. Topic 5 Introduction/ Listening 12. Topic 5 debate/ Writing 13. Topic 6 Introduction/ Listening 14. Topic 6 debate/ Writing 15. Final Review class

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading, research , debate & presentation preparation
テキスト、参考文献	All materials will be provided in class.
評価方法	4 Timed essays 40%　Discussion & Presentation 30%　Class participation 30%

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3.To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution. Lessons will include practice understanding authentic spoken English, plus topic-based guided Pair and Group and group discussion, and journal writing.	Week 1 ：Course introduction and requirements Week 2 ：Interview and introduce another student. Week 3 ：Families Week 4 ：Best friends Week 5 ：House and Home Week 6 ：Time Week 7 ：School Week 8 ：Numbers Week 9 ：Money Week 10 ：Transportation Week 11 ：Books, magazines, internet, news Week 12 ：Fears Week 13 ：Beliefs Week 14 ：Opinions Week 15 ：Review, Feedback.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to do some research before writing, and practice before making a presentation as homework
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the teacher.
評価方法	Assessment will be based on class participation 40%, short quizzes 30%, and Journal keeping 30%.

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context.	Week 1 & 2 ：course introduction, Public-Speaking basics, self-introduction speech. Week 3 & 4 ：Interview and introduce another person Week 5 & 6 ：Demonstration - teach how to do something Week 7 & 8 ：Layout speech - describing shape and location Week 9 & 10：Book or movie review, telling and evaluating a story Week 11 & 12 ：Show and tell - presenting and explaining data Week 13 & 14 ：Presenting and accepting an award Week 15 ：Review, Feedback

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need to do some research before writing, and practice before making a presentation as homework
テキスト、参考文献	"Getting Ready for Speech", LeBeau and Harrington, published by Language Solutions Inc. ISBN 1-929274-45-9
評価方法	Students will be continuously assessed. Assessment will be based on work done in class preparing and delivering a number of short speeches.

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is topic-based We will study 1 topic over 2 weeks Students work together in small groups Objectives: Improve speaking fluency and confidence Study vocabulary for TOEIC / TOEFL Improve listening ability Improve social skills by speaking with new partners several times in each class There is 1 poster presentation and a speaking test in each semester	Week 1　Course introductions / foreign countries 2　Foreign countries 2 3　Education 1 4　Education 2 5　Health 1 6　Health 2 7　Technology 1 8　Technology 2 9　Intelligence & Talents 1 １０　Poster presentation １１　Intelligence & Talents 2 １２　Arts 1 １３　Arts 2 １４　Test topics / time / format explained / movies 1 １５　Test

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary
テキスト、参考文献	No textbook　Teacher materials provided Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
The objectives are the same in semester 1 However, the topics and vocabulary level are a little higher than semester 1 In addition, the poster presentation　topic in semester 2 is more challenging than the poster presentation in semester 1	Week 1　Tourism 1 2　Tourism 2 3　Japanese social issues 1 4　Japanese social issues 2 5　Work & money 1 6　Work & money 2 7　Media issues 1 8　Media issues 2 9　Global living trends 1 １０　Global living trends 2 １１　Poster presentation １２　Crime 1 １３　Crime 2 １４　Test groups, times , topics explained/ environment 1 １５　Test

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary
テキスト、参考文献	No textbook　Teacher materials provided Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of course test

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course has three overall objectives to give students maximum opportunities to communicate to build students' confidence in interpersonal communication to develop basic study skills needed for English-language courses at university level	1. Course orientation & overview 2. Communication Skill 1 [CS 1]: first impressions 3. CS 2: cultural & communicative awareness 4. CS 3: ice-breakers 5. CS 4: asking questions 6. CS 5: responding 7. CS 6: active listening 8. Communication skills review 9. Study Skill 1 [SS 1]: organising notes 10. SS 2: extensive reading & listening 11. Graded reader 1 12. SS 3: group projects 13. Graded reader 2 14. Study skills review 15. Course review & evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Pre-class study: review (or, if absent, catch up with previous class and complete any assignments) Post-class study: review class and complete any homework assignment set
テキスト、参考文献	About Time, Scholastic
評価方法	Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, assignments 25%, tests 25%

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	D．ベーカー

講義目的、講義概要	授業計画
This course has three overall objectives to give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills to build students' organizational skills in writing for public-speaking to develop students' confidence in speech communication from small to larger groups	1. Overview of the creative process 2. Choosing your topic & researching 3. Rule of three : Number five 4. Outlining & drafting 5. Editing & practicing 6. Presentation 1, week 1 7. Presentation 1, week 2 8. V for Vendetta 1: V's speech 9. Vendetta 2: Valerie's letter 10. Vendetta 3: Rookwood's story 11. Presentation 2, week 1 12. Presentation 2, week 2 13. Love Actually 14. Love Actually 15. Course review & evaluation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Pre- and post-class study consists of presentation preparation and practice
テキスト、参考文献	No set text
評価方法	Evaluation based upon: preparation and practice of, and presence in two presentations 100%

09 年度以降	Comprehensive English I （月 3）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Introduction 2. Memories and keepsakes 3. Opinions about food 4. Crimes and mysteries 5. Trends 6. Errands 7. Postgraduate plans 8. Celebrations 9. Fairy tales and folk stories 10. The world of work 11. Telecommunications 12. Technology today 13. Travel preparation 14. Destinations 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Grades will be based on in-class performance(40%), presentations(30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English II （月 3）	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.	1. Summer vacation 2. Imagination,dreams,and rules 3. Career plans 4. Media 5. Men and women 6. Cultural differences 7. Big business 8. Health 9. Sports and hobbies 10. Social issues 11. Wealth 12. Honesty and lies 13. Our earth 14. Developing countries 15. Test- Poster presentation

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Review and Prepare the reading.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Grades will be based on in-class performance(40%), presentations(30%) and tests (30%).

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	M．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on the linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives 1. To give students maximum opportunities to communicate (speak, listen, read and write). 2. To build student confidence in interpersonal communication 3.To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution.	1. Course Introduction & Self Introductions 2. Meeting people on campus – Chapter 1 3. Asking for information – Chapter 2 4. Making appointments – Chapter 5 5. Pair presentation – role play 6. Controlling a conversation – Chapter 3 7. Active listening – Chapter 4 8. Information exchange 9. The peer tutorial – Chapter 10 10. Presenting to small groups – Chapter 11 11. Reading review 12. Planning a group project: part 1 – Chapter 13 13. Planning a group project: part 2 – Chapter 13 14. Group presentations and peer evaluations 15. Course review and evaluation.

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in promptly.
テキスト、参考文献	Hemmert, A. & O'Connell, G., (1998). *Communicating on Campus: Skills for Academic Speaking*, Alta Book Center Publishers.
評価方法	Class involvement 40%; presentations 20%; information exchange/reading review 20%; homework 20%.

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	M．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This required course helps 1st year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives 1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context.	1. Course introduction 2. Weather: Unit 1 – Guided Discussions 3. People: Unit 2 – Learning Diary 4. The Media: Unit 3 – Reporting 5. Review – Pair Presentation 6. Health: Unit 4 – Question & Answer 7. Natural World: Unit 5 – Comparisons 8. Society & Family: Unit 6 – Opinion 9. Review – Opinion Piece 10. Work & Industry: Unit 9 – Describing a Process 11. Global Affairs: Unit 10 – Planning 12. Sports: Unit 12 – Rules 13. Group presentation preparation 14. Group presentations 15. Course Review & Evaluations

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in promptly.
テキスト、参考文献	Lebeau, L. & Rees, G., (2008) *Language Leader. Pre-Intermediate,* Pearson-Longman.
評価方法	In-class participation 40%; presentations 20%; opinion piece/ learning diary 20%; homework 20%

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
To give students opportunities to communicate through listening, reading and writing･ To build student confidence in interpersonal communication, To develop the basic study skills needed to succeed in Dokkyo university English classes The contents of the course are subject to change.	Week 1－Teacher and Student Interviews and Introductions Week 2－UNIT 1 One Laptop Per Child-Part One Week 3－UNIT 1One Laptop Per Child-Part Two Week 4－UNIT 2 Green Profits- Part One Week 5－UNIT 2 Green Profit- Part Two Week 6－UNIT 3 Well-loved Profits - Part One Week 7－UNIT 3 Well-loved Profits - PartTwo Week 8－Midterm Evaluations Week 9－UNIT 4 Italy's Fashion Kings - Part One Week 10－UNIT 4 Italy's Fashion Kings - Part Two Week 11－UNIT 5 Viral Marketing- Part One Week 12－UNIT 5　Viral Marketing- Part Two Week 13－Final Presentation Preparations Week 14－Final Presentations Week 15－Final Presentations (Subject to change due to circumstances)

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Reading Pass (2)
評価方法	Performance and overall improvement of the students' communicative abilities. Continuous assessment including quizzes based on the variety of written homework assignments and tasks given to the students in class Daily classroom participation and special group projects

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
To give students opportunities to communicate through listening, reading and writing･ To build student confidence in interpersonal communication, To develop the basic study skills needed to succeed in Dokkyo university English classes The contents of the course are subject to change.	Week 1－Teacher and student reviews of first term activities Week 2－UNIT 6 The NBA goes Global－ Part One Week 3－UNIT 6－The NBA goes global--Part Two Week 4－UNIT 7－The Gossip Media- Part One Week 5－UNIT 7－The Gossip Media -Part Two Week 6－UNIT 8－Replanting the World's Forests (1) Week 7－UNIT 8－Replanting the World's Forest-(2) Week 8－Midterm Evaluations Week 9－UNIT 9－Adventure Tourism- Part One Week 10－UNIT 9－Adventure Tourism -Part Two Week 11－UNIT 10－The Cannes Film Festival- (1) Week 12－UNIT 10－The Cannes Film Festival-(2) Week 13－Final Presentation Preparations Week 14－Final Presentations Week 15－Final Presentations (Subject to change due to circumstances)

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Reading Pass (2)
評価方法	Performance and overall improvement of the students' communicative abilities. Continuous assessment including quizzes based on the variety of written homework assignments and tasks given to the students in class Daily classroom participation and special group projects

09 年度以降	Comprehensive English I	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to develop students' fluency and increase their confidence as English speakers Students will have ample opportunities to speak in class doing pair work and having small group discussions and giving presentations	Week 1: course introduction Week 2: unit 1 Week 3: unit 1 Week 4: unit 1 Week 5: unit 2 Week 6: unit 2 Week 7: unit 2 Week 8: introduction to public speaking Week 9: small group practice of speeches Week 10: presentations and peer feedback Week 11: unit 3 and introduce project Week 12: unit 3 and project preparation Week 13: unit 3 and practice preparation Week 14: presentations Week 15: review & feedback

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will review vocabulary and grammar from the textbook.　Prepare for quizzes. Weekly homework exercises will be provided by the instructor to supplement the textbook.
テキスト、参考文献	*Interchange Fourth Edition Student's Book 3A*　Jack C. Richards　Cambridge
評価方法	Presentations 30%　Quizzes 30%　Homework assignments 20%　Participation 20%.

09 年度以降	Comprehensive English II	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ・ Students will need an English - English dictionary ・ The class will be conducted in English ・ Students are expected to use only English in class	Week 1: unit 5 Week 2: unit 5 continued Week 3: unit 5 continued Week 4: unit 7 Week 5: unit 7 continued Week 6: unit 7 continued Week 7: public speaking - gestures Week 8: public speaking – voice inflection Week 9: presentations Week 10: introduce project & form groups Week 11: project research Week 12: preparing visual aids Week 13: presentations Week 14: presentations Week 15: review & feedback

到達目標	発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を習得し、自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will review vocabulary and grammar from the textbook.　Prepare for quizzes. Research, organize, write, prepare and practice a presentation.
テキスト、参考文献	*Interchange Fourth Edition Student's Book 3A*　Jack C. Richards　Cambridge
評価方法	Presentations 30%　Quizzes 30%　Homework assignments 20%　Participation 20%.

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（木３）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading & discussion 3. Tourism topic #2, reading & discussion 4. Tourism topic #3, reading & discussion 5. Tourism topic #4, reading & discussion 6. Tourism topic #5, reading & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading & discussion 10. Presentations, reading & discussion 11. Presentations, reading & discussion 12. Presentations, reading & discussion 13. Presentations, reading & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and tourism topic research.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（木３）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Library company research project task 3 2. Tourism topic #1, reading & discussion 3. Tourism topic #2, reading & discussion 4. Tourism topic #3, reading & discussion 5. Tourism topic #4, reading & discussion 6. Tourism topic #5 ,reading & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 4 9. Tourism topic #6, reading & discussion 10. Presentations, reading & discussion 11. Presentations, reading & discussion 12. Presentations, reading & discussion 13. Presentations, reading & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 5

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and tourism topic research.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（金１）	担当者	Ｄ．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' English reading comprehension and oral communication skills. Primarily, this will be achieved through structured group discussions. The students will be required to do all assigned readings, prepare topics, and actively participate in group discussions. Also, quizzes will be given throughout the course to help assess student comprehension of the assigned reading material. Overall Objectives 1. To improve student reading comprehension and increase their vocabulary. 2. To teach students how to participate effectively in group discussions as both a leader and a group member. 3. To give students the opportunity to use English to express their ideas on a wide variety of topics.	1. Introduction – Discussion Procedure 2. Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors 3. Choosing a Topic / Discussion Steps 4. Role of the Discussion Leader and Group Members 5. Practice Presentations and Peer Feedback 6. Discussion Presentations 7. Environment: Problem Solving / Discussion Steps 8. Identifying Causes and Solutions 9. Practice Discussions and Peer Feedback 10. Discussion Presentations 11. Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps 12. Agreeing and Disagreeing with Opinions 13. Practice Presentations and Peer Feedback 14. Discussion Presentations 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト、参考文献	No text: The materials will be provided by the teacher.
評価方法	Quizzes 15%,　Discussion 1: 20%,　Discussion 2: 20%, Discussion 3: 20%, Contribution, Participation, and Homework: 25%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（金１）	担当者	Ｄ．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' English communication skills, particularly oral communication. Students will need to work together using English to complete a variety of team based projects, including a presentation, debate, and student led discussion. Topics to be discussed, presented, and debated will be student generated to increase engagement and student responsibility. Overall Objectives 1. To give students the opportunity to generate their own topics and presentation ideas to increase student responsibility and engagement. 2. To teach the skills necessary to participate in a class discussion and debate. 3. To have students work together to complete tasks using English.	1. Introduction / Current Events: Discussions 2. Choosing a Topic / Summarizing an article 3. Introducing a Topic / Choosing a Discussion Goal 4. Preparing Talking Points and Follow-up Questions 5. In-class Student Led Discussions 6. Informative Presentation / Choosing a Topic 7. Organizing a Presentation 8. Using PowerPoint 9. Presentation Workshop / Speaking Tips 10. In-class Presentation 11. Domestic Politics : Policy Debate / Procedures 12. Making Logical Arguments / Supporting Evidence 13. Opening Speeches / Rebuttals 14. In-class Debates 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト、参考文献	No text: The materials will be provided by the teacher.
評価方法	Discussion: 25%, Presentation: 25%, Debate: 25%, Contribution, Participation, and Homework: 25%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is topic-based. We will study 1 topic over 2 weeks Students work together in small groups Objectives: Improve speaking fluency and confidence Study vocabulary for TOEIC / TOEFL Improve listening ability Improve social skills by speaking with new partners several times in each class There is one poster presentation and a speaking test in each semester	Week 1 Course introductions / foreign countries 1 2 Foreign countries 2 3 Education 1 4 Education 2 5 Health 1 6 Health 2 7 Technology 1 8 Technology 2 9 Money and work 1 １０ Poster presentation １１ Money & work 2 １２ Crime 1 １３ Crime 2 １４ Test topics / time / format explained / movies 1 １５ Test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary
テキスト、参考文献	No textbook　Teacher materials provided Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of semester test

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
The objectives are the same as semester 1. However, the topics and vocabulary level are a little higher than semester 1. In addition, the poster presentation topic in semester 2 is more challenging than the poster presentation in semester 1.	Week 1 Tourism 1 2 Tourism 2 3 Global Livings trends 1 4 Global living trends 2 5 Business 1 6 Business 2 7 Media issues 1 8 Media issues 2 9 Rights 1 １０ Rights 2 １１ Poster presentation １２ Science 1 １３ Science 2 １４ Test groups, times , topics explained/ ecology 1 １５ Test

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary
テキスト、参考文献	No textbook　Teacher materials provided Electronic dictionary is OK
評価方法	30% class effort　30% presentation　40% end of course test

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ（木１）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Introduction, outline, evaluation, course requirements. 2. Tourism topic #1, reading & discussion 3. Tourism topic #2, reading & discussion 4. Tourism topic #3, reading & discussion 5. Tourism topic #4, reading & discussion 6. Tourism topic #5, reading & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 1 9. Tourism topic #6, reading & discussion 10. Presentations, reading & discussion 11. Presentations, reading & discussion 12. Presentations, reading & discussion 13. Presentations, reading & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 2

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and tourism topic research.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ（木１）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term required class teaches students how to read more effectively and then provides students with the opportunity to share ideas and opinions in group and class discussion while working with tourisms related subjects. This course seeks to improve student's individual English competency and fluency. The class activities focus discussion, speaking, reading, listening, writing and comprehension skills. The weekly class activities use travel and tourism topics and need to be completed in pair and group work. Students will prepare a class presentation based on a chosen travel and tourism topic and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	1. Library company research project task 3 2. Tourism topic #1, reading & discussion 3. Tourism topic #2, reading & discussion 4. Tourism topic #3, reading & discussion 5. Tourism topic #4, reading & discussion 6. Tourism topic #5 ,reading & discussion 7. Quiz 1-15% 8. Library research project task 4 9. Tourism topic #6, reading & discussion 10. Presentations, reading & discussion 11. Presentations, reading & discussion 12. Presentations, reading & discussion 13. Presentations, reading & discussion 14. Quiz 2 - 15% 15. Library research project task 5

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Presentation topic research, presentation skills research, presentation group meeting preparation, and tourism topic research.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class presentations = 20%, 2. Class activities & library research tasks = 50%, 3. Quiz 1 – week 7 = 15%, 4. Quiz 2 – week 14 = 15%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅢ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' English reading comprehension and oral communication skills. Primarily, this will be achieved through structured group discussions. The students will be required to do all assigned readings, prepare topics, and actively participate in group discussions. Also, quizzes will be given throughout the course to help assess student comprehension of the assigned reading material. Overall Objectives 1. To improve student reading comprehension and increase their vocabulary. 2. To teach students how to participate effectively in group discussions as both a leader and a group member. 3. To give students the opportunity to use English to express their ideas on a wide variety of topics.	1. Introduction – Discussion Procedure 2. Career Choice: Ranking Factors / Identifying Factors 3. Choosing a Topic / Discussion Steps 4. Role of the Discussion Leader and Group Members 5. Practice Presentations and Peer Feedback 6. Discussion Presentations 7. Environment: Problem Solving / Discussion Steps 8. Identifying Causes and Solutions 9. Practice Discussions and Peer Feedback 10. Discussion Presentations 11. Cosmetic Surgery: Opinion / Discussion Steps 12. Agreeing and Disagreeing with Opinions 13. Practice Presentations and Peer Feedback 14. Discussion Presentations 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト、参考文献	No text: The materials will be provided by the teacher.
評価方法	Quizzes 15%, Discussion 1: 20%, Discussion 2: 20%, Discussion 3: 20%, Contribution, Participation, and Homework: 25%

09 年度以降	Comprehensive EnglishⅣ	担当者	D．グライムズ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' English communication skills, particularly oral communication. Students will need to work together using English to complete a variety of team based projects, including a presentation, debate, and student led discussion. Topics to be discussed, presented, and debated will be student generated to increase engagement and student responsibility. Overall Objectives 1. To give students the opportunity to generate their own topics and presentation ideas to increase student responsibility and engagement. 2. To teach the skills necessary to participate in a class discussion and debate. 3. To have students work together to complete tasks using English.	1. Introduction / Current Events: Discussions 2. Choosing a Topic / Summarizing an article 3. Introducing a Topic / Choosing a Discussion Goal 4. Preparing Talking Points and Follow-up Questions 5. In-class Student Led Discussions 6. Informative Presentation / Choosing a Topic 7. Organizing a Presentation 8. Using PowerPoint 9. Presentation Workshop / Speaking Tips 10. In-class Presentation 11. Domestic Politics : Policy Debate / Procedures 12. Making Logical Arguments / Supporting Evidence 13. Opening Speeches / Rebuttals 14. In-class Debates 15. Review and Wrap-up

到達目標	１年次の学習成果のうえに、発話、聞き取り、書き取りなど総合的な英語力を伸長し、より自信をもって対人コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	Before class, students are required to read all handouts and articles assigned. After class, students are required to do all homework tasks set (write introductions, do research, have group meetings, etc.)
テキスト、参考文献	No text: The materials will be provided by the teacher.
評価方法	Discussion: 25%, Presentation: 25%, Debate: 25%, Contribution, Participation, and Homework: 25%

09 年度以降	E-learning I	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 ALC、CentralEnglish、Dokkyo LinguaportaなどのWeb教材の自律学習を通じて英語力を高めてもらうため、Web教材の効果的な使い方の情報交換をすること、毎週ALCやEnglishCentralなどについて、進度チェックのクイズや小テストを実施して学修モチベーションの維持を図ることで、毎日30分の授業外学修を習慣にすることの二つを目的とする。 【概要】 最初の授業でWeb教材使用方法のオリエンテーションを実施するので、必ず出席すること。それ以降は、ほぼ毎回のALCの語彙テストとペアワークによるEnglishCentralのモノローグや会話の練習とクイズを行う。	1. Web 教材のオリエンテーション 2. ペアワークによる EnglishCentral 練習紹介 3. テスト 1 ：ALC 4. テスト 2：ALC　クイズ 1 ：EnglishCentral 5. テスト 3：ALC 6. テスト 4：ALC　クイズ 2：EnglishCentral 7. テスト 5：ALC 8. テスト 6：ALC　クイズ 3：EnglishCentral 9. テスト 7：ALC 10. テスト 8：ALC　クイズ 4：EnglishCentral 11. テスト 9：ALC 12. テスト 10：ALC　クイズ 5：EnglishCentral 13. テスト 11：ALC 14. テスト 12：ALC　クイズ 6：EnglishCentral 15. EnglishCentral Pair Work Contest Final, etc.

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された教材の範囲を毎日 30 分学習することを習慣づけて、毎週 180 分以上の事前、事後学習により授業内小テストとクイズの準備に備える。
テキスト、参考文献	Web 教材：ALC NetAcademy, EnglishCentral, (optional: Dokkyo Linguaporta)
評価方法	12 回の小テスト(50%)と 6 回のクイズ(50%)により評価するが、追加選択教材学習者については、その学習結果も加味して、総合的に評価する。

09 年度以降	E-learning II	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 ALC、CentralEnglish、Dokkyo LinguaportaなどのWeb教材の自律学習を通じて英語力を高めてもらうため、Web教材の効果的な使い方の情報交換をすること、毎週ALCやEnglishCentralなどについて、進度チェックのクイズや小テストを実施して学修モチベーションの維持を図ることで、毎日30分の授業外学修を習慣にすることの二つを目的とする。 【概要】 最初の授業で Web 教材使用方法のオリエンテーションを実施するので、必ず出席すること。それ以降は、ほぼ毎回の ALC の語彙テストとペアワークによる EnglishCentral のモノローグや会話の練習とクイズを行う。 春学期より、さらに難易度の高い練習に取り組み、Dokkyo Linguaporta の利用も開始する。	1. Web 教材のオリエンテーション 2. Dokkyo Linguaporta 練習紹介 3. テスト 1 ：ALC 4. テスト 2：ALC　クイズ 1 ：EnglishCentral 5. テスト 3：ALC 6. テスト 4：ALC　クイズ 2：EnglishCentral 7. テスト 5：ALC 8. テスト 6：ALC　クイズ 3：EnglishCentral 9. テスト 7：ALC 10. テスト 8：ALC　クイズ 4：EnglishCentral 11. テスト 9：ALC 12. テスト 10：ALC　クイズ 5：EnglishCentral 13. テスト 11：ALC 14. テスト 12：ALC　クイズ 6：EnglishCentral 15. EnglishCentral Pair Work Contest Final, etc.

到達目標	E-learning システムを用いた自律学習により語彙を増強し、英語読解力、論理的思考力を養うことで、基礎的なアカデミック・ライティングができるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された教材の範囲を毎日 30 分学習することを習慣づけて、毎週 180 分以上の事前、事後学習により授業内小テストとクイズの準備に備える。
テキスト、参考文献	Web 教材：ALC NetAcademy, EnglishCentral, Dokkyo Linguaporta
評価方法	12 回の小テスト(50%)と 6 回のクイズ(50%)により評価するが、追加選択教材学習者については、その学習結果も加味して、総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I （月 1） (Life And Language In The Amazonian Jungle)	担当者	J．N．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
(Warning: This is a very difficult course and a very difficult textbook. Do not take this course unless you are prepared to actually study.) This course is about one man's (Daniel Everett) experience living in the Amazonian jungle. His goals were, (1) to convert a tribe of Amazonian Indians to Christianity, and (2) to study their language. He fails to achieve his first goal, but, in learning about their language and culture, his own life and beliefs are changed fundamentally. Daniel Everett's account is fascinating, and, in addition to drawing lessons from his experiences, we will discuss both the issues that Everett raises and the implicit assumptions that he makes about language, existence, science, and religion.	1. Orientation 2. Prologue 3. Discovering the world of the Pirahas 4. Discovering the world of the Pirahas 5. The Amazon 6. The Amazon 7. Sometimes you make mistakes 8. Sometimes you make mistakes 9. Material culture and the absence of ritual 10. Material culture and the absence of ritual 11. Families and community 12. Families and community 13. Nature and the immediacy of experience 14. Nature and the immediacy of experience 15. Summary and reflection

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Each week, you should expect to read half of a chapter, and conduct research on the topics and issues that we discuss in class. (You will have about 4 hours of homework each week.)
テキスト、参考文献	*Don't Sleep, There Are Snakes*, by Daniel Everett. (2008) Random House.
評価方法	Three reaction papers: 25%x3 = 75%; Participation: 25%.

09 年度以降	英語専門講読 I （Cool Japan: 1900-2016）	担当者	J．E．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work	1 Course introduction (Cool Japan: 1900-1960) 2 Japan in the World (Exhibitions) 3 Meiji: to be or not to be (Japanese) 4 Moga 5 Modern Tokaido 6 Issei, nisei, sansei 7 Nippon (magazine) 8 Department store miracle (Research paper due) 9 Chiune Sugihara 10 Shashin shuho 11 Transport: rush to the city 12 Made in Japan 13 Protest or compliance 14 Final presentations 15 Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words,(3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, and (5) Use Portal Site to receive notices from me
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.
評価方法	In-class participation 30%,Reading summaries 20%, Research paper 30%, Final presentation 20%

09 年度以降	英語専門講読 II （Cool Japan: 1900-2016）	担当者	J．E．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to: (1) build students' confidence in English reading and presentation skills: from reading to integrating knowledge to presenting information (2) improve students' skills in academic reading strategies: from logical comprehension to cohesive summary (3) build students' confidence by contributing to group work	1 Course introduction (Cool Japan: 1960-2016) 2 Made in Japan and admired 3 The Bubble 4 Western Japan - Eastern Japan 5 Japanese in the world 6 The world in Japan 7 Images of Japan 8 Manga (Research paper due) 9 J-pop 10 21st century Japonism 11 Ryugaku 12 Japan First 13 Final presentations 14 Review I 15 Review II

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Read the articles thoroughly and look up any unknown words,(3) Go through the content and digest the main points, (4) Reading summaries' dates and contributors will be announced in class, and (5) Use Portal Site to receive notices from me
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.
評価方法	In-class participation 30%,Reading summaries 20%, Research paper 30%, Final presentation 20%

09 年度以降	英語専門講読Ｉ（月２） (Language, Thought, and Culture)	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
(Warning: This is a very difficult course and a very difficult textbook. Do not take this course unless you are prepared to actually study.) There is a centuries-long debate about the influence of language on thought and a culture's world view. Some scholars have said that the effects of language on thought are minimal, while others have said that the effects dominate all aspects of thought (and consequently world view). This course will survey the history of this debate and examine some recent research that throws light on the relationships between language, thought and culture.	1. Orientation 2. Naming the rainbow 3. Naming the rainbow 4. Naming the rainbow 5. A long-wave herring 6. A long-wave herring 7. A long-wave herring 8. The rude populations 9. The rude populations 10. The rude populations 11. Those who said things before us 12. Those who said things before us 13. Those who said things before us 14. Plato and the Macedonian swineherd 15. Plato and the Macedonian swineherd

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Each week, you should expect to read half of a chapter, and conduct research on the topics and issues that we discuss in class. (You will have about 4 hours of homework each week.)
テキスト、参考文献	*Through The Language Glass,* by Guy Deutscher. (2010) Picador Press.
評価方法	Three reaction papers: 25%x3 = 75%; Participation: 25%.

09 年度以降	英語専門講読 I （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn theoretical ideas and practical techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. What is a bilingual? 3. Characteristics of L2 users 4. What are l2 users like? 5. A best age for learning L2 6. The experience of immigrants 7. The idea of a critical period 8. Acquiring L2 vocabulary 9. The lexical challenge in infancy and later 10. Learning words from context 11. Learning L2 grammar 12. Grammatical morphemes 13. Word order and processing 14. Articles 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	reading assignments, writing summaries, doing research and preparing for presentations
テキスト、参考文献	*Key Topics in Second Language Acquisition*, V. Cook & D. Singleton (Multilingual Matters, 2014)
評価方法	In-class participation (20%), presentations (40%), reading assignments and summary (30%), self evaluation (10%)

09 年度以降	英語専門講読 II （Exploring Language Teaching）	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn theoretical ideas and practical techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Learning to write in L2 3. Writing system 4. Reading and writing processes 5. Attitudes and motivation in learning L2 6. Attitudes 7. Motivation 8. Teaching and learning 9. The grammar translation method 10. The audiolingual method 11. The communicative approach 12. The hierarchy of languages 13. Groups of L2 users 14. Native speakers and L2 users 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	reading assignments, writing summaries, doing research and preparing for presentations
テキスト、参考文献	*Key Topics in Second Language Acquisition,* V. Cook & D. Singleton (Multilingual Matters, 2014)
評価方法	In-class participation (20%), presentations (40%), reading assignments and summary (30%), self evaluation (10%)

09 年度以降	英語専門講読 I （Immigration, Social Change & Education）	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
This class will explore immigration as it relates to labor migration, immigration, and transnationalism. During the fall term the course looks at the history of human migration across the globe. The course then distinguishes between terms related to immigration and develops an understanding of the various types of immigration, by considering the political, social, cultural, global and environmental forces that drive people to leave their home countries and make a home for themselves in foreign lands. Lastly, the course will look at a particular case of a so-called immigrant nation: America, and consider the history, policies and paths that led to the growth of this multicultural nation.	Week 1 –Introduction to Course & Terms Week 2 – Humans on the Move Week 3 –Type of Immigration/Migration Week 4 – Reasons for Leaving Week 5 – Diasporas Around the World Week 6 – Diasporas (cont'd) Week 7 – Busting the Myths of Immigration Week 8 – Mid-Term Presentations Week 9 – Mid-Term Presentations Week 10 – Immigration & America Week 11 – Immigration & America (cont'd) Week 12－Nationalism & Immigration Week 13 – Global Forces & Shifting Views of Immigrants Week 14 – Us Vs Them Week 15 – Final Paper Presentation (small group)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.
テキスト、参考文献	Handouts of readings will be provided
評価方法	In-class participation (20%), Article summary x 2 (20%),Quizzes x 2 (20%), Mid-Term Presentation (20%), Final Paper (20%)

09 年度以降	英語専門講読 II （Immigration, Social Change & Education）	担当者	E．本橋

講義目的、講義概要	授業計画
In the second term of this course the focus shifts to specifically consider how immigration and immigrants cause economic, political, social and cultural shifts, within the receiving nation. Specifically, the fall term will look at how immigrants, and their descendants, and will consider policies related to: assimilation/incorporation, education,, language and bilingualism. Additionally, the course will consider shifting racial and ethnic identities and the questions that are raised with regard to nationhood and civic participation and the tensions that arise with an influx of immigrants and migrants into the receiving nation.	Week 1 – Introduction to Fall Course Week 2 – Who is an Immigrant? Week 3– 1st, 1.5 and 2nd Generations Week 4– Assimilation? Exclusion? Integration? Week 5 – Assimilation? Exclusion? (cont'd) Week 6 – Paths to Citizenship Week 7 – Paths to Citizenship (cont'd) Week 8 – Mid-Term Paper Week 9 – Education, Immigration & Social Disparity Week 10 – Education, Immigration(cont'd) Week 11 – The Case of Japan Week 12 – The Case of Japan (cont'd) Week 13 – The Case of Japan (cont'd) Week 14 – Final Poster Prep Week 15 – Final Poster Presentation

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete all of the assigned readings and homework prior to each class.
テキスト、参考文献	Handouts of readings will be provided
評価方法	In-class participation (30%), Midterm Paper (20%), Case Study Packet & small group presentation (30%), Final Poster Presentation (20%)

09 年度以降	英語専門講読 I （生成文法の統語論と意味論）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 著名な言語学者によって入門用に書かかれた，とても分かり易い論文を読みながら，英語力の向上に努めながら，生成文法の統語論と意味論について学びます. **講義概要**: 春学期のテキストは，MITで博士号を取得し長年にわたって生成統語論の研究を続けているHoward Lasnikによって書かれた"Syntax"(統語論)という17頁の論文です. この論文を読み，文に見られる統語構造，統語構造の特徴，統語構造を仮定する根拠，言語現象を説明するため仮定する抽象的な深層構造，深層構造から具体的な表層構造を派生するための変形規則，変形規則が従うべき諸制約について学びます.	**Week** 1.　統語論とは何か（What is syntax?） 2-4. 統語構造（Syntactic Structure） 5-6. 事例研究～代名詞の分布（A Case Study: Aspects of the Distribution of Pronouns） 7.　中間のまとめ《中間試験》 8-10.　深層構造と表層構造（Deep and Surface Structure） 11-14. 変形の諸制約（Constraints on Transformations） 15.　まとめ《期末試験》

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学習する英語の文章をきちんと予習し，段落毎に内容を整理して受講すること.
テキスト、参考文献	テキスト:　Howard Lasnik (1990) “Syntax,” in *Language 1*. (*An Invitation to Cognitive Science*) pp. 5-21. 参考文献: 鈴木英一「統語論」（斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一（編）『英文法への誘い』1990. 開拓社）
評価方法	出席は単位認定の前提で，授業での発表（20%）と中間試験（40%）と期末試験（40%）に基づいて評価する.

09 年度以降	英語専門講読 II （生成文法の統語論と意味論）	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 著名な言語学者によって入門用に書かかれた，とても分かり易い論文を読みながら，英語力の向上に努めながら，生成文法の統語論と意味論について学びます. **講義概要**: 秋学期のテキストは，MIT で博士号を取得し統語論と意味論の両面の研究を行っている Richard Larson によって書かれた"Semantics"(意味論)という 20 頁の論文です. この論文を読み，文が他の文と同義であるとか矛盾するということを知っているという事実を，文相互間の意味関係，文が表す内容の真理値，真偽条件に関する知識，文の真理値は文の構成要素の内容から掲載されること，モデル理論による意味の計算，every や some や few などの数量詞を含む文の含意性について学びます.	**Week** 1-2. 意味関係と真理（semantic relations and truth） 3-4. 真理条件の知識（Knowledge on Truth-Conditions） 5-6. 合成性（Compositionality） 7.　モデル理論意味論〈Model-theoretic Semantics〉 8.　意味特徴（Semantic Properties）《中間試験》 9-12. 方向的含意性（Directional Entailingness） 13-14. Conservativity（含意性） 15.　まとめ《期末試験》

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学習する英語の文章をきちんと予習し，段落毎に内容を整理して受講すること.
テキスト、参考文献	テキスト:　Richard Larson (1990) “Semantics,” in *Language 1*. (*An Invitation to Cognitive Science*) pp. 23-42. 参考文献: 鈴木英一・原口庄輔「意味論」（斎藤・原口・鈴木（編）『英文法への誘い』1990. 開拓社）
評価方法	出席は単位認定の前提で，授業での発表（20%）と中間試験（40%）と期末試験（40%）に基づいて評価する.

09 年度以降	英語専門講読 I （英語圏伝承童謡を読む）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上とも言われている。なぞなぞの唄、お遊戯の唄、おまじないなど、様々な種類があり、国や地域によって詞やメロディが異なるもの、また、そもそもメロディを伴わないものも多い。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。 この授業では、それらの童謡／伝承童謡、それにイギリス国歌やアメリカ国歌などの有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。	1. Orientation 2. As I was Going to Saint Ives / Baa, Baa, Black Sheep 3. Frère Jaques / Georgie Porgie 4. Here We Go Around the Mulberry Bush / Hey, Diddle Diddle 5. Hickory Dickory Dock / Higgledy, Peggledy, My Black Hen 6. Hot Cross Buns / The House That Jack Built 7. Humpty Dumpty / I Had a Little Nut Tree 8. Jack and Jill / Jack, Be Nimble 9. Jack Sprat / Ladybird, Ladybird 10. The Lion and Unicorn / Little Bo Peep 11. Little Boy Blue/ Little Jack Horner 12. Little Miss Muffet / Little Tommy Tucker 13. London Bridge Is Falling Down / Lucy Locket 14. Mary had a Little Lamb / Mary, Mary Quite Contrary 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、151～160 字で要約してくること。毎回授業の最初に提出してもらう。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をすること。
テキスト、参考文献	Albert Jack. *Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes*. Perigee Trade; Original edition (2009) 注：電子書籍版もあります
評価方法	プレゼンテーションと提出物、授業貢献度により、総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 II （英語圏伝承童謡を読む）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
ナーサリー・ライムズ(Nursery Rhymes)、マザー・グース(Mother Goose)等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって 600 以上とも、1000 以上とも言われている。なぞなぞの唄、お遊戯の唄、おまじないなど、様々な種類があり、国や地域によって詞やメロディが異なるもの、また、そもそもメロディを伴わないものも多い。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言い回しは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、様々な文学作品、映像作品、マンガやアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。 この授業では、それらの童謡／伝承童謡、それにイギリス国歌やアメリカ国歌などの有名な歌を含め、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、是非とも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。	1. Orientation 2. Old King Cole / Oranges and Lemons 3. The Owl and the Pussycat / Polly Put the Kettle On 4. Pop Goes the Weasel / Punch and Judy 5. Pussy Cat, Pussy Cat / The Queen of Hearts 6. Rain, Rain, Go Away / Ring-a-Ring O' Roses 7. Rock-a-Bye, Baby / See-Saw, Margery Daw 8. Sing a Song of Sixpence / There Was an Old Woman Who Lived in a Shoe 9. Three Blind Mice / Tweedledum and Tewwdledee 10. Twinkle, Twinkle, Little Star / What Are Little Boys Made Of? 11. Who Killed Cock Robin? / Amazing Grace 12. God Save the Queen 13. The Star-Spangled Banner 14. Yankee Doodle Dandy 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に次の授業で扱われる箇所を精読し、151～160 字で要約してくること。毎回授業の最初に提出してもらう。事後は各自の興味に従い、今後の学習内容に反映すべく、十分に復習をすること。
テキスト、参考文献	Albert Jack. *Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes*. Perigee Trade; Original edition (2009) 注：電子書籍版もあります
評価方法	プレゼンテーションと提出物、授業貢献度により、総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I （Children's Classics）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
古典とされるイギリス児童文学の中から、いくつかを選んで読みながら、イギリス文化への理解を深めることを目的とする。春学期は*A Bear Called Paddington*のシリーズを読む。きわめて平易な英語で書かれているが、イギリス英語特有の表現、ロンドンのミドルクラスの生活と価値観、ペルーからの「移民」であるクマへの視線といったものが細部には書き込まれている。そうした面白さは翻訳では、なかなか理解できない。平易な英語を速読しながら、細部の面白さを理解することを目指す。またこのシリーズはStephen Fryの朗読によるAudio Bookもあるので、音声としての英語の面白さへの鑑賞力を高めることも目的のひとつである。	1. Introduction 2. *A Bear Called Paddington* (1) 3. *A Bear Called Paddington* (2) 4. *A Bear Called Paddington* (3) 5. *A Bear Called Paddington* (4) 6. *A Bear Called Paddington* (5) 7. *A Bear Called Paddington* (6) 8. *A Bear Called Paddington* (7) 9. *More about Paddington* (1) 10. *More about Paddington* (2) 11. *More about Paddington* (3) 12. *More about Paddington* (4) 13. *More about Paddington* (5) 14. *More about Paddington* (6) 15. Course summary

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	１回およそ 20～25 ページ程度を読む。その指定された箇所について、毎回課題に答えて提出する。
テキスト、参考文献	Bond, Michael. (1958). *A Bear Called Paddington*. Collins. ISBN: 0007174160 参考文献は授業中に紹介する。
評価方法	毎回提出する課題 70%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語専門講読 II （Children's Classics）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き。秋学期は Kenneth Grahame の *The Wind in the Willows* を読む。*The Wind in the Willows* は愉快な登場人物たちが活躍する児童文学でありながら、田園生活の理想、自然への畏怖とその宗教性など、イギリス文化の重要な根幹となる精神を反映している。英語もきわめて美しい。英語で丹念に読みながら、筋書きを追うだけではなく、英語表現を鑑賞する力を伸ばすことを目指す。	1. Introduction 2. *The Wind in the Willows* (1) 3. *The Wind in the Willows* (2) 4. *The Wind in the Willows* (3) 5. *The Wind in the Willows* (4) 6. *The Wind in the Willows* (5) 7. *The Wind in the Willows* (6) 8. *The Wind in the Willows* (7) 9. *The Wind in the Willows* (8) 10. *The Wind in the Willows* (9) 11. *The Wind in the Willows* (10) 12. *The Wind in the Willows* (11) 13. *The Wind in the Willows* (12) 14. Discussion 15. Course summary

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された 10 ページ程度を精読してくること。その箇所について毎回、課題に答えて提出する。
テキスト、参考文献	Egmont の Anniversary edition を使用する予定。 参考文献は授業中に紹介する。
評価方法	毎回提出する課題 70%、授業への参加度 30%

09 年度以降	英語専門講読 I （日本社会の再確認）	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・「よき日本人こそ真の世界人」：これは1968年3月27日、第一回卒業式の式辞で天野貞祐学長が言われたことばである。 ・「世界人」という考えに必要なものの一つは＜軸＞である。 ・その軸を作るためにの第一歩として「日本人の社会的・文化的コミュニケーション行動」の諸側面を知ろう。 ・テキストの前半	1.　概要説明 2.　序章：講義（コミュニケーション論） 3.　同上：講義（社会・文化論） 4.　テキスト会読 5.　同上 6.　同上 7.　同上 8.　同上 9.　同上 10.　同上 11.　同上 12.　同上 13.　同上 14.　同上 15.　終章：まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：各章のキーワードを探る／事後：配付資料などを再読する。
テキスト、参考文献	*The Japanese Mind*： *Understanding Contemporary Japanese Culture* by **Roger Davis & Osamu Ikeno**, Tuttle, ¥ 1,700
評価方法	グループプレゼン：15%／個人レポート：40%／グループレポート；30%／平常点：15%

09 年度以降	英語専門講読 II （日本社会の再確認）	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
・同上 ・テキストの後半	1.　概要説明 2.　テキスト会読 3.　同上 4.　同上 5.　同上 6.　同上 7.　同上 8.　同上 9.　同上 10.　同上 11.　同上 12.　同上 13.　同上 14.　同上 15.　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じ
テキスト、参考文献	春学期と同じ
評価方法	春学期と同じ

09 年度以降	英語専門講読 I （Situating your Eating Habit in the Social Context）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
食文化について歴史、社会、経済活動、宗教、ポピュラーカルチャー、消費主義などの視点から検討していく。 普段、当たり前のように食べているもの、食習慣に向き合い、食を通してみえてくる自分や自文化の価値観を社会的な文脈に位置づけてみる。 課題とされたテーマをもとに、各自英語の文献を探して、自分の言葉で要約する。調べる、読む、まとめる、話すすべて英語で行う。	1. ガイダンス 2. 世界の食文化 3. エスニック食とは何か 4. グループプレゼンテーション 1 5. グループプレゼンテーション 2 6. グループプレゼンテーション 3 7. アフリカ系アメリカ人の食文化 1 8. アフリカ系アメリカ人の食文化 2 9. ラティーノの食文化 1 10. ラティーノの食文化 2 11. 映画/音楽のなかの食　1 12. 映画/音楽のなかの食　2 13. お話しのなかの食　1 14. お話しのなかの食　2 15. Wrap-Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	授業への参加度　20%　グループプレゼンテーション　30%　試験　50%

09 年度以降	英語専門講読 II （Situating your Eating Habit in the Social Context）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期も、春学期と同様のトピックを扱うが、さらに深く社会変化とのかかわりから、食について考察する。 食について書かれた英語の学術論文も読んでいく。	1. ガイダンス 2. 世界の食文化 3. エスニック食 4. グループプレゼンテーション 1 5. グループプレゼンテーション 2 6. グループプレゼンテーション 3 7. アフリカ系アメリカ人の食文化とシンボリズム 1 8. アフリカ系アメリカ人の食文化とシンボリズム 2 9. ラティーノの食文化とシンボリズム 1 10. ラティーノの食文化 とシンボリズム 2 11. 映画/音楽のなかの食　1 12. 映画/音楽のなかの食　2 13. お話しのなかの食　1 14. お話しのなかの食　2 15. Wrap-Up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定されたところを事前に精読しておいてください。
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	授業への参加度　20%　グループプレゼンテーション　30%　試験　50%

09 年度以降	英語専門講読 I （Rising Son）	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The book chosen for this course is a travel narrative written by an American father who leaves his career at a major cooperation to peddle his way across Japan on bicycle with his eight year old son. It is an adventure story that looks at many facets of his life, and the lives of the Japanese people he meets along the way. Quitting his job, traveling to a foreign country, bicycling with an eight year old, experiencing a completely foreign culture are all courageous and ambitious things for a young man to do. What sets this adventure apart are the cross-cultural exchanges and unique happenings that occur along their journey. This aim of this course then is to look at Japan through the eyes of the narrator and his son on this fascinating journey/adventure, and to discuss and describe cultural differences that they happen upon. Class time will consist of lectures, discussions, and presentations. Students thinking about this course should be interesting learning about cross cultural differences between Japan and the USA. And, indeed, should have a desire to talk about them in English!	Week 1: Introduction Week 2: A father –son adventure: Reactions & Fears Week 3: Layoffs Looming; Training Week 4: Planet Earth; Fired Week 5: The thief; Temper Tantrums…Hospitality Week 6: Tempest; Mr. Saito Week 7: Mid-term review and Prep Week 8: Mid-term: Class Discussions Week 9: Lake Saroma Ultra; New Cycling Buddy Week 10: Tantrum; Shiretoko Pass Week 11: Saying Goodbye; Unexpected Treats Week 12: Crash; New Friends in Nibutani Week 13: The Sounds of Nature Week 14: End of term Class Discussions Week 15: Summation

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, and to consider the topics presented in the previous lesson.
テキスト、参考文献	*Rising Son: A Father and Son's Adventure Across Japan* by Charles R. Scott. Third Wheel Press ISBN-10:148027223X 2012
評価方法	Grades are based on in-class performance (40%), quizzes (10%) and a final report (50%).

09 年度以降	英語専門講読 II （Rising Son）	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The same text will be used again this semester. The text for this course is titled: Rising Son: A Father and Son's Adventure Across Japan by Charles R. Scott. It is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson.	Week 1: Second Semester Introduction Week 2: The Kindness of Strangers; The Wanderer Week 3: Animal Farm; Industrial Sludge Week 4: In Need of Help; Shirakami Snake Charmer Week 5: Mountain Climbing; More than We Bargained Week 6: Prep for mid-term Class Discussions Week 7: Mid-term Class Discussions Week 8: Dancing the Night Away; Kyoto Fireworks Week 9: Something Evil; Climbing Mt. Koya Week 10: Disrupted Meditations Week 11: Awa Odori Week 12: Temptation to Cheat Week 13: Shimanami Kaido Week 14: Hiroshima Week 15: Summation

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read assigned material and look up all new vocabulary items, and to consider the topics presented in the previous lesson.
テキスト、参考文献	*Rising Son: A Father and Son's Adventure Across Japan* by Charles R. Scott. Third Wheel Press ISBN-10:148027223X 2012
評価方法	Grades are based on in-class performance (40%), quizzes (10%) and a final report (50%).

09 年度以降	英語専門講読 I （平和構築 I）	担当者	未定

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、難しい英語論文を読んだり細かな知識を覚えたりすることよりもグローバルな見方と考える力を身につけることに重点を置きます。現代世界には、正解のない問題があふれています。しかしそれにもかかわらず、複雑な過程を経て出てきた「答え」が、人類の未来を左右するのです。その時正解だと考えたことが、実は大間違いであったり、でも、その大間違いの結果（つまり大きな犠牲を払った上で）、よりよい社会が生まれたりすることがあるのです。春学期・秋学期を通じて、この授業では、平和とは何か、平和を脅かすものは何か、何が平和をもたらすのか、平和の礎となる思想は何か、平和はどのような制度によって支えられているのかといった問題について、様々の事例を通して考えていきます。そして、それぞれの事例について、自分なりの考えを持ち、それを積極的に発言することが期待されています。	初回は講師と学生が自己紹介をして互いの関心事を理解しあうことを目的とします。その後の第 2 回から第 5 回は、英語資料を読みながら平和とは何かについて考え、議論をします。そのあと第 6 回から第 10 回は、平和を脅かしている現代のさまざまな問題（核兵器、環境問題、人権侵害、貧困、紛争、難民問題など）について、簡単な英語資料を読みながら考えていきます。その上で第 11 回から 15 回は、経済発展、社会福祉、宗教、イデオロギーなどは平和をもたらすのだろうかを簡単な英語資料を読みながら皆さんと議論します。 授業では量より質を重視します。大量の英文を読むよりも読んだ問題について深く考え、それを英語で簡潔に話せるような力を身につけることを目的とします。そして何よりも授業を通じて、われわれはいかにして地球社会の平和を構築し維持していけばよいのかを皆さんと話し合っていきたいと考えています。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	クラスでの討議内容について自分の意見をまとめること。
テキスト、参考文献	適宜クラスで配布します。
評価方法	クラスでの発表内容、コメント内容、討論への参加、小テストの結果などに基づいて総合的に判断します。

09 年度以降	英語専門講読 II （平和構築 II）	担当者	未定

講義目的、講義概要	授業計画
基本的には春学期の内容を発展させていきますが、学生からの発言・発表により重点を置いていきます。	秋学期は、平和についてより深く考えるために、第 1 回から第 8 回は、平和の礎となってきた思想（非暴力、多様性の尊重、民主主義、人権など）について考え、第 9 回から 12 回は、平和を支えている制度（国際法、日本国憲法、国連システムなど）について資料を読み、議論を重ねていきます。その過程を通じて、各学生が平和について自分なりの考えを持ち、最後の 13－15 回で、それを英語で発表できるようにします。 授業では、春学期は主に日本語を使いますが、秋学期はなるべく英語だけを使って行いたいと考えています。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	クラスでの討議内容について自分の意見を英語でまとめること。
テキスト、参考文献	適宜クラスで配布します。
評価方法	クラスでの発表内容、コメント内容、討論へ参加、小テストの結果などに基づいて総合的に判断します。

09 年度以降	英語専門講読 I （ディスコース分析）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
時事、演説、論文、広告、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと一貫性（coherence）、さらに、レジスター変数（ideational, interpersonal, textual）、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルターナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テクストの語彙文法的(lexico-grammatical)分析を、実際のコンテクストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テクストが孕む意味世界を説得力ある言語分析によって浮上させることである。この感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテクストを、分析したり解釈したりする自信がついてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションも、本講座の醍醐味のひとつである。	1．導入　方法論、評価システムの説明など 2．時事　現代アメリカ情勢 3．Web 情報 I　TED（http://www.ted.com/） 4．演説 I　Steve Jobs スタンフォード大卒業式祝辞 5．学術論文 I　Critical Discourse Studies 関連 6．Web 情報 II　CCHR（http://www.cchr.org/） 7．演説 II　Martin Luther King Jr. 8．学術論文 II　Political Language 9．Web 情報 III　http://www.prisonplanet.com/ 10. 企業広告　“Think Different”（Apple） 11. 洋楽歌詞 Taylor Swift, Coldplay など 12. プレゼンテーション&ディスカッション I 13. プレゼンテーション&ディスカッション II 14. プレゼンテーション&ディスカッション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：E-412

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回出される課題を解き、次週授業までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出）。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	基本的には教室で資料を配布するが、PorTa 等で教材のシェアを行うこともある（具体的方法は授業時に指示する）。
評価方法	授業参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×5 頁以上）＝20%；自己評価＝20%。４回以上欠席は単位を与えない。

09 年度以降	英語専門講読 II （ディスコース分析）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ目的及び方法で、異なる題材を採り上げる。 時事、演説、論文、広告、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと一貫性（coherence）、さらに、レジスター変数（ideational, interpersonal, textual）、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルターナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テクストの語彙文法的(lexico-grammatical)分析を、実際のコンテクストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テクストが孕む意味世界を説得力ある言語分析によって浮上させることである。この感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテクストを、分析したり解釈したりする自信がついてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションが、本講座の有終の美を飾ることは間違いないと思う。	1．導入　方法論、評価システムの説明など 2．時事　食・医療・健康 3．Web 情報 I　TED（http://www.ted.com/） 4．演説 I　Abraham Lincoln ゲティスバーグ演説 5．学術論文 I　Discourse in Society 関連 6．Web 情報 II　http://stormcloudsgathering.com/ 7．演説 II John F. Kennedy ~ Lyndon B. Johnson 8．学術論文 II　Noetic Science 9．Web 情報 III　http://www.paulcraigroberts.org/ 10. 物語分析　Aesop’s Fables 等 11. 洋楽歌詞 Jason Mraz, Fun など 12. プレゼンテーション&ディスカッション I 13. プレゼンテーション&ディスカッション II 14. プレゼンテーション&ディスカッション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：E-412

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回出される課題を解き、次週授業までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出）。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	基本的には教室で資料を配布するが、PorTa 等で教材のシェアを行うこともある（具体的方法は授業時に指示する）。
評価方法	授業参加態度＝20%；アサインメント＝20%；プレゼンテーション＝20%；ファイナルペーパー（A4×5 頁以上）＝20%；自己評価＝20%。４回以上欠席は単位を与えない。

09 年度以降	英語専門講読 I （英語教育・SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
【初回授業は 5 月 10 日です。学期中に補講を行います】 言語習得は人間ならではの能力、知識、技能が複雑に絡み合った不思議な現象です。その中でも第二言語習得（SLA）は学習環境、学習者の年齢・動機付け・適正等の個人差要因、教授法、さらに多くの要素が絡み合っているもので、高度な研究の対象になり得ます。 この授業では SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文（一つの論文は十数頁）を講読します。実証研究とは、研究者が持つ疑問（Research question(s)）に対する答えを求める際に、実際にデータをとって、数量的および質的にデータ分析を行い、得られた結果の提示とその考察を行うタイプの研究です。実証研究論文を読み進めるにあたっては、Research question の答えが何かを期待しながら読み解く面白さがあります。また、その論文の研究方法が妥当かを、受講生の皆さんに議論してもらうことも含めます。	1.　【ガイダンス】実証研究とは何か 2.　実証研究論文の一例（練習用日本語論文） 3.　論文（1-1）：イントロダクション（実証研究体験） 4.　論文（1-2）：内容理解の確認 5.　論文（1-3）：内容理解の確認 6.　論文（1-4）：ディスカッション 7.　論文（2-1）：イントロダクション（実証研究体験） 8.　論文（2-2）：内容理解の確認 9.　論文（2-3）：内容理解の確認 10.　論文（2-4）：ディスカッション 11.　論文（3-1）：イントロダクション（実証研究体験） 12.　論文（3-2）：内容理解の確認 13.　論文（3-3）：内容理解の確認 14.　論文（3-4）：ディスカッション 15.　【まとめ】学期末レポートの課題説明

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問用紙（論文を読み取るポイント）に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。
テキスト、参考文献	配付資料：日本国内で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文（英文）
評価方法	毎回の授業中での活動（55%）、学期末レポート（45%）

09 年度以降	英語専門講読 II （英語教育・SLA 最前線）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様、SLA 実証研究論文を講読していきます。秋学期は、海外で出版されたジャーナルの中から論文を選びます。海外における SLA 研究の場合、目標言語が英語ではない場合や、学習環境が日本とは異なる場合もあり、その点がまた興味深くもあります。 論文の内容確認は日本語で行いますが、秋学期は授業中のディスカッションおよび学期末レポートは英語によります。論文をよく読み、その中で使用されている専門用語やアカデミックな表現を習得できるよう、自らアウトプットする練習を兼ねています。	1.　【ガイダンス】 論文（1-1）：イントロダクション（実証研究体験） 2.　論文（1-2）：内容理解の確認 3.　論文（1-3）：内容理解の確認 4.　論文（1-4）：内容理解の確認 5.　論文（1-5）：内容理解の確認 6.　論文（1-6）：Summary 7.　論文（1-7）：Discussion 8.　論文（2-1）：イントロダクション（実証研究体験） 9.　論文（2-2）：内容理解の確認 10.　論文（2-3）：内容理解の確認 11.　論文（2-4）：内容理解の確認 12.　論文（2-5）：内容理解の確認 13.　論文（2-6）：Summary 14.　論文（2-7）：Discussion 15.　【まとめ】Guidance on the final report

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予め配布される質問用紙（論文を読み取るポイント）に対する答えを探しながら、当該論文を読んで授業に臨んで下さい。
テキスト、参考文献	配付資料：海外で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文（英文）
評価方法	毎回の授業中での活動（55%）、学期末レポート（45%）

09 年度以降	英語専門講読 I (アメリカ現代詩—Gary Snyder の最新詩集 *This Present Moment* を読む)	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『この今という時』(*This Present Moment,* 2015) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプリゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。 DVD やＣＤを使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、 <http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master> を参照してください。レポートの書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html を参照。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. Gnarly 2. The Earth's Wild Places 3. Siberian Outpost 4. Walking the Long and Shady Elwha 5. Charles Freer in a Sierra Snowstorm 6. Why I Take Good Care of My Macintosh 7. Artemis and Pan 8. Anger, Cattle, and Achilles 9. A Letter to M. A. Who Lives Far Away 10. The Name of Actaeon's Hounds 11. Old New Mexican Genetics 12. Polyandry 13. Stage of the End of Night and Coming Day 14. Why California Will Never Be Like Tuscany 15. Sunday

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に担当ペアごとにプリゼンの準備をし、資料をメーリーングリストで受講者に送る。
テキスト、参考文献	Text: Gary Snyder. *This Present Moment.* Berkeley: Counterpoint, 2015. ＊各自 amazon.co.jp などで購入のこと。
評価方法	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は、評価対象とはしない。

09 年度以降	英語専門講読 II (アメリカ現代詩—Gary Snyder の最新詩集 *This Present Moment* を読む)	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダー(Gary Snyder b. 1930)の詩集『この今という時』(*This Present Moment,* 2015) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論のプリゼン形式で行い、学期末にレポートを提出してもらいます。 DVD やＣＤを使って「声としての詩」についても紹介します。スナイダーについては、 <http://www.newyorker.com/magazine/2008/10/20/zen-master> を参照してください。レポートの書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html を参照。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. Michael des Tombe at the edge if the Canyon the Killgrew Place 2. Chiura Obata's Moon 3. How to Know Birds 4. Starting the Spring Garden and Thinking of Thomas Jefferson 5. Log Truck on the 80 6. Stories in the Night 7. Morning Songs, Goose Lake 8. Fixing the System 9. "Reinventing North America" 10. From the Sky 11. Here 12. Eiffel Tundra 13. Kill 14. Claws / Cause 15. Hai-en Temple South Korea Home of the Total itaka Set of Printing Blocks

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に担当ペアごとにプリゼンの準備をし、資料をメーリーングリストで受講者に送る。
テキスト、参考文献	Text: Gary Snyder. *This Present Moment.* Berkeley: Counterpoint, 2015. ＊各自 amazon.co.jp などで購入のこと。
評価方法	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は、評価対象とはしない。

09 年度以降	英語専門講読 I （Language & Education）	担当者	J．J．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the history of the English language, from its obscure Sanskrit origins to the role in Europe in the Middle Ages. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.	Week 1: Introduction Week 2: The Common Tongue Week 3: The Common Tongue Week 4: The Great Escape Week 5: The Great Escape Week 6: Conquest Week 7: Conquest Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: Holding On Week 10: Holding On Week 11: The Speech of Kings Week 12: The Speech of Kings Week 13: Chaucer Week 14: Chaucer Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading of the selected material and weekly homework assignments, including summarizing the reading, comprehension and discussion questions, and defining vocabulary
テキスト、参考文献	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*.
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	英語専門講読 II （Language & Education）	担当者	J．J．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the history of the English language, from its role in Europe in the Middle Ages to the years prior to its spread to New World. By reading and discussing the text material, including pre-reading and post-reading activities to enhance the reader's comprehension, it is hoped that students will come away from this course with a better understanding of the English language today. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.	Week 1: Introduction. Week 2: God's English Week 3: God's English Week 4: English and the Language of the State Week 5: English and the Language of the State Week 6: William Tyndale's Bible Week 7: William Tyndale's Bible Week 8: Quiz I. Journals due Week 9: A Renaissance of Words Week 10: A Renaissance of Words Week 11: Preparing the Ground Week 12: Preparing the Ground Week 13: Shakespeare's English Week 14: Shakespeare's English Week 15: Quiz II. Journals due.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Reading of the selected material and weekly homework assignments, including summarizing the reading, comprehension and discussion questions, and defining vocabulary
テキスト、参考文献	Bragg, M. *The Adventure of English: The Biography of a Language*.
評価方法	Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).

09 年度以降	英語専門講読 I （映画『Matrix』批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 映画『マトリックス』三部作を諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テクストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の３点が探求の課題となる。１）理論とは何か、２）批評とは何か、３）レトリック研究とは何か。これら３点について、映画の綿密なテクスト分析の実践を通じて、この映画に含まれた哲学的意義を探っていく。 **講義概要** 映像という表象コミュニケーションである映画をテクストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映画作品とその批評を綿密に読み込み、映像のレトリックが哲学を織り込んでいく過程を、理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでも哲学とレトリック理論の探求であり、映画をエンターテイメントとして楽しむことではない。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画という映像テクストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テクストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め必ず各自で観ておくこと。これらの時間を要する予習への心構えがない学生は受講を遠慮すること。	1. Course Orientation 2. *The Matrix* and Plato's Cave: Why the Sequels Failed 3. *The Matrix* and Plato's Cave: Why the Sequels Failed 4. The Matrix of Control: Why *The Matrix* Still has Us 5. The Matrix of Control: Why *The Matrix* Still has Us 6. Only Love is Real: Heidegger, Plato, and The *Matrix* Trilogy 7. Only Love is Real: Heidegger, Plato, and The *Matrix* Trilogy 8. The Matrix is Prozac of the People 9. The Matrix is Prozac of the People 10. "The Purpose of Life is to End": Schopenhauerian Pessimism, Nihilism, and Nietschean Will to Power 11. "The Purpose of Life is to End": Schopenhauerian Pessimism, Nihilism, and Nietschean Will to Power 12. Choice, Purpose, and Understanding: Neo, the Merovingian, and the Oracle 13. Choice, Purpose, and Understanding: Neo, the Merovingian, and the Oracle 14. Course Review 15. Wrap up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須。授業後は当該の章を復習。
テキスト、参考文献	More Matrix and Philosophy. ed. by William Irwin (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2005)
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 II （映画『Matrix』批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ	1. Course Orientation 2. Why Make a Matrix? And Why you Might be in One 3. Why Make a Matrix? And Why you Might be in One 4. Challenging *Simulacra and Simulation*: Baudrillard in *The Matrix* 5. Challenging *Simulacra and Simulation*: Baudrillard in *The Matrix* 6. Faith, Understanding, and the Hidden God of *The Matrix* 7. Faith, Understanding, and the Hidden God of *The Matrix* 8. Race Matters in The Matrix: Is Morpheus Black? 9. Race Matters in The Matrix: Is Morpheus Black? 10. Pissin' Metal: Columbine, Malvo, and the Matrix of Violence 11. Pissin' Metal: Columbine, Malvo, and the Matrix of Violence 12. Reloaded Revolutions 13. Reloaded Revolutions 14. Course Review 15. Wrap up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	映画のスクリーニングと教科書の予習、発表の為の準備は、各自の事前学習として必須。授業後は当該の章を復習。
テキスト、参考文献	More Matrix and Philosophy. ed. by William Irwin (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2005)
評価方法	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I （国際安全保障）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
国際社会において安全保障とは何を何を意味し、どのように担保され得るのか。この授業では、「国際安全保障（international security）」の概念がどのように生まれ、どのように変化してきたのか、または実現されようとしてきたのかを 1 冊の入門書を手掛かりに紐解く。 集団的安全保障、国連の役割、戦争の有り様、エネルギー安全保障、食糧安全保障、「人間の安全保障」について興味のある学生の受講を希望する。 この授業は。発表とその後のディスカッションによって進める。授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。なお、第1回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。	1.　授業概要の説明、発表担当者決め 2. ～14.　テキストに沿って進める 発表及びディスカッション 15.　まとめ、テスト

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読すること。毎回の課題を次回の授業時に提出すること。
テキスト、参考文献	Browning, Christopher S. *International Security: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University, 2013.
評価方法	発表 30%、授業での発言回数・授業態度 15%、課題 15%、学期末テスト 40%

09 年度以降	英語専門講読 II （国際安全保障）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
国際社会において安全保障とは何を何を意味し、どのように担保され得るのか。この授業では、「国際安全保障（international security）」の概念がどのように生まれ、どのように変化してきたのか、または実現されようとしてきたのかを 1 冊の入門書を手掛かりに紐解く。 集団的安全保障、国連の役割、戦争の有り様、エネルギー安全保障、食糧安全保障、「人間の安全保障」について興味のある学生の受講を希望する。 この授業は。発表とその後のディスカッションによって進める。授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。	1.　授業概要の説明、発表担当者決め 2. ～14.　テキストに沿って進める 発表及びディスカッション 15.　まとめ、テスト

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読すること。毎回の課題を次回の授業時に提出すること。
テキスト、参考文献	Browning, Christopher S. *International Security: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University, 2013.
評価方法	発表 30%、授業での発言回数・授業態度 15%、課題 15%、学期末テスト 40%

09 年度以降	英語専門講読 I （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とする。 1951 年に出版された J. D.サリンジャーの *The Catcher in the Rye* は 60 年以上経った今も若者達に愛読され、アメリカ戦後小説の古典となっている。その一方でアメリカの公立図書館や教育員会で最も検閲の対象となった小説でもあり、John Lennon の暗殺者、Mark Chapman の愛読書として物議をかもしてもいる。80 年代には映画、*The Field of Dreams* の原作本である Shoeless Joe のインスピレーションの源泉として、また村上春樹が翻訳を試みたことでも話題になった。私立の全寮制進学校(prep school)からはみ出た 16 歳の少年 Holden Caulfield の大人になれない悩みを扱ったこの小説の魅力を下記のような質問表に基づく討論を通じて考えていきたい。 春学期は、この小説の前半を読む。	第 1 週　授業の進め方などについての説明と「第 1 週の質問表」にもとづく討論による体験授業。従って、左下の欄にある「第 1 週の質問表」に答えられるよう最初の 1，2 ページを読んでくる必要がある。 第 2 週　前週に配布した質問表による討論。第 1 章を終了する予定。 第 3 週～第 15 週　同様な方法で毎週平均ほぼ 1 章ずつ読んでいく予定。本書は 26 章あるので、中盤からは各週 1 章以上読んでいく予定。 ほぼ毎週、前週の復習を兼ねた小テストを実施する。 質問表は全章分を教師が用意し、教師が討論の司会をする。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定された範囲を読み、質問表の答えを準備する。事後は、授業範囲の重要箇所を理解できたか確認し、次週の小テストに備える。
テキスト、参考文献	J.D. Salinger, *The Catcher in the Rye*　(1951)
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語専門講読 II （アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の項を参照。この小説の後半を読む。 春学期　第 1 週の質問表 Chapter 1. 1. Why doesn't the narrator want to tell us "all that David Copperfield kind of crap"? 2. What does he say he is going to tell us about in this novel? 3. Where do you think he is now, narrating his story? 4. What kind of person is D. B.? What does he do? Where is he now and what do you think he is doing there? 5. What kind of school is Pency Prep? Describe the narrator's attitude toward Pency. (Does he like it? If not, why not?)	春学期の項を参照。 春学期と同様な方法で *The Catcher in the Rye* の後半を読んでいく。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に指定された範囲を読み、質問表の答えを準備する。事後は、授業範囲の重要箇所を理解できたか確認し、次週の小テストに備える。
テキスト、参考文献	J.D. Salinger, *The Catcher in the Rye*　(1951)
評価方法	学期末の試験 80%、授業内小テストおよび授業・討論への貢献度 20%

09 年度以降	英語専門講読 I （異文化コミュニケーションの基礎）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，異文化コミュニケーション論に関連する文献のうち基礎的なものを読み，コミュニケーションの諸概念や仕組みを理解することを目的とします． 授業形式は，グループによるプレゼンテーションを行います．文献で述べられていることを素に，学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明できるようになることを目指します．そして，授業で学んだことを実生活で活かそうとする意識と姿勢を養うことが求められます． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」です．テキストの内容や活発な議論を通して，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりできるような活気ある授業を作って欲しいと思います．そして，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います．	1.　授業オリエンテーション 2.　プレゼンテーションの準備と方法 3.　資料・レジュメの作成とグループ分け 4.　異文化コミュニケーション研究の意義 5. 6. 7.　グループプレゼンテーションによる授業を行います．グループは，受講生確定後に決定します．文献は随時配布します． 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15.　春学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	プレゼンターは指定された箇所を精読し準備する．プレゼンター以外は，質問事項などを整理する．学習した概念や仕組みを日常生活の中で発見し，翌週の冒頭で発表できるようにする．
テキスト、参考文献	1）コピー教材を配布します． 2）心理学，社会学，物理学，統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など．
評価方法	グループワークの評価（40%），授業への貢献度（20%），学期末レポート（40%）により評価します．

09 年度以降	英語専門講読 II （異文化コミュニケーション理論と応用）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，異文化コミュニケーション論に関連する文献のうち理論的なものを読み，その諸概念や仕組みを理解することを目的とします．また，特殊講義として，ムスリムの文化を扱っている文献を読みます． 授業形式は，グループによるプレゼンテーションを行います．文献で述べられていることを素に，学生諸君が日常生活で経験しているコミュニケーション現象を紹介・分析・説明できるようになることを目指します．そして，授業で学んだことを実生活で活かそうとする意識と姿勢を養うことが求められます． この授業は，「学生の，学生による，学生のための授業」です．テキストの内容や活発な議論を通して，日常のコミュニケーション現象に興味を持ったり，新しい発見をしたりできるような活気ある授業を作って欲しいと思います．そして，毎週の授業を楽しみにしてもらえれば良いと思います．	1.　夏休み中に体験したコミュニケーション現象 2. 3. 4.　グループプレゼンテーションによる授業を行います．グループは，受講生確定後に決定します．文献は随時配布します． 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12.　ムスリムの文化 13.　ムスリムの文化 14.　ムスリムの文化 15.　秋学期のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	プレゼンターは指定された箇所を精読し準備する．プレゼンター以外は，質問事項などを整理する．学習した概念や仕組みを日常生活の中で発見し，翌週の冒頭で発表できるようにする．
テキスト、参考文献	1）コピー教材を配布します． 2）心理学，社会学，物理学，統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など．
評価方法	グループワークの評価（40%），授業への貢献度（20%），学期末レポート（40%）により評価します．

09 年度以降	英語専門講読 I （日英語の使役構文の比較）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
英語の wh-疑問文では wh-句を文頭に移動しなければなりませんが、日本語では移動する必要がありません。 (1) Which book did he read? (2) 彼はどの本を読んだの/どの本を彼は読んだの では、(3)と(4)を日本語ではどのように区別するでしょうか。(3)と(4)の和訳は1文字違いになるはずです。 (3) Which book did John say Mary would read? (4) Did John say which book Mary would read? その1文字の機能は何でしょうか。また、そもそも英語でwh-句を移動しなければならないのは何故でしょうか。 wh-疑問文はどんな言語にも存在し、概ね、英語タイプと日本語タイプに分かれます。２つのタイプは発音上大きく異なりますが、「本質的に同じ」であることをNishigauchi (1999)に沿って見ていきます。授業の後半には、図書館で手に入る日本文学の英訳をデータに、この授業で学んだことを検証し発表してもらいます。	1. Introduction 2. wh-句が動かない言語 3. wh-句の移動／解釈にみられる局所性 4. wh-island 5. 複雑な名詞句 6. wh-語を含む大きな句の移動 7. 英語の多重 wh-疑問文 8. 日本語の wh-語の不定表現用法 9. 補文節のタイプ 10. 「何故」の特殊性 11. 発表１ 12. 発表２ 13. 発表３ 14. 発表４ 15. まとめ 「シンタクス a,b」の既修もしくは平行履修が望ましい

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト、参考文献	Nishigauchi, T. (1999) "Quantification and Wh-movement," In Tsujimura (ed.) *The Handbook of Japanese Linguistics*, Ch. 9.
評価方法	毎回の授業での言語分析、論文のまとめなど(50%)、学期後半の発表(50%)

09 年度以降	英語専門講読 II （日英語の使役構文の比較）	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
英語では、have, make, letのような独立した動詞を使役的意味を表すのに使いますが、日本語の「持つ」や「作る」は使役構文には使われません。代わりに、独立した語ではない(-s)aseを本動詞につけます。 (1) John had/let/made Mary come into the room. (2) ジョンはメアリーを部屋に入らせ(hair-ase)た。 (2)の「入る(hair)」は自動詞で、対応する他動詞「入れる」があります。どちらも「気合いが入る／を入れる」のように熟語的意味を持ちますが、自動詞＋(-s)aseの「気合いを入らせる」は奇妙です。これは何故でしょうか。 日本語は「させ」のような非独立語を動詞につけて色々な構文を作る点が英語と異なりますが、両言語を分析的に見ていくと、「本質的に同じ」であることをHarley (2008)に沿って見ていきます。授業の後半には、図書館で手に入る日本文学の英訳をデータに、この授業で学んだことを検証し発表してもらいます。	1. Introduction 2. 「させ」と動詞の活用 3. 使役構文の統語構造 4. 使役構文における副詞句の曖昧性 5. 使役構文における「自分」の曖昧性 6. 使役構文における述語の代用表現「そうする」 7. 使役構文における節の代用表現 8. 使役構文の意味解釈 9. 語彙的な使役動詞 10. 「何故」の特殊性 11. 発表１ 12. 発表２ 13. 発表３ 14. 発表４ 15. まとめ 「シンタクス a,b」の既修もしくは平行履修が望ましい

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に与えられる論文に関する質問について考え、毎回の授業での議論を踏まえて解答をまとめる。
テキスト、参考文献	Harley, H. (2008) “On the causative construction,” *Handbook of Japanese Linguistics*. S. Miyagawa and M. Saito (eds.). pp. 20-53, Oxford University Press.
評価方法	毎回の授業での言語分析、論文のまとめなど(50%)、学期後半の発表(50%)

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ（火４） （現代東南アジア諸国の経済・政治）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は以下の３点です。 ①東南アジア諸国の経済･政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。 ②東南アジアの地域研究（area studies）のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。 ③効果的なプレゼンテーション・スキルを身につける。 これら目的のために､テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、金子担当の英語専門講読（現代東南アジアの経済・政治）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（次週）を行います。 ①ISEAS, *ISEAS Monitor Series*, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2015*, ISEAS, 2015。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。
テキスト、参考文献	ISEAS, *ISEAS Monitor Series（各号）と ISEAS, Southeast Asian Affairs 2015* を使用。担当者が最初の授業時に取り扱う号または章を指定するので、受講者は各自ポータルサイトからダウンロードする。
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ（火４） （現代東南アジア諸国の経済・政治）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、春学期の英語専門講読Ⅰと同様です。 授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定されたパートの全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、金子担当の英語専門講読（現代東南アジアの経済・政治）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続性が強いため、本授業（Ⅱ）の履修については春学期のⅠを履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキスト①②のチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答，討論、さらにフォローアップ（次週）を行います。 ①ISEAS, *ISEAS Monitor Series*, ISEAS. ②Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2015*, ISEAS, 2015。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。その他の資料もサブ・テキストとして適宜使用します。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	使用するテキストをダウンロードした上で事前に読み込んでおく。
テキスト、参考文献	ISEAS, *ISEAS Monitor Series（各号）と ISEAS, Southeast Asian Affairs 2015* を使用。担当者が最初の授業時に取り扱う号または章を指定するので、受講者は各自ポータルサイトからダウンロードする。
評価方法	レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。

09 年度以降	英語専門講読 I (Prejudice and discrimination in contemporary Japan)	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students with advanced English language communication skills develop both a concrete and conceptual understanding of prejudice and discrimination in contemporary Japan. Drawing on the theories of listening and intergroup contact, this course provides students with opportunities to *feel* the world of persons who are subjected to prejudice as well as to *analyse* its psycho-social dimensions. Students are also invited to the world of the 'Human Library', in which they will listen informally to people susceptible to prejudice in society (e.g. people with disabilities, sexual minorities, refugees, disaster victims) in order to gain different perspectives on prejudice and life in general. This course is highly recommended to students who want to (re)discover Japan from a co-cultural perspective and, more importantly, to discover their unknown self through dialogue. International (exchange) students currently studying at Dokkyo are most welcome to join. Some knowledge of Japanese is preferred, but not mandatory☺.	1. Introduction 2. Getting better acquainted 3. (Post-)multicultural perspective of Japan 4. The nature of prejudice and discrimination 5. Theory of listening 6. Case study 1: Coming out in Japan 7. Case study 2: Lessons from the Fukushima survivors 8. Case study 3: Adjunct instructors of English in Japan 9. The Human Library: Missions and operations 10. The Human Library: Theoretical issues 11. The Human Library: Ethical issues 12. Dialogue/Dining in the Dark 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap up * This course will be taught in English. The workload is heavy and comparable to an international standard.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles and to work closely with other students to complete tasks and assignments, including a group presentation and group research paper.
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly assignments 20%, group presentation 30% and group research paper 40%

09 年度以降	英語専門講読 II (Making sense of study abroad experience)	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students with advanced English language communication skills generate both a concrete and conceptual understanding of studying at a foreign university. Grounded in a bioecological model of human development, this course provides students with opportunities to *reflect* on their recent or future study abroad experience and to *develop* further their intercultural competence through many collaborative activities. Topics to be covered include: goals and motivation; academic challenges; making local friends; discrimination; identity and agency; personal growth; life after study abroad; and Japanese universities in the global context. This course is highly recommended to students who have already studied at a foreign university or students who have a keen interest in study abroad. International (exchange) students currently studying at Dokkyo are most welcome to join. Some knowledge of Japanese is preferred, but not mandatory☺. *We do not learn from our experience.* *We learn from reflecting on experience.* — John Dewey	1. Introduction to course 2. Art of group work 3. The Colonial Student in the 21st century 4. Bioecological model of human development 5. Culture shock and adjustment 6. Study abroad as self-formation 7. Different cultures of learning 8. Intercultural friendship and romantic relationships 9. Prejudice and discrimination 10. Intercultural competence and employability 11. Life after study abroad 12. Japanese higher education in the global context 13. Group presentation 1 14. Group presentation 2 15. Wrap-up * This course will be taught in English. The workload is heavy and comparable to an international standard.

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to read all the course materials including 15 or more journal articles and to work closely with other students to complete tasks and assignments, including a group presentation and group research paper.
テキスト、参考文献	Electronic copies, prints and handouts (to be provided by the instructor)
評価方法	Contribution to the class 10%, weekly assignments 20%, group presentation 30% and group research paper 40%

09 年度以降	英語専門講読 I （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。	1. *Jews of Britain* 1~5 ページを講読 2. 同上 6～10 ページを講読 3. 同上 11～15 ページを講読 4. 同上 16～20 ページを講読 5. 同上 21～25 ページを講読 6. 同上 26～30 ページを講読 7. 同上 31～35 ページを講読 8. 同上 36～40 ページを講読 9. 同上 41～45 ページを講読 10. 同上 46～50 ページを講読 11. 同上 51～55 ページを講読 12. 同上 56～60 ページを講読 13. 同上 61～65 ページを講読 14. 同上 66～70 ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト、参考文献	高価なため、コピーを配布します。
評価方法	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。 遅刻２回で欠席１回にカウント。（筆記試験が 70%、平常点が 30%）

09 年度以降	英語専門講読 II （米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
米国ユダヤ人史の概説書を使用します。 講義目的、講義概要は春学期と同じです。	1. *Jews of Britain* 71～75 ページを講読 2. 同上 76～80 ページを講読 3. 同上 81～85 ページを講読 4. 同上 86～90 ページを講読 5. 同上 91～95 ページを講読 6. 同上 96～100 ページを講読 7. 同上 101～105 ページを講読 8. 同上 106～110 ページを講読 9. 同上 111～115 ページを講読 10. 同上 116～120 ページを講読 11. 同上 121～125 ページを講読 12. 同上 126～130 ページを講読 13. 同上 131～135 ページを講読 14. 同上 136～140 ページを講読 15. 同上 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同じ
テキスト、参考文献	春学期と同じ
評価方法	春学期と同じ

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ（火４） （世界ブランドと国際関係）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、国際関係の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。 国際関係については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。	1　オリエンテーション、グループの編成 2　世界ブランド 3　世界ブランド 4　世界ブランド 5　世界ブランド 6　国際関係 7　　同上 8　　同上 9　　同上 10　世界ブランド 11　世界ブランド 12　世界ブランド 13　世界ブランド 14　世界ブランド 15　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト、参考文献	*E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &Sons,2006).*
評価方法	プレゼン資料 50%、プレゼンテーション 30%、授業への参加度 20%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ（火４） （世界ブランドと国際関係）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、世界ブランドの研究と共に、国際関係の研究を、２つのテーマとして設定しています。 ルイ・ヴィトン、ココ・シャネル、ティファニー、ブルガリ、アジアの有名ブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。 国際関係については、雑誌記事などを扱う予定です。 プレゼンはグループごとに行ないます。グループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。	1　オリエンテーション、グループの編成 2　世界ブランド 3　世界ブランド 4　世界ブランド 5　世界ブランド 6　国際関係 7　　同上 8　　同上 9　　同上 10　世界ブランド 11　世界ブランド 12　世界ブランド 13　世界ブランド 14　世界ブランド 15　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト、参考文献	*E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books,.2012); Tea at Fortnum & Mason: Piccadilly since 1707(Ebury Books,2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &Sons,2006).*
評価方法	プレゼン資料 50%、プレゼンテーション 30%、授業への参加度 20%

09 年度以降	英語専門講読 I （音声に現れることばの不思議）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
(1) まず、「英語の音声」で学んだ“英語の音”の基礎について再確認し、さらに“音の変化”や”韻律”について学ぶ。 (2) 次に、音声関連の平易なペーパーを読み、ヒトの言語能力やその獲得、機能などに見られる音声のふるまいの不思議、面白さを見ていく。トピックの例としては、乳児の母語獲得、外国語習得の母語干渉、英語と日本語の意外な類似点、母語話者も気がつかない脳内辞書の階層、その他である。 前者(1)のテキストは入門書であり、平易な英語で書かれている。また、「英語の音声」や「音声・音韻論」と重複する内容も多いので、既知のことを今度は英語で読むよい練習である。 後者(2)のペーパーは各数ページからなる比較的読みやすいものである。補足、解説するので、十分理解し知的に楽しめるはず。 毎週、程よい分量を継続して読むことで、英語を読むことへの慣れを促し、また、内容を詳細に読む練習により、正確な読解力と分析的な視点を養う。	1. Ch 5 Classifying Sp Sounds: Vowels and Consonants (pp.79-84) 2. Ch 5 Tackling phonemes (pp. 84-89) (1) 3. Ch 6 Variations in voiceless/voiced stops (pp. 94-99) 4. Ch 6 approximant (p.102) 5. Ch 7 GA vs SE, Table 7-1, 7-2, tense/lax (pp. 113, 116-117, 119), 6. Ch7 Rules (p.120) 前半まとめ 7. P-1, 英語と日本語の母音弱化、無声化 8. P-2, 日本語話者の幻聴 (1) 9. 〃 (2) 10. P-3, 母語でも気が付かない脳内語彙階層 (1) 11. 〃 (2) 12. P-4, 乳児は音を覚えずに失っていく (1) 13. 〃 (2) 14. P-5, 外国語聴取と母語干渉 15. 後半まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	学生は毎週の読み課題をこなし、内容のまとめや疑問点をもって授業に臨むことが求められる。
テキスト、参考文献	Katz, William F. (2013) *Phonetics for Dummies*. John Wiley and Sons Inc. (ISBN: 978-1-118-50508-3). その他　配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加・課題）:約 30%、小テスト・試験：約 70%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ（水１） （アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は３つあります。第１に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第２に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第３に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定されたパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春）と同Ⅱ（秋）は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。 初回の授業で英文読解力を計るためのテスト（国際政治経済の時事問題に関する英文和訳：辞書なし）を実施します。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト：下記のシリーズの最新の articles 中から 10 回分を選択して順次取り上げる。 ISEAS, *ISEAS Perspective Series*, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト、参考文献	ISEAS, *ISEAS Perspective Series*（各号）を使用。担当者が取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。初回の授業時にダウンロードするテキストのリストを配布します。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ（水１） （アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、英語専門講読（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）Ⅰ（春学期）と同Ⅱ（秋学期）は継続性が強いため、本授業（Ⅱ）の履修については春学期のⅠを履修していることを前提に進めます。また、本授業の受講者数には上限があります。	1. イントロダクション：授業プランを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 2. ~ 15. テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト：下記のシリーズの最新の articles 中から 10 回分を選択して順次取り上げる。 ISEAS, *ISEAS Perspective Series*, ISEAS. （http://www.iseas.edu.sg/からダウンロード） ・テキストの内容は、近年におけるアジア太平地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	取り扱うテキストをダウンロードした上で事前に読み込むとともに、毎授業で出される課題を翌週の授業までに完成させる。
テキスト、参考文献	ISEAS, *ISEAS Perspective Series*（各号）を使用。担当者が取り扱う号を指定するので、受講者は各自ダウンロードしてください。初回の授業時にダウンロードするテキストのリストを配布します。
評価方法	課題の提出状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 I （アメリカの広告文化史研究 ①）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
「世界を震撼させたアメリカの広告」の歴史解説（エッセイ）を読みながら、消費者としてではなく、文化研究者として広告をとらえ、私たちが生活する後期資本主義社会について考えます。 授業形式は、グループ・ワークとグループ・フィシリテーションが中心となります。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、口頭発表をグループ単位で行います。 使用するテキストは、初回の授業で共同購入申請ができるよう、現在、その手続き方法について検討中です。（もちろん各自で購入しても構いません。）	1. Course Overview 2. Introduction 3. P.T. Barnum 4. Lydia E. Pinkham's Vegetable Compound 5. Pears' Soap 6. Pepsodent 7. Listerine 8. Ad Review (1) 9. The Queensboro Corporation 10. The Kid in Upper 4 11. De Beers 12. Coke and Christmas 13. The Volkswagen Beetle 14. Ad Review (2) 15. Presentations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。
テキスト、参考文献	James B. Twitchell, *Twenty Ads That Shook the World* (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).
評価方法	発表・発言：50%（理由にかかわらず欠席５回で学期成績が F となります。）、クイズ：50%

09 年度以降	英語専門講読 II （アメリカの広告文化史研究 ②）	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
春学期からの続きです。目的や授業形式は春学期と同じです。 学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、口頭発表をグループ単位で行います。 なお、第 13 回目の授業では、関連する映画のスクリーニングを行うため、昼休みまで延長する授業参加が必要となる予定です。（詳細は学期中に事前連絡します。）	1. Course Overview 2. Miss Clairol's "Does She … or Doesn't She?" 3. The Marlboro Man 4. The Hathaway Man 5. Anacin and the Unique Selling Proposal 6. LBJ vs. Barry Goldwater 7. Ad Review (3) 8. She's Very Charlie 9. Absolut 10. Apple's 1984 11. The Rise and Fall and Rise of the Infomercial 12. Nike and Michael Jordan 13. Our Life as Advertisement? Screening a Film 14. Ad Review (4) 15. Presentations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に精読してから授業に参加してください。また、グループ単位の事前準備には担当箇所を読んでから参加してください。
テキスト、参考文献	James B. Twitchell, *Twenty Ads That Shook the World* (2001, Three Rivers Press, Reprint 版).
評価方法	発表・発言：50%（理由にかかわらず欠席５回で学期成績が F となります。）、クイズ：50%

09 年度以降	英語専門講読 I （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』(*The Grapes of Wrath*, 1939)、『エデンの東』(*The East of Eden,* 1952)の著者であり、1962 年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968)は、20 世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、寓話的中編『真珠』(*The Pearl, 1947*)を中心に彼の作品を扱ってゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベックの他の作品と比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。 授業には予習をして臨んで下さい。	1:　Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介 2:　小説を読む楽しみについて／修辞法解説 3:　Introduction by Linda Wagner-Martin 読解 4:　*The Pearl* の時代的文化的背景 5:　Native American について 6:　*The Pearl* 読解　Chapter 1 7:　同上 8:　*The Pearl* 読解　Chapter 2 9:　同上 10:　*The Pearl* 読解　Chapter 3 11:　同上 12:　Chapter 1~3 について詳細解説と問題提起 13:　Chapter 1~3 について　学生発表 14:　Review 15:　テスト／期末レポート回収

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる
テキスト、参考文献	テキスト：John Steinbeck, *The Pearl* (Penguin Classics)
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

09 年度以降	英語専門講読 II （アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、*The Pearl* を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 ＊授業には予習をして臨んで下さい。	1:　前期レポートについてグループ発表 2:　同上 3:　*The Pearl* 読解　Chapter 4 4:　同上 5:　*The Pearl* 読解　Chapter 5 6:　同上 7:　*The Pearl* 読解　Chapter 6 8:　同上 9:　Chapter 4~6 について詳細解説と問題提起 10:　Chapter 4~6 について　学生発表 11:　同上 12:　関連資料　読解と考察 13:　同上 14:　Review 15:　テスト／期末レポート回収

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習：テキストの予習　／　事後学習：授業中に読んだ内容に関して、文章表現、技巧、作家の視点、歴史的、文化的事柄について整理し、まとめる
テキスト、参考文献	テキスト：John Steinbeck, *The Pearl* (Penguin Classics)
評価方法	授業参加度（30%）、提出物（20%）、授業中の発表（20%）、期末レポート（30%）を総合的に評価。 全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

09 年度以降	英語専門講読 I （地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。大切なのは身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。 授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生（班）がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。	1. 授業の進め方について 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 教員によるレクチャー（予定） 15. 全体のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は教科書の該当章を熟読。
テキスト、参考文献	Jacqueline Decarlo, *Fair Trade: A Beginner's Guide* (Oneworld Publications) ※各自で DUO 等で購入して下さい。
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各 1 回。

09 年度以降	英語専門講読 II （地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。 取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。	担当する学生（班）が自分で読む英語論文を選定、レジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをする。

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	当番の人はレジメ作成、ディスカッションの内容を考える。それ以外の人は配布された英語論文を事後に熟読。
テキスト、参考文献	毎回、英語論文が配布される。それと併せ、次の本をテキストとして使用：フランツ・ヴァンデルホフ著、北野収訳『貧しい人々のマニフェスト：フェアトレードの思想』創成社（2016 夏刊行、DUO で購入）
評価方法	レジメとプレゼン（20%）、プレゼン振り返りペーパー（30%）、期末レポート（50%）。以上各 1 回。

09 年度以降	英語専門講読 I （英語圏の現代演劇）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、vocabulary を build up する。 　生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。 　さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらう。 講義概要 　ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。 　どの台本も最初の 10～15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。	1.　導入とテキスト精読 2.　テキスト精読 3.　テキスト精読 4.　テキスト精読 5.　テキスト精読 6.　テキスト精読 7.　テキスト精読 8.　テキスト精読 9.　テキスト精読 10.　テキスト精読 11.　テキスト精読 12.　テキスト精読 13.　テキスト精読 14.　テキスト精読 15.　テキスト精読とまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト、参考文献	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストで 60%、観劇レポート（450～500 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末に定期試験はしません。

09 年度以降	英語専門講読 II （英語圏の現代演劇）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学び、vocabulary を build up する。 　生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、その洞察を深める。 　さらに実際の舞台を観て、演劇の面白さや意味・意義を実感・理解してもらう。 講義概要 　ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。 　どの台本も最初の 10～15 ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。	1.　導入とテキスト精読 2.　テキスト精読 3.　テキスト精読 4.　テキスト精読 5.　テキスト精読 6.　テキスト精読 7.　テキスト精読 8.　テキスト精読 9.　テキスト精読 10.　テキスト精読 11.　テキスト精読 12.　テキスト精読 13.　テキスト精読 14.　テキスト精読 15.　テキスト精読とまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席してください。
テキスト、参考文献	主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。
評価方法	毎回の授業開始時の vocabulary テストで 60%、観劇レポート（450～500 字）2 編で 40%。レポートは 2 編必修。2 編提出しない場合、授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、単位を認めません。学期末に定期試験はしません。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （インコタームズ®の貿易条件を学ぶ）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
インコタームズ®（Incoterms®）とは、国際商業会議所が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936 年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。インコタームズ®を貿易取引に採用すれば、FOB や CIF 等の貿易条件（trade terms）の略号を表示することにより、売主と買主の義務、費用負担、貨物の引渡し場所などが明確になり、誤解や紛争が防げます。今年度の秋学期は、Incoterms®2010 が規定する 11 個の貿易条件について、旧版の Incoterms®2000 からの変更点を中心に詳細かつ正確に学習した後、各貿易条件の長所と短所を売主と買主の立場からそれぞれ検討して、国際ロジスティクス（logistics）の観点から有利な貿易条件を選択する戦略を考えます。また、実務の世界で貿易条件が誤用されている事例を紹介し、その問題点を検討します。この授業は、特に貿易、国際物流、ロジスティクスなどに興味があり、これらの分野への就職や就活を考えている学生諸君に対して、非常に有益な知識を提供できるものと確信しています。その一方、かなり専門的で高度な内容を扱いますので、学習のモチベーションが相当高くなければ最後まで履修を継続することが難しいかもしれません。	1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. Incoterms®2000 から Incoterms®2010 への変更点 3. Incoterms®2010 が規定する 2 分類・11 条件の概略 4.-7. 「いかなる単数または複数の輸送手段にも適した」7 条件（EXW, FCA, CPT, CIP, DAT, DAP, DDP）の詳細 8.-10. 「海上および内陸水路輸送のための」4 条件（FAS, FOB, CFR, CIF）の詳細 11.-12. 各々の貿易条件についての売主側および買主側からみた長所と短所の検討 13. 貿易条件の誤用事例の紹介と問題点の検討 14. 国際ロジスティクスの観点から有利な貿易条件を選択する戦略の検討 15. 秋学期の総復習および質疑応答

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト、参考文献	Petersen, Catherine J., *Incoterms® 2000 and Incoterms ®2010: A Practical Review,* Global Training Center Inc., 2011　および配布プリント
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ（水２） （英語でグローバル社会を語る）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、以下の３つの目標（チャレンジ）が設定されています。 （１）グローバル社会のトピック＜雑誌記事＞に注目することです。（２）英語の運用能力を高めることです。（３）受講生が発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 授業は、出来る限り英語で行います。英語によるプレゼンテーション能力の開発に力を入れます。 プレゼンは、数名でグループを作り、準備をみんなで一緒に行います。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。 重複履修する場合は、担当教員と相談して下さい。	授業の前半で、グループ・プレゼンを行います。後半では、クラスの受講生全員を４～５のスモール・グループに分けます。スモール・グループごとに、英語や日本語で質疑応答を行います。 第１回　　オリエンテーション 授業の進め方、モデル・プレゼン 第２回～１４回 グループ・プレゼン スモール・グループごとの質疑応答 全体での質疑応答 第１５回　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト、参考文献	アメリカの有名雑誌“Foreign Affairs” などに掲載された記事を配布します。
評価方法	プレゼン資料 50%、プレゼンテーション 30%、授業への参加度 20%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ（水２） （英語でグローバル社会を語る）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、以下の３つの目標（チャレンジ）が設定されています。 （１）グローバル社会のトピック＜雑誌記事＞に注目することです。（２）英語の運用能力を高めることです。（３）受講生が発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 授業は、出来る限り英語で行います。英語によるプレゼンテーション能力の開発に力を入れます。 プレゼンは、数名でグループを作り、準備をみんなで一緒に行います。専門講読が初めての２年生でも、経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。 重複履修する場合は、担当教員と相談して下さい。	授業の前半で、グループ・プレゼンを行います。後半では、クラスの受講生全員を４～５のスモール・グループに分けます。スモール・グループごとに、英語や日本語で質疑応答を行います。 第１回　　オリエンテーション 授業の進め方、モデル・プレゼン 第２回～１４回 グループ・プレゼン スモール・グループごとの質疑応答 全体での質疑応答 第１５回　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料の事前・事後の学習。
テキスト、参考文献	アメリカの有名雑誌“Foreign Affairs” などに掲載された記事を配布します。
評価方法	プレゼン資料 50%、プレゼンテーション 30%、授業への参加度 20%

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ（水２） （「客室乗務員」の社会学）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
旅客航空機の客室業務に専従する若年女性の乗務員、いわゆる「客室乗務員」は 1930 年代に登場しました。それまでは男性の副操縦士や steward が客室でお茶や軽食を提供していましたが、「女性化」された air hostess あるいは stewardess には独特な役割が期待されました。やがて戦後には世界各地でさまざまな「客室乗務員」のジェンダー化とステレオタイプ化が生じ、現在知られる「スチュワーデス」の社会的イメージが形成されてきました。 つまり「客室乗務員」とは、それぞれの時代や政治経済的状況を色濃く反映した「社会的な出来事」であり、ひとびとの憧れや欲望を具現化する「メディア」でもあります。 この授業では、「客室乗務員」の文化史を論じた複数の英語文献を講読することで、「客室乗務員」という切り口から現代社会の仕組みを深く理解することを目指します。授業は初回に担当文献を配布し、担当箇所をくじ引きで決定し（必ず出席してください）、グループ単位で発表してもらいます。 もともと「客室乗務員」に興味がある方はもちろん、その社会的イメージに違和感を持つ方の受講も歓迎します。（なお本授業では「CA 試験対策」などは一切できません。）	1.　ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 2.　講義：「客室乗務員」の社会的イメージとは （メディアとジェンダーの社会史） 3.～14.　発表、ディスカッション 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に 1 回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第 2 回の授業で説明します。
テキスト、参考文献	A. Freedman et al. (2013) *Modern Girls on the Go*, K. Barry (2007) *Femininity in Flight*, J. Omelia et al. (2006) *Come Fly with Us* ほか。必要部分を配布する予定。
評価方法	授業参加度 30%、発表 40%、発表以外の授業内活動 10%、期末レポート 20%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 I （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 春学期は、主に教科書を中心に第二外国語としての英語リスニング・発音指導の問題点や課題、そして提案されている解決策を学習する。学期の後半は、ペアあるいはグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材作成」も試みる。	1.　コース概要１：オリエンテーション 2.　Introduction（教科書 viii-xv） 3.　Unit 1：シラブル（音節）とは 4.　Unit 2：母音のルール 5.　Unit 3：強勢と母音長との関係１ 6.　Unit 4：強勢と母音長との関係２ 7.　Unit 1 - 4 のまとめ 8.　＜中間テスト＞ 9.　Unit 5：語強勢のさまざまなパターン 10.　Unit 6：内容語の文における役割 11.　Unit 7：機能語の役割（音としては弱いが重要） 12.　教材作成タスク　① 13.　教材作成タスク　② 14.　＜期末テスト＞ 15.　Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

09 年度以降	英語専門講読 II （実践的な英語の聴解・発音教育）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。 概要 第二外国語としての英語リスニング・発音の研究資料、あるいはウェブ教材なども参考にしながら、実践的な教授法を学習する。様子をみて、この学期の後半も、ペアあるいはグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材作成」に取り組む予定。	1.　コース概要１：オリエンテーション 2.　Unit 8：文のなかで強調される部分 3.　Unit 9：機能語をあえて強調する 4.　Unit 10：英語の /s/と/t/ 5.　Unit 11：英語の /r/と/d/, /l/と/d/ 6.　Unit 12：有声音・無声音について 7.　Unit 8 ～12 のまとめ 8.　＜中間テスト＞ 9.　Unit 13：シラブルの長さと有声・無声音との関係 10.　Unit 14：　'Sibilants' 11.　Lecture for Listening Practice 12.　教材作成（グループワーク）① 13.　教材作成（グループワーク）② 14.　＜期末テスト＞ 15.　Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　『Clear Speech – Pronunciation and Listening Comprehension in North American English – Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』(2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ（木１） （外国人が旅する Japan①：Lonely Planet 編）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
訪日外国人の増加を伝えるニュースに接する機会が多くなっていますが、彼らはどのようなJapanに関する情報をもとに、この東アジアの島国を旅するのでしょうか。 この授業では、世界で最も読まれている観光ガイドブック・シリーズLonely PlanetのJapan編を取り上げ、日本の歴史、文化、建築、ポピュラー・カルチャーなどを紹介した部分を批判的に読み解き、「外国人が旅するJapan」の一断面を理解することを目的とします。 Lonely Planetは英語版をはじめ、中国語や韓国語などにも翻訳されており、おもに個人旅行者が使うガイドブックとして世界的に知られています。そのJapan編は数年ごとに不定期改訂されるため、最新版を初回の授業で確認し、購入するか該当部分をコピーするか希望を募ります。 授業では、①グループでレジュメを作成して発表し、②トピックを一つ選び調査報告し、③全体で討論する、という方法をとります。履修者には主体的に課題に取り組むこと、また積極的に関連資料の収集や調査、そして討論に参加することを期待します。	1.　ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 2.　講義：観光ガイドブックのメディア特性について 補助資料の集め方と分析方法について 3.～14.　発表、ディスカッション 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に１回は指定個所を読み返してください。詳細は初回と第２回の授業で説明します。
テキスト、参考文献	Lonely Planet, *Japan*, ほか。授業開始の直前に最新版が刊行されることもあるため、初回の授業で確認するまでテキストの購入は控えてください（なお必要個所を配布する予定です）。
評価方法	授業参加度 30%、発表 30%、発表以外の授業内活動 30%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ（木１） （外国人が旅する Japan②：Michelin＆比較分析編）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、前期の「英語専門講読Ⅰ（外国人が旅する Japan①）」で取り組んだ講読の方法を応用し、フランスのタイヤメーカーであり著名な観光ガイドブック･ブランドを有する Michelin（ミシュラン）社の Japan 編（英語版）を批判的に読み解くことを目的とします。 そして授業の後半では、日本のいくつかの「まち」（たとえば京都、東京、広島、鎌倉など）を取り上げ、Lonely Planet と Michelin とその他のガイド・メディア（日本の「るるぶ」やネットの TripAdvisor など）を比較し、いかなる「外国人が旅する Japan」が観察できるのかを分析します。 前期の授業と同様に、観光ガイドブックは比較的読みやすいテキストですが、履修者には「文献を要約発表すること」と同等に「トピックを自ら選び調査報告すること（とくに英語文献を図書館やネットで入手し活用すること）」が求められます。そのため積極的に自由研究に取り組み、他の受講生の知的好奇心を刺激する発表を実現することに意欲的な方の受講を歓迎します。	1.　ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け 2.～10.　発表、ディスカッション 11.～14.　「まち」分析比較（場所は後日決定） 15. まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定個所を毎回必ず複数回精読し、論点を整理して授業に参加してください。 また授業後に１回は指定個所を読み返してください。詳細は初回の授業で説明します。
テキスト、参考文献	Michelin, Japan (The Green Guide, English Edition)ほか。前期と同様に初回の授業で最新版を確認するまでテキストの購入は控えてください（なお必要個所を配布する予定です）。
評価方法	授業参加度 30%、発表 30%、発表以外の授業内活動 30%、期末レポート 10%によって総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 I （Diplomacy and International Relations）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO **before the first class.**	1. Introduction 2. Evolution of Diplomacy (1) 3. Evolution of Diplomacy (2) 4. Evolution of Diplomacy (3) 5. Diplomacy of the American Revolution (1) 6. Diplomacy of the American Revolution (2) 7. Diplomacy of the American Revolution (3) 8. Midterm Examination 9. Diplomacy of the American Revolution (4) 10. Diplomacy of the American Revolution (5) 11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (1) 12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (2) 13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (3) 14. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (4) 15. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (5)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	英語専門講読 II （Diplomacy and International Relations）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond. Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn the essential aspects of international relations in English.	1. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (1) 2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (2) 3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (3) 4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (4) 5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (5) 6. The ANZUS Treaty (1) 7. The ANZUS Treaty (2) 8. Midterm Examination 9. The ANZUS Treaty (3) 10. The ANZUS Treaty (4) 11. Diplomacy in the Age of Globalization (1) 12. Diplomacy in the Age of Globalization (2) 13. Diplomacy in the Age of Globalization (3) 14. Diplomacy in the Age of Globalization (4) 15. Course Review

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	Siracusa, Joseph M., *Diplomacy: A Very Short Introduction* (Oxford: Oxford University Press, 2010).
評価方法	Evaluations will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.

09 年度以降	英語専門講読 I （ツーリズムの現状と課題）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国を訪問する外国人旅行者数は大きく伸びているが、我が国のツーリズムはいまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して、我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。 講義概要： 　本講義は、ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．Outline of Tourism in Japan ３．Japan’s World Heritage Site ４．Presentation & Discussion 1-(1) ５．Presentation & Discussion 1-(2) ６．Presentation & Discussion 1-(3) ７．Presentation & Discussion 1-(4) ８．Culture of Japan & “Cool Japan” ９．Travel & Tourism Competitiveness １０．Japanese National Culture １１．Pros and Cons of Japanese Tourism １２．Presentation & Discussion 2-(1) １３．Presentation & Discussion 2-(2) １４．Presentation & Discussion 2-(3) １５．Presentation & Discussion 2-(4)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト、参考文献	テキストを適宜配布する。
評価方法	受講姿勢、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％

09 年度以降	英語専門講読 II （航空の現状と歴史）	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　本講義においては、航空産業の現状と歴史について学習する。航空産業は外から見ると華やかな産業であるが故に、その重要な基本部分のことを忘れがちであるが、現在の航空産業を支える基礎には何があるのかを中心に考えることを目的としている。 講義概要： 　本講義は、航空産業関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語によるプレゼンテーション＋ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。	１．Orientation ２．The Airline Business in Japan(1) ３．The Airline Business in Japan(2) ４．The Airline Business in Japan(3) ５．The Airline Business in Japan(4) ６．The Airline Business in Japan(5) ７．The History of The Airline Business(1) ８．The History of The Airline Business(2) ９．The History of The Airline Business(3) １０．The History of The Airline Business(4) １１．Presentation & Discussion (1) １２．Presentation & Discussion (2) １３．Presentation & Discussion (3) １４．Presentation & Discussion (4) １５．Presentation & Discussion (5)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習。プレゼンテーションの準備。
テキスト、参考文献	テキストを適宜配布する。
評価方法	受講姿勢、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％

09 年度以降	英語専門講読 I （Global Woman I）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、昨年に引き続きグローバル化した世界のなかでのジェンダー問題、特に女性移民労働者についてのエッセイや論文を読む。主要テクスとするのは、*Global Woman: Nannies, Maids and Sex Workers in the New Economy*（2002）である。このテクストのなかから昨年度はとりあげられなかったものを読む予定である。 ある授業で、「グローバル・ウーマン」という言葉から、何を連想するかを尋ねたところ、次のようなイメージが大半をしめた。たとえば、「有益な仕事につき、外国語を操り、国境を越えて活躍する女性」。「高収入」という答えもあれば、「ハイヒールで空港を闊歩している」というものもあった。しかし、現在、国境を越えて移動する女性たちの多くは第三世界から第一世界への低賃金の移民労働者である。彼女たちが担うのは、第一世界の女性たちが好まなくなった「女性の役割」―テキストの副題にあるとおり、家事、育児、セックスワークだ。（秋学期の欄に続く）、	1. Introduction (1) 2. Introduction (2) 3. Introduction (3) 4. Just Another Job? The Commodification of Domestic Labor (1) 5. Just Another Job? The Commodification of Domestic Labor (2) 6. America's Dirty Work (1) 7. America's Dirty Work (2) 8. Breadwinner No More (1) 9. Breadwinner No More (2) 10. 日本における外国人労働者の実態（1） 11. 日本における外国人労働者の実態（2） 12~15. Presentations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で扱うテクストを熟読し、不明点を洗い出しておいてください。事後は必要に応じての復習をするとともに、授業時に紹介した参考文献を興味に応じて読んでください。
テキスト、参考文献	ハンドアウトを用意します。
評価方法	授業貢献　20%、プレゼンテーション 30%、期末レポート　50%

09 年度以降	英語専門講読 II （Global Woman II）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
（春学期の欄からの続き）その労働の現場では、どのような問題が起こっているのだろうか。そもそも、何がこのような状況を生み出しているのか。原因は複合的なものである。グローバリゼーションの問題とジェンダーの問題とが、複雑に絡み合っているのだ。 第三世界からの女性移民労働者の問題は、単純に彼女たちだけの問題ではない。彼女たちが後に残してくる家族、また彼女たちを必要とする、第一世界側の男性と女性にも関ってくるのである。つまり、第三世界からの女性移民労働者の問題について考えると、いくつもの異なる社会のジェンダーシステムが抱える課題が見えてくるのである。 様々な問題を扱ったエッセイや論文を読み（秋学期には Human Trafficking 一般についてのニュースも読む）、グローバリゼーションとジェンダーについて考えたい。各学期の最後の数回は、受講者によるプレゼンテーションに充てる予定である。	1. Selling Sex for Visas (1) 2. Selling Sex for Visas (2) 3. Because She Looks like a Child (1) 4. Because She Looks like a Child (2) 5. Because She Looks like a Child (3) 6~10. *The Guardian* より "Sex, lies, psychological scars: Ukraine human trafficking crisis" "miners, tea pickers and Bbides: these children are slaves, not labourers" "Carrying bricks, picking potatoes: all in a day's work for Syrian Children in Lebanon" "Weddings from Hell: Cambodian brides trafficked to China" 11. 日本における Human Trafficking の実態(1) 12. 日本における Human Trafficking の実態(2) 13-15. Presentations

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で扱うテクストを熟読し、不明点を洗い出しておいてください。事後は必要に応じての復習をするとともに、授業時に紹介した参考文献を興味に応じて読んでください。
テキスト、参考文献	ハンドアウトを用意します。
評価方法	授業貢献　20%、プレゼンテーション 30%、期末レポート　50%

09 年度以降	英語専門講読 I （日本のビート詩人、Nanao Sakaki の詩を読む）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
日本のビート詩人、ななお・さかきの英語の詩を読む。「日本の詩人の書いた英語の詩？」などと侮ってはいけない。さかきは、ビート詩人 Gary Snyder と深い交友を結び、自身の詩を書くときは、日本語と英語、両方を同時進行で書いていた。そして、英語版の Wikipedia にも掲載されている、れっきとした、英語で書いた詩人である。 　さかきは、世界恐慌のために実家の染物屋がつぶれ、アジア・太平洋戦争では、レーダー監視官をしていたため、原爆が長崎に落とされる現場をレーダー上で目撃している。資本主義と戦争の悲惨さの極点を経験した人物である。なにやら、現在の日本の状況と通底してくるところがある。 　そんな問題意識を持っている学生に受講してもらいたい。 　なお、授業は、学生のレポーター形式で進められる。	1. introduction 2. “A Love letter” “A 0sand Painting” 3. “Sharping a Knife” “An Axiom” 4. “Ladies and Gentlemen!” “One Two Three Four” 5. “Memorandum” “Future Knows” 6. “Halloween ‘79” “Why Do You Write Poems?” 7. “Top Ten of American Poetry” “A Message” 8. “Forever Green” “Autumn Equinox” 9. “All Right with the World” “After the First Snow” 10. “Grasshoppers” “Why” 11. “Please” “Vinegar” 12. “”Money Means” “Midday” 13. “Fade Away” “”Wanted” 14. “Seven Lines” “Clock” 15. “Go with Muddy Feet”

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習、復習は前提である。
テキスト、参考文献	Nanao Sakaki. *How to Live on the Planet Earth: Collected Poems*. Nobleboro, Me: Blackberry Books, 2013 参考文献は、授業中に適宜紹介する。
評価方法	学期末のレポート。欠席の多かった学生は、評価の対象にならない。

09 年度以降	英語専門講読 II （日本のビート詩人、Nanao Sakaki の詩を読む）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
引き続き、ななお・さかきの英語詩を読む。春学期のシラバスで書ききれなかった部分であるが、さかきのプリミティヴな社会への傾倒、そして時間意識を探る。 　春学期と同じく、授業は学生のレポーター形式で進められる。	1. 春学期の講評 2. “Stinkbugs” “An Abandoned Farmhouse” 3. “Specification for Mr. Nanao Sakaki’s House” 4. “The Battle of Toads” “ 5. “Medical Certificate” “November Song” 6. “A Biography” “Soil for Legs” 7. “Manifesto” “Break the Mirror” 8. “Happy New Year!” “Valentine’s Day” “A Big Day” 9. “Miracle” “Oh My Buddha” 10. “Daylight Moon” “Who Needs Allen Ginsberg in Japan?” 11. “Allen Ginsberg’s “The Supermarket in California” 12. “Let’s Eat Stars” “Twilight Man” 13. “If I Have Tomorrow” “In Honor of Persian Gulf War” 14. “Kokopelli” “Ear Means” 15. “Me, A Smuggler” “How to Live on the Planet Earth

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習、復習は前提である。
テキスト、参考文献	同上。
評価方法	同上。

09 年度以降	英語専門講読 I （コミュニケーションモデルズ）	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 コミュニケーション現象を客観的に理解し、分析できるようになる。 **講義概要** まずコミュニケーションのダイナミックなプロセス性を学んだ後、具体的なコミュニケーションモデルを10件くらい学び、その学びを定着させるためにそれらのモデルを利用して具体的なコミュニケーション現象を分析し発表してもらいます。	1.　導入 2.　コミュニケーションのプロセスの概念 3.　コミュニケーションの要素１（送り手・受け手） 4.　コミュニケーションの要素２（メディア） 5.　コミュニケーションの要素３（メッセージ） 6.　線形モデル１（ラスウェルのモデル、他） 7.　線形モデル２（ＡＢＣモデル、他） 8.　線形モデル３（議題設定モデル、他） 9.　春学期中間発表 10.　循環モデル１（オズグッドのモデル、他） 11.　循環モデル２（遠慮察しモデル、他） 12.　その他のモデル１（ガーブナーのモデル、他） 13.　その他のモデル２（沈黙の螺旋モデル、他） 14.　春学期最終発表 15.　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと
テキスト、参考文献	テキスト：　*Communication Models*, Longman.
評価方法	**授業への参加度 20%、発表 30%、最終レポート 50%**

09 年度以降	英語専門講読 II （イノベーションのコミュニケーション）	担当者	佐々木　輝美

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 イノベーション（技術革新）が普及していく過程を客観的に理解し、分析できるようになる。 **講義概要** イノベーション（技術革新）が普及していくプロセスはコミュニケーションプロセスの一形態であると捉えることができる。本講義ではイノベーションの定義を行った後、イノベーションが普及・伝達していく上で重要な要因である、1)イノベーションの採用過程、2)イノベーションの特徴、3)イノベーションの採用者類型、4)オピニオンリーダーやチェンジエージェントの特徴と役割などについて学んでいく。そして、授業での学びを定着させるために具体的なイノベーションを取り上げ、その普及戦略について発表してもらいます。	1.　導入 2.　イノベーションとは 3.　イノベーションのコミュニケーションに関わる要素 4.　イノベーションの採用過程１ 5.　イノベーションの採用過程２ 6.　イノベーションの採用課程３ 7.　イノベーションの特徴１ 8.　イノベーションの特徴２ 9.　秋学期中間発表 10.　イノベーションの採用者類型１ 11.　イノベーションの採用者類型２ 12.　オピニオンリーダーの特徴と役割 13.　チェンジエージェントの特徴と役割 14.　秋学期最終発表 15.　まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト内容の予習を行い、プレゼンに備えて授業での学習内容を定着させるための復習を行うこと
テキスト、参考文献	*Diffusion of Innovations(5th Ed.)*, Free press
評価方法	**授業への参加度 20%、発表 30%、最終レポート 50%**

09 年度以降	英語専門講読 I （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることをめざします。 講義概要： 1テーマを2週かけて取り上げます。政治や技術、医療などに関する英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱います。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。「通訳1」（水曜１限、水曜2限、木曜1限）および「通訳II」（木曜2限）とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 政治 3. 政治 4. 技術 5. 技術 6. 犯罪 7. 犯罪 8. IT 通信 9. IT 通信 10. 産業 11. 産業 12. 医療厚生 13. 医療厚生 14. 期末テスト 15. 春学期の総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください
テキスト、参考文献	テキスト：　適宜資料を配布します 参考文献：　適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語専門講読 II （通訳訓練のための原書講読）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得します。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることをめざします。 講義概要： 春学期に学んだ方法を応用しながら引き続き1テーマを2週かけて取り上げます。テーマは教育、環境、医学、経済など。英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱います。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましいです。「通訳1」（水曜１限、水曜2限、木曜1限）および「通訳II」（木曜2限）とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 教育 3. 教育 4. 国際関係 5. 国際関係 6. 環境 7. 環境 8. 軍事 9. 軍事 10. 医学 11. 医学 12. 経済 13. 経済 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出される事前・事後課題に取り組んでください
テキスト、参考文献	テキスト：　適宜資料を配布します 参考文献：　適宜紹介します
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語専門講読 I （ツーリズム研究の基礎概念）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究における主要な方法や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。 各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Economics of Tourism 4、Planning Tourism 5、Carrying Capacity / Destination Management 6、Regeneration 7、Experience Economy 8、Sociology of Tourism /Anthropology of Tourism 9、Authenticity 10、Tourist Gaze 11、Identity 12、Mobility 13、Post Tourism 14、総合討論 15、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト、参考文献	Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage. Robinson, P. ed. (2012) *Tourism the key concepts.* Routledge
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 50%　期末課題 30%

09 年度以降	英語専門講読 II （ツーリズム研究の現代的課題）	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
本授業は、観光研究の対象となる諸事象について、基礎的な理解を得ることを目的とする。とくに、春学期に学んだ観光研究の基礎概念をもとに、近年関心が寄せられている主要な観光形態について批判的に考察することを目指したい。 Sageの*key concepts in tourist studies*およびRoutledgeの*Tourism the key concepts*をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。 各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要個所をコピーして配布する。	1、ガイダンス 2、発表方法について（講義） 3、Sustainable Tourism 4、Eco Tourism 5、Cultural Tourism 6、Heritage Tourism 7、Art Tourism/ Gastronomic Tourism 8、Film and TV Tourism/ Literary Tourism 9、Rural Tourism 10、Urban Tourism 11、Sex Tourism 12、Dark Tourism 13、Ethical Tourism 14、総合討論 15、まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当者以外も該当箇所を読了の上授業に参加のこと。
テキスト、参考文献	Smith,　M.、N. Macleod and M. Robertson (2010) *key concepts in tourist studies.* Sage. Robinson, P. ed. (2012) *Tourism the key concepts.* Routledge
評価方法	授業内発表 20%　授業内小課題 50%　期末課題 30%

09 年度以降	英語専門講読 I （21 世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、21 世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。 課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。 授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこことする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定 2　文献①－１ 3　文献①－２ 4　文献①－３ 5　文献②－１ 6　文献②－２ 7　文献②－３ 8　文献③－１ 9　文献③－２ 10　文献③－３ 11　文献④－１ 12　文献④－２ 13　文献④－３ 14　文献⑤－１ 15　文献⑤－２

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題テキストの自宅学習（和訳レポートの作成）
テキスト、参考文献	適宜、プリントを配布する。
評価方法	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が **4 回**に達すると、評価の対象にならないので注意すること。

09 年度以降	英語専門講読 II （21 世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察）	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、21 世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。 課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。 授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこことする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにしたい。	1　はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定 2　文献⑥－１ 3　文献⑥－２ 4　文献⑥－３ 5　文献⑦－１ 6　文献⑦－２ 7　文献⑦－３ 8　文献⑧－１ 9　文献⑧－２ 10　文献⑧－３ 11　文献⑨－１ 12　文献⑨－２ 13　文献⑨－３ 14　文献⑩－１ 15　文献⑩－２

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題テキストの自宅学習（和訳レポートの作成）
テキスト、参考文献	適宜、プリントを配布する。
評価方法	平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が **4 回**に達すると、評価の対象にならないので注意すること。

09 年度以降	英語専門講読Ⅰ （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
時代の変化がますます激しくなってきたことを実感する機会が更に多くなってきましたが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、今の時代に現実問題として不安を抱えているのではないでしょうか。 そんな状況の中で、「**詩を学ぶ**」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、**詩を学ぶことも実用的**だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「**言葉の力」を体感**することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「**詩を学ぶ＝生き方を学ぶ**」と言えるかもしれません。 詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージが詩にあるとしたら、詩を一面的にしかみていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものだと思います。（↓に続きます。）	私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます（便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です）。 発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。 1.　ガイダンス 2.　履修確定の学生との確認、グループ＆担当箇所の決定 3-4　オーストラリアの歴史①② 5-6　アボリジニの歴史①② 7-8　アボリジニの神話・伝説①② 9-10　英訳されたアボリジニの詩①② 11-14　英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤ 15.　講義のまとめ **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね。** **※　グループ作りは、私が決めるのではなく、学生の皆様同士で決めるようお願いしています。３人～５人のグループになって頂きたいのですが、人数調整が必要な場合のみ、私が最後に介入します。**

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、関連項目に関して各個人で資料を探し、議論できる状態にしておいてください。 ＊事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。
テキスト、参考文献	テキストはプリントして配布します。 参考文献は授業で随時紹介いたします。
評価方法	＊提出物（レポート）８０％、授業の参加度２０％ ＊ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	英語専門講読Ⅱ （オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
（↑からの続きです） 「**オーストラリアを学ぶ**」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないでしょうか。 それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。（例えば「オーストラリア人とは誰を指すか？」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。） 講義目的をまとめて書くと、「**言葉の力を体感する**」「**オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す**」「**オーストラリアを通して己を考える**」また、発表形式の授業ですので「**自分の言葉で考え、語る**」ことになります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「**自分の意見を他人に正確に伝える**」ことも学んでほしい大事なことです。 「授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立てるような事をお伝えする。」これが、私自身の最大の目的です。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。 春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。 春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。 1.　ガイダンス 2～14. オーストラリアの詩、精読 15. 講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に配布された詩を、発表者だけではなく、各個人でもあらかじめ読んでおいてください。 ＊事後には、授業内で議論した内容を咀嚼し、新たな資料を見つけ、理解を深めてください。
テキスト、参考文献	テキストはプリントして配布します。 参考文献は授業で随時紹介いたします。
評価方法	＊提出物（レポート）８０％、授業の参加度２０％ ＊ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	英語専門講読 I （認知言語学）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、認知言語学の基本的な考え方を身につけること及び英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の言語観を紹介する書物である。 講義では、下記のテキストの１章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. E-language and I-language 1 3. E-language and I-language 2 4. E-language and I-language 3 5. Studying E-language—not such a simple matter! 1 6. Studying E-language—not such a simple matter! 2 7. Studying E-language—not such a simple matter! 3 8. Corpora and their representativeness 1 9. Corpora and their representativeness 2 10. The BNC and linguistic experience 1 11. The BNC and linguistic experience 2 12. The World Wide Web 1 13. The World Wide Web 2 14. 春学期の講義のまとめ 15. 春学期の講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。
テキスト、参考文献	Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind*. Oxford: Oxford University Press.（購入は要しない）
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語専門講読 II （認知言語学）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、認知言語学の基本的な考え方を身につけること及び英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、認知言語学の言語観を紹介する書物である。 講義では、下記のテキストの２章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は、鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. A rule-based approach to linguistic knowledge 1 3. A rule-based approach to linguistic knowledge 2 4. A rule-based approach to linguistic knowledge 3 5. The generative model in relation to data 1 6. The generative model in relation to data 2 7. The lexicon 1 8. The lexicon 2 9. The lexicon 3 10. Compositionality 1 11. Compositionality 2 12. Compositionality 3 13. In Conclusion 14. 秋学期の講義のまとめ 15. 秋学期の講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。
テキスト、参考文献	Taylor, John R. (2012) *The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind*. Oxford: Oxford University Press.（購入は要しない）
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加及び担当をこなすことは前提である。なお、特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語専門講読 I （Sherlock Holmes in simple English）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
Are you interested in Sherlock Holmes's series written by Arthur Conan Doyle? If you are, this course might be good for you. We are going to read three well-known Holmes stories. Perhaps Doyle's original English is a little too challenging, so we are going to use retold versions for English learners (at intermediate level). In each of the classes, we will make small groups to talk about the stories at different angles. In the latter part of each class, I will give small lectures on historical and cultural backgrounds. After reading through each of the stories, we will watch TV adaptations (with Jeremy Brett as Holmes) and compare them with the stories. All the class are conducted in English. I hope all the students will improve English skills by reading, discussing, writing about Holmes in simple English.	1. Introduction 2. "The Specked Band" (1) 3. – (2) 4. – (3) 5. Viewing the dramatized version 6. "The Dancing Men" (1) 7. – (2) 8. – (3) 9. Viewing the dramatized version 10. "The Red-Headed League" (1) 11. – (2) 12. – (3) 13. Viewing the dramatized version 14. Wrap-up (1) 15. – (2)

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	The students will be assigned to read about 10 pages and fill in worksheets.
テキスト、参考文献	Arthur Conan Doyle, *The Speckled Band and Other Stories* (Macmillan readers, 2005)
評価方法	Participation 20%, Worksheet 30%, Mini-essays 30%, Final essay 20%

09 年度以降	英語専門講読 II （Sherlock Holmes in simple English）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
In this term, we are going to read through Arthur Conan Doyle's *The Hound of the Baskervilles.* Doyle wrote four longer stories on Sherlock Holmes, and this was one of them. In this story, there are lots of exciting elements such as the legendary dog (hound), which we are going to examine. Again, Doyle's English is a little bit difficult, so we will use a retold version for English learners (at intermediate level). We will discuss the story in small groups, and I will give small lectures on historical and cultural backgrounds. The story has been dramatized in many ways, and recently, it is adapted and modernized as "The Hounds of Baskerville" (starring Benedict Cumberbatch as Holmes). We will compare it with the original story. All the class work will be conducted in English.	1. Introduction 2. *The Hound of the Baskervilles*, pp. 1-7 3. --, pp. 7-18 4. --, pp. 18-27 5. --, pp. 27-37 6. --, pp. 38-43 7. --, pp. 44-52 8. --, pp. 52-60 9. --, pp. 60-66 10. --, pp. 67-75 11. --, pp. 76-81 12. --, pp. 82-87 13. Viewing "The Hounds of Baskerville" (1) 14. Viewing "The Hounds of Baskerville" (2) 15. Wrap-up

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	The students will be assigned to read about 10 pages and fill in worksheets.
テキスト、参考文献	Arthur Conan Doyle, *The Hound of the Baskervilles* (Oxford University Press, 2008)
評価方法	Participation 20%, Worksheet 30%, Mini-essays 30%, Final essay 20%

09 年度以降	英語専門講読 I （Reading oral histories）	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーション研究や歴史学で扱われてきたオーラルヒストリー(口述の歴史)のアプローチで執筆された作品を読む授業である。主要テクストとして、ピューリッツァー賞を受賞したスタッズ・ターケルの晩年の著作、*Hope Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times*（日本語訳書名『希望―行動する人々』）およびDivision Street: Americaを扱う。前者では日本語訳書の未訳部分を読み、9.11以降の米国の様々な声に耳を傾けてその理解を図り、後者では1960年代の米国の状況の理解を図る。 　ターケルの書籍はインタビューに基づいて書かれたもので理論書ではない。授業で作品を読み進める際には、関連するコミュニケーション理論―声の文化・文字の文化、作者の役割、語り手の役割、視点、歴史とコミュニケーションの接点、公共圏―の紹介も行う。	1 授業概要の説明―オーラルヒストリー、コミュニケーション研究について 2-14 Hope Dies Last および Division Street の講読 15 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備、未習単語の確認・既習単語の復習、時代背景、社会背景の調査など
テキスト、参考文献	Terkel, Studs. Hope *Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times*. New York: New Press, 2003. ---. Division Street: America. New York: New Press, 2006 (1967).【参考文献】ターケル他の著作
評価方法	授業内小テスト・授業コメント・授業活動参加(50%)、発表(30%)、レポート(20%)

09 年度以降	英語専門講読 II （Reading oral histories）	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、ターケルの *Hope Dies Last* および *Division Street* の講読を続ける。春学期で読めなかった部分を扱う。 * 春学期・秋学期ともに、(1) 作品の言語レベルでの理解、(2) 作品への賛同・異論・批判などに基づく発表やクラスディスカッションを行う。学生は該当箇所のまとめ、質問、ディスカッションのリーダーなどを行うことが求められる。	1 授業概要の説明―オーラルヒストリー、コミュニケーション研究について 2-14 *Hope Dies Last* および *Division Street* の講読 15 まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	発表準備、未習単語の確認・既習単語の復習、時代背景、社会背景の調査など
テキスト、参考文献	Terkel, Studs. Hope *Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times*. New York: New Press, 2003. ---. Division Street: America. New York: New Press, 2006 (1967).【参考文献】ターケル他の著作
評価方法	授業内小テスト・授業コメント・授業活動参加(50%)、発表(30%)、レポート(20%)

09 年度以降	英語専門講読 I （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の文化や社会の動態について、エスニシティやジェンダー、地域的多様性、ポップカルチャーなどを題材に考えてみたいと思います。 従来、日本社会についての諸研究は「日本人らしさ」や「国民性」などを所与のものとして扱うものが主流でしたが、この授業ではこうした視点を批判的に検討し、マルチカルチュラルな視点から現代日本の現状を捉えることを目指します。 教材として扱うのは、社会学者によって書かれた日本研究の基本的な（＝英語圏の大学生向け）文献です。 授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。 なお、教材については、各自アマゾン等で購入するか、各自図書館で必要な箇所をコピーしてください。	1. 趣旨説明・グループ分け(初回授業で発表スケジュール等を決めるので、必ず出席すること。万が一、出席できない[できなかった]場合は、メールで履修の意思を担当教員に伝えること。) 2. 本授業で扱うテーマについての解説 1（講義） 3. 本授業で扱うテーマについての解説 2（講義） 4~14. テキストの内容紹介・ディスカッション 15. まとめ ※ この授業では、テキストの中から、以下の 5 つの章を扱います。 1. Japan Phenomenon and the Social Sciences 3. Geographical and Generational Variations 6. Gender Stratification and the Family System 7. Minority Groups: Ethnicity and Discrimination 9. Popular Culture and Everyday Life

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	一定の社会学的素養が求められるので、日本語で書かれた社会学の基本文献等を併せて読むことが望ましい。
テキスト、参考文献	Sugimoto, Yoshio 2014. *An Introduction to Japanese Society (Forth Edition)*. Cambridge and New York: Cambridge University Press. 【版に注意すること】
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読 II （Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本の多民族・多文化状況をテーマに、長期間のフィールドワークにもとづいて書かれた民族誌（エスノグラフィ）の読解・議論を通じて、多文化共生の可能性や課題について考えます。 班ごとにテーマを決め、在日コリアンやムスリム、日系ブラジル人、フィリピン人女性などについて書かれたてテキストの内容紹介をしてもらいます。その上で、首都圏近郊のエスニック・タウン（新大久保、池袋、高田馬場、三河島、八潮、竹の塚、大泉町、鶴見など）にて、プチ・フィールドワークを行ない、その成果を学期末に報告をしてもらいます。 授業の進め方は、受講生数によって適宜調整しますが、基本的にはグループ作業を基本とした演習形式で行ないます。そのため、ディスカッション等に積極的に参加することが履修・単位取得の条件となります。 また、英語文献を教材として扱いますが、英文読解力の向上にとどまらず、グローバル化が加速化している今日的状況を「文化」という視点から考えるための文化人類学的・社会学的思考を養うことを目的とします。	1. 講義 2~14. テキストの内容紹介・ディスカッション 15.　総合討論・まとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本の移民や難民を取り巻く状況について、新聞記事等で情報収集をしておこくこと。
テキスト、参考文献	初回の授業で、論文リスト（基本的には学術雑誌所収論文）を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。入手困難なものについては、担当者が配布する。
評価方法	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

09 年度以降	英語専門講読 I （Conflict, Peace and Development）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとして、様々な角度から紛争と開発に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題の理解を深めることを目的としています。授業では、 1.　テーマに関連した英語の書籍・論文をテキストとして使用します。 2.　英語のプレゼンテーションとグループ討論（グループ討論の言語は受講生のレベルをみてから決定）形式で進めます 3.　主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。グループ・ワークは、学年混合のグループで行います。 授業の流れは以下のとおりです。 プレゼン内容（章・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループによる討論→小グループごとのまとめ発表→全体での討論・まとめ。 授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 紛争・平和と開発問題に関心のある学生の参加を歓迎します。	1.　講義のオリエンテーション、グループ編成等 2.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 3.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 4.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 5.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 6.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 7.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 8.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 9.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 10.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 11.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 12.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 13.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 14.　講義のまとめ 15.　講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章・論文を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイント）の他、事後にもグループ討論において出された質問への回答を準備する場合があります。
テキスト、参考文献	*Conflict and Development*（Routledge Perspective on Development）Mac Ginty &Roger, Routledge, 2016 を資料する予定ですが、詳細については、最初の授業で説明します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業への貢献度で総合的に評価します。

09 年度以降	英語専門講読 II （Conflict, Peace and Development）	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「Conflict and Development」をテーマとして、様々な角度から紛争と開発に関わる課題を学ぶと共に、討論を通じて課題の理解を深めることを目的としています。授業では、 1.　テーマに関連した英語の書籍・論文をテキストとして使用します。 2.　英語のプレゼンテーションとグループ討論（グループ討論の言語は受講生のレベルをみてから決定）形式で進めます 3.　主体的なグループ・ワークによってプレゼンテーションの準備・発表を行います。グループ・ワークは、学年混合のグループで行います。 授業の流れは以下のとおりです。 プレゼン内容（章・論文）の決定→グループでの準備作業→授業でのプレゼン→小グループによる討論→小グループごとのまとめ発表→全体での討論・まとめ。 授業の教材、及び進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 紛争・平和と開発問題に関心のある学生の参加を歓迎します。	1.　講義のオリエンテーション、グループ編成等 2.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 3.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 4.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 5.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 6.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 7.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 8.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 9.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 10.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 11.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 12.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 13.　プレゼン、小グループ討論・発表、全体討論 14.　講義のまとめ 15.　講義のまとめ

到達目標	分野の専門性をもった英文マテリアル（資料）を講読、読解できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章・論文を読んで事業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備（パワーポイント）の他、事後にもグループ討論において出された質問への回答を準備する場合があります。
テキスト、参考文献	*Conflict and Development*（Routledge Perspective on Development）Mac Ginty &Roger, Routledge, 2016 を資料する予定ですが、詳細については、最初の授業で説明します。
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業への貢献度で総合的に評価します。

09 年度以降	英語の世界Ⅱ	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
ことばとそれを用いる人間のこころの間には密接につながりがある。また、ことばは、それが用いられている社会、文化とも無縁ではない。このような考え方に立てば、ことばについての研究は自ずと、われわれのこころや社会、文化についての研究となる。 本講義では、主に日本語と英語を取り上げ、両者の比較を通して、最終的には、日本社会や日本文化の特性について考察を進めて行く予定である。テキストについては、何が述べてあるかを理解することは当然ながら、どう述べてあるか、ある主張を行なうにあたって、どういった証拠により、どういう議論が展開されているか、ということにも十分注意を払いながら講義をしたい。（何か覚えるべき事柄を与えられ、それをいっとき頭の中に蓄えることを勉強と考える者には回りくどいと感じられるであろうが、真の意味での理解はこのようにしてしか得られないと考える）	1.　オリエンテーション、講義の概要 2.　日本人は「集団主義的」か（その１） 3.　日本人は「集団主義的」か（その２） 4.　日本人は「集団主義的」か（その３） 5.　日本人は「集団主義的」か（その４） 6.　代名詞の不使用と自己志向性（その１） 7.　代名詞の不使用と自己志向性（その２） 8.　代名詞の不使用と自己志向性（その３） 9.　代名詞の不使用と自己志向性（その４） 10.　伝聞と情報のなわ張り（その１） 11.　伝聞と情報のなわ張り（その２） 12.　伝聞と情報のなわ張り（その３） 13.　伝聞と情報のなわ張り（その４） 14.　講義のまとめ 15.　講義のまとめ

到達目標	英語学に関して基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された範囲を事前に精読することと復習をすること。
テキスト、参考文献	テキスト：廣瀬幸生・長谷川葉子『日本語から見た日本人―主体性の言語学』（開拓社、2010 年）
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	英語の世界Ⅱ	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
受講者はTOEIC900点以上の取得者からbreakの過去形をbrokedと、また冠詞や-s をdogに付ける場合と付けない場合（はだか名詞）の使い分けの違いを知らない人までさまざまいますが、9割は教諭免許取得希望者ですから、授業の狙いは、言語学の最近の研究成果を踏まえ、英語の母語話者(native speakers)が頭の中に収めている英語についても本当の姿についての知識をしっかり身につけてもらうことにあります。 したがって、授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対する「なるほど！」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。 この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、既習文法知識とその発想を捨てたうえで予習･復習をしていればそのようなことはありません。	1. モノの捉え方と表現の仕方 2. 前置詞の意味 3. 不定冠詞 vs. はだか名詞 4. 英語と日本語の情報構造 5. 情報の新旧と冠詞 6. 自動詞構文と他動詞構文 7. BE 受動文の使い方 8. GET 受身と BE 受身･動詞的受身と形容詞的受身 9. 再帰代名詞の使い方 10. 動詞の意味と構文（結果構文） 11. 動詞の意味と構文（二重目的語構文･ほか） 12. 否定の意味 13. 時制（現在と過去）とアスペクト（進行相と完了相） 14. 助動詞の使い方 15. 存在を表す表現（there 構文とはだか存在文）

到達目標	英語学に関して基礎知識を習得し、言語データを分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習（プリントをよく読み、わからない表現を調べて質問内容を整理）し、復習（学習内容をノート等にまとめ、関連事項について調べ、疑問に思ったことがあれば質問する）のを怠らないこと。
テキスト、参考文献	グーグルドライブ(https://drive.google.com/drive/folders/0B4rDsDKjudu5VVpQZ3pRZWUxWTA)から毎回授業用プリントをダウンロード印字する。
評価方法	最終成績は 100 点満点の定期試験による。多少変更のある場合は第 1 回目の授業で説明される。

09 年度以降	観光英語 I	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
国際化の時代、海外に旅行したり滞在している日本人、海外から来日する外国人の数も急激に増えています。この講義では、将来観光業、旅行業、エアライン業、ホテルレストラン業などの各種業界で自分の語学力、特に英語を活かして活躍を考えている人を対象としています。このような業界では、英語の一般的能力ばかりでなく、その業界の専門用語や独特の言い回しを身につけなければなりません。そこで、この講義では主として観光や旅行の仕事で役立つ観光英語を習得することを目的とし、「観光英語検定試験」の2級合格の実力を目指します。 観光英語 I では、海外の世界遺産や観光地の話題を取り上げて、旅行と観光の分野に関する用語や表現を学びながら、文化の違いなども研究することを目標とします。	1. Orientation 2. 観光英語検定試験 2 級の問題研究(1) 3. 観光英語検定試験 2 級の問題研究(2) 4. ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究(1) 5. 通常授業＋小テスト（30 分） 6. ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究(2) 7. ヨーロッパの世界遺産や観光地の研究(3) 8. 北米・南米の世界遺産や観光地の研究(1) 9. 北米・南米の世界遺産や観光地の研究(2) 10. 通常授業＋小テスト（30 分） 11. 北米・南米の世界遺産や観光地の研究(3) 12. アジア・豪州の世界遺産や観光地の研究(1) 13. アジア・豪州の世界遺産や観光地の研究(2) 14. アジア・豪州の世界遺産や観光地の研究(3) 15. 春学期の講義のまとめ

到達目標	ツーリズム業界の専門用語や独特の言い回しなど、海外旅行、および観光・旅行業務に必要な中級レベルの英語を習得し、観光英語として運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト、参考文献	テキスト：なし　参考文献：観光英検に関する語彙集や問題集（研究社、三修社など）
評価方法	定期試験（50%）、課題・小テスト（40%）、授業貢献度（10%）

09 年度以降	観光英語Ⅱ	担当者	落合　康男

講義目的、講義概要	授業計画
2019 年のラグビーワールドカップ、2020 年の東京オリンピックの開催、日本への外国人訪問客数 2000 万人突破目前という話題は、少子化による日本経済の先細りが心配されている中、観光業の波及効果への期待はとても大きなものになっています。来日する外国人旅行者は、もちろんいろいろな言葉を使いますが、英語のグローバル性を考慮すれば、英語がその中心的役割を果たすことは間違いありません。そこで、この講義では、主として観光や旅行の仕事で役立つ観光英語を習得することを目的とし、「観光英語検定試験」の 1 級合格の実力を目指します。 観光英語Ⅱでは、国内の自然景観、文化遺産、伝統工芸、行事、祭りなどに加えて、日本の文化・観光に貢献してくれた外国人を取り上げます。また、観光に関する最新のニュースがある場合は、授業の中に随時取り入れていきます。	1. Orientation 2. 観光英語検定試験 1 級の問題研究(1) 3. 観光英語検定試験 1 級の問題研究(2) 4. 国内の観光・文化・歴史に関する問題(1) 5. 通常授業＋小テスト（30 分） 6. 国内の観光・文化・歴史に関する問題(2) 7. 国内の観光・文化・歴史に関する問題(3) 8. 英語での日本観光名所案内(1) 9. 英語での日本観光名所案内(2) 10. 通常授業＋小テスト（30 分） 11. 英語による国内の行事・祭りの紹介(1) 12. 英語による国内の行事・祭りの紹介(2) 13. 日本の文化・観光に貢献した外国人(1) 14. 日本の文化・観光に貢献した外国人(2) 15. 秋学期の講義のまとめ

到達目標	ツーリズム業界の専門用語や独特の言い回しなど、海外旅行、および観光・旅行業務に必要な中級レベルの英語を習得し、観光英語として運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業の最後に次回用の資料を配布しますので、精読して質問・発表の準備をしておくこと。また、授業後は必ず復習をして、その日の授業内容の整理・確認をすること。
テキスト、参考文献	テキスト：なし　参考文献：観光英検に関する語彙集や問題集（研究社や三修社など）
評価方法	定期試験（50%）、課題・小テスト（40%）、授業貢献度（10%）

09 年度以降	通訳案内士の英語Ⅰ	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 通常通訳ガイドとして最低限求められる読解力、説明力、語彙力等、口述力以外の総合的な語学能力を身につけることを目的とする。具体的には通訳案内士試験の第一次試験の合格を目指すことを目標とする。 授業の概要 明確な目標の下、多角的な問題演習を多くこなしてゆく。また臨機応変の対処ができるよう収斂・弛緩を繰り返す集中的訓練を中心としたPair-work, Group-workの形式で相互訓練、及びCommunication訓練を行う。	授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：Orientation 第３回：実際の通訳案内士試験問題に取り組む 第４回：必要とされる英語レベルの確認を行いながら、自己の英語総合力を認識させる 第５回：様々な英語（各国の訛・特徴）を知る 第６回：Speaking の訓練方法を紹介実践 第７回：Listening の訓練方法を紹介実践 第８回：Writing の訓練方法の紹介実践 第９回：Extensive/Intensive Reading の紹介実践 第１０回：模擬通訳案内士試験問題取り組み 第１１回：英字新聞を利用し、時事問題について簡潔に伝える練習を行う 第１２回：映画を利用して名場面を英語で紹介する練習を行う 第１３回：日本の名所旧跡を選び印象的に紹介する練習をする 第１４回：日本一週のガイドに挑戦 第１５回：まとめ

到達目標	中級レベル英語の読解力、説明力、語彙力等を総合的に習得し、通訳案内士として実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修として英語の名言集に取り組む。事後学修として授業で行った活動を毎回英語で Ａ４、１ 枚にまとめ学期末に提出する準備をする。
テキスト、参考文献	参考書　『学生の学生による学生のための和英辞書』　（新翠舎）
評価方法	授業でのグループワーク 30%　課題 20%　試験・レポート 30%　授業貢献度 20%

09 年度以降	通訳案内士の英語Ⅱ	担当者	日野　克美

講義目的、講義概要	授業計画
授業の到達目標及びテーマ 「通訳案内士の英語Ⅰ」の続きの授業であるが、「通訳案内士の英語Ⅰ」で目標とした英語力に加え、通訳案内士の第２次口述試験を合格するのに必要な実践的コミュニケーション能力の訓練を行う 授業の概要 「通訳案内士の英語Ⅰ」の授業の方式を踏襲しつつ、更に高度な応用能力を涵養すべく、擬似口述試験の練習を定期的に取り入れる。クラス内でゲストを招き実際の通訳案内の体験を行う。	授業計画 第１回：ガイダンス 第２回：Orientation（通訳案内士の英語Ⅰで身につけた総合力の確認） 第３回：Project（観光案内の計画）大テーマ策定 第４回：各グループに分かれ、テーマを絞り、観光計画策定 第５回：各グループで調査･演習活動（１）具体的計画策定 第６回：各グループで調査･演習活動（２）計画実行及び反省・検討 第７回：各グループ発表（審査･検討会） 第８回：新しいテーマと新しいグループによる観光案内計画策定 第９回：各グループで調査･演習活動（１）前回の計画・実行の反省・検討を基に計画策定 第１０回：各グループで調査･演習活動（２）計画実行及び反省・検討 第１１回：各グループ発表（審査･検討会） 第１２回：模擬試験 第１３回：模擬試験検討会 第１４回：各人による観光案内計画発表 第１５回：まとめ

到達目標	「通訳案内士の英語Ⅱ」の学習成果のうえに、中級レベル英語の読解力、説明力、語彙力等を総合的に向上させ、通訳案内士試験の第２次口述試験を合格するのに必要な、実践的なコミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修として英語の諺・格言集に取り組む。事後学修として授業で行った活動を毎回英語で Ａ４、１ 枚にまとめ学期末に提出する準備をする。
テキスト、参考文献	参考書　『英語で読む日本史』　講談社、『翻訳力練成テキストブック』　日外アソシエーツ
評価方法	授業でのグループワーク 30%　課題 20%　試験 30%　授業貢献度 20%

09 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたい学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。**将来に役立つ実践的なBusiness Writingの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。** 具体的に講義を説明致します。英文貿易の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、英文ビジネスレターの書き方を指導致します。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な**英文履歴書と英文カバーレターの書き方**も分かりやすく説明し、指導していきます。 **English for BusinessとBusiness Writingの講義を併せて履修すると、社会に出ても十分に通用するBusiness Englishを総合的に学習することになります。**	1. 講義の概要 2. ビジネスレターの形式（1） 3. ビジネスレターの形式（2）＆練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方＆練習問題 5. 取引の申込み＆練習問題 6. 取引の申込みに対する応答＆練習問題 7. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 8. 中間試験と復習 9. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 10. オファーに対する応答＆練習問題 11. 信用状＆練習問題 12. 積出し＆練習問題 13. クレーム＆練習問題 14. 就職申込状の書き方 15. まとめ 尚、第１回目の授業で担当教員が詳しく説明いたします。

到達目標	ビジネスに必要な電子メール、英文レター&ファックスや各種報告書などの英文を、パラグラフ単位で作成できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回までとする。

09 年度以降	Business Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では本格的なビジネスレターの書き方を分かりやすく解説し、指導していきます。外資系企業、航空業界、貿易業界、国際物流業界、メーカーの国際部、金融業界、ホテル・観光業界等で英語を使用して働きたい学生を対象に講義を進めていきたいと思っています。**将来に役立つ実践的なBusiness Writingの講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。** 具体的に講義を説明致します。英文貿易の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、英文ビジネスレターの書き方を指導致します。同時に、国際企業への就職活動や海外の大学・大学院に入学するために必要な**英文履歴書と英文カバーレターの書き方**も分かりやすく説明し、指導していきます。 **English for Business と Business Writing の講義を併せて履修すると、社会に出ても十分に通用する Business English を総合的に学習することになります。**	1. 講義の概要 2. ビジネスレターの形式（1） 3. ビジネスレターの形式（2）＆練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方＆練習問題 5. 取引の申込み＆練習問題 6. 取引の申込みに対する応答＆練習問題 7. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 8. 中間試験と復習 9. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 10. オファーに対する応答＆練習問題 11. 信用状＆練習問題 12. 積出し＆練習問題 13. クレーム＆練習問題 14. 就職申込状の書き方 15. まとめ 尚、第１回目の授業で担当教員が詳しく説明いたします。

到達目標	ビジネスに必要な電子メール、英文レター&ファックスや各種報告書などの英文を、パラグラフ単位で作成できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎著『BUSINESS WRITING－英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
評価方法	中間試験 30%、定期試験 60%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則５回までとする。

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research）（月 4） Academic Writing	担当者	M．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have a number of opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research T1 3. Using Evidence to Support Ideas T2 4. Sourcing Information T3 5. Developing a Project T4 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus T5 8. Introductions, Conclusions and Definitions T6 9. Incorporating Data and Illustration T7 10. Preparing for Presentation T8 11. Giving Critical Feedback 12. Presentation and Peer Evaluation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Group Research Projects - final paper due 15. Course Review and Evaluations

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	McCormack, J., Slaght, J., (2012). *English for Academic Study: Extended Writing and Research Skills*, Garnet Education.
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research）（月 4） Academic Writing	担当者	M．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have a number of opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research T1 3. Using Evidence to Support Ideas T2 4. Sourcing Information T3 5. Developing a Project T4 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus T5 8. Introductions, Conclusions and Definitions T6 9. Incorporating Data and Illustrations T7 10. Preparing for Presentations T8 11. Giving Critical Feedback 12. Presentations and Peer Evaluations 13. Presentations and Peer Evaluations 14. Group Research Projects – final paper due 15. Course Review and Evaluations

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	McCormack, J., Slaght, J., (2012). *English for Academic Study: Extended Writing and Research Skills*, Garnet Education.
評価方法	Class involvement,20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	E．J．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills in order to produce longer papers. There will be a number of in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.	1. Introduction to the course 2. Workshop – What is academic writing 3. Library and internet-based research skills 4. Paraphrase and summary skills 1 5. Paraphrase and summary skills 2 6. Narrowing the topic—mid- term paper 7. The structure of a longer paper 8. Citation and reference skills 9. Editing and proofreading a longer essay 10. Combining sources - topic for final paper 11. Making a questionnaire/ case study 12. Revisiting introductions and conclusions 13. Editing and proofreading 14. Presenting research 15. Sharing the final product

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Student must review materials before class and after class, submit assignments and revise them.
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the instructor.
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper, 30%; final paper and presentation 50%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	E．J．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills in order to produce longer papers. There will be a number of in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.	1. Introduction to the course 2. Workshop – What is academic writing 3. Library and internet-based research skills 4. Paraphrase and summary skills 1 5. Paraphrase and summary skills 2 6. Narrowing the topic—mid- term paper 7. The structure of a longer paper 8. Citation and reference skills 9. Editing and proofreading a longer essay 10. Combining sources – topic for final paper 11. Making a questionnaire/ case study 12. Revisiting introductions and conclusions 13. Editing and proofreading 14. Presenting research 15. Sharing the final product

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Student must review materials before class and after class, submit assignments and revise them.
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the instructor.
評価方法	Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper, 30%; final paper and presentation 50%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Business） Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace. We will use a course book in business English with reading and writing materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations. By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment.	1. Introduction to the course 2. Mergers: writing a press release 3. Projects: writing an email 4. Meetings: writing a memo 5. Automation: writing a letter 6. Technology: writing a formal email 7. Advertising: writing a fax 8. Negotiating: writing a letter 9. Brands: writing a formal email 10. Business plans: writing a memo 11. Resources: writing a short report 12. Microfinance: writing a letter 13. Training: writing a short report 14. Review 15. Feedback

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing vocabulary and readings: 30 minutes. Writing task each week: one hour.
テキスト、参考文献	Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate by Tonya Trappe and Graham Tullis, published by Pearson. ISBN: 978-1-4082-5601-5
評価方法	Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%).

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course is to refine the writing skills students have developed in previous writing courses to write academic essays. The textbook takes you step-by-step through writing expository, argumentative, and compare and contrast essays. It shows you how to use material from different sources and incorporate it into your essays to complete academic writing tasks.	1. Introduction to the course 2. Essay structure 3. Body, concluding paragraph and outlining 4. Improving your work 5. Research and citation 6. In-text citation and Works Cited list 7. Developing arguments 8. Organizing argumentative essays 9. Improving your work 10. Compare and contrast essay structure 11. Describing similarities and differences 12. Improving your work 13. Editing 14. Review 15. Feedback

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparing the reading and vocabulary each week: 30 minutes. Two essays: an average of an hour a week.
テキスト、参考文献	Academic Writing Skills Student's Book 2 by Peter Chin et al, published by Cambridge University Press. ISBN: 978-1-107-62109-1
評価方法	Grades will be based on class participation (30%), homework writing activities (30%) and two essays (40%).

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Business） Academic Writing	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal in the Academic Writing (Business) course is to develop students' professional writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer business texts, and from writing on simpler topics to more complex, international ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise. Overall Objectives 1.To help students understand the typical structure of a 'good' business correspondence 2.To help students understand (genre-specific) patterns of business organization 3.To help students plan professional writings 4.To help students use a variety of references and utilize Internet sources 5.To help students revise and edit their writing 6.To help students develop computer literacy skills	1. Introduction. Emails 2. Faxes 3. Letters 4. Content and Style 5. Enquiries 6. Replies and quotations 7. Mid-term test. Payment 8. Complaints and adjustments 9. Credit 10. Banking 11. Agents and agencies 12. Transportation and shipping 13. Insurance 14. Miscellaneous 15. Final test

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use PORTAL to receive notices from me
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.
評価方法	In-class performance 20%, Midterm test 20%, Class assignments 20%, Final paper 40%

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Creative） Academic Writing	担当者	Ｓ．Ｓ．スティラー

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on the development of advanced creative writing skills. Students will be tasked with weekly assignments that are aimed at facilitating self-expression and English language writing development. In addition, students will be encouraged to share their works with each other in order to promote the development of English language communication and reading skills. Class periods will consist of the following: 1. Instruction on methods and techniques to improve student writing quality. 2. Brainstorming and idea sharing in groups 3. Sharing writings with classmates for peer review.	Students will be assigned a weekly short creative writing task due the next class period. 1: Pre-writing / Brainstorming methods 2: Character development 3: Description techniques / Showing vs. Telling 4: Plot structure 5: Plot development 6: Viewpoint / First-Person narrative 7: Third-Person narrative 8: Omniscient perspective narrative 9: Detail writing 10: Dialogue 1 11: Dialogue 2 12: Review / Editing 13: Genre writing 1 14: Genre writing 2 15: Final review

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Work on the assigned essays and revise them after each class
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the teacher
評価方法	In-class performance and writing assignments

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Creative） Academic Writing	担当者	Ｓ．Ｓ．スティラー

講義目的、講義概要	授業計画
This class will focus on the development of advanced creative writing skills. Students will be tasked with weekly assignments that are aimed at facilitating self-expression and English language writing development. In addition, students will be encouraged to share their works with each other in order to promote the development of English language communication and reading skills. Class periods will consist of the following: 1. Instruction on methods and techniques to improve student writing quality. 2. Brainstorming and idea sharing in groups 3. Sharing writings with classmates for peer review.	Students will be assigned a weekly short creative writing task due the next class period. 1: Pre-writing / Brainstorming methods 2: Character development 3: Description techniques / Showing vs. Telling 4: Plot structure 5: Plot development 6: Viewpoint / First-Person narrative 7: Third-Person narrative 8: Omniscient perspective narrative 9: Detail writing 10: Dialogue 1 11: Dialogue 2 12: Review / Editing 13: Genre writing 1 14: Genre writing 2 15: Final review

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Work on the assigned essays and revise them after each class
テキスト、参考文献	Materials will be provided by the teacher
評価方法	In-class performance and writing assignments

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Creative） Academic Writing	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively. The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.	1. Introductions and course outline 2. Getting to know you - conversation activities 3. Writing and you. The creative process. 4. Creative space. 5. Narratives. 6. Forms of creative writing. 7. Workshop - peer review. 8. Aspects of genre. 9. The creative process 2. 10. Workshop - peer review. 11. Building ideas. 12. First draft peer review. 13. Second draft peer review. 14. Final portfolio submission and course review. 15. Exam period.

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to write at home before classes, and review and edit after classes.
テキスト、参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (20%) and a final portfolio of work (80%)

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research）（水３） Academic Writing	担当者	M．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have a number of opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research T1 3. Using Evidence to Support Ideas T2 4. Sourcing Information T3 5. Developing a Project T4 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus T5 8. Introductions, Conclusions and Definitions T6 9. Incorporating Data and Illustration T7 10. Preparing for Presentation T8 11. Giving Critical Feedback 12. Presentation and Peer Evaluation 13. Presentation and Peer Evaluation 14. Group Research Projects - final paper due 15. Course Review and Evaluations

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	McCormack, J., Slaght, J., (2012). *English for Academic Study: Extended Writing and Research Skills*, Garnet Education.
評価方法	Class involvement, 20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research）（水３） Academic Writing	担当者	M．ボイル

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to develop students' research skills and build on writing skills developed in their previous courses. Students will practice critical thinking and reading, by analyzing, evaluating and using diverse sources. They will have a number of opportunities throughout the course to apply and refine their research writing skills to enable them to produce longer papers. Students will be required to present their final paper and critically evaluate their peers' work. They will be expected to produce a mid-term paper of at least 800 words and a final paper of over 1000 words.	1. Course Introduction 2. Introduction to Extended Writing and Research T1 3. Using Evidence to Support Ideas T2 4. Sourcing Information T3 5. Developing a Project T4 6. Review – mid-term paper due. 7. Developing a Focus T5 8. Introductions, Conclusions and Definitions T6 9. Incorporating Data and Illustrations T7 10. Preparing for Presentations T8 11. Giving Critical Feedback 12. Presentations and Peer Evaluations 13. Presentations and Peer Evaluations 14. Group Research Projects – final paper due 15. Course Review and Evaluations

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Read assigned texts before lesson; complete homework assignments and hand-in work promptly.
テキスト、参考文献	McCormack, J., Slaght, J., (2012). *English for Academic Study: Extended Writing and Research Skills*, Garnet Education.
評価方法	Class involvement,20%; homework 20%; mid-term paper, 20%; final paper and presentation 40%.

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1 Course introduction / review of the basics 2 Essay 1 select topic / general v specific information 3 Introduction & conclusion technique 4 Introduction to internet research (part 1) 5 How to write the body / referencing 6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7 Editing essay 1 draft 8 Internet research (part2) / essay 1 final due 9 Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10 How to write an essay plan page in note style 11 How to write a bibliography 12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13 Editing essay 2 draft 14 Essay 2 final due / problem areas discussion 15 Essay 2 – collect essay / man-to man ：final review of strong & weak points of essay 2

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary
テキスト、参考文献	No textbook　All materials provided by the teacher Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	A．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one semester only course. You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay. Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class. Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence	1 Course introduction / review of the basics 2 Essay 1 select topic / general v specific information 3 Introduction & conclusion technique 4 Introduction to internet research (part 1) 5 How to write the body / referencing 6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due 7 Editing essay 1 draft 8 Internet research (part2) / essay 1 final due 9 Paraphrasing, summarizing & plagiarism 10 How to write an essay plan page in note style 11 How to write a bibliography 12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps 13 Editing essay 2 draft 14 Essay 2 final due / problem areas discussion 15 Essay 2 – collect essay / man-to man ：final review of strong & weak points of essay 2

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Any pre-lesson preparation or post-lesson review will be explained by the instructor when necessary
テキスト、参考文献	No textbook　All materials provided by the teacher Electronic dictionary is OK
評価方法	Your course grade is based only on your essay grades

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
初回授業にて指示する。	初回授業にて指示する。

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。
評価方法	初回授業にて指示する。

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	K．エラ

講義目的、講義概要	授業計画
初回授業にて指示する。	初回授業にて指示する。

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	初回授業にて指示する。
テキスト、参考文献	初回授業にて指示する。
評価方法	初回授業にて指示する。

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Advanced Writing course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The second issue is selected from a list of choices that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Each essay assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Post-class: Reviewing instructional materials Pre-class: Essay paragraph writing assignments, issue research, paraphrase preparation
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course.
評価方法	Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).

13 年度以降 12 年度以前	Advanced Writing（Research） Academic Writing	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Advanced Writing course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The second issue is selected from a list of choices that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Each essay assignment involves research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Analyzing introductions and thesis statements 4. Brainstorming/ Outlining 5. Analyzing logical body paragraph structure 6. Finding sources 7. Finding sources 8. Incorporating paraphrase, summary and quotation 9. Incorporating paraphrase, summary and quotation 10. Revision/Editing of body paragraphs 11. Analyzing concluding paragraphs 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review test 15. Return of essays/Self-reflection

到達目標	論文の構想や推敲、論文草稿や注釈の書き方、校正の仕方、よくある間違いの修正方法などのライティングスキルを習得し、英語圏の大学でエッセイやターム・ペーパーを書き上げることができるようにする。
事前・事後学修の内容	Post-class: Reviewing instructional materials Pre-class: Essay paragraph writing assignments, issue research, paraphrase preparation
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course.
評価方法	Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).

09 年度以降	翻訳 I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。 授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。 また、履修人数にもよりますが、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。	第 1 回　ガイダンス　辞書について 第 2 回　翻訳の難しさと面白さについて 第 3 回　機械翻訳の可能性について 第 4 回　翻訳の実例比較検討 第 5 回　復習テスト 第 6～8 回　翻訳テキスト分析と発表内容チェック 第 9~14 回　学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第 15 回　まとめと復習テスト

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント 20%、プレゼンテーション 20%、翻訳実習 30%、テスト 20%、レポート 10%とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	翻訳 I	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。 授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。	第 1 回　前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第 2 回　日英および英日翻訳の実例検討　その 1 第 3 回　日英および英日翻訳の実例検討　その 2 第 4～5 回　翻訳テキスト分析および発表のテーマ設定検討 第 6 回　復習テストと発表内容確認 第 7～9 回　翻訳テキスト分析および発表内容チェック 第 10~14 回　学生による翻訳プレゼンテーションおよびディスカッション 第 15 回　まとめと復習テスト

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳発表のための準備およびパワーポイント作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント 20%、プレゼンテーション 20%、翻訳実習 30%、テスト 20%、レポート 10%とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	翻訳 I	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。 問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、考慮すべき問題はかわってきますので、そこにも注目していきます。また後半にはグループでミニ翻訳プロジェクトに取り組んでもらいます。	1. 報道文 1（難民問題 BBC より） 2. 報道文 2（難民問題 *Guardian* より） 3. 報道文 3（同上） 4. エッセイ 1（Jamaica Kincade, *A Small Place* より） 5. エッセイ 2（同上） 6. エッセイ 3（同上） 7. 業務翻訳 1（マニュアル） 8. 業務翻訳 2（契約書） 9. 文学作品 1（名作やベストセラーの書き出し部分） 10. 文学作品 2（同上） 11. 文学作品 3（同上） 12. ミニ翻訳プロジェクト 1（個別テクスト） 13. ミニ翻訳プロジェクト 2 14. ミニ翻訳プロジェクト 3 15. ミニ翻訳プロジェクト 4

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にはテクストを熟読し、疑問点を洗い出しておくこと。本授業では、事前学習がきわめて重要である。事後には授業で習得した翻訳のコツを復習すること。
テキスト、参考文献	ハンドアウトを配布します。
評価方法	授業への貢献 20%、翻訳課題 80%

09 年度以降	翻訳 I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、作品自体を味わいつくし、文化的背景まで読み込まなければいけません。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。授業では、積極的な参加と発言が求められます。短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう	1. イントロダクション 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 9. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 10. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 11. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 12. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 13. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 14. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 15. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に課題文の翻訳（1~2 ページ）を提出してもらいます。授業時には学生訳の抜粋資料と、チェックした課題を返却するので、読み比べつつ意見を出し良い翻訳にするためのアイデアを出してください。
テキスト、参考文献	短編小説または長編小説の一部を使用。コピーを配布します。興味のある人は *New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond* Norton, 2007 のシリーズを参照してみてください。
評価方法	授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。

09 年度以降	翻訳 I	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、作品自体を味わいつくし、文化的背景まで読み込まなければいけません。受験英語的な「和訳」でも、行き過ぎた「意訳」でもなく、日本語のみを読んで原作と同様の魅力を味わえる「翻訳」を目指します。授業では、積極的な参加と発言が求められます。短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう	1. イントロダクション 2. 演習 3. 演習 4. 演習 5. 演習 6. 演習 7. 演習 8. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 9. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 10. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 11. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 12. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 13. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 14. 演習（ペア・グループによる共訳の発表） 15. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に課題文の翻訳（1~2 ページ）を提出してもらいます。授業時には学生訳の抜粋資料と、チェックした課題を返却するので、読み比べつつ意見を出し良い翻訳にするためのアイデアを出してください。
テキスト、参考文献	短編小説または長編小説の一部を使用。コピーを配布します。興味のある人は *New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond* Norton, 2007 のシリーズを参照してみてください。
評価方法	授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。

09 年度以降	翻訳Ｉ（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検１級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 1 番から 25 番を扱います。	１　翻訳という仕事① ２　イギリス人① ３　イギリス人② ４　イギリス人③ ５　イギリス人④ ６　中年の思いごと ７　目の見える有難さ ８　機械と人間 ９　忘れっぽさ １０友情論 １１幸福論 １２外国語を学ぶ効用① １３外国語を学ぶ効用② １４訳文校正 １５翻訳のための文法① ＊各回、他に１題を扱います

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前)不明点を明らかにして授業に臨む　事後）解決された不明点を忘れぬよう復習する
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ｉ（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検１級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋学期は 26 番から 50 番を扱います。	１　翻訳という仕事② ２　試練に立つ文明 ３　文体と内容 ４　技師の親指 ５　過激の効用 ６　正確さへのこだわり ７　独立独歩 ８　詩人の役割 ９　文化の伝達 １０孤独の楽しさ １１若者への教訓 １２偏愛の危険 １３歴史の皮肉 １４自分なりの価値基準 １５翻訳のための文法② ＊各回とも上記ほか１編を扱う

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前)不明点を明らかにして授業に臨む　事後)解決された不明点を忘れぬよう復習する
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅰ（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。 秋学期同時限(木 4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。	１　英語の規則　① ２　児童文学「幸福の王子」Ⅰ ３　児童文学「幸福の王子」Ⅱ ４　児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅰ ５　児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅱ ６　児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ ７　児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ ８　子供百科「フクロウの目」 ９　子供百科「恐竜」 １０子供百科「宇宙」 １１ミュージカル「オクラホマ」 １２詩「虹の歌」 １３小説「マダム・ロゼット」 １４歴史「トロイ戦争」 １５歴史「ミノタウロス」

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前)不明点を明らかにして授業に臨む　事後）解決された不明点を忘れぬよう復習する
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤読みやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅰ（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600 ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。 抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。	１　英語の規則② ２　小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」① ３　小説「ミセス・ビクスビーと大佐のコート」② ４　スポーツ「1959 年合衆国アマチュアチャンピオン」 ５　美術「古代の芸術」 ６　ゴルフ「ジャック・ニコラウス自伝」 ７　ドキュメンタリー「生き残りし者」 ８　科学「重力の問題」 ９　造形「心の庭」 １０音楽「オーケストラを指揮する」 １１評伝「二都物語」 １２動物「人間と動物の絆」 １３歴史「そして水は引かなかった」 １４観光「コルシカへの招待」 １５アンドとカンマ

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前)不明点を明らかにして授業に臨む　事後）解決された不明点を忘れぬよう復習する
テキスト、参考文献	テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう！』(青弓社、2012 年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。
評価方法	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

09 年度以降	翻訳Ⅱ（水４）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画	
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.)newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1	Introduction
	2	Document #1 (see list at left for examples)
	3	Document #2
	4	Document #3
	5	Document #4
	6	Document #5
	7	Document #6
	8	Document #7
	9	Document #8
	10	Document #9
	11	Document #10
	12	Document #11
	13	Document #12
	14/15	Final Examination and Self-Evaluation

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation50%　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	翻訳Ⅱ（水３）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画	
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, NatsumeSoseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors' works, and Japanese animated features(looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures in Japanese presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1	Introduction
	2	Author #1 (see list at left for examples)
	3	Author #2
	4	Author #3
	5	Author #4
	6	Author #5
	7	Author #6
	8	Author #7
	9	Author #8
	10	Author #9
	11	Author #10
	12	Author #11
	13	Author #12
	14/15	Final Examination and Self-evaluation

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の例文を復習 配られた文章を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50%　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳と英語学習で使われている英文和訳とは、大きく違います。翻訳はその違いをしっかりと認識することから始まります。この講義では目的に応じて等価の翻訳をするための枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけます。 講義概要 　多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳演習 3.　翻訳演習 4.　翻訳演習 5.　翻訳演習 6.　翻訳演習 7.　翻訳演習 8.　翻訳演習 9.　翻訳演習 10.　翻訳演習 11.　翻訳演習 12.　翻訳演習 13.　翻訳演習 14.　翻訳演習 15.　総括、レポートの発表

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。 訳文は次回授業時に提出してください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する（期末レポート 30%）。

09 年度以降	翻訳Ⅱ	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳の心得を学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。 講義概要 　多様なテキストの翻訳演習を行い、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通して、さまざまな角度から翻訳の要諦を学んでいきます。	1.　オリエンテーション 2.　翻訳演習 3.　翻訳演習 4.　翻訳演習 5.　翻訳演習 6.　翻訳演習 7.　翻訳演習 8.　翻訳演習 9.　翻訳演習 10.　翻訳演習 11.　翻訳演習 12.　翻訳演習 13.　翻訳演習 14.　翻訳演習 15.　総括、レポートの発表

到達目標	中級レベルの総合的な英語力（文法・論理・教養・表現等）を総合的に習得し、文化的発想の違いにも目を配りながら英文を的確に和訳し、ならびに和文を的確に英訳できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回指定された箇所を事前に精読（または訳出）しておいてください。訳文は次回授業時に提出してください。
テキスト、参考文献	初回に指示します。
評価方法	課題・レポート、授業参加態度を総合的に評価する（期末レポート 30%）。

09 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be 動詞の機能（１） 13・Be 動詞の機能（２） 14・Be 動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月３）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC 構文の下位区分（１） ６・SVOC 構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・移動が関与する構文（１） ４・移動が関与する構文（２） ５・移動が関与する構文（３） ６・補部と付加部の区別（１） ７・補部と付加部の区別（２） ８・補部と付加部の区別（３） ９・条件の副詞節（１） 10・条件の副詞節（２） 11・条件の副詞節（３） 12・Be 動詞の機能（１） 13・Be 動詞の機能（２） 14・Be 動詞の機能（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（前期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（月５）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	１・イントロダクション ２・学校文法の概観 ３・解釈の曖昧性（１） ４・解釈の曖昧性（２） ５・SVOC 構文の下位区分（１） ６・SVOC 構文の下位区分（２） ７・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（１） ８・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（２） ９・一般動詞の意味特性（１） 10・一般動詞の意味特性（２） 11・一般動詞の意味特性（３） 12・情報構造（１） 13・情報構造（２） 14・情報構造（３） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（後期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。

到達目標	大学で英語を専攻する学生が身に付けておくべき高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各講義のテーマについて高校までに習った英文法の復習をして授業に臨んでください。 また、習った内容は次の講義のテーマの前提知識となります。十分な復習をして望んでください。
テキスト、参考文献	テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店
評価方法	平常点＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

09 年度以降	College Grammar（火３）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
レキシカル・グラマーの観点から英語コミュニケーション能力向上に資する教育英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。 レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation)」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007 年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。 英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text（テクストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1. 導入　レキシカル・グラマーの世界 2. 前置詞の用法展開 3. Grammar in text I 前置詞の空間的イメージ 4. WILL とテンス 5. Grammar in text II 未来表現とテンス・アスペクト 6. 冠詞の使用原理と名詞チャンクの基本構造 7. Grammar in text III 名詞形への感性を磨く 8. GIVE のコアと構文展開と句動詞 9. Grammar in text IV 基本動詞の表現世界 10. AS の構文的多様性　比較、比例、同時、同様など 11. Grammar in text V 複文構造に慣れる 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：A-202

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出)。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待―新しい教育英文法の可能性』（開拓社)。 参考文献：『表現英文法 GFE』（コスモピア）,『イメージでわかる単語帳』（NHK 出版)。
評価方法	参加態度＝25%；アサインメント＝25%；プレゼンテーション＝25%；ファイナルペーパー＆自己評価（A4×5 頁以上）＝25%。４回以上欠席は単位を与えない。

09 年度以降	College Grammar（火３）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
春学期から継続して、レキシカル・グラマーの観点から英語コミュニケーション能力向上に資する教育英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。 レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation)」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007 年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。 英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text（テクストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1. 導入　レキシカル・グラマーの可能性 2. 前置詞の多義と文法化 3. Grammar in text I 前置詞の把握が解釈を決める 4. TO DO と ING の用法 5. Grammar in text II 不定詞・動名詞・分詞の意味世界 6. WH-構文のネットワーク　疑問詞～関係詞へ 7. Grammar in text III　WH 構文を自在に操る 8. 態度表明を示す法助動詞 MAY, MUST, CAN など 9. Grammar in text IV 話し手の主観を読み解く 10. IT&THAT とその構文展開 11. Grammar in text V　IT・THAT から見えてくること 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ ※ 「前置詞」は春学期も学ぶが、特に重要な項目であるため、秋学期も再度扱うものとする。 ※ 上記内容はクラス状況に応じて調整・変更することがある。 割当教室：A-202

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出)。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待―新しい教育英文法の可能性』（開拓社)。 参考文献：『表現英文法 GFE』（コスモピア）,『イメージでわかる単語帳』（NHK 出版)。
評価方法	参加態度＝25%；アサインメント＝25%；プレゼンテーション＝25%；ファイナルペーパー＆自己評価（A4×5 頁以上）＝25%。４回以上欠席は単位を与えない。

09 年度以降	College Grammar	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその理解の深め方の方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 場所扱いか道具扱いか 1 3. 場所扱いか道具扱いか 2 4. 自動詞＋前置詞は他動詞か 1 5. 自動詞＋前置詞は他動詞か 2 6. 〈道具〉はいつ主語になれるか 1 7. 〈道具〉はいつ主語になれるか 2 8. 再帰代名詞の不思議 1 9. 再帰代名詞の不思議 2 10. EAT AT は EAT とどう違うのか 1 11. EAT AT は EAT とどう違うのか 2 12. Mary hit John on the head.の構文 1 13. Mary hit John on the head.の構文 2 14. I did the book.＝「私はその本をした」？ 1 15. I did the book.＝「私はその本をした」？ 2

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントの事前の予習と復習。
テキスト、参考文献	中右実（1995–1998）「発見の英文法 連載 1～7」『高校英語展望』第 8 号～第 14 号．小学館・尚学図書.
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	College Grammar	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその理解の深め方の方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 諸連絡にはポータルサイトを利用する。試験は日本語による論述式の予定である。	1. オリエンテーション、講義の概要 2. 「数の一致」はどのように決まるか 1 3. 「数の一致」はどのように決まるか 2 4. 絶対複数名詞 trousers の不思議 1 5. 絶対複数名詞 trousers の不思議 2 6. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 1 7. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 2 8. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか 3 9. 秤の変遷：scales から scale への道 1 10. 秤の変遷：scales から scale への道 2 11. なぜ in a car なのに on a bus なのか 1 12. なぜ in a car なのに on a bus なのか 2 13. なぜ in a car なのに on a bus なのか 3 14. なぜ at night というのに at day とはいわないか 1 15. なぜ at night というのに at day とはいわないか 2

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布プリントの事前の予習と復習。
テキスト、参考文献	中右実（1998–2001）「発見の英文法 連載 8～20」『高校英語展望』第 15 号～第 20 号．小学館・尚学図書.
評価方法	試験ないしレポート（100%）の成果による。授業への参加は前提である。なお、規則にない特別の「救済措置」などは実施せず、成績発表に先立って個人的に成績を知らせることもしない。

09 年度以降	College Grammar（水４）	担当者	佐藤　芳明

講義目的、講義概要	授業計画
レキシカル・グラマーの観点から英語コミュニケーション能力向上に資する教育英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙（レキシコン）に文法情報（グラマー）が含まれているという前提に立って、語のコア（本質的な意味）に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。 　レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ（semantic motivation)」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007 年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。 　英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text（テクストにおける文法）の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1. 導入　レキシカル・グラマーの可能性 2. 前置詞の多義と文法化 3. Grammar in text I 空間詞に注目したテクスト解釈 4. TO DO と INGの用法 5. Grammar in text II 不定詞・動名詞・分詞の意味世界 6. WH-構文のネットワーク　疑問詞～関係詞へ 7. Grammar in text III　WH 構文の多様な展開 8. 態度表明を示す法助動詞 MAY, MUST, CAN など 9. Grammar in text IV 話し手の主観を読み解く 10. IT＆THAT とその構文展開 11. Grammar in text V　IT・THAT の解釈可能性 12. プレゼンテーション I 13. プレゼンテーション II 14. プレゼンテーション III 15. まとめ ※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。 割当教室：A-201

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で提示される課題を解き、次週までに提出（PorTa 上にファイル形式で提出)。事前にテキストを読み込む必要がある場合は、前の週の授業で指示する。
テキスト、参考文献	テキスト：『レキシカル・グラマーへの招待―新しい教育英文法の可能性』（開拓社)。 参考文献：『表現英文法 GFE』（コスモピア）,『イメージでわかる単語帳』（NHK 出版)。
評価方法	参加態度＝25%；アサインメント＝25%；プレゼンテーション＝25%；ファイナルペーパー＆自己評価（A4×5 頁以上）＝25%。４回以上欠席は単位を与えない。

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使用されるのか？」、「この単語の品詞は何だろう？」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでしのいで来たのではないでしょうか。受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、一定の説明を与えることを試みます。英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。英文法の諸現象には、まだ十分に説明されていないものがたくさんあります。先生の説明を鵜呑みにするのではなく、皆さんなりの説明を見つけることを試みましょう。	1. 主要な文法体系の概要 (認知文法、生成文法、伝統文法など) 2. 文のタイプ 3. 自動詞と他動詞 4. アスペクトによる動詞の分類 5. 本動詞、助動詞としての be, do, have 6. 時制 7. 完了形 8. 進行形 9. 法助動詞(can, will) 10. 法助動詞(may, should) 11. 態 12. to 不定詞 13. 過去分詞 14. 現在分詞と動名詞 15. まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現の視覚的イメージを試作し、事後は授業で提示されたイメージと比較する。
テキスト、参考文献	ジーニアス英和辞典第５版または第４版を持参すること。(印刷版、電子版のいずれでも可)
評価方法	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	College Grammar	担当者	田川　憲二郎

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について、検討し、納得できる説明を得ることを目指します。 　英和辞典に網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思います。たとえば、なぜ仮定法では時制が過去方向にずれるのでしょうか？疑問詞と関係詞には、なぜ同じ単語が用いられるのでしょうか？　多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか？　no と not には、どのような相違があるのでしょうか？　こうした疑問について、こちらから特定の説明法を押し付けることははしませんので、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、認知文法、生成文法、伝統文法など、様々な視点からまとめられた文法体系の考え方を比較、検証し、また自ら思索することによって、皆さんなりの解答を見つけて下さい。	1. 春学期の内容を概観 2. 仮定法 3. 疑問詞 4. 接続詞 5. 関係詞 6. 前置詞 7. 名詞 8. 冠詞 9. 代名詞 10. 形容詞 11. 副詞 12. 比較 13. 否定(完全否定、部分否定、準否定) 14. 否定(no と not の相違、鯨の構文) 15. まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には、テーマ表現の視覚的イメージを試作し、事後は、授業で提示されたイメージと比較する。
テキスト、参考文献	ジーニアス英和辞典第５版または第４版を持参すること。(印刷版、電子版のいずれでも可)
評価方法	小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)の配分で算出する。

09 年度以降	College Grammar	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした英語語法･文法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。そうすると、次第に表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、ネイティブスピーカーが無意識に身につけてきた英語の感覚・イメージを探っていく習慣が身につき、結局はこの方法がもっとも効率の良い英語が学習方法である、ということがわかるようになります。この授業は、日本語には無くて日本人にはもっとも習得の難しいとされる冠詞の a か the の付く名詞表現、それに加え、冠詞も-s も付かない名詞表現（はだか名詞）の使用法を会得することを目的とします。	1. 英語のものの捉え方 2. 同上 3. 不定冠詞付名詞と複数名詞 vs. はだか名詞 4. 同上 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. 同上 9. 定冠詞 the の意味機能 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. まとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にプリントをよく読み質問事項を整理し、事後は小テストに備え、課題に取り組む。
テキスト、参考文献	グーグルドライブからダウンロード印字するプリント
評価方法	最終成績は定期試験 60%、課題 20%、小テスト 20%による。

09 年度以降	College Grammar（金３）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 　春学期は、文を構成する各要素について学習する。まず、述語動詞と準動詞について学ぶ（授業計画2~7参照）。次に、それら以外の各要素について学ぶ（授業計画8~14参照）。 　この講義は、英語学の知識を講義参加の前提としないが、英語学への興味と予習を講義参加の前提とする。座っていれば単位が取れる授業ではなく、学ぶ準備をしっかり行う学生を歓迎する。学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することがある。秋学期に本講義担当者のカレッジグラマーを単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1. 授業概要 2. 述語動詞Ⅰ 3. 述語動詞Ⅱ（1） 4. 述語動詞Ⅱ（2） 5. 不定詞 6. 分詞 7. 動名詞 8. 名詞 9. 代名詞（1） 10. 代名詞（2） 11. 形容詞 12. 冠詞 13. 副詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テキスト 5 ページから 10 ページの予習箇所を指定するので、辞書を丹念に引き、予習してくること。
テキスト、参考文献	テキスト：安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar*　　開拓社 参考文献：なし
評価方法	授業貢献度（授業出席点ではない）（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

09 年度以降	College Grammar（金３）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 　秋学期は、動詞に関連する文法事項を学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ（授業計画 2~9 参照）。次に、間違え易い文法事項を学ぶ（授業計画 10~14 参照）。 　この講義は、英語学の知識を講義参加の前提としないが、英語学への興味と予習を講義参加の前提とする。座っていれば単位が取れる授業ではなく、学ぶ準備をしっかり行う学生を歓迎する。学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することがある。春学期に本講義担当者のカレッジグラマーを単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞 (1) 4. 助動詞 (2) 5. 助動詞 (3) 6. 時制 (1) 7. 時制 (2) 8. 呼応と時制の一致 (1) 9. 呼応と時制の一致 (2) 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞 (1) 13. 関係代名詞 (2) 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テキスト 5 ページから 10 ページの予習箇所を指定するので、辞書を丹念に引き、予習してくること。
テキスト、参考文献	テキスト：安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：なし
評価方法	授業貢献度（授業出席点ではない）（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

09 年度以降	College Grammar（金４）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 　春学期は、文を構成する各要素について学習する。まず、述語動詞と準動詞について学ぶ（授業計画2~7参照）。次に、それら以外の各要素について学ぶ（授業計画8~14参照）。 　この講義は、英語学の知識を講義参加の前提としないが、英語学への興味と予習を講義参加の前提とする。座っていれば単位が取れる授業ではなく、学ぶ準備をしっかり行う学生を歓迎する。学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することがある。秋学期に本講義担当者のカレッジグラマーを単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1. 授業概要 2. 述語動詞Ⅰ 3. 述語動詞Ⅱ（1） 4. 述語動詞Ⅱ（2） 5. 不定詞 6. 分詞 7. 動名詞 8. 名詞 9. 代名詞（1） 10. 代名詞（2） 11. 形容詞 12. 冠詞 13. 副詞 14. 前置詞 15. 授業のまとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テキスト 5 ページから 10 ページの予習箇所を指定するので、辞書を丹念に引き、予習してくること。
テキスト、参考文献	テキスト：安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar*　　開拓社 参考文献：なし
評価方法	授業貢献度（授業出席点ではない）（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

09 年度以降	College Grammar（金４）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 　秋学期は、動詞に関連する文法事項を学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ（授業計画 2~9 参照）。次に、間違え易い文法事項を学ぶ（授業計画 10~14 参照）。 　この講義は、英語学の知識を講義参加の前提としないが、英語学への興味と予習を講義参加の前提とする。座っていれば単位が取れる授業ではなく、学ぶ準備をしっかり行う学生を歓迎する。学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することがある。春学期に本講義担当者のカレッジグラマーを単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1. 授業概要 2. 動詞 3. 助動詞 (1) 4. 助動詞 (2) 5. 助動詞 (3) 6. 時制 (1) 7. 時制 (2) 8. 呼応と時制の一致 (1) 9. 呼応と時制の一致 (2) 10. 仮定法 11. 態 12. 関係代名詞 (1) 13. 関係代名詞 (2) 14. 関係副詞 15. 授業のまとめ

到達目標	高度な英文法を理解し、英語の規則性を的確に分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テキスト 5 ページから 10 ページの予習箇所を指定するので、辞書を丹念に引き、予習してくること。
テキスト、参考文献	テキスト：安井稔（1986）*A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：なし
評価方法	授業貢献度（授業出席点ではない）（30%）、期末試験（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である。

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.	1. Course Introduction 2. Discussing an example news article 3. Developing mind-map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind-map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking Test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Post-class: Reviewing instructional materials Pre-class: Preparing mind-maps, preparing discussion questions, preparing vocabulary, preparing to discuss classmates' questions
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course.
評価方法	Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.	1. Course Introduction 2. Discussing an example news article 3. Developing mind-map skills for presenting articles 4. Students present articles to small groups/discussion 5. Students present articles to small groups/discussion 6. Students present articles to small groups/discussion 7. Students present articles to small groups/discussion 8. Students present articles to small groups/discussion 9. Review of presentation/mind-map skills 10. Students present articles to whole class/discussion 11. Students present articles to whole class/discussion 12. Students present articles to whole class/discussion 13. Students present articles to whole class/discussion 14. Students present articles to whole class/discussion 15. Speaking test

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Post-class: Reviewing instructional materials Pre-class: Preparing mind-maps, preparing discussion questions, preparing vocabulary, preparing to discuss classmates' questions
テキスト、参考文献	No textbook is required for this course.
評価方法	Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Let's speak lots of English Together Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Possible First Semester Topics Introduction to the course of studies. Why learn English. Attitudes towards women. Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.
テキスト、参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library
評価方法	Class work, homework, voc tests 40%, participation and effort, 30%, Final evaluations 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Let's speak lots of English Together Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Possible Second Semester Topics Brief introduction/welcome back to class. Computers and society. Ageing Society. The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to review the class at the end of each lesson and to do all the homework.
テキスト、参考文献	No text book will be used in class. Students will use the internet and/or library.
評価方法	Class work, homework, voc tests 40%, participation and effort, 30%, Final evaluations 30%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. フッド

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of this course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English. Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives. This is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will to use English Only for all classroom activities.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Topic 1: Offbeat Jobs Week 3: Offbeat Jobs, continued Week 4: Topic 2: Building a Better Community Week 5: Communities, continued Week 6: Topic 3: A Penny Saved Week 7: A Penny Saved, continued Week 8: Topic 4: Innocent or Guilty Week 9: Innocent or Guilty, continued Week 10: Topic 5: Etiquette Week 11: Etiquette, continued Week 12: Presentation Skills I Week 13: Presentation Skills II Week 14: Workshop & Review Week 15; Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.
テキスト、参考文献	North Star Listening and Speaking 2 (4th Edition)
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, quizzes, and in-class presentations.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. フッド

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of this course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English. Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives. This is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will to use English Only for all classroom activities.	Week 1: Course Review & Discussion Week 2: Topic 1: Games Week 3: Games, continued Week 4: Topic 2: Food Week 5: Food, continued Week 6: Topic 3: An Ice Place to Stay Week 7: Ice Place, continued Week 8: Topic 4: Staying Healthy Week 9: Staying Healthy, continued Week 10: Topic 5: Endangered Languages Week 11: Endangered Languages, continued Week 12: Presentation Skills III Week 13: Presentation Skills IV Week 14: Workshop & Review Week 15; Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Homework will be assigned at the end of each class session. Students should expect to spend 30 to 40 minutes completing these assignments in preparation for the following class.
テキスト、参考文献	North Star Listening and Speaking 2 (4th Edition)
評価方法	Students will be evaluated based on class participation, written assignments, quizzes, and in-class presentations.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & news article Week 6: Discussions & quiz Week 7: Discussions & news article Week 8: Discussions & vocabulary quiz Week 9: Discussions & news article Week 10: Discussions & quiz Week 11: Discussions & news article Week 12: Discussions & vocabulary quiz Week 13: Discussions & notebook writing Week 14: Discussions & submit notebooks Week 15: Review and feedback

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly entries of new vocabulary will be made in notebooks. Students will listen to and read news reports on websites.
テキスト、参考文献	None. Materials will be provided by both the instructor and students.
評価方法	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing and evaluating discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & news article Week 6: Discussions & quiz Week 7: Discussions & news article Week 8: Discussions & vocabulary quiz Week 9: Discussions & news article Week 10: Discussions & quiz Week 11: Discussions & news article Week 12: Discussions & vocabulary quiz Week 13: Discussions & notebook writing Week 14: Discussions & submit notebooks Week 15: Review and feedback

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly entries of new vocabulary will be made in notebooks. Students will listen to and read news reports on websites.
テキスト、参考文献	None. Materials will be provided by both the instructor and students.
評価方法	Discussion presentations and reports 40% Vocabulary notebook 20% Quizzes 20% Participation 20%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火１） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火１） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto"What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto"What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火３） Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.	Week　1:　Orientation, introduction to topic discussion Week　2:　Good observation, making pros and cons Week　3:　Writer point of view, background influences Week　4:　Making effective visual aids Week　5:　Good discussion questions Week　6:　Small group discussion workshop Week　7:　Small group discussion group 1 Week　8:　Small group discussion group 2 Week　9:　Small group discussion group 3 Week　10: Small group discussion group 4 Week　11: Making effective topic presentations Week　12: Presentation workshop Week　13: Presentations Week　14: Presentations Week　15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（火３） Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.	Week　1:　Orientation, introduction to topic discussion Week　2:　Good observation, making pros and cons Week　3:　Writer point of view, background influences Week　4:　Making effective visual aids Week　5:　Good discussion questions Week　6:　Small group discussion workshop Week　7:　Small group discussion group 1 Week　8:　Small group discussion group 2 Week　9:　Small group discussion group 3 Week　10: Small group discussion group 4 Week　11: Making effective topic presentations Week　12: Presentation workshop Week　13: Presentations Week　14: Presentations Week　15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an intermediate-level context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture I 1. Introductory Class 2. Introduction to Britain 3. British Pop 4. London 5. The Train 6. Heathrow Airport 7. William Shakespeare 8. Tea 9. Climbers 10. Sherlock Holmes 11. The Purple Violin 12. British Universities 13. An English Summer 14. Review 15. Evaluation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト、参考文献	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．J．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is an upper-intermediate context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.	UK Culture II 1. Preview 2. The Seven Wonders of Britain 3. Wales 4. BBC World Service 5. The Mini 6. The Village 7. Agatha Christie 8. Charles Dickens 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. A British Christmas 14. Review 15. Evaluation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Vocabulary preview (30 minutes) & Topic Preview will be required before each class (30 minutes)
テキスト、参考文献	There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.
評価方法	30 % Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.	Weeks 1. Course introdution; tutorial on research and presentation 2. Group Discussions 3. Group Discussions 4. Group Presentations 5. Group Discussions 6. Discussion Tests 7. Group Discussions 8. Group Discussions 9. Individual Presentations 10. Individual Presentations 11. Group Discussions 12. Group Discussions 13. Discussion Tests 14. Final Presentations 15. Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト、参考文献	None
評価方法	Written reports 30%, Discussion tests 35%, Presentations 35%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R．ウィルコックス

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. Overall Objectives 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.	Weeks 1. Course introdution; tutorial on research and presentation 2. Group Discussions 3. Group Discussions 4. Group Presentations 5. Group Discussions 6. Discussion Tests 7. Group Discussions 8. Group Discussions 9. Individual Presentations 10. Individual Presentations 11. Group Discussions 12. Group Discussions 13. Discussion Tests 14. Final Presentations 15. Final Presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Weekly homework assignments
テキスト、参考文献	None
評価方法	Written reports 30%, Discussion tests 35%, Presentations 35%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others. The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.	1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Narrative fictions - lying and describing. 4. Happiness. 5. Fear. 6. Structuring debates. 7. Persuasive language. 8. Student topics for debates. 9. Analyzing perspectives. 10. Student topics for debates. 11. Sadness. 12. Presentation preparation. 13. Presentations and discussion. 14. Presentations and discussion. 15. Exam period.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト、参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (50%) and final presentations (50%)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.	Week　1:　Orientation, introduction to topic discussion Week　2:　Good observation, making pros and cons Week　3:　Writer point of view, background influences Week　4:　Making effective visual aids Week　5:　Good discussion questions Week　6:　Small group discussion workshop Week　7:　Small group discussion group 1 Week　8:　Small group discussion group 2 Week　9:　Small group discussion group 3 Week　10: Small group discussion group 4 Week　11: Making effective topic presentations Week　12: Presentation workshop Week　13: Presentations Week　14: Presentations Week　15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society.　A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester. Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class. Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a multimedia presentation.	Week　1:　Orientation, introduction to topic discussion Week　2:　Good observation, making pros and cons Week　3:　Writer point of view, background influences Week　4:　Making effective visual aids Week　5:　Good discussion questions Week　6:　Small group discussion workshop Week　7:　Small group discussion group 1 Week　8:　Small group discussion group 2 Week　9:　Small group discussion group 3 Week　10: Small group discussion group 4 Week　11: Making effective topic presentations Week　12: Presentation workshop Week　13: Presentations Week　14: Presentations Week　15: Review and consultation

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Preparation for small group discussion group leadership, multimedia presentation
テキスト、参考文献	No class textbook. Handout will be provided by the teacher.
評価方法	20% class participation 40% small group discussion leadership 40% multimedia presentation

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木２） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修不可	(* Note: This is a tentative schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your Summer Break, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: "What do you usually do ...?": discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: Hallowe'en: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive advice, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and Fall/Winter festival about which to make a presentation. Discussion about "EQ", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: Thanksgiving. Song-listening exercise. Student answersto"What are you thankful for?" Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: "How often do you ...?": discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: Christmas, and Christmas cultures in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about New Year's wishes and plans. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: "How was your Christmas?" & "How was your O Sho Gatsu?": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "New Year's Resolutions". Final student presentations. Week 15: Review of specific New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: future plans for the February & March Break.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills（木３） Communicative English	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*. ※同一学期に同一教員の重複履修は不可	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)*** in English. Pair practice. Final student presentations.

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do homework assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework (‘ichiyazuke’) is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.
評価方法	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%).. These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is *CRUCIAL* (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for any reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.	Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Student presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the readings and prepare their presentations before we have class.
テキスト、参考文献	Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House
評価方法	Classroom Participation: 50%, Presentations: 50%

13 年度以降 12 年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above. <u>Overall Objectives</u> 1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills. 2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts. 3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process. 4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas	Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Student presentations

到達目標	適確な英語発話、コミュニケーションスキルを習得し、中級レベルのアカデミックな討議や口語伝達ができるようにする。
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the readings and prepare their presentations before we have class.
テキスト、参考文献	Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House
評価方法	Classroom Participation: 50%, Presentations: 50%

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course introduction Week 2- First Impressions Week 3- Traffic Jam Week 4- Who Needs the Local Language Week 5- Getting Ahead Week 6- Forever Single Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- What are Friends For? Week 9- What's for Dinner? Week 10- Cyber Bullying Week 11- Taking Care of Father Week 12- Why Go To School? Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the chapters in the textbook before we have class.
テキスト、参考文献	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%

09 年度以降	Discussion	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.	Week 1- Course Introduction Week 2- An International Relationship Week 3- Too Little, Too Late Week 4- Ben and Mike Week 5- Government Control Week 6- Living Together Week 7- Students Choose Discussion Topic Week 8- Size Discrimination Week 9- Who Will Help Them? Week 10- Finding the Right One Week 11- Dress for Success Week 12- A Mother's Story Week 13- Students Choose Discussion Topic Week 14- Students Choose Discussion Topic Week 15- Final Examination

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	It is recommended that the students review the chapters in the textbook before we have class.
テキスト、参考文献	Impact Issues – Book 2 Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka Publisher: Pearson Longman
評価方法	It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must carefully think and research the topics to be discussed in class. You are also required to complete a written summary of the topic in a class portfolio.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Discussion	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It is said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions. Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 5 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 6 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 7 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 8 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students must carefully think and research the topics to be discussed in class. You are also required to complete a written summary of the topic in a class portfolio.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the library books and the internet.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

09 年度以降	Discussion	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.	1. Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 2. Discussion, listening Topic # 2 3. Discussion, listening Topic # 3 4. Discussion, listening Topic # 4 5. Discussion, listening Topic # 5 6. Discussion, listening Topic # 6 7. Discussion, listening Topic # 7 8. Library research project task 1 9. Discussion, listening Topic # 8 10. Discussion, listening Topic # 9 11. Discussion, listening Topic # 10 12. Discussion, listening Topic # 11 13. Discussion, listening Topic # 12 14. Discussion, listening Topic # 13 15. Library research project task 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Topic discussion and target skills research, speaking, asking opinions, reasons, clarification, confirmation, agreeing, disagreeing and negotiating skills research from the library books and the internet.
テキスト、参考文献	Class notes and handouts will be provided every week.
評価方法	1. Class participation & target skills 40% 2. Weekly class activities & discussion 60%

09 年度以降	Discussion	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion. Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.	1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree. 4. Creating discussions. 5. My discussion articles. 6. Your discussion articles. 7. Opposing viewpoints. 8. Controversial issues. 9. Your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics, partnering and preparation. 12. Student-led class discussion preparation. 13. Student-led class discussions. 14. Student-led class discussions. 15. Exam period.

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト、参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)

09 年度以降	Discussion	担当者	B．D．タッチャー

講義目的、講義概要	授業計画
This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion. Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.	1. Introductions and course outline. 2. Getting to know you - conversation activities. 3. Agree / disagree. 4. Creating discussions. 5. My discussion articles. 6. Your discussion articles. 7. Opposing viewpoints. 8. Controversial issues. 9. Your discussion articles. 10. Breaking news - researched discussion topics. 11. Your topics, partnering and preparation. 12. Student-led class discussion preparation. 13. Student-led class discussions. 14. Student-led class discussions. 15. Exam period.

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will be expected to research and prepare materials before class and review after class.
テキスト、参考文献	None
評価方法	Assessment will be based on in-class performance (40%) and student-led class discussions (60%)

09 年度以降	Discussion	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will be provide with ample opportunities to speak English through discussions, debates and active role plays. We will focus on spoken English in this course, with emphasis on expressing opinions, giving speeches and conducting presentations. This will be an educational and fun course !	1. Introduction/orientation 2. Discussion Travel 3. “ 4. Presentation 5. Presentation 6. Discussion Music 7. “ 8. Presentation 9. Presentation 10 Discussion (Final) 11 “ 12 Presentation My Passion 13 “ 14 “ 15 “

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.
テキスト、参考文献	No text will be used for this course. The instructor shall provide all materials.
評価方法	Participation, presentations

09 年度以降	Discussion	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as above	1. Same as above 2. 3. 4. 5. 6. 7 8 9 10 11 12 13 14 15

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will need on occasion, to prepare - before class - presentations and speaking assignments and have them ready at the required times, in order that the class may proceed smoothly and we may complete our schedule.
テキスト、参考文献	Same as above
評価方法	Same as above

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｓ．Ｓ．スティラー

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course to discuss and analyze relevant socio-cultural topics in English. Students will be expected to participate in classroom discussions and take notes. Students will be quizzed on “emergent vocabulary” which they will provide during the discussion sessions in class. Overall Objectives 1. To provide an opportunity for students to express themselves in English. 2. Students will be encouraged to think critically and discuss modern issues related to both their local and international spheres. 3. To expand the students’ vocabulary in a meaningful and memorable way.	Weekly Chapter Plan 1. Introduction / Syllabus 2. Employment 3. Standards of beauty 4. Love and culture part 1 5. Love and culture part 2 6. What is cool? 7. LGBT 8. Culture shock 9. Identity 10. Magic 11. Equality part 1 12. Equality part 2 13. Equality part 3 14. Review 15. Final

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Research next discussion topic and review vocabulary from the lesson
テキスト、参考文献	All materials will be provided by the teacher.
評価方法	Participation in discussion and vocabulary assignments will both count towards a grade.

09 年度以降	Discussion	担当者	Ｓ．Ｓ．スティラー

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course to discuss and analyze relevant socio-cultural topics in English. Students will be expected to participate in classroom discussions and take notes. Students will be quizzed on “emergent vocabulary” which they will provide during the discussion sessions in class. Overall Objectives 1. To provide an opportunity for students to express themselves in English. 2. Students will be encouraged to think critically and discuss modern issues related to both their local and international spheres. 3. To expand the students’ vocabulary in a meaningful and memorable way.	Weekly Chapter Plan 1. Introduction 2. Discussion strategies 3. Debate part 1 4. Debate part 2 5. Logical fallacies 6. Student lead discussion 1 7. Student lead discussion 2 8. Student lead discussion 3 9. Hot Topic: Contracts 10. Hot Topic: Racism 11. Hot Topic: Tokenism in Japan 12. Hot Topic: On Wisconsin! 13. Review 14. Interview test 1 15. Interview test 2

到達目標	特定主題に関するリサーチに基づき、中級レベルの英語で集団討議ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Research next discussion topic and review vocabulary from the lesson
テキスト、参考文献	All materials will be provided by the teacher.
評価方法	Participation in discussion and vocabulary assignments will both count towards a grade.

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
Syllabus　Public Speaking　I , making a presentation. In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners. There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.	Week 1　Introduction：Public speaking, why where when. It's not conversation. Week 2　What listeners need. What speakers must do. Week 3　Topic：explain a future plan.　Ideas, research, homework ! Week 4　Write and edit Week 5　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 6　Presentations, evaluation, feedback. Week 7　Topic：teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! Week 8　Write and edit Week 9　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 10　Presentations, evaluation, feedback. Week 11　Topic：making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! Week 12　Write and edit Week 13　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 14　Presentations, evaluation, feedback. Week 15　Feedback, wrap-up.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research homework before writing a presentation, and practice homework before making a presentation.
テキスト、参考文献	No Text
評価方法	according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

09 年度以降	Public Speaking I	担当者	D．マッキー

講義目的、講義概要	授業計画
Syllabus　Public Speaking　I , making a presentation. In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking. Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners. There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.	Week 1　Introduction：Public speaking, why where when. It's not conversation. Week 2　What listeners need. What speakers must do. Week 3　Topic：explain a future plan.　Ideas, research, homework ! Week 4　Write and edit Week 5　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 6　Presentations, evaluation, feedback. Week 7　Topic：teaching people how to do something. Ideas, research, homework ! Week 8　Write and edit Week 9　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 10　Presentations, evaluation, feedback. Week 11　Topic：making a persuasive argument. Ideas, research, homework ! Week 12　Write and edit Week 13　Decide how to do it, "props", visuals, practice Week 14　Presentations, evaluation, feedback. Week 15　Feedback, wrap-up.

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students will have research homework before writing a presentation, and practice homework before making a presentation.
テキスト、参考文献	No Text
評価方法	according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).

09 年度以降	Public Speaking I （月４）	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Poster Presentation & Presentation This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of several presentations. Students will then give their own poster presentations and presentations. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1. Orientation 2. Effective Public Speaking: skills & strategies 3. Effective Public Speaking: skills & strategies 4. Poster presentations--orientation 5. Poster presentations--analysis 6. Poster presentations--preparation 7. Poster presentations--preparation 8. Poster presentations 9. Individual presentations--orientation 10. Individual presentations--anaylsis 11. Individual presentations--preparation 12. Individual presentations--preparation 13. Individual presentations 14. Individual presentations 15. Critique and review

到達目標	様々な形態や状況を想定して、中級レベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to conduct background research for their presentations, and to come to class having prepared all homework assignments. (Approximately 4 hours homework each week.)
テキスト、参考文献	Reading and discussion materials will be distributed in class.
評価方法	Group poster presentation = 40%; Individual presentation – 40%; Participation = 20%.

09 年度以降	Public SpeakingⅡ（木３）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
PRESENTATION This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. We will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of presentations. Students will then give their own presentations, on assigned topics and/or on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1 Orientation 2-3 Elements of presentations 4-5 Effective presentations—examples and discussion 6-8 Student presentations 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary

到達目標	様々な形態や状況を想定して、「Public Speaking I」より高いレベルの英語で口頭発表ができるようにする。
事前・事後学修の内容	Please do assignments as soon as possible (the same day; or the next day). Waiting until the last minute to do assignments/homework/speeches ('ichiyazuke') is NOT a good way to prepare for classes.
テキスト、参考文献	Many prints and photocopies may be distributed in class. If a textbook is required, one might be selected after assessing students needs, levels, and abilities.
評価方法	2 presentations (drafts and final version)

09 年度以降	Debate I	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues. 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates. As this is an election year in the Untied State, specially attention will be given to the analysis of the debates that are held during the campaign.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations

到達目標	討論という状況で、リサーチを基にして、中級レベルの英語で思考し、討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare debate material in advance of class as described in class, and will need to follow-up and review the topics debated in class. Specific methods of review will be presented.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be used and internet debates will be presented.
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, notebooks 25%, and a final debate 25%

09 年度以降	Debate II	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a continuation of Debate I. The course will follow the same overall format of Debate I, but will addressed more advanced topics and allow more time for text analysis. Students are required to have a notebook in which articles from the news will be pasted and described. These will serve as a foundation for our warm-up debates. We will watch some of the famous debates in Western history, evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates. As this is an election year in the Untied State, specially attention will be given to the analysis of the debates that are held during the campaign.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 5 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 6 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 7 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 8 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations

到達目標	「Debate I」より高いレベルで、討論という状況で、リサーチを基にして、英語で思考し討論できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare debate material in advance of class as described in class, and will need to follow-up and review the topics debated in class. Specific methods of review will be presented.
テキスト、参考文献	No text is required for this course. Newspaper articles will be used and internet debates will be presented
評価方法	Grades are based on the following: in-class performance 50%, notebooks 25%, and a final debate 25%

13 年度以降	Academic Lecture（火３）	担当者	Ｊ．Ｅ．マジャール

講義目的、講義概要	授業計画
【Modern Japanese History from the perspective of "soto" and "ie" (1968-1945)】 The course is designed to introduce students to several aspects of Modern Japanese History and will not only explore the Political History of the country but also touch upon the Cultural, Economic and Religious aspects with frequent references to other disciplines. The assigned core readings are from selected articles that will be made available online. The coursework will also rely on student presentations – in addition to which – other information will be disclosed during classes, necessitating regular note-taking, active discussions and attendance. Students are welcome to request additional reading materials in various languages (English, Japanese, German, Italian, French, Hungarian).	1. Introduction 2. Peasants on the move 3. Meiji Restoration and the West 4. Foreigners in Meiji and Taisho Japan 5. Two victorious wars: 1894-95 + 1904-05 6. Shinto as national identity 7. Midterm exam 8. Japan in international organizations and treaties 9. Japanese emigration 10. The silent opposition 11. The Greater East Asia Co-prosperity Sphere 12. Total war and its publications 13. Atrocities of WWII 14. Prisoners of war and forgotten civilians 15. Final exam

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	(1) Check the course schedule above and ask fellow students for the class material if you are absent, (2) Go through the content and digest the main points, (3) Use PORTAL to receive notices from me.
テキスト、参考文献	Handouts are prepared by the instructor.
評価方法	In-class performance 20%, Midterm exam 20%, Class presentation 20%, Final exam 40%

13 年度以降	Academic Lecture（月４）	担当者	Ｄ．シュールズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course draws from theories in media studies to introduce students to the critical examination of popular culture. Students will be asked to consider the role media play in the global circulation, distribution, and production of popular culture in Japan, particularly the impact governmental, industrial, and fan actors have on construction of the country as an analytical construct. With its wide range of practices and often vocal members, anime fandom and gaming are the perfect way to explore these themes. Students will draw from core texts in Fan Studies to evaluate the contributions of fansubbing to debates over copyright and piracy, governmental uses of culture as a way to promote the country, and the ways the creative industries leverage fan networks.	1. Course Introduction 2. Anime History 3. Kawaii and Moe 4. Kawaii and Moe 5. Anime Fan Networks 6. Anime Fan Translations 7. Anime Fan Translations 8. Group Presentations 9. Soft Power 10. Cool Japan, Overview 11. Cool Japan and Gender 12. Gaming 13. Gaming 14. Review 15. Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read the assigned material and review the lecture
テキスト、参考文献	Texts available online
評価方法	Participation; group projects; quizzes

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
As societies have become more "globalized" in the recent years, we often come across the term "international relations". Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
As societies have become more "globalized" in the recent years, we often come across the term "international relations". Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations. As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject. **This course is taught in English**. It is an ideal course for students who wish to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.	1. Introduction 2. Why Study International Relations? 3. Nation-State and International Relations 4. Theories of International Relations (1) 5. Theories of International Relations (2) 6. Various Aspects of International Relations 7. Interim Course Review 8. Midterm Examination 9. The Cold War: How it began 10. The Cold War: The 1950s 11. The Cold War: The 1960s 12. The Cold War: The 1970s 13. The Cold War: The 1980s 14. The Cold War: How it ended 15. Course Review

到達目標	総合的な英語力を習得し、英語で行われる講義に対応できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are expected to prepare for each class by reviewing lecture and class discussion notes.
テキスト、参考文献	To be announced.
評価方法	Evaluations will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水３）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 様々な英語の音声媒体を聴いて積極的に演習に取り組むことにより、英語の聴解力とネイティブに近い発音の獲得を目標とする。同時に e-Learning プログラムをディクテーションの形で授業に組み込むことにより、履修後の自律学習への習慣をつけることも目指す。音声学の基礎知識を適宜盛り込みながら、英語のリズムやアクセント体系、及び子音・母音の特徴を学習し、実際のコミュニケーションへ応用できるように心がけていきたい。土台となる教材は教科書とするが、関連事項をウェブ教材などで補足することもある。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペアワーク、録音などのタスクにも力を入れること。	1. コースの説明・概要 2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明 3. 情報伝達のためのスピーチ 4. ニュースと天気予報 5. 説得のためのスピーチ 6. ウェブでのリスニング学習（１） 7. 祝いの場でのスピーチ 8. 中間テスト及び映像を介した英語（１） 9. 機内アナウンス ： 雑音混じりの英語 10. 電話での音声案内 11. 詩と歌 ： 英語のリズムと音のつながり（連結） 12. チャンツとラップ ： 強弱や脱落のパターン 13. ウェブでのリスニング学習（２） 14. 期末テスト及び映像を介した英語（２） 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著（金星堂、2014 年）
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水３）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 本講義では英語の歌曲をもとに、様々な音声上の特徴を学習する。洋楽の歌詞を分析すると、中には日本人の苦手とする音の要素がコンパクトに集約されているものがある。授業では一回につき一つの楽曲を取り上げ、その中でも音声的に特徴的な歌詞を中心として、発音の練習及び歌唱の実現へと結びつけていく。各回の最後には、楽曲の背景を説明したオーディオ教材もあるので、リスニングの補強もここで目指していきたい。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読、口頭練習、歌唱、そしてペアワークにも力を入れること。	1. コースの説明・概要 2. 英語の楽曲について（マザーグース～洋楽） 3. 個別音とアルファベット 4. 日本人の苦手な子音（１） 5. 日本人の苦手な子音（２） 6. 日本人の苦手な母音（１） 7. ウェブでのリスニング学習（１） 8. 中間テスト及び映像を介した英語（１） 9. 変化する音（１）－脱落 10. 変化する音（２）－連結 11. 変化する音（３）－融合 12. 韻を踏んでリズムをとる－ライミング 13. イントネーションとメロディーの関係 14. 期末テスト及び映像を介した英語（２） 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　なし（毎回授業で資料を配布します）
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する

13 年度以降	Listening and Pronunciation（水５）	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 様々な英語の音声媒体を聴いて積極的に演習に取り組むことにより、英語の聴解力とネイティブに近い発音の獲得を目標とする。同時に e-Learning プログラムをディクテーションの形で授業に組み込むことにより、履修後の自律学習への習慣をつけることも目指す。音声学の基礎知識を適宜盛り込みながら、英語のリズムやアクセント体系、及び子音・母音の特徴を学習し、実際のコミュニケーションへ応用できるように心がけていきたい。土台となる教材は教科書とするが、関連事項をウェブ教材などで補足することもある。 概要 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペアワーク、録音などのタスクにも力を入れること。	1. コースの説明・概要 2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明 3. 情報伝達のためのスピーチ 4. ニュースと天気予報 5. 説得のためのスピーチ 6. ウェブでのリスニング学習（１） 7. 祝いの場でのスピーチ 8. 中間テスト及び映像を介した英語（１） 9. 機内アナウンス ： 雑音混じりの英語 10. 電話での音声案内 11. 詩と歌 ： 英語のリズムと音のつながり（連結） 12. チャンツとラップ ： 強弱や脱落のパターン 13. ウェブでのリスニング学習（２） 14. 期末テスト及び映像を介した英語（２） 15. 総復習 ： 今期のまとめ

到達目標	英語ネイティヴレヴェルのリスニングと発音ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著（金星堂、2014 年）
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

13 年度以降	英語の音声	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
音声コミュニケーションを考えたときに，音声がどのように作られ，伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では，英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について，その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて,英語音声をよりよく理解し，実践できるようになることを目指す。また，音声や言語の様々な面について触れることにより，ことばの知の面白さを紹介し，これ以降の音声・言語関係の科目への導入とする。 ＜メッセージ＞ ・貴方の英語，「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら，音声はそれを運ぶ器のようなもの。 音声について，一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」，「なぜ言えない，聞き取れない?」等，初めて学べば目からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられないよ…」という声をよく聞きます。知らなければ，この先ずっと知らない「音声」について，今! この機会に学んでほしい。 ・1 回目（4/12 (火) 4 限）から参加してください（見学も含む）。	1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域，学習者/指導者として 2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官，音声が運ぶ情報 3. 第 3 章 「音声表記」 綴りと発音，IPA 4. 第 4 章 「母音」 基本母音，英語の母音 5. 「母音」(2) 日本語との比較 6. 第 5 章 「子音」 分類 7. 「子音」(2) 日本語との比較 8. 第 3 章「音素と異音」 日本の干渉 9. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢と母音 10. 第 7 章 「語強勢」 11.「語強勢」(2) フット/リズム 日本語と英語 12. 第 8 章「音縮小」 音縮小と統語構造， 第 9 章「同時調音」 13. 第 10 章「イントネーション」 音調核，統語/意味構造，パラ言語 14.「イントネーション」(2) 15. 音声科学の応用（教育・政策・社会学・臨床・工学等）

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	音声学の基礎の講義であり，適宜，練習を取り入れる。学生はテキストの指定部分を読み，課題をやってくることが必須となる。
テキスト、参考文献	佐藤寧・佐藤努（1997)『現代の英語音声学』金星堂 その他 配布資料
評価方法	授業参加（準備・参加）:約 15%，クイズ・課題:約 15%，試験:約 70%。 単位認定には 70%以上の出席が求められる

13 年度以降	英語の音声	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。 概要 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で個々の音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。 注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。	1. コース概要；音声学とは 2. 発声のメカニズム 3. ＩＰＡ；イギリス英語とアメリカ英語；音素と異音 4. 母音の調音 5. 子音の調音（１） 6. 子音の調音（２） 7. ＜中間テスト＞ 8. 音節について音節を示す現象 9. 語強勢(ストレス)とリズム 10. 音縮小 11. 同時調音とイントネーション 12. 音響音声学／科学としての音声学（１） 13. 音響音声学／科学としての音声学（２） 14. Review 15. <期末テスト＞

到達目標	英語の音声に関して概括的知識を習得し、分析・論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回授業でカバーする語彙や専門用語の意味を調べる・授業後は各 Lesson 最後のページを各自復習
テキスト、参考文献	教科書　『現代の英語音声学』佐藤寧・佐藤努著（金星堂、1997 年） 参考文献は授業中に適宜指示する。
評価方法	中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。

09 年度以降	通訳 I （水１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　講義では、テキストを用いながら会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について考えていきます。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行います。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　政治　英日 3.　政治　日英 4.　技術　英日 5.　技術　日英 6.　犯罪　英日 7.　犯罪　日英 8.　IT 通信　英日 9.　IT 通信　日英 10.　産業　英日 11.　産業　日英 12.　医療厚生　英日 13.　医療厚生　日英 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009 年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012 年
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （水１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みます。また、日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施するとともに、学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜 3 限「英語専門講読 II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　教育　英日 3.　教育　日英 4.　国際関係　英日 5.　国際関係　日英 6.　環境　英日 7.　環境　日英 8.　軍事　英日 9.　軍事　日英 10.　医学　英日 11.　医学　日英 12.　経済　英日 13.　経済　日英 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009 年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012 年
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （水２）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　講義では、テキストを用いながら会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について考えていきます。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行います。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　政治　英日 3.　政治　日英 4.　技術　英日 5.　技術　日英 6.　犯罪　英日 7.　犯罪　日英 8.　IT 通信　英日 9.　IT 通信　日英 10.　産業　英日 11.　産業　日英 12.　医療厚生　英日 13.　医療厚生　日英 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009 年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012 年
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （水２）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みます。また、日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施するとともに、学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜 3 限「英語専門講読 II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　教育　英日 3.　教育　日英 4.　国際関係　英日 5.　国際関係　日英 6.　環境　英日 7.　環境　日英 8.　軍事　英日 9.　軍事　日英 10.　医学　英日 11.　医学　日英 12.　経済　英日 13.　経済　日英 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009 年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012 年
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （木１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　講義では、テキストを用いながら会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について考えていきます。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行います。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施します。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　政治　英日 3.　政治　日英 4.　技術　英日 5.　技術　日英 6.　犯罪　英日 7.　犯罪　日英 8.　IT 通信　英日 9.　IT 通信　日英 10.　産業　英日 11.　産業　日英 12.　医療厚生　英日 13.　医療厚生　日英 14.　期末テスト 15.　春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009 年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012 年
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳 I （木１）	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解します。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 　春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みます。また、日本語・英語の運用能力の強化および幅広い分野に対応できるような知識についても学びます。単語テストを毎回実施するとともに、学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 　準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましいです。木曜 3 限「英語専門講読 II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。 ※同一学期に同一教員の重複履修不可。	1.　オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2.　教育　英日 3.　教育　日英 4.　国際関係　英日 5.　国際関係　日英 6.　環境　英日 7.　環境　日英 8.　軍事　英日 9.　軍事　日英 10.　医学　英日 11.　医学　日英 12.　経済　英日 13.　経済　日英 14.　期末テスト 15.　秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙や、基礎知識、基本スキルを習得し、中級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009 年 テキスト②：友野百枝、宮元友之、南津佳広編『通訳学 101』大阪教育図書、2012 年
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 講義では、テキストを用いながら通訳についての知識を深めていきます。基礎訓練ではシャドーイングをはじめとする通訳基礎トレーニングを行います。一方、応用訓練では、逐次通訳、同時通訳に向けて文化的な背景も踏まえた訳出法を習得していきます。毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施しボキャブラリーを増やしていきます。学生同士の学び合いと授業への積極的な参加も重視します。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。春学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましいです。木曜3限「英語専門講読I」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 政治　英日 3. 政治　日英 4. 技術　英日 5. 技術　日英 6. 犯罪　英日 7. 犯罪　日英 8. IT 通信　英日 9. IT 通信　日英 10. 産業　英日 11. 産業　日英 12. 医療厚生　英日 13. 医療厚生　日英 14. 期末テスト 15. 春学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009 年 テキスト②：鳥飼玖美子編著『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房、2013 年
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	通訳Ⅱ	担当者	柴原　早苗

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「通訳I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とします。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることをめざします。 講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、環境、経済などといったテーマを取り上げます。効果的なコミュニケーションや文化的な背景も踏まえた精度のより高い通訳をめざします。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施します。学び合いと授業への積極参加も重視します。 準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示します。初回のオリエンテーションで詳しい説明をしますので、必ず出席してください。秋学期のみの履修も可能ですが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修するのが望ましいです。木曜 3 限「英語専門講読II」とテーマが連動しますので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待します。	1. オリエンテーション（履修者は必ず出席のこと） 2. 教育　英日 3. 教育　日英 4. 国際関係　英日 5. 国際関係　日英 6. 環境　英日 7. 環境　日英 8. 軍事　英日 9. 軍事　日英 10. 医学　英日 11. 医学　日英 12. 経済　英日 13. 経済　日英 14. 期末テスト 15. 秋学期の総括

到達目標	英語通訳に必要な語彙を増やし、同時通訳や長時間通訳といった上級レベルの英語通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキスト指定範囲の精読およびテーマの事前リサーチ 事後学修：通訳パフォーマンスの復習
テキスト、参考文献	テキスト①：一杉武史編著『聞いて覚える英単語キクタン TOEIC Test Score 990』アルク、2009 年 テキスト②：鳥飼玖美子編著『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房、2013 年
評価方法	毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）（70%）および期末テスト（30%）

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコニュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。 １. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 評価方法：クイズ、レポート、授業参加による通常点。 受講レベル：TOEIC600点以上	1.　授業内容と評価方法など。 2.　ビジネス現場に必要とされる英語力 3.　ビジネス現場のコニュニケーション 4.　マーケットの特性（クイズ１） 5.　日本企業の国際依存度 6.　アジア市場の重要性 7.　ASEAN の理解（クイズ２） 8.　中国市場の変貌 9.　貿易取引の理解 10.　サービス産業（映画、アニメ） 11.　国際通貨の理解　（クイズ３） 12.　バブルと国際金融 13.　TPP。FTA とは 14.　まとめ 15.　期末クイズ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時の DVD のみ」
評価方法	通常点：クイズ、レポートにより評価

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコニュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。 １. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 評価方法：クイズ、レポート、授業参加による通常点。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1.　授業内容と評価方法など。 2.　ビジネス現場に必要とされる英語力 3.　ビジネス現場のコニュニケーション 4.　マーケットの特性（クイズ１） 5.　日本企業の国際依存度 6.　アジア市場の重要性 7.　ASEAN の理解（クイズ２） 8.　中国市場の変貌 9.　貿易取引の理解 10.　サービス産業（映画、アニメ） 11.　国際通貨の理解　（クイズ３） 12.　バブルと国際金融 13.　TPP。FTA とは 14.　まとめ 15.　期末クイズ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時の DVD のみ」
評価方法	通常点：クイズ、レポートにより評価

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコニュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。 １. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 評価方法：クイズ、レポート、授業参加による通常点。 受講レベル：TOEIC600点以上	1.　授業内容と評価方法など。 2.　ビジネス現場に必要とされる英語力 3.　ビジネス現場のコニュニケーション 4.　マーケットの特性（クイズ１） 5.　日本企業の国際依存度 6.　アジア市場の重要性 7.　ASEAN の理解（クイズ２） 8.　中国市場の変貌 9.　貿易取引の理解 10.　サービス産業（映画、アニメ） 11.　国際通貨の理解　（クイズ３） 12.　バブルと国際金融 13.　TPP。FTA とは 14.　まとめ 15.　期末クイズ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時の DVD のみ」
評価方法	通常点：クイズ、レポートにより評価

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
この科目は企業環境でのビジネスの為に必要とされる英語運用力の向上とコニュニケーション技能の習得を目的としたものである。講師の実務体験と大学教員としての経験をベースにし、講義は英語、日本語の二カ国語による。具体的には次の方法で演習を行う。 １. 英語、日本語のナレーションのDVDをほぼ毎回上演し、その内容を理解する。そのため、毎回ノートを取り理解不足の場合にはウェブなどにより知識を補充する。 ２．ほぼ毎回、DVDの内容に関し、日本語、英語によるディスカッションを行う。 ３．あくまで受講者の参加型の授業なので、それなりの心構えが前提となる。 評価方法：クイズ、レポート、授業参加による通常点。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1.　授業内容と評価方法など。 2.　ビジネス現場に必要とされる英語力 3.　ビジネス現場のコニュニケーション 4.　マーケットの特性（クイズ１） 5.　日本企業の国際依存度 6.　アジア市場の重要性 7.　ASEAN の理解（クイズ２） 8.　中国市場の変貌 9.　貿易取引の理解 10.　サービス産業（映画、アニメ） 11.　国際通貨の理解　（クイズ３） 12.　バブルと国際金融 13.　TPP。FTA とは 14.　まとめ 15.　期末クイズ

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎日テレビのニュースと新聞（とくに国際関係のもの）を読むこと。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず、「授業時の DVD のみ」
評価方法	通常点：クイズ、レポートにより評価

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に、英文 **Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的な**英文ビジネスレターの書き方**を指導致します。また、就職活動に必要な**英文履歴書とカバーレター**の書き方を分かりやすく講義いたします。 **水曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。** 受講レベル：TOEIC600点以上	1. 講義の概要 2. ビジネスレターの形式（1） 3. ビジネスレターの形式（2）＆練習問題 4. 効果的なビジネスレターの書き方＆練習問題 5. 取引の申込み＆練習問題 6. 引合い（具体的な問い合わせ）＆練習問題 7. オファー（売手からの申込み）＆練習問題 8. 信用状＆練習問題 9. 商品の積出し＆練習問題 10. クレーム＆練習問題 11. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方（1） 12. 英文履歴書と英文カバーレターの書き方（2） 13. 英文ビジネスレター作成実践練習（1） 14. 英文ビジネスレター作成実践練習（2） 15. まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎著『BUSINESS　WRITING―英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年・2011 年重版）
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2 回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に、英文 **Business Reading の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** **本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、指導していきます。**最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。随時、授業中に経済問題（例えば、**ヨーロッパの経済問題、TPP 等**）について分かりやすく解説・説明していきます。 **水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。** 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の概要 2. 英語メディア文の特徴について(1) 3. 英語メディア文の特徴について(2) 4. Headline の読み方実践練習(1) 5. Headline の読み方実践練習(2) 6. Lead の読み方実践練習(1) 7. Lead の読み方実践練習(2) 8. Lead の読み方実践練習(3) 9. Lead の読み方実践練習(4) 10 .本格的な経済記事の読み方実践練習(1) 11. 本格的な経済記事の読み方実践練習(2) 12. 本格的な経済記事の読み方実践練習(3) 13. 国際経済記事の読み方実践練習(1) 14. 国際経済記事の読み方実践練習((2) 15 まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	プリント使用
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2 回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に、英文 Business Reading の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、指導していきます。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。随時、授業中に経済問題（例えば、ヨーロッパの経済問題、TPP 等）について分かりやすく解説・説明していきます。 火曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。 受講レベル：TOEIC600点以上	1. 講義の概要 2. 英語メディア文の特徴について(1) 3. 英語メディア文の特徴について(2) 4. Headline の読み方実践練習(1) 5. Headline の読み方実践練習(2) 6. Lead の読み方実践練習(1) 7. Lead の読み方実践練習(2) 8. Lead の読み方実践練習(3) 9. Lead の読み方実践練習(4) 10. 本格的な経済記事の読み方実践練習(1) 11. 本格的な経済記事の読み方実践練習(2) 12. 本格的な経済記事の読み方実践練習(3) 13. 国際経済記事の読み方実践練習(1) 14. 国際経済記事の読み方実践練習((2) 15. まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	プリント使用
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2 回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「ビジネス英文メールの書き方」を中心にして授業を進めていきます。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。 具体的に講義を説明します。初めに、旅行会社で使用されるビジネス英文メール（営業会議のお知らせ等）、次に、ホテルで使用されるビジネス英文メール（宿泊申込み、苦情、苦情への返信等）、最後に、貿易会社で使用されるビジネス英文メール（引合い、オファー、信用状決済、積出し等）の書き方等を分かりやすく講義し、ビジネス英語全般とビジネス現場の実態を学んでいきます。 火曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 講義の概要 2. ビジネス英文メールの形式＆企業の機関・役職名・部署名 3. 支社長会議開催のお知らせメール＆Inbound と Outbound 4. 支社長会議への出席通知＆略語の使用と客室乗務員の仕事 5. 営業会議出席者の宿泊の申込み＆コンシェルジュの仕事 6. ホテルへの苦情＆アメリカ流弁護士ビジネス 7. 苦情への返信＆ビジネス英文メールの書き方 8. ワインの見本輸入＆ボージョレ・ヌーボー 9. 見本商品の発送通知＆航空貨物営業 10. 引合い（問い合わせ）＆海外勤務の楽しさ 11. オファー（売手からの申込み）＆海外勤務の厳しさ 12. オファー受諾通知＆総合商社とは 13. 船積み通知＆商社の営業 14. クレームとクレームの解決＆外資系企業の契約について 15. まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	海老沢達郎他著『English for Business』（DTP 出版、2014 年）
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2 回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（今年度の秋学期は Unit9 以降）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan)、および専門語彙（technical terms）を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 ＊注意：　このシラバスは**木曜日 3 時限**の授業のものです。 木曜日 4 時限の同一名称科目とは内容が異なります。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1. 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3. 「注文」の通信文の読解・作成を行います。 4. 「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。 5. 「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。 6. 「信用状開設訂正」の通信文の読解・作成を行います。 7. 「海上保険」の通信文の読解・作成を行います。 8. 「輸出手配」の通信文の読解・作成を行います。 9. 「船積み」の通信文の読解・作成を行います。 10. 「輸入手配」の通信文の読解・作成を行います。 11. 「決済」の読解・作成を行います。 12. 「クレーム」の読解・作成を行います。 13. 「クレーム調整」の読解・作成を行います。 14. 「会社社交文」の読解・作成を行います。 15. 秋学期の総復習と質疑応答を行います。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	各単元の Sample Email と解説を熟読するとともに、Exercises を解いて学習成果を必ず確認して下さい。また、Vocabulary（関連語彙集）と Related Expressions（関連表現集）を利用して語彙力と表現力の拡充に努めて下さい。
テキスト、参考文献	（テキスト） 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講（四訂版）』（三恵社、2016 年）および配布プリント （参考書）　杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、履行および決済の段階に登場する代表的な貿易書類として、商業送り状(Commercial Invoice)、船荷証券（Bill of Lading; B/L）、保険証券（Insurance Policy）等の船積書類、輸出申告書と輸入(納税)申告書、荷為替信用状（Documentary Letter of Credit; L/C）などを学びます。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。 受講レベル：TOEIC600 点以上	1.　秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2.　各種の船積書類(Shipping Documents)の意義と目的、作成上および読解上の注意点等を説明します。 3.-4. 商業送り状を作成する実習を行います。 5.-6. 船荷証券と保険証券のサンプルを検討し、各々の記載事項を読解する実習を行います。 7.　輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。 8.-9. 輸出申告書（Export Declaration; E/D）を作成する実習を行います。 10. -12. 輸入(納税)申告書（Import Declaration; I/D）を作成する実習を行います。 13. -14. 荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明し、サンプルを検討しながら信用状の記載事項をチェックする実習を行います。 15.　秋学期の総復習と質疑応答を行います。

到達目標	ビジネス英文書の読み・書きや貿易といった、英語ビジネス・コミュニケーションができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、実習で作成した貿易関連書類や関連文書は必ず提出して下さい。
テキスト、参考文献	（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、ロジスティクス（logistics）に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務全般にわたり満遍なく、かつ、詳細に勉強することをねらいとします。 具体的には、秋学期は、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に６つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）に属するテーマを詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 既修条件：英語ビジネス・コミュニケーションを既修	1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：”Incoterms 2010”の各貿易条件の概観 3. 履行段階(2)：外為法に基づく輸出許可と輸出承認 4. 履行段階(3)：輸出通関手続き 5. 履行段階(4)：海上運送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：航空運送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：複合運送に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 9. 履行段階(8)：輸出 PL 保険に関する実務知識と手続き 10. 履行段階(9)：各種運送書類（transport document） 11. 履行段階(10)：為替リスクの種々の回避法 12. 決済段階(1)：信用状(Letter of Credit; L/C)と荷為替手形による決済の仕組み 13. 決済段階(2)：L/C によらない決済の仕組み 14. クレームおよびクレーム調整の段階 15. 秋学期の授業の総復習および質疑応答

到達目標	英語ビジネス・コミュニケーション実務能力を習得し、英語で貿易実務ができるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたテキスト、資料等は事前に必ず精読しておいて下さい。また、税関、JETRO、経済産業省等のサイトに頻繁にアクセスし、貿易関連の最新情報（特に法令改正や通達）を入手するよう努めて下さい。
テキスト、参考文献	（テキスト）当方で用意する英文と和文の資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）
評価方法	期末試験の結果（概ね 80%の比重）および平常授業における小テストや課題レポートの実績（概ね 20%の比重）を合計して評価します。

09 年度以降	メディア英語 I （月 3）	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie. Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.
評価方法	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.

09 年度以降	メディア英語 I （月 3）	担当者	A．R．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE, or a movie. Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic4/Presentation of Video 9. Quiz4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/Presentation of Video 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic6/Presentation of Video 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class.
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.
評価方法	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英字新聞丸かじり」と称して、**「英字新聞の読み方」**をテーマにして授業を進めていきます。グローバル化時代にあって、外国からの色々な情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことです。 そこで、**本講義では、「英字新聞」等に馴染みのない学生に、「初歩的な英文記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の英文記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、本格的な「政治・経済・社会問題の記事」を交えて、英文記事全般について勉強していきます。随時、授業中に、その時の話題となったニュースを取り上げ、勉強、解説していきます。また、**英字新聞等で頻繁に使用される基本的な用語集**をプリント配布いたします。**「英語で何と言うの？」コーナー**を設け、話題となっている英語も紹介いたします。**「英字新聞丸かじり」**の授業です	1. 講義の説明 2. 英字新聞の特徴について（1） 3. 英字新聞の特徴について（2） 4. Headline の読み方実践練習（1） 5. Headline の読み方実践練習（2） 6. Lead の読み方実践練習（1） 7. Lead の読み方実践練習（2） 8. Lead の読み方実践練習（3） 9. Lead の読み方実践練習（4） 10. 本格的な政治記事の読み方実践練習 11. 本格的な経済記事の読み方実践練習 12. 本格的な社会記事の読み方実践練習 13. 社説の読み方実践練習（1） 14. 社説の読み方実践練習（2） 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントの指定された箇所を事前に十分予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	プリント使用
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2 回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英字新聞丸かじり」と称して、**「英字新聞の読み方」**をテーマにして授業を進めていきます。グローバル化時代にあって、外国からの色々な情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことです。 そこで、**本講義では、「英字新聞」等に馴染みのない学生に、「初歩的な英文記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の英文記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、本格的な「政治・経済・社会問題の記事」を交えて、英文記事全般について勉強していきます。随時、授業中に、その時の話題となったニュースを取り上げ、勉強、解説していきます。また、**英字新聞等で頻繁に使用される基本的な用語集**をプリント配布いたします。**「英語で何と言うの？」コーナー**を設け、話題となっている英語も紹介いたします。**「英字新聞丸かじり」**の授業です	1. 講義の説明 2. 英字新聞の特徴について（1） 3. 英字新聞の特徴について（2） 4. Headline の読み方実践練習（1） 5. Headline の読み方実践練習（2） 6. Lead の読み方実践練習（1） 7. Lead の読み方実践練習（2） 8. Lead の読み方実践練習（3） 9. Lead の読み方実践練習（4） 10. 本格的な政治記事の読み方実践練習 11. 本格的な経済記事の読み方実践練習 12. 本格的な社会記事の読み方実践練習 13. 社説の読み方実践練習（1） 14. 社説の読み方実践練習（2） 15. まとめ 授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントの指定された箇所を事前に十分予習しておいて下さい。また、復習をし、課題が出された場合には次回までにしておくか、或いは提出してください。
テキスト、参考文献	プリント使用
評価方法	定期試験 70%、小テスト 2 回 20%、授業貢献度 10%。尚、欠席は原則 5 回までとする。

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、BBCニュースから厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。 1つのトピックを二週に渡って検討する。一週目はBBCの報道内容を吟味する。二週目はトピックを別の角度から検証する。そのため、二週目は発表とディスカッションを主体に授業を進める。	1. オリエンテーション 2. Poppies at the Tower of London(1) 3. Poppies at the Tower of London(2) 4. Cosplay in London(1) 5. Cosplay in London(2) 6. Who Owns Banksy's Street Art?(1) 7. Who Owns Banksy's Street Art?(2) 8. The Latest News 9. A Chip under the Skin(1) 10. A Chip under the Skin(2) 11. Houses Built from Straw(1) 12. Houses Built from Straw(2) 13. Paternity Leave(1) 14. Paternity Leave(2) 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の Behind the Scenes の項目に目を通し、それについて自分なりに調べてくる。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	『BBC Seeing the World through the News 3』Timothy Knowles、Daniel Brooks、武岡由樹子 編著（金星堂、2016 年）
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春に引き続きこの講義では、BBCニュースから厳選した素材をもとに、世界で起きている様々な出来事について学び、世界各国の文化や社会について知識を深めることを目的とする。 1 つのトピックを二週に渡って検討する。一週目は BBC の報道内容を吟味する。二週目はトピックを別の角度から検証する。そのため、二週目は発表とディスカッションを主体に授業を進める。	1. オリエンテーション 2. Young Voters 3. Young Voters 4. Teaching Digital Skills 5. Teaching Digital Skills 6. Scotland's Future 7. Scotland's Future 8. The Latest News 9. Online Courts 10. Online Courts 11. The Price of the Monarchy 12. The Price of the Monarchy 13. Child Soldiers of South Sudan 14. Child Soldiers of South Sudan 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の Behind the Scenes の項目に目を通し、それについて自分なりに調べてくる。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	『BBC Seeing the World through the News 3』Timothy Knowles、Daniel Brooks、武岡由樹子 編著（金星堂、2016 年）
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、２つの国（スイス、南アフリカ）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1.　ガイダンス 2.　履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3.　9.11：なぜ「歴史的事件」となったのか？ 4-5.　再生可能エネルギーの可能性 6-7.　大企業化①：食品業界 8-9.　大企業化②：金融業界 10-11. スイス：「平和」とは何か？ 12-13. 南アフリカ：「共存」への道 14.　メディアとの付き合い方を考える 15.　春学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！（グループ作りは、私が決めるのではなく、学生の皆様同士で決めるようお願いしています。２人～３人のグループになって頂きたいのですが、人数調整が必要な場合のみ、私が最後に介入します。）**

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい ＊事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。
テキスト、参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。 必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）６０％、授業内での発表 ＆ 発言４０％ ＊ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	メディア英語 I	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。 この授業の目的を以下のように設定します。 ＊可能な限り、多種多様な情報に目を通す （極端な考えに偏らないようにするため） ＊↑をもとに、自分の考えを創りだす ＊自分の考えを他人に正確に伝える ＊他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。 （議論はより良い考えに至るためのもの。 人格攻撃にならないようにする。） ＊行動を起こす それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1.　ガイダンス 2.　履修決定の学生との確認、グループ作り＆担当箇所決定 3-4.　3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較 5-6.　靖国問題 7-8.　沖縄の歴史 9-10.　国の借金：本当に深刻なのか？ 11.　海外での和食の評価 12-13. 日本のアニメと漫画 14.　これから日本はどう世界と関わっていくのか？ 15.　秋学期授業のまとめ 講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。 **第２回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね　！**

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、各個人で関連項目に関するメディアの記事を探し、議論できるようにしておいて下さい ＊事後には、発表者や教員が提示したメディアの記事に再度目を通し、理解を深めて下さい。
テキスト、参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。 必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）６０％、授業内での発表 ＆ 発言４０％ ＊ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	メディア英語 I （金１）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画	
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.	1	Documentary (or article) #1
	2	Documentary (or article) #1
	3	Essay or Presentation #1
	4	Documentary (or article) #2
	5	Documentary (or article) #2
	6	Essay or Presentation #2
	7	Documentary (or article) #3
	8	Documentary (or article) #3
	9	Essay or Presentation #3
	10	Documentary (or article) #4
	11	Documentary (or article) #4
	12	Essay or Presentation #4
	13	Final preparation
	14/15	Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語 I （金１）	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画	
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1	Documentary (or article) #1
	2	Documentary (or article) #1
	3	Essay or Presentation #1
	4	Documentary (or article) #2
	5	Documentary (or article) #2
	6	Essay or Presentation #2
	7	Documentary (or article) #3
	8	Documentary (or article) #3
	9	Essay or Presentation #3
	10	Documentary (or article) #4
	11	Documentary (or article) #4
	12	Essay or Presentation #4
	13	Final preparation
	14/15	Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語 I （金１）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
目的に応じたメディアの使い方を習得しながら、英語の語彙力や理解力に加えてプレゼンテーションやライティングのスキルを高めるという、欲張りな学習目標を設定しています。これらを達成するために、(1) 報道番組のディクテーションと音読の反復練習、(2) 小グループでの特定課題（英語メディアが報じる日本の長時間労働）についての研究、(3) 特定課題研究の成果としてのグループ発表、(4) 本科目での学習成果を分析する個人レポートの執筆などのホリスティックな学習方法を用意しています。 第 7 週のポスターセッションを経て、第 13 週と第 14 週のグループ発表、そして学習成果を振り返りながら個人レポートをまとめる頃には、限られたテーマについてではあるけれども、受講前と比べて「英語が使える・話せるようになった」と感じていただければ幸いです。（日本の長時間労働についての研究から、自分がどのような気付きを得られるのかも楽しみにしていただければと思います。）	1. なぜ「メディア英語」を学ぶのか？ 2. メディアの活用法 3. 新聞の読み方 4. 雑誌の読み方 5. 英語メディアが報じる日本の長時間労働 6. 日本人は本当に働きすぎか？ 7. ポスターセッション 8. 学術的な文章を活用する 9. 長時間労働の功罪 10. 労働時間の決定要因 11. 日本の就職活動 12. 外国で働くという選択肢 13. グループ発表 14. グループ発表 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生はすべての教材を読むとともに、他の受講生と協力しながら課題に取り組むことが求められます。
テキスト、参考文献	プリント教材
評価方法	ディクテーションの記録 20%、グループ発表 40%、個人レポート 40%

09 年度以降	メディア英語 I （金２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories from around the world, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions. Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit.　４回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.
評価方法	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.	1. Introduction to the class 2. Topic 1/Presentation of Video 3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers 4. Topic 2/Presentation of Video 5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers 6. Topic 3/Presentation of Video 7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers 8. Topic 4/Presentation of Video 9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers 10. Topic 5/ Presentation. 11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers 12. Topic 6/ Presentation. 13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers 14. Topic 7/Presentation of Video 15. Final Evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Please read the materials and prepare questions for things you do not understand. Also Please review what we discussed the previous week in class
テキスト、参考文献	Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.
評価方法	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、毎週、*The New York Times*から最新のニュース記事を読む。 トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 担当の分担 第 3 回～第 14 回 2 回めの授業にて指示する。 第 15 回 まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語Ⅱ	担当者	関根　路代

講義目的、講義概要	授業計画
春に引き続きこの講義では、毎週、*The New York Times* から最新のニュース記事を読む。 トピックは主として学生の興味・関心に応じて厳選する。加えて、日本に関する報道にも注目してみたい。 授業はプレゼンテーション形式で進める。	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 担当の分担 第 3 回～第 14 回 2 回めの授業にて指示する。 第 15 回 まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う文献を事前に精読しておくこと。また、授業後に出す課題を次回に提出すること。
テキスト、参考文献	初回の授業にて指示する。
評価方法	授業内での発表(30%)、参加度(20%)、課題(20%)、レポート(30%)

09 年度以降	メディア英語Ⅱ（金２）	担当者	Ｐ．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.”As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand. The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay or Presentation #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay or Presentation #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay or Presentation #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay or Presentation #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約　　配られた資料を予習
テキスト、参考文献	Materials to be handed out in class weekly.
評価方法	Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation75% Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	メディア英語Ⅱ（金１）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
目的に応じたメディアの使い方を習得しながら、高度な英語の理解力に加えてプレゼンテーションやライティングのスキルを高めるという、欲張りな学習目標を設定しています。これらを達成するために、(1) 基本教材の付属CDのディクテーションと音読の反復練習（宿題）、(2) 毎週のトピック（「授業計画」参照）に関する情報収集とディスカッション、(3) 小グループでの特定課題についての研究、(4) 特定課題研究の成果としてのグループ発表、(5) 学習成果を分析する個人レポートの執筆などのホリスティックな学習方法を用意しています。 第7週のポスターセッションを経て、第13週と第14週のグループ発表、そして学習成果を振り返りながら個人レポートをまとめる頃には、受講前と比べて様々な時事問題について英語で考え、話せるようになったと感じていただければ幸いです。	1. 導入 2. メディアの活用法 3. 経済 4. 科学技術 5. 政治・国際関係 6. 環境 7. ポスターセッション 8. 教育 9. 医療 10. 結婚・家庭 11. メディア 12. レジャー 13. グループ発表 14. グループ発表 15. まとめ

到達目標	テレビや新聞、インターネット等の各メディアで使用される中級レベル英語の語彙を増やすとともに、運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生はすべての教材を読むとともに、他の受講生と協力しながら課題に取り組むことが求められます。
テキスト、参考文献	植田一三・上田敏子（2013）『英語で経済・政治・社会を討論する技術と表現(CD BOOK)』ベレ出版 その他、プリント教材
評価方法	ディクテーションの記録 20%、グループ発表 40%、個人レポート 40%

09 年度以降	シネマ英語	担当者	D．シュールズ

講義目的、講義概要	授業計画
This course positions horror films as a critical reflection of and reaction to particular historicized cultural anxieties and examines how technology facilitated these anxieties. Centering on four particular moments within the genre of horror—the "zombies-as-capitalists" films emerging in the decade post-May 1968, the slasher films of the 1980's, the "postmodern" horror films of the 1990's, and the pathologized new media horror circulating today—students will be asked to explore how different discourses converge during these periods to produce specific media representations geared towards alleviating very specific social anxieties. Students will accomplish this through a combination of reading primary texts produced during these time periods and watching scenes from particular horror films.	1. Course Introduction 2. Race in horror film 3. Race in horror film 4. Economic themes in horror film 5. Economics themes in horror films 6. Masculinity and femininity in horror film 7. Masculinity and femininity in horror film 8. Postmodern horror film 9. Postmodern horror film 10. Technology as horror 11. Technology as horror 12. Remaking horror film 13. Final paper meetings 14. Review 15. Review

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read the assigned material and review the lecture
テキスト、参考文献	Phillips, Kendall. (2005). *Projected fears: Horror film and American culture.* ISBN-10: 0275983536; additional texts available online
評価方法	Participation, short papers, final paper

09 年度以降	シネマ英語（火３）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８～１０回　学生プレゼンテーションの内容確認 第１１～１４回　プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント 20%、ワークシート 30%、プレゼンテーション 20%、テスト 20%、レポート 10%とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火３）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト　プレゼンテーションのテーマチェック 第８～１０回　プレゼンテーション内容チェック 第１１～１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント 20%、ワークシート 30%、プレゼンテーション 20%、テスト 20%、レポート 10%とする。なお、４回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火４）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜日３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。	第１回　ガイダンス　サイレントからトーキーへ 第２回　ミュージカル映画について 第３回　映画に見られるテーマと表現分析その１ 第４回　テーマと表現分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テストと発表テーマ確認 第８～１０回　学生プレゼンテーションの内容確認 第１１～１４回　プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント 20%、ワークシート 30%、プレゼンテーション 20%、テスト 20%、レポート 10%とする。なお、4 回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語（火４）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。 履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（３～４人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。火曜３，４時限目とも扱う内容は基本的に同じです。重複受講はできません。	第１回　ガイダンス 第２回　映画に描かれる日本人について 第３回　映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現　分析その１ 第４回　テーマと表現　分析その２　および グループ・ワークシート作成　１ 第５回　テーマと表現　分析その３　および グループ・ワークシート作成　２ 第６回　テーマと表現　分析その４　および グループ・ワークシート作成　３ 第７回　復習テスト　プレゼンテーションのテーマチェック 第８～１０回　プレゼンテーション内容チェック 第１１～１４回　学生プレゼンテーションとコメント 第１５回　まとめと復習テスト

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当作品の台詞分析および発表に向けてのパワーポイントの作成
テキスト、参考文献	プリント配布
評価方法	分析コメント 20%、ワークシート 30%、プレゼンテーション 20%、テスト 20%、レポート 10%とする。なお、4 回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期では、様々なジャンルの映画（「ＳＦ」「ミュージカル」「歴史」「生死」）を取り上げます。右記の授業計画を見て下さると分かるように、テーマは取り扱う映画によって異なりますが、授業では映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 １回の授業で１本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画を観ます。時間の関係上、授業内で映画１本をノーカットで鑑賞するのは難しく、（断腸の思いで）割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 『*GHOST IN THE SHELL/* 攻殻機動隊』(1995) 3. *The Matrix* (1999)：他メディアからの影響も検証する 4. *Star Wars IV*(1977)：神話学者曰く「現代の神話」 5. *Gattaca* (1997)：自然出産者はデザイナーベイビーを超えられるか？ 6. *Slumdog Millionaire* (2008)：インドの現実？英国監督作品のためか、議論を呼んだ作品 7. *Invictus* (2009)：南アフリカでのスポーツと政治 8. *Ten Commandments* (1956)：十戒を学んでみよう 9. *The Truman Show* (1998)：メディアに操られる世界 10. *Chicago* (2002)：殺人事件も娯楽になる？ 11. *Moulin Rouge!* (2001)：ラブソングの変遷を追う 12. *The Bucket List* (2007)：死ぬ前にやりたいこと 13. *Dead Poet Society* (1989)：「いまを生きる」とは？ 14. 議論の時間：“What's your best movie and why?” 15. 春学期授業のまとめ

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 ＊事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。
テキスト、参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。 必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）８０％、授業の参加度２０％ ＊ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	シネマ英語	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期では名優たちの映画&ドラマを取り上げます。授業では映画&ドラマを丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。 １回の授業で１本の映画&ドラマを分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業中は、基本的に英語の字幕をつけた状態で映画&ドラマを観ます。時間の関係上、授業内で映画１本をノーカットで鑑賞するのは難しく、（断腸の思いで）割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思います。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	1. ガイダンス 2. 履修決定の学生との確認、講義&ディスカッション 3. *Rain Man* (1988): Dustin Hoffman, Tom Cruise 4. *Blade Runner* (1982): Harrison Ford 5. *Indiana Jones and the Last Crusade* (1989): Harrison Ford, Sean Connery 6. *One Flew Over the Cuckoo's Nest* (1975): Jack Nicholson 7. *The Devil Wears Prada* (2006): Meryl Streep, Ann Hathaway 8. *Patch Adams* (1998): Robin Williams 9. *Roman Holiday* (1953): Audrey Hepburn 10. *The Shawshank Redemption* (1994): Tim Robbins, Morgan Freeman 11. *The Great Dictator* (1940): Charlie Chaplin 12. *Music and Lyrics* (2007): Hugh Grant, Drew Barrymore 13. *Friends* (1994-2004): Jennifer Aniston, etc 14. 議論の時間：“Who is your favorite actor and/ or actress and why?” 15. 秋学期授業のまとめ

到達目標	英語圏の映画の歴史を学び、映画の諸場面で使用される中級レベルの英語表現を理解し、実際に運用できるようにする。
事前・事後学修の内容	＊事前に、次回の授業で取り上げる映画を鑑賞してきてください。 ＊事後には、再度授業で取り上げた映画を英語の字幕なしで鑑賞してみてください。
テキスト、参考文献	＊適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介します。 必要な場合は、印刷して配布します。
評価方法	＊提出物（レポート）８０％、授業の参加度２０％ ＊ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席と換算します。**欠席５回した時点で単位取得が不可能**になります。 **＊レポート未提出は自動的にＦ評価になります。**

09 年度以降	ツーリズム交流論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関る複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関る基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識や視座を習得する。 講義では、まずツーリズムに関る基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。	1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？ 2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理 3、ツーリズムの歴史 4、ツーリズムを支える諸産業① 5、ツーリズムを支える諸産業② 6、ツーリズムと情報／メディア 7、ツーリストのまなざし論 8、ツーリストの諸分類と矛盾した欲望 9、ツーリズムとオーセンティシティ 10、ツーリズムの経済効果 11、ツーリズムの社会的文化的インパクト① 12、ツーリズムの社会的文化的インパクト② 13、観光地計画と観光政策① 14、観光地計画と観光政策② 15、まとめ

到達目標	国際収支改善、雇用促進、地域開発等の経済的側面のみならず社会、文化、教育、環境、国際親善など非常に広範囲な分野に強い影響力を及ぼすツーリズム交流について専門知識を習得し、分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内の指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	前田勇編著『新現代観光総論』学文社　岡本伸之編『観光学入門』有斐閣 大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版　※すべて参考文献
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

09 年度以降	ツーリズム・リスク論	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
（ディズニー映画で学ぶ） W・ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」を鑑賞しながら、世界史に登場した「海賊（パイレーツ）」の正体に迫ります。 毎回の授業では、前半にディズニー映画などを取り上げます。授業の後半では、テキストを参照して、知識を獲得します。 この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊､パイレーツに光をあてます。 世界ブランドになったコーヒー、紅茶、スパイスの世界史も触れます。英国初のブランド・ビジネスは、パイレーツと縁が深いのです。	１　ディズニー映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」 ２　　同上 ３　英雄としての海賊 ４　　同上 ５　小テストの実施 ６　映画「エリザベス＜ゴールデン・エイジ＞」 　　女王と側近ウォルシンガム、ローリー ７　海洋覇権のゆくえ――海賊の役割 ８　スパイス争奪戦――海賊の「東インド会社」 ９　　同上 １０　ディズニー映画「カリブの海賊＜ワールド・エンド＞」 　　シンガポール、「東インド貿易会社」 １１　コーヒーから「午後の紅茶」へ １２　　同上 １３　甘いクスリ＜砂糖＞の登場 １４　ディズニー映画「カリブの海賊　＜生命の泉＞」 １５　まとめ

到達目標	国際的なツーリズム産業を取り巻く多様なリスク（海賊・テロ・組織犯罪など）について専門知識を習得し、リスクの発生原因やその影響、さらにリスク回避の対策などを分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト、参考文献	竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	ツーリズム文化論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ考察する。おみやげという身近な存在を通じて、グローバルな人とモノの移動と文化をめぐる動態について考える視野を身につけることを目標とする。 講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。	1、ガイダンス 2、ツーリズムにおけるモノの文化的消費 3、おみやげとスーベニア 4、観光みやげの近代 5、「民芸品」をめぐるまなざし 6、観光みやげと真正性 7、観光みやげのギフト性 8、観光みやげの儀礼的倒錯性 9、観光みやげと「ものがたり」 10、旅するマトリョーシカ① 11、旅するマトリョーシカ② 12、おみやげが媒介する文化 13、民芸品としてのアジアン雑貨 14、アジアン雑貨が創る旅 15、まとめ

到達目標	各国・各地域の文化・歴史を象徴する名所や遺跡、建造物等について専門知識を習得し、ツーリズムと文化・歴史との関係性、およびツーリズム産業について分析のうえ見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

13 年度以降 12 年度以前	ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論） ツーリズム・メディア論	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。 「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」のシンボルになり、あるいは「観光くにづくり（観光立国）」の理念にもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域アイデンティティの創造などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を根本から造り替えたりすることがあります。 ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性とメカニズムを検討します。	1. ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係 2. グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった 3. グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「節合」 4. グアムから考える③：「日本人の楽園」と基地の島 5. 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする 6. ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック 7. ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化 8. ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者 9. 理論編②：真正性とアーティキュレーション 10. メディア・ツーリズム①：観光地とメディア 11. メディア・ツーリズム②：映画観光の特徴 12. メディア・ツーリズム③：「歴史」の観光資源化 13. 理論編③：複製技術時代の観光と真正性 14. 理論編④：メディア・ツーリズムのメカニズム 15. まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

09 年度以降	ツーリズム・マネジメント論	担当者	鈴木　涼太郎

講義目的、講義概要	授業計画
現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。 本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について批判的視点を身につけることを目標とする。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。 講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。	1、ガイダンス 2、ツーリズム産業のしくみ 3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点 4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費 5、ツーリズム産業の競争環境 6、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？ 7、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する 8、パッケージツアー③：商品企画における「知識」 9、空間の管理とテーマ化 10、テーマ化された空間とハイブリッド消費 11、感情労働 12、テーマ化された空間に暮らす 13、テーマ化された空間の将来 14、観光化する社会と「ツーリズムの終焉」？ 15、まとめ

到達目標	ツーリズム・マネジメントの基本であるツーリズム・マーケティングの専門知識を習得し、観光市場調査、観光行動の分析を行い、観光需要予測、商品企画等ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内での指示に従い各自が予習復習を行うこと。
テキスト、参考文献	授業内で適宜紹介する。
評価方法	授業への参加／講義内小課題 20%　期末試験 80%

09 年度以降	国際会議・イベント事業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　２０２０年の東京での開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義においては、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。 講義概要： 　オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。	１．オリエンテーション ２．イベント・コンベンションについて① ３．イベント・コンベンションについて② ４．国際博覧会 ５．東京オリンピック・パラリンピック ６．障害者スポーツとパラリンピックについて ７．国際会議・イベントについての「ディスカッション」 ８．古代オリンピック ９．オリンピックの歴史・意義・役割について １０．ビジネスの視点からのオリンピック① １１．ビジネスの視点からのオリンピック② １２．プレゼンテーション：「2020 年･東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」① １３．　〃　② １４．　〃　③ １５．まとめ

到達目標	ツーリズム産業の重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて専門知識を習得し、その現状と将来の課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞、関連文献などを事前に読むこと。配布した資料の復習。
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。
評価方法	受講姿勢、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％

09 年度以降	ツーリズム政策論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的としている。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、グローバル化が進展する今日その重要性がさらに高まっている。このような現状を踏まえながらマーケティングの視点も含め、より多様な視点からツーリズム政策を分析する。同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。 講義概要： 　ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション等を通して受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して理解を深めていく。	１．オリエンテーション ２．ツーリズムの基本構造（1） ３．ツーリズムの基本構造（2） ４．マーケティングとは何か？ ５．ツーリズム政策とマーケティング理論 ６．ツーリズム政策の変遷 ７．ツーリズム政策における我が国の課題 ８．（ツーリズム政策に関する）ディスカッション ９．世界のツーリズム政策（シンガポール） １０．世界のツーリズム政策（ドイツ） １１．世界のツーリズム政策（スイス） １２　世界のツーリズム政策（フランス） １３．日本各地のツーリズム政策（地域振興など） １４．ツーリズムとキャリアデザイン １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	観光政策と行政等、観光に関する政府の具体的な施策、および観光行政組織や「観光立国推進基本法」に関する専門知識を習得し、観光政策や観光立国のあり方などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞などメディア情報を確認し、ツーリズムに関する情報を事前に確認しておくこと
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する
評価方法	受講姿勢、講義参画：７０％ 最終試験：３０％

09 年度以降	旅行・宿泊産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。 講義概要： 　旅行産業の発展経緯、ビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテル・旅館ビジネスを中心に、経営及び運営方法、会計、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動向等を中心に学習する。最後の「プレゼンテーション＋ディスカッション」では、各産業への提案を各自パワーポイントを使って行う。	１．オリエンテーション ２．海外旅行パッケージツアーの歴史と現状 ３．旅行産業の現状と課題① ４．旅行産業の現状と課題② ５．宿泊産業（ホテル、旅館）の概要① ６．宿泊産業（ホテル、旅館）の概要② ７．リゾートホテル・ビジネス ８．ディスカッション（テーマ：各産業の課題等） ９．航空産業の最近の動向① １０．航空産業の最近の動向② １１．プレゼンテーション① １２．プレゼンテーション② １３．プレゼンテーション③ １４．プレゼンテーション④ １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業の歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割などについて専門知識を習得し、現状の問題点と将来の課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞や関連文献から各産業の最近の動向を事前に調べておくこと。講義内容の復習。
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。
評価方法	受講姿勢、講義参画：７０％ プレゼンテーションとレポート：３０％

09 年度以降	航空産業論	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているＬＣＣ（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。 講義概要： 　本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説をする。	１．オリエンテーション ２．最近の航空産業の動きなど ３．航空産業とキャリアデザイン ４．航空の歴史（ライト兄弟から近代まで） ５．ＪＡＬとＡＮＡの登場と成長 ６．ＬＣＣ（低コスト航空会社） ７．アライアンス ８．航空産業の課題について（ディスカッション） ９．航空政策とＪＡＬの破綻と復活 １０．オープンスカイと規制緩和 １１．航空安全 １２．航空機製造ビジネス １３．航空産業の特性と航空運賃 １４．空港 １５．講義全体の“まとめ”

到達目標	国際航空業の仕組みや成り立ち、国際航空協定と航空ナショナリズムの流れに関する専門知識を習得し、わが国の空港行政の問題点や航空政策の現状と課題、及びLCCやアライアンス等の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの丁寧な予習と復習（事前の予習無しでは理解が難しい内容も含まれている）
テキスト、参考文献	テキスト（教科書）:『最新・航空事業論』（２０１３年２月、日本評論社）
評価方法	受講姿勢、講義参画：５０％ 最終試験：５０％

13 年度以降 12 年度以前	地域開発論 市民参加のまちづくり論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。地域や町が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょうか。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NY のドッグランと防犯、インドネシアでのＮＧＯ活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。	１．イントロダクション ２．地域の発展を理解するための視座（教科書１章） ３．住民参加(participation)の意義と多義性（２章） ４．生ごみリサイクルにみる町づくり制度構築：山形県（３章） ５．地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫県（４章） ６．つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） ７．共益から公益の創出へ：ＮＹと東京のドッグラン（10 章） ８．スラムとコミュニティ開発：ブラジル（ビデオ） ９．地域づくりと外部者のまなざし：島根県（７章） 10．参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ） 11．開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援（11 章） 12．ソーシャルキャピタル・社会関係資本 13．百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』） 14．アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（８章） 15．まとめ、試験対策

到達目標	地域開発に関する専門知識を習得し、各国・地域における観光開発のあり方や課題、問題点などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収編『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（＋α）。

09 年度以降	オルタナティブ・ツーリズム論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討します。 オルタナティブ・ツーリズムとは、観光の大衆化（マス・ツーリズム）がもたらす様々な弊害(生活文化の形骸化や自然環境の破壊、新植民地主義等)を克服するために登場した観光開発の理念です。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれた歴史的・社会的背景について概説します。その上で、エコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどのオルタナティブな観光実践の現状について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考えます。 本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたいと思います。その際に扱う事例としては、東南アジアをはじめとする「第三世界」や、先住民族や少数民族、都市のスラムといった「第四世界的状況」を取り上げることが多くなります。	1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 貧困の商品化―スラム・ツーリズムの事例 5. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 6. 環境主義の商品化―エコリゾート 7. 世界遺産と観光 1―ラオス・ルアンパバンの事例 8. 世界遺産と観光 2―中国・麗江の事例 9. 先住民とアート―北米イヌイットの事例 10. 先住民とミュージアム―アイヌの事例 11. エコツーリズムと先住民 1 12. エコツーリズムと先住民 2 13. コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光―高知県四万十川流域を事例として 15. まとめ

到達目標	オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光の動向について専門知識を習得し、これらの観光の現場において生じている問題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	ツーリズム人類学	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムがそれを受け入れる社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など多岐にわたっており、それゆえツーリズムを学術的に考察する際の方法論も多様です。 本講義では、特に文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶことを目的としています。 具体的には、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指します。同時に、ツーリズム研究に関連する現代人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めていきたいと思います。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ありませんが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となります。	1. 趣旨説明 2. 映画『海と大陸』 3. グローバリゼーションの民族誌 1 4. グローバリゼーションの民族誌 2 5. 旅と観光 6. ビデオ上映『深夜特急 1』 7. 表象の政治学―情報資本主義と観光 8. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 9. 植民地主義と観光―「神々の島」バリの誕生 10. 文化装置としてのホテル 11. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 12. セックス・ツーリズム―タイの事例 13. エスニック・ツーリズム―タイの事例 14. 先住民文化の商品化と著作権―北欧サーミの事例 15. 「記憶の場」と観光―広島および西アフリカの事例

到達目標	ツーリズム人類学（観光人類学）における主要な問題・関心について専門知識を習得し、実際の観光現象について文化人類学的視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	『観光学キーワード』『よくわかる観光社会学』などで、観光研究についての基本的知識について理解を深めておくこと。
テキスト、参考文献	特に定めない。毎回、文献リストを配布する。
評価方法	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

13 年度以降 12 年度以前	ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論） ツーリズム地誌論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における 1 泊 3 日の研修旅行を通じて、世界各地の幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指します。 リトルワールドには、世界の 30 以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されています。受講生は、複数のグループに分かれ、そのなかから 1 つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に文献資料収集を行ないます。その上で、研修旅行では各々が「ガイド」となって、各展示を案内してもらいます。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成します。 本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となります。またグループ・ワークなど演習形式の取り組みも多いため、グループ内の議論等に積極的に参加できる人のみ履修を認めます。なお，初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。	1. 趣旨説明・グループ分け 2. 講義 1：民族誌展示の歴史と現在 1 3. 講義 2：民族誌展示の歴史と現在 2 4. ビデオ上映（国立民族学博物館の取り組み） 5. 発表・議論 6. 発表・議論 7. 発表・議論 8. 発表・議論 9. 発表・議論 10. 発表・議論 11. 発表・議論 12. 発表・議論 13. 発表・議論 14. 発表・議論 15. まとめ ※ 研修旅行の日程は、12 月中旬の週末を予定しています。詳細は、秋学期開始時までに教務課掲示板にてお知らせします。費用は、往路バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで 3 万円程度です。

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったツーリズムに関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	関心のある地域や民族集団についての民族誌を読むこと。
テキスト、参考文献	山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣
評価方法	研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	フィールドワーク論	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
東京を訪れる外国人観光客が近年急増していますが、本講義は、東京の「魅力」やそれを支える文化的独自性について、実際に東京各所を歩き回ることを通じて考える実践的講義です。 まず、文化人類学や社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を講義形式で紹介します。その上で、実際に東京を縦横無尽に歩きまわった上で、都市の成り立ちや人々の生の営みについて理解を深めることを目指します。 受講生には、担当教員が指定した6つのコースの中から1~2つ選択し、5月から6月の週末を使って、プチ・フィールドワークをしてもらいます（実費負担）。なお担当教員は、これらのプチ・フィールドワークにすべて同行し、基本的な解説を行ないます。しかしただ解説を聞くのではなく、受講生自身が、想像力と五感をフルに使って東京の文化的独自性やその「味わい方」を発見することが求められます。さらに、こうした「発見」の成果については、学期末に班ごとに発表をし、レポートにまとめてもらいます。	1. 趣旨説明・グループ分け(1 回) 2. 東京を「読む」ための方法論（講義） 3. コース解説 1：山の手と下町（本郷・広尾・六本木・浅草） 4. コース解説 2：「水の都」（深川、佃、月島） 5. コース解説 3：「おばあちゃんの原宿」（巣鴨） 6. コース解説 4：繁華街の過去・現在・未来（渋谷・原宿） 7. コース解説 5：エスニック・タウン（新宿、新大久保） 8. コース解説 6：ジブリ映画の舞台・ニュータウン（多摩） 9. 発表・議論 1 10. 発表・議論 2 11. 発表・議論 3 12. 発表・議論 4 13. 発表・議論 5 14. 発表・議論 6 15. まとめ

到達目標	フィールドワークの基本的な理論や技法を習得し、実践できるようにする。
事前・事後学修の内容	雑誌『東京人』等、東京を紹介する各種メディアの記事などを参照する。
テキスト、参考文献	特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。
評価方法	発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	インターンシップ	担当者	井上　泰日子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 　インターンシップを通して自らの専攻、キャリアデザインに関連した就業体験を行うことで、働くことの意義や実社会の理解、さらに自己の職業への適応力等を学習する。 講義概要： 　本科目は教室内での事前学習と、夏期実習、９月に実施する報告会で構成されている。事前学習は、インターンシップの意義を理解し効果的に実習が受けられるように準備することを目指している。同時に、社会に出てからのキャリアデザインについても学習する。 　報告会では、実施報告書、日誌などに基づき、実習で学んだことに関するプレゼンテーションを行い、実習で得た経験、情報を全員で共有する。	■事前学習 １．オリエンテーション ２．インターンシップの具体的内容解説 ３．キャリアデザイン（1） ４．キャリアデザイン（2） ５～９．各業界の担当者による解説、マナー講座 １０．社会で働くことについての研究（1） １１．社会で働くことについての研究（2） １２．社会で働くことについての研究（2） １３．インターンシップ実習前準備（1） １４．インターンシップ実習前準備（2） １５．インターンシップ実習前の心得 ■夏期休暇中の実習―（約２週間） ■報告会（９月中旬を予定している）

到達目標	ツーリズム業界のインターンシップに必要な知識等を習得し、実習によりツーリズム業界を体験することで、業界の細部や自己の職能・適性等を発見できるようにする。
事前・事後学修の内容	各産業、各企業の研究を事前に行っておくこと。プレゼンテーションの練習を行うこと。
テキスト、参考文献	適宜個別資料を配布する。
評価方法	講義への出席、実施報告書、日誌、報告会での発表などから総合的に評価する。

09 年度以降	トランスナショナル文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「トランスナショナル文化論」の目的は、トランスナショナルな人の移動と文化の変容について、現代世界に見られるさまざまな問題(issues)を手掛かりに考えていくことです。この授業では特に「人の移動（移住労働者、移民、難民)」に焦点を当てます。 新聞、雑誌記事などを講義支援システムにアップして教材とします。また、次の本を参考図書として使用します。原本と日本語訳が図書館にあります。King, Russell, et.al., *The Atlas of Human Migration: Global Patterns of People on the Move* (London: Earthscan, 2010)	1. Jewish & other diasporas 36-7 2. Palestinian diaspora 3. Palestine today 4. Introduction 5. Slave Migrations 24-7 6. The Great Migration 28-33 7. Global Migration 38-47 8. Global Migration 47-59 9. Internal Migration 42,54 10. Refugees 60-71 11. Refugees II 12. Refugees in Japan 13. Irregular Migration 74-7 14. Migration & Integration 92-101 15. Catch up & Wrap up

到達目標	トランスナショナル文化のフローとそれに関する専門知識を習得し、国境を越えた人や物、思想の動きとその重要性などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテクスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。
テキスト、参考文献	本文参照
評価方法	小レポート、試験、学期末レポートによる。

09 年度以降	トランスナショナル・メディア論	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。 ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。 この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。 メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。	1. ガイダンス:「トランスナショナル」と「メディア」とは？ 2. メディアの源流①：メディアとしての新約聖書 3. メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力 4. 近代とメディア①：ジャーナリズムとリテラシーの曙 5. 近代とメディア②:「個人」の誕生と「国家」の変容 6. 近代とメディア③:「日刊新聞」以前・以後 7. 近代とメディア④：ニューヨーク・タイムズの 19 世紀 8. 近代日本のトランスナショナル・メディア 9. 20 世紀とメディア①：国際プロパガンダと「宣伝」 10. 20 世紀とメディア②：ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム 11. 20 世紀とメディア③：湾岸・イラク戦争と”Media War” 12. 国際報道の現在形①:「ライブ」という問題 13. 国際報道の現在形②：ネット時代の「ニュース」 14. 国際報道の現在形③：トランスナショナル・メディアとわたしたち 15. まとめ

到達目標	トランスナショナル・メディアに関する専門知識を習得し、様々な規模で見た、メディアを通じた文化、歴史、言語、情報・科学技術、環境、政治、経済、社会現象などのインターフェースについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

13 年度以降 12 年度以前	トランスナショナル文化特殊講義（パフォーマンス研究） パフォーマンス研究	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（ミュージアムのパフォーマンス） ミュージアムの展示をパフォーマンスとして分析する。ミュージアムを入館者に働きかけをおこなう文化装置と考えると、パフォーマンス研究の視点から分析が可能になる。 最初の数回でミュージアムとパフォーマンスの関係を考えた後、ベルリンのユダヤ人博物館、ワシントンＤＣのホローコースト博物館など、戦争や虐殺の記憶が、ミュージアムによってどのように「パフォーム」されているかを詳しく検討していく。 なお、2 回目の授業では、Marina Abramovic というパフォーマンス・アーティストについてのビデオを観賞する予定。初回の授業に出ていない人は、分かりづらいかもしれないので、ウエブなどで調べてから授業に臨んで欲しい。 昨年とは内容を一部入れ替えるので、重複履修可。	1. Bennett, pp.1-7. 2. Abramovic, Artist is Present. 3. Bennett, pp.8-23. 4. Bennett, 5. Bennett, 6. Museum and Memory 7. Museum and Memory 8. Museum and Memory 9. Museum and Memory 10. Museum and Memory 11. Catch-up 12. 戦争博物館を考える 13. 戦争博物館を考える 14. 戦争博物館を考える 15. Wrap-up

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテクスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。
テキスト、参考文献	Susan Bennett, *Theatre and Museums* (Palgrave, 2013)、その他、英文のものを含め、論文や雑誌記事など
評価方法	学期末課題と学期中に何度か提出してもらう小レポート、発表、クラスのフェイスブックページへの投稿。

09 年度以降	表象文化論	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
（戦争の記憶と表象―オーストラリアと日本） 授業の導入部分では、4月25日のANZAC DAYを概観する。オーストラリアの義勇兵が、第1次世界大戦のはじめ、トルコのガリポリで上陸作戦を開始した記念日だが、昨今は、愛国心の過度の表出を懸念する向きもある。 http://www.awm.gov.au/commemoration/anzac/anzac-tradition/ その後の授業では、検討の対象を日本に移し、「特攻」を賛美するかのような近年の風潮や、兵隊たちと性行為を強要させられていた女性たちの「強制連行」がなかったと主張する政府やメディアの戦略を考える。沖縄での強制集団死や、朝鮮人、中国人強制連行・労働などを含め、戦争が日本でどのように記憶され、文化的に表象されてきたかを問題にし、受講生と共にディスカッションしていく。映画『ホタル』や、井上ひさしの戯曲『きらめく星座』なども題材として取り上げる予定。 土日などを利用して、靖国神社「遊就館」や「女たちの戦争と平和資料館」など、学外の施設を見学してもらう。 昨年とは内容を一部入れ替えるので、重複履修可。	1. イントロダクション 2. ANZAC 3. ANZAC 4. ANZAC(ディスカッション) 5. ANZAC(まとめ) 6.「慰安婦」(導入) 7.「慰安婦」（１） 8.「慰安婦」（２） 9.「沖縄・集団死」（１） 10.「沖縄・集団死」（２） 11.「強制連行・労働」（１） 12.「強制連行・労働」（２） 13. 戦争の記憶と映画・演劇 14. 戦争の記憶と映画・演劇 15. まとめのディスカッション

到達目標	表象文化に関する専門知識を習得し、社会における表象の重要性や表象によって意味が構築される過程などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテクスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。
テキスト、参考文献	参考文献として、Norma Field, In the Realm of a Dying Emperor (1993)を挙げておく。日本語訳で読むことも可能（共に本学図書館所蔵）。その他、英文のものを含め、新聞・雑誌記事などを使う。詳しくは初回の授業で説明する。
評価方法	学期末のレポートと、学期中に複数回提出してもらう短いレポート、毎週書き込んでもらうクラスのフェイスブックを評価の対象とする。十分な予習・復習をした上で、授業に積極的に参加することが、単位取得の条件となる。

09 年度以降	開発文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の１つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう１つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、ＮＧＯや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。	１．講義の概要 ２．豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か　1 章 ３．近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） ４．貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 3 章 ５．教育・学び・文化 4 章、5 章 ６．ジェンダーとフェミニズム 6 章 2 ７．宗教と社会開発 NGO　7 章 2 ８．ローカルメディアとアイデンティティ戦略　7 章 3 ９．開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民の自己防衛 8 章 2 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO　8 章 3 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策

到達目標	開発文化に関する専門知識を習得し、近代化イデオロギーとしての「開発」現象としてのグローバリゼーションの現実、グローバリゼーションへの反応としてのローカルな文化活動などについて分析を行い、事例について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの熟読、授業ノートを踏まえたテキストの再読
テキスト、参考文献	（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。 ※DUO 等で各自購入してください
評価方法	期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（＋α）。

09 年度以降	トランスナショナル社会学	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
目的：グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の３点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。	１．授業の概要　２．社会学とは ３．諸概念の概説：トランスナショナリズムとは ４．国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア ５．国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 ６．グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム ７．グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 ８．グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 ９．国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 １０．国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 １１．中間まとめ　※ビデオ『となりの外国人』（予定） １２．アイデンティティについて　在日コリアンを例に １３．民際協力としての自治体国際協力 １４．講義全体のまとめ １５．試験対策

到達目標	トランスナショナル社会学に関する専門知識を習得し、国民国家＝社会という枠組みから、国境を相対化したトランスナショナルな枠組みに置き換えて、移民、留学、結婚等の様々な社会的行為・現象について理解、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。
テキスト、参考文献	参考文献は適宜授業中に示す。
評価方法	期末試験（85%）、学期中宿題としてレポート課題が１回ある（15%）。

09 年度以降	食の文化論	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
食と農を題材にしたグローバリゼーション研究の授業です。食べ物は私達にもっとも身近で不可欠なものです。人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。このような現状を踏まえ、「食」を手がかりに、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えます。	1．講義の概要　2．食の文化を見る眼：文化とは何か 3．食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』 4．私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5．遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6．マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7．ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み 8．食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9．コーヒーのグローバルヒストリー 10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 11. シビック・アグリカルチャー① 12. シビック・アグリカルチャー② 13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消 14. 食の「再ローカル化」（re-localization） ※ビデオ　フランス映画『未来の食卓』 15. 講義のまとめと試験対策

到達目標	「食」というキーワードを手がかりに、グローバル化、ナショナル化に統合されていく「文化」の多様性の意義を再定義し、地域人・家庭人としての自分達の食事について理解、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	資料の通読、自分でとったノートの整理。
テキスト、参考文献	（参考文献）トーマス・ライソン著、北野収訳『シビック・アグリカルチャー：食と農を地域にとりもどす』農林統計出版。
評価方法	期末試験（100%）。

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （トランスナショナルな公共圏を求めて）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
過去 30 年の間に、日本に定住する外国人の数は約 200 万人、人口の 2%まで増加しています。しかし、言語、宗教、文化の背景を異にする人たちにとって、教育や仕事など、日本は必ずしも暮らしやすい社会とはいえません。 この授業では、「文化多様性」をキーワードに、さまざまな価値観を互いに尊重し合い、個人の権利を守る新しい社会を作り上げる方法を考え、自分たちにできることを、実行に移していくことを目標としています。クリエイティブな未来のために何ができるのか。共に考え、共に活動していく授業になればと思います。 テクストをベースに教室でディスカッションをする一方で、教室の外に出てフィールドワークをしたり、プロジェクトを立ち上ることもしたい、と考えています。受講生の熱意によってスリリングで、かつ実り多い授業になると思います。 プロジェクトを来年の「草加国際村一番地・インターナショナル・フェスティヴァル」で発表することも可能です。定員は 30 名です。履修上の制限などある場合もあると思いますが、他学科生や留学生の参加も是非、歓迎したいと思います。 昨年とは内容を一部入れ替えるので、重複履修も可能です。	1. 導入 2. 「多文化共生」と「文化多様性」について 3. グループワーク、ディスカッションなど 4. グループワーク、ディスカッションなど 5. グループワーク、ディスカッションなど 6. グループワーク、ディスカッションなど 7. グループワーク、ディスカッションなど 8. グループワーク、ディスカッションなど 9. グループワーク、ディスカッションなど 10. グループワーク、ディスカッションなど 11. グループワーク、ディスカッションなど 12. プレゼンテーション 13. プレゼンテーション 14. プレゼンテーション 15. まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテクスト（英文も含め）の予習をすること、事後は教室での議論を踏まえて復習すること。
テキスト、参考文献	渡戸・井沢編『多民族化社会・日本』（明石書店、2010）を、取り敢えず参考文献として推薦しておきます。詳しくは初回の授業でお話します
評価方法	発表、小レポート、学期末レポートによる。

13 年度以降	トランスナショナル文化特殊講義 （「観る」ことの文化史）	担当者	山口　誠

講義目的、講義概要	授業計画
旅するとき、人はなぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆に SNS へアップするためにフォトジェニックな場所へ旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています――いったい「撮る」という行為は、いかなる意味を持つのでしょうか？ 「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ＆ラースン、2011＝2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。そのためこの講義では、国際的な研究成果を日本の社会文脈に導入し、出席者とともに「自撮り（Selfie）」や「絶景」など、トランスナショナルな社会現象を考え、写真と映画を主な題材として「観る」ということを歴史社会学の方法で考察します。 より具体的な講義の目的は、写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、「撮る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探ることで、近代社会におけるイメージとイマジネーションの諸問題を考えることです。	1. ガイダンス：観光写真と写真観光 2. 写真の歴史①：遠近法と写真術 3. 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化 4. 写真の歴史③：戦後日本の写真産業と家族写真 5. 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術 6. 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」 7. 海外の「まなざし」③：トランスナショナル・イメージとツーリズム（天皇のイメージ） 8. 「観る」の政治学①：「動く画」の発明（映画の誕生） 9. 「観る」の政治学②：映画の技法 10. 「観る」の政治学③：ディズニー映画と domestication 11. 「観る」の政治学④：映画の「まなざし」とロードムービー 12. 「観る」とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々 13. 「観る」とツーリズム②：「自撮り」を考える 14. 「観る」とツーリズム③： SNS と「観る」ことの変容 15. まとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったトランスナショナル文化に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に示す事例や重要概念について図書館などで自ら調べ、さらに理解を深めること。
テキスト、参考文献	授業で適宜紹介します。
評価方法	期末試験 85%、授業参加度および学期中レポート 15%。

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期前半は明治以後の140年間、日本に対し、日露戦争の軍資金調達、医学・化学などの学術指導、法制定を通じ多大な恩恵を及ぼした知られざるユダヤ・パワーを学ぶ。 日猶友好親善の140年史を学ぶことは、「外国人との共生」の道を模索せねばならぬ今日の日本人にとり、有益な示唆がえられるはずである。 後半は彼らがアメリカの地でパワーエリートに成り上がる以前、中世から近代の英国で負け犬として「下積み」をすごした時代を概観する。	1. 日猶交流の 140 年史 2. 投資銀行家、シフはなぜ日本を助けたのか 3. 野口英世と恩師フレクスナー 4. 明治医学界のユダヤの恩師 5. 日本歴史学の父、リース 6. 日本原子物理学の恩人、ボーア 7. 憲法起草で指導的役割を果たしたケーディス 8. 憲法に「男女平等」を盛り込んだベアテ・シロタ・ゴードン 9. 中世英国のユダヤ人金融 10. 隠れユダヤ教徒の足跡 1290~1656 年 11. 千年王国論とユダヤ人再入国 12. 17~18 世紀英国の外国貿易とユダヤ人 13. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 14. 英国シオニスト勢力 15. ホロコースト難民の救済とパレスチナへの送り出し

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関する学際的な専門知識を習得し、多様化した英語圏を文学研究、コミュニケーション論、人類学、言語学、国際関係論、ツーリズム研究などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また、授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト、参考文献	佐藤唯行著『日本の恩人、ユダヤ人』2015 年　日新報道 1,500 円 佐藤唯行著『英国ユダヤ人』1995 年 講談社選書 1,600 円
評価方法	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持込み可。出席をとらない。評価は定期試験によってのみ決定。

09 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English. This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.	1. Introduction, The First Americans 2. Columbus and the Conquistadors 3. The First British in America 4. War and Independence 5. Building a New Nation 6. Civil War Splits the Country 7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts 8. European Immigrants Pour In 9. Agriculture: Amber Waves of Grain 10. Industrialists, Inventors, Tycoons 11. Black Culture in America 12. Imperial World Capital 13. Postwar Good Life & The Sunbelt 14. America the Beautiful 15. Final Test (Essay)

到達目標	英語圏の文学、文化、歴史、社会に関する学際的な専門知識を習得し、多様化した英語圏を文学研究、コミュニケーション論、人類学、言語学、国際関係論、ツーリズム研究などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎週の授業内容をノートに記入、要約 小クイズ（抜き打ち）の準備
テキスト、参考文献	Materials will be handed out in class.
評価方法	Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence. Four or more absences will likely disqualify students from getting credit. 4 回以上の欠席は単位取得を困難にする。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの美術 I）	担当者	阿部　明日香

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 17 世紀から 19 世紀までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテクストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。 講義概要： 毎回一人の画家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。	1. イントロダクション 2. ニコラ・プッサン（1594-1665） 3. シモン・ヴーエ（1590-1649） 4. ジョルジュ・ド・ラトゥール(1593-1652) 5. フランソワ・ブーシェ（1703-1770） 6. ジャン=シメオン・シャルダン（1699-1779） 7. ジャック=ルイ・ダヴィッド（1748-1825） 8. ジャン=ドミニク・アングル (1780-1867) 9. ユジェーヌ・ドラクロワ (1798-1863) 10. ジャン=フランソワ・ミレー（1814-1875） 11. エドゥアール・マネ（1832-1883） 12. 印象派 1 13. 印象派 2 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示された参考文献を読む。画集などで作品に親しむ。
テキスト、参考文献	プリントを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。
評価方法	毎回の授業のコメントペーパー、 美術館見学レポート、学期末試験

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語概論 a）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。 講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、まずは言語についての一般的な問題を取り上げる。言語学概論とだぶる部分も出てくるとは思うが、できるだけドイツ語との比較も含めて進めていきたい。	1. ことばの不思議–導入と年間計画 2. ことばの不思議（1） 3. ことばの不思議（2） 4. ことばの不思議（2） 5. ドイツ語の履歴書–ドイツ語史（1） 6. ドイツ語の履歴書–ドイツ語史（2） 7. それってドイツ語–ドイツ語の方言 8. 文法のお話（1）–品詞ってなに 9. 文法のお話（2）–木を見て森を見ず 10. 文法のお話（3）-パンドラの箱 11. 辞書は大きなおもちゃ箱 12. 言語というブラックホール 13. 言語のたのしみ 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索
テキスト、参考文献	適時講義で指示。
評価方法	試験あるいはレポートと授業中の課題。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語概論 b）	担当者	金井　満

講義目的、講義概要	授業計画
ドイツ語という言語を中心に言語をいろいろな視点から扱い、今後のドイツ語学習ばかりではなく、各人が関心を抱いている分野でも、理解が深まるような足場を築くことを目標とする。 講義科目ではあるが、教員が話し、学生はノートを取るというような一方向的な形ではなく、できる限り一緒に考えるという方法を取りたい。講義は、範囲の比重をドイツ語に移して、言語の問題を様々な側面から扱うことによって深めていきたい。	1. 言語は怪人二十面相 2. 言語学の歴史 3. 音の世界–音声学・音韻論 4. 形にこだわって–形態論 5. 文の組み立てについて–統語論 6. 意味って何（1）–意味論 7. 意味って何（2）–意味論 8. 言語は生き物（1）–実用論 9. 言語は生き物（2）–実用論 10. 言語と社会–社会言語学 11. 言語と心–言語心理学あるいは認知 12. 言語研究への道 13. 言語研究への道 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に見いだされた疑問への自分なりの解答の模索
テキスト、参考文献	適時講義で指示。
評価方法	試験あるいはレポートと授業中の課題。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽 I）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
19世紀のロマン派の器楽に焦点を当てます。時代精神とともに変わる芸術表現の変遷や、国民性による感覚の違いを学びます。 19世紀には、18世紀後半の古典派の時代に比べると自由度と色彩感が増すロマン派がドイツにあらわれます。その様子を主にピアノ曲と管弦楽曲において見ていきます。そのあと19世紀後半にフランスに表われる様式と比較しながら時代や国民性の違いを実感できるようにしていきます。 講義ではできるだけ音楽を聴いたり映像を見たりして進めていきます。	1. 講義のガイダンス 2. ピアノ曲 1：シューベルト、シューマン 3. ピアノ曲 2：シューマン、ショパン 4. ピアノ曲 3：ショパン、ブラームス 5. 管弦楽曲 1：シューベルト、メンデルスゾーン 6. 管弦楽曲 2：シューマン、ブラームス 7. 管弦楽曲 3：ヨーロッパ周辺国 8. フランスのピアノ曲 1：フォーレ、ドビュッシー 9. フランスのピアノ曲 2：ドビュッシー 10. フランスのピアノ曲 3：ラヴェル 11. フランスの管弦楽曲 1：ショーソン、ドビュッシー 12. フランスの管弦楽曲 2：ドビュッシー、デュカ 13. フランスの管弦楽曲 3：ラヴェル 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布するプリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。
テキスト、参考文献	テキスト：プリント。 参考文献：ガイダンス時に紹介。
評価方法	中間と期末の 2 回の試験の平均による。受験資格：3 分の 2 以上の出席。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （フランスの音楽 II）	担当者	松橋　麻利

講義目的、講義概要	授業計画
19世紀後半にひとつの最盛期を迎えたフランス音楽が、表現が多様になる20世紀にはどのように変遷していくかを見ていきます。その際、他の国の代表的な傾向にも目配りし、比較しながらフランス音楽の特徴や国民性による表現の違いを学びます。 また価値の多様化の流れの中で、音楽とは何かという根本問題に取り組んだアメリカの作曲家ケージと、彼を批判した20世紀を代表するフランスの作曲家ブーレーズも採り上げ、学生自らが現代音楽を考えるきっかけをもつことが目的です。 講義ではできるだけ音楽を聴いたり映像を見たりして進めていきます。	1. 講義のガイダンス 2. シェーンベルク 1 3. シェーンベルク 2 4. ストラヴィンスキー1 5. ストラヴィンスキー2 6. サティと「六人組」 7. オネゲル 8. ミヨー 9. プーランク 10. メシアン 1 11. メシアン 2 12. ケージ 13. ブーレーズ 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布するプリントと紹介する参考文献を読み、授業中に触れる作品を自らも積極的に聴くこと。
テキスト、参考文献	テキスト：プリント。 参考文献：ガイダンス時に紹介。
評価方法	中間と期末の 2 回の試験の平均による。受験資格：3 分の 2 以上の出席。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏芸術・文化概論 a）	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。　映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 春学期は、ルネサンス・宗教改革期からロマン派時代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1　オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2　ルネサンス・宗教改革期① 3　同② 4　同③ 5　三十年戦争・バロック期① 6　同　② 7　同　③ 8　啓蒙主義時代① 9　同② 10　同③ 11　ロマン派時代① 12　同② 13　同③ 14　グリムのメルヒェン 15　まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。
テキスト、参考文献	テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じ、その都度指示する。
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%。詳細は授業中に指示する。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏芸術・文化概論 b）	担当者	山本　淳

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 これからドイツ語圏の芸術・文化を学んでいこうと考えている学生諸君のために、芸術・文化史上の基本概念や、重要な文化事象についての情報を提供し、学生諸君自身がそれをもとに、自らのテーマを決めたり、深めたりするための「きっかけ」をつくる。その際、芸術・文化に「ドイツ語圏」という冠をつけることの意味も同時に考える。 講義概要 ドイツ語圏の芸術・文化の歴史的展開を、社会史と関わらせながら通時的に概観すると同時に、それぞれの時代に見られる文化現象のアクチュアリティについて共時的に考える。事典のように事柄を網羅的に並べるのではなく、それぞれの時代の文化現象の特徴を端的に示すようなトピックスをゆるやかにつないでいきながら、ドイツ語圏芸術・文化の歴史的な流れをたどり、その特質を明らかにしたい。　映像・音声資料もできるだけ多く利用する予定である。 秋学期は、19 世紀後半から現代までを扱う。 春学期・秋学期を通しての履修が望ましい。	1　オリエンテーション：講義のねらい、講義の進め方、評価方法等について 2　19 世紀後半① 3　同② 4　世紀転換期① 5　同② 6　モダニズム① 7　同② 8　ヴァイマル文化① 9　同② 10　ナチズムと芸術① 11　同② 12　同③ 13　現代へ：新たな芸術の展開① 14　同② 15　まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	扱われるテーマについて、事前に自分なりに調べ、問題意識を高めておく。 授業後は、自ら参考文献などを使って考察を深め、テーマに関する批判的検討を行う。
テキスト、参考文献	テキスト：特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。 参考文献：必要に応じ、その都度指示する。
評価方法	学期末レポート 90%、毎回の授業アンケート 10%。詳細は授業中に指示する。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏文学・思想概論 a）	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ いわゆるゲーテ時代のさまざまな人間観について吟味し、できるだけ現代の人間観、人間が抱える諸問題などと関連づけながら考察することを目的とします。 ＜講義概要＞ イマヌエル・カントのエッセイ『啓蒙とは何か？』を読んで当時の人間観について概観した後に、同時代の他の文学作品などから人間に関する描写、考察、分析をしている箇所を拾い出して読み、考察して行きます。	1. オリエンテーション 2. カント『啓蒙とは何か？』を読む 3. カント『啓蒙とは何か？』を読む／ 「啓蒙」によって得られるもの，失われるもの 4. 「啓蒙」によって得られるもの，失われるもの 5. ゲーテ『若きヴェルターの悩み』を読む 6. 「ヴェルター的悩み」とは？ 7. シラー『招霊妖術師』を読む 8. 「啓蒙」の時代とオカルト・ブーム 9. ゲーテ『ファウスト』を読む 10. 人間を「調合」？する 11.『ファウスト』第二部、最終場面について 12.『魔笛』を見る 13.『魔笛』を読む 14. クニッゲ『人間交際術』を読む 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ文学史の本（例えば、手塚富雄・神品芳夫『増補　ドイツ文学案内』岩波文庫別冊）で、ゲーテ時代、およびその前後の時代の文学・時代の状況について概観しておくといいでしょう。後は、授業の復習！
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じてコピーで配布します。 参考文献：必要に応じて指示します。
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20%）と、学期末の筆記試験（80%）により評価します。

09 年度以降	ヨーロッパの文化 （ドイツ語圏文学・思想概論 b）	担当者	渡部　重美

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義目的＞ ドイツ語で書かれた代表的な文学作品を、いわゆるジャンルごとにいくつか取り上げ、ジャンルとしての特徴などを検討しながら、楽しむ（深読みする？）ことを目的とします。 ＜講義概要＞ 右記の通り、ドイツ語で書かれたメルヒェン、詩、小説、ドラマの各ジャンルから代表作品を選び、内容を概観した上で、いろいろな視点から解釈（つまり、深読み）して行きます。	1. オリエンテーション 2. メルヒェン（1） 3. メルヒェン（2） 4. メルヒェン（3） 5. ドイツの詩（1） 6. ドイツの詩（2） 7. ドイツの詩（3） 8. ドイツの詩（4） 9. ドイツの小説（1） 10. ドイツの小説（2） 11. ドイツの小説（3） 12. ドイツのドラマ（1） 13. ドイツのドラマ（2） 14. ドイツのドラマ（3） 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種文化に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパ文化を、言語、芸術、宗教、哲学、思想などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ文学史の本（例えば、手塚富雄・神品芳夫『増補　ドイツ文学案内』岩波文庫別冊）で、ドイツ文学の歴史を概観しておくといいでしょう。後は、授業の復習！
テキスト、参考文献	テキスト：必要に応じてコピーで配布します。 参考文献：必要に応じて指示します。
評価方法	毎回の授業で提出していただくリアクションペーパー（20%）と、学期末の筆記試験（80%）により評価します。

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
（スパイ映画で世界を学ぶ） 英国スパイ映画のブランド「００７」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 この映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では､イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。	１　スパイ映画００７「スカイフォール」世界のいま ２　　同上 ３　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ４　　同上 ５　小テスト実施 ６　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ７　　同上 ８　スパイ映画「００７」―１９７０年代の世界 ９　　同上 １０　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １１　　同上 １２　　同上 １３　原作者イアン・フレミングの世界 １４　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」 １５　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト、参考文献	『グローバル社会論資料集』
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
（スパイ映画で世界を学ぶ） 英国スパイ映画のブランド「００７」シリーズを、鑑賞しながら、授業を進めます。テキストを併用し、情報もしっかりと獲得します。 この映画に登場する世界の主要都市、世界のブランド、そして当時の国際関係を解説します。ポイントは、インテリジェンスの視点から世界を眺めることです。 スパイ映画「００７」シリーズは、１９６０年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる５０年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。 映画の中では､イギリスが世界に誇る多くのブランド品が登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。“世界ブランド論”の授業の一翼を担います。	１　スパイ映画００７「スカイフォール」世界のいま ２　　同上 ３　スパイ映画「００７」―１９９０年代の世界 ４　　同上 ５　小テスト実施 ６　スパイ映画「００７」―１９８０年代の世界 ７　　同上 ８　スパイ映画「００７」―１９７０年代の世界 ９　　同上 １０　スパイ映画「００７」―１９６０年代の世界 １１　　同上 １２　　同上 １３　原作者イアン・フレミングの世界 １４　ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」 １５　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画の背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト、参考文献	『グローバル社会論資料集』
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあって、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。 なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心をも喚起したい。	1　はじめに 2　行為主体（1）主権国家、主権国家体系 3　行為主体（2）国際組織（国際連合を中心に） 4　行為主体（3）NGO、多国籍企業 5　地域主義・地域協力（1）ヨーロッパ統合の歩み 6　地域主義・地域協力（2）アジアの統合は可能か？ 7　戦争と平和（1）戦争、勢力均衡、同盟 8　戦争と平和（2）レジーム、制度、規範 9　戦争と平和（3）予防外交、人道的介入、平和維持・構築 10　人間の安全保障 11　グローバリゼーション：国境を超える人、モノ、カネ、情報、思想 12　グローバル・イシューズ（1）貧困 13　グローバル・イシューズ（2）地球環境問題 14　グローバル・イシューズ（3）人権、民主化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する。
評価方法	平常点（20%）、試験（80%）

09 年度以降	グローバル社会論 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
学科必修科目となっている本講義では、国際関係の「歴史」、「理論」、「現状」について学んでいく。国際関係の「歴史」的背景を知り、それに加えて「理論」的な道具を手に取ることで、「現状」の理解が深まっていくであろう。 第一部の「歴史」では、20 世紀の国際関係の歴史を概観していく。国際関係が 20 世紀、二度の世界大戦を経ていまに至ったのかを知ることで、現状の理解に役立つであろう。 第二部の「理論」では、現代の国際関係を理解・分析するための、三つの代表的なアプローチを紹介し、国際関係を見る眼を養っていく。 第三部の「現状」では、グローバリゼーションが急速に進んだ現代国際関係における代表的イシューー地球環境、人権、貧困、開発などーをいくつかピックアップし、それらの問題の背景と特徴を解説していく。 なお以下のテキストを購入する必要はないが、授業前に対象箇所を読んでおくか、図書館所蔵のものをコピーしておくことを進める。	1.　イントロダクション～国際関係とは何か？ 2.　歴史･･･20 世紀の国際関係① 3.　歴史･･･20 世紀の国際関係② 4.　歴史･･･20 世紀の国際関係③ 5.　歴史･･･20 世紀の国際関係④ 6.　歴史･･･20 世紀の国際関係⑤ 7.　前半の総括と質疑応答 8.　理論･･･国際政治の「三つの分析枠組み」 9.　理論･･･国際政治のアプローチ／リアリズム 10.　理論･･･国際政治のアプローチ／リベラリズム 11.　理論･･･国際政治のアプローチ／マルキシズム 12.　理論･･･国際政治の秩序と国際社会 13.　現状･･･グローバル化時代の国際関係①地球環境、人権、貧困、開発、難民問題、国際テロ 14.　現状･･･グローバル化時代の国際関係②貿易と金融 15.　全体総括と質疑応答

到達目標	グローバル社会に関して総論的な専門知識を習得し、英語ニュースなどの情報を的確に理解、取捨選択して、グローバル社会の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト、参考文献	John Baylis et al., *The Globalization of World Politics: An introduction to international relations*, fifth edition, Oxford: Oxford University Press, 2011.
評価方法	中間試験（40%）と期末試験（40%）、リアクションペーパー（20%）による評価。

09 年度以降	国際協力論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国の開発をめぐる国際協力を中心に、その歴史、仕組み、変化、課題を検討します。講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「国際協力の歴史」では、植民地期から現在までを時代ごとに区分し、それぞれの時期の国際協力の特徴を多面的に描きながら、その変化を捉えます。 第２の「開発途上国の開発と国際協力」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、それを後押ししてきた国際援助のあり方とその影響について考え、さらに MDGs などを例に新たな開発と国際協力の方向性について検討します。 第３の「グローバル化時代の開発と国際協力」では、グローバル化時代における開発のトレンドを探りつつ、新たな国際協力の方向性や課題について考察します。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	１．イントロダクション **＜国際協力の歴史＞** ２．植民地時代の「国際協力」 ３．冷戦時代の国際協力 ４．戦後日本の国際協力 ５．ポスト冷戦時代の国際協力 **＜開発途上国の開発と国際協力＞** ６．経済開発の基本形と途上国の実態 ７．高度経済成長の要因と弊害 ８．経済発展と民主化のジレンマ ９．国際援助レジームとその実績 10．ミレニアム開発目標（MDGs）と SDGs **＜グローバル化時代の開発と国際協力＞** 11．開発途上国にとってのグローバル化 12．南北問題の複雑化と中国の「国際協力」 13．環境問題と国際協力 14．イスラムと国際協力 15．まとめ

到達目標	国際協力に関して専門知識を習得し、国際協力に関連した事例の分析、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト、参考文献	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

09 年度以降	国際開発論	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
（エアライン・ホテル・リゾート論） この授業では、「国際」と「開発」をキーワードに、エアライン、ホテル、リゾートなどツーリズム産業を扱います。 シンガポールでは、強力な政府が国策会社テマセクを設立し、シンガポール航空、ラッフルズ・ホテル、有力な民間企業の大半を傘下に置いてきました。小国シンガポールが生き延び、そして豊かな先進国として成長し続けるために、国家主導で開発政策を導入したのです。 常に顧客のニーズを考え、誰にも負けない比較優位を実現することで、シンガポール航空は世界ナンバーワン・クラスのエアラインへと飛躍しました。 ビデオ映像、パワーポイント資料を活用し、テキストを使用しながら授業を進めます。	1　エアライン・ホテル・リゾート（国家の開発政策） 2　シンガポール航空、チャンギ国際空港（ハブ空港） 3　シンガポール航空、ホテル、リゾートの一体開発 4　エミレーツ航空とドバイ国際空港（ハブ空港） 5　タイ航空とバンコク国際空港（ハブ空港） 　キャセイ・パシフィックと香港、カタール航空 6　カリブ海のツーリズム産業、小テスト実施 7　国際ツーリズム・リスク 8　　同上 9　　同上 10　医療ツーリズム（タイ、シンガポールの事例） 11　小さなスイスが「観光大国」へ変身、その謎を解く 12　小さな島が有名観光地へ（プーケット、ハロン湾） 13　映画「８０日間世界一周」ツーリズム産業の原点 14　日本との比較（ANA、JAL、帝国、ニューオータニ） 15　まとめ

到達目標	国際開発に関して専門知識を習得し、開発途上国が直面する課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う映画・ビデオ映像の時代背景、さらにテキストの範囲を、事前・事後に調べて下さい。
テキスト、参考文献	竹田いさみ『世界を動かす海賊』（ちくま新書）など。
評価方法	評価方法は期末テスト 80%。小テスト 20%です。

09 年度以降	国際交流論	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の狙いは、受講した学生が、国際交流の基本的な考え方を学び、現代のグローバル社会において様々な形での国際交流・国際貢献にチャレンジする基盤を作ることです。 授業は2つのパートから構成されます。前半のパート１では異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の考え方について学術的、及び実証的な観点から学び、国際的活動への基礎を固めます。後半のパート２では、実際に行われている文化交流や国際協力等の事例を取り上げ、それらの成果と課題を考えます。 受講者数にもよりますが、可能な範囲で小グループによるディスカッションも取り入れます。 自分の将来を見据え、国際交流力を付けたいと考えているやる気のある学生の受講を歓迎します。	1.　講義の概要 2.　多文化の世界を考える(1) 3.　多文化の世界を考える(2) 4.　異文化との交流を考える(1) 5.　異文化との交流を考える(2) 6.　異文化との交流を考える(3) 7.　異文化との交流を考える(4) 8.　国際交流の変遷と多様化 9.　国際交流：政府及び地域の国際交流 10.　国際協力：政府開発援助（開発協力）)の活動 11.　国際協力：青年海外協力隊（JOCV）の活動 12.　国際協力：開発コンサルタントの仕事 13.　国際協力：国際公務員（国際機関）の仕事 14.　講義のまとめ (1) 15.　講義のまとめ (2)

到達目標	国際交流に関して専門知識を習得し、分野ごとの文化交流事業、文化交流政策、文化交流目的などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。
テキスト、参考文献	適宜，授業の中で紹介します。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 20%　授業への参加度 20%

09 年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、開発途上国の多極化といった現象が進むなか、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。国際協力を担う主体も、国家、国際機関、企業などに加え、非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、途上国への開発支援における ODA や NGO の役割に注目しながら、開発協力の諸問題について考えます。本講義は３つのシリーズから構成されます。 第１の「開発援助の仕組みと展開」では、援助の主流をなしてきた政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。 第２の「NGO の役割と課題」では NGO の歴史、位置付け、実態、役割などを捉えるとともに、開発と NGO の関係を具体的なケースを取り上げながら考えます。また、日本の NGO にも注目し、その実績と課題を検討します。 最後に、「国際協力の新たなテーマと NGO」として、近年注目されている幾つかの側面に着目しながら、新たな開発援助のあり方について検討します。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO **＜開発援助の仕組みと展開＞** ２．ODA の仕組みとトレンド ３．日本の ODA の特徴 ４．日本の援助実績 ５．開発援助の問題点 ６．ODA の課題と改革 **＜NGO の役割と課題＞** ７．国際援助の新たなトレンドと NGO ８．NGO の定義と歴史的経緯 ９．NGO の機能と途上国での役割 10．開発と NGO：ケーススタディ・バングラデシュ 11．日本における市民活動の歴史と国際協力 NGO 12．日本の国際協力 NGO の実績と課題 **＜国際協力の新たなテーマと NGO＞** 13．マイクロクレジットという方法 14．ジェンダー問題と開発 15．仕事としての国際協力-NGO で働く

到達目標	国際 NGO・ボランティアに関して専門知識を習得し、現代の国際社会が抱える開発協力の諸課題とその解決方法などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業では時事的な国際情勢をしばしば例にあげるので、日頃から新聞やネットニュースの国際面などに目を通しておくことを推奨します。
テキスト、参考文献	特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を授業の中で適宜紹介します。
評価方法	学期末試験の成績をもとに評価を行います。

09 年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。 それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。日豪両国が戦争をしたことすら知られていない。またたとえ知りたいと思っても、日本では文献がそもそも少ないため、オーストラリアを知る機会は限られてしまっている。 本講義では、18 世紀末のイギリス人の入植による植民地の誕生から、20 世紀初頭のオーストラリア連邦誕生による独立、二度の世界大戦、米ソ冷戦を経て、現代に至るオーストラリアの歴史を、イギリス（大英帝国、英連邦）、アメリカ合衆国、アジア地域（日本、中国、東南アジア）との関係のなかで振り返って行く。	1. イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義 2. 歴史･･･オーストラリア植民地の誕生 3. 歴史･･･オーストラリア植民地の発展 4. 歴史･･･大英帝国・英連邦とオーストラリア 5. 歴史･･･ゴールドラッシュと白豪主義 6. 歴史･･･第一次世界大戦とオーストラリア 7. 歴史･･･第二次世界大戦とオーストラリア 8. 前半の総括と質疑応答 9. 現代･･･戦後世界の構想と対米同盟の確立 10. 現代･･･戦後のアジアとオーストラリア① 11. 現代･･･戦後のアジアとオーストラリア② 12. 現代･･･ミドルパワー外交① 13. 現代･･･ミドルパワー外交② 14. 現代･･･戦後日豪関係の展開 15. 全体総括と質疑応答

到達目標	英語圏の国際関係に関する専門知識を習得し、政治的、経済的、社会的な発展経緯、ならびに背景事情などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト、参考文献	テキスト：永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布
評価方法	不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。

09 年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
（20 世紀の国際社会とイギリス・アメリカ） 本講義は、20 世紀の国際関係の歴史的展開を、イギリス、アメリカの動きに注目して振り返る。「パクス・ブリタニカ（イギリスによる平和）」、「パクス・アメリカーナ（アメリカによる平和）」という呼称が象徴するように、近現代の国際関係の展開に最も大きな影響を及ぼしてきたのが、イギリスでありアメリカであった。世界の地表の 4 分の 1 と「7 つの海」を支配する大英帝国と、第二次大戦後の「超大国」、「覇権国」となったアメリカこそが、20 世紀の国際秩序を主導し、今日の「リベラル（自由主義的）」な国際規範・制度の構築を推進してきたのだった。また両国は、時に対立・不和を抱えながらも、「特別な関係（the special relationship）」と言われる他国の間には見られない稀有な協調関係を維持してきたのである。 本講義は、英米関係を軸に、20 世紀の国際社会の特徴とその展開を考察する。	1．はじめに　講義の目的 2．「パクス・ブリタニカ」の凋落とアメリカの台頭 3．第一次世界大戦：ロイド＝ジョージ、ウィルソン、「新外交」 4．国際関係の「組織化」：国際連盟の誕生 5．戦間期（1）ヴェルサイユ＝ワシントン大戦、世界恐慌、世界経済の「ブロック化」 6．戦間期（2）イギリスの「宥和政策」、孤立主義のアメリカ 7．第二次世界大戦：チャーチルとローズヴェルトの「特別な関係」 8．戦後構想をめぐる協調と摩擦：国連連合、ブレトン・ウッズ体制、帝国植民地 9．冷戦の誕生：戦後西側ブロックの形成 10. 核兵器と英米関係 11. 同盟分裂の危機：スエズ、ベトナム、フォークランド 12. 英米の力の衰退と国際関係の変動 13.「新冷戦」と冷戦の終焉：レーガン、サッチャー 14. 冷戦後の国際社会：人道的介入、テロとの戦い 15. おわりに　総括

到達目標	英語圏の国際関係に関する専門知識を習得し、政治的、経済的、社会的な発展経緯、ならびに背景事情などについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の講読
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する
評価方法	平常点（20 点）、試験（80 点）

13 年度以降	グローバル・ヒストリーa	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦（The Cold War)」の展開を考察する。春セメスターでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合（今日の欧州連合）の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関やNGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。 ※（注意）2013年度に水本が担当した国際関係特殊講義を修得済みの場合は履修不可	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開 3　ヨーロッパ冷戦の起源 4　ヨーロッパ分断体制の形成（1） 5　ヨーロッパ分断体制の形成（2） 6　「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ 7　ヨーロッパ諸国の脱植民地化（アフリカ諸国の独立） 8　冷戦構造の多極化とデタント 9　米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント 10　デタントの崩壊：ソ連の第三世界進出 11　新冷戦とヨーロッパ 12　冷戦の終焉（1）：ゴルバチョフの登場、東欧革命 13　冷戦の終焉（2）：ドイツ統一、ソ連崩壊 14　冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化 15　まとめ

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を講義の事前・事後に読むこと。
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する。
評価方法	平常点（20%）、試験（80%）

13 年度以降	グローバル・ヒストリーb	担当者	水本　義彦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」の展開を考察する。秋セメスターでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。 ※（注意）2013年度水本が担当した国際関係特殊講義を修得済みの場合は履修不可	1　はじめに 2　第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争 3　大戦の終結と占領：日本の敗北、帝国の解体 4　朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容 5　脱植民地化（1）南アジア、東南アジア 6　脱植民地化（2）中東 7　非同盟・中立運動 8　アジア冷戦における中ソ対立の意義 9　ベトナム戦争 10　米中和解とその影響 11　1970年代の地域紛争：印パ戦争、第三次・第四次中東戦争、第三次インドシナ戦争 12　新冷戦とアジア 13　経済発展と民主化：ASEAN、経済開発、民主化 14　冷戦の終焉とアジア 15　まとめ

到達目標	グローバル社会の歴史に関する専門知識を習得し、その背景事情、および未来の展望等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を講義の事前・事後に読むこと。
テキスト、参考文献	初回の講義で参考文献リストを配布する。
評価方法	平常点（20%）、試験（80%）

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論(conflict theories)と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。 講義は 3 つのパートから構成されます。まず、パート 1 で、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート 2 で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の 5 つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート 3 では、日本の政府開発援助(開発協力)で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践について学びます。事例研究として、カンボジアやフィリピン（ミンダナオ）等の具体的な平和構築活動を紹介し、平和実現のための国際協力の考え方が各国の事例においてどのように反映されているかを検討します。	1. 講義の概要 2. 紛争の歴史と変容 3. 冷戦後の新しい紛争(1) 4. 冷戦後の新しい紛争(2) 5. 平和のための国際機構(1) 6. 平和のための国際機構(2) 7. 平和のための法 8. 人間の安全保障の考え方(1) 9. 人間の安全保障の考え方(2) 10. 軍事介入（保護する責任） 11. 人道援助 12. 開発援助（開発協力） 13. 開発援助（開発協力）の事例研究 14. 講義のまとめ(1) 15. 講義のまとめ(2)

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業の資料をアップロードしますので、事前に各自でダウンロード後、目を通してから講義に臨んでください。
テキスト、参考文献	適宜，授業の中で紹介します。
評価方法	定期試験 80%、授業への参加度 20%

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は講義形式で進める。サハラ以南アフリカ（SSA）に焦点を当て、政治、経済、社会、文化などのあらゆる側面からアフリカの現状を捉え、グローバリゼーションが加速化する国際社会の中での SSA の位置づけ、また役割の分析を試みる。 数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1960 年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀が経過した今なお、アフリカ諸国はいろいろな意味で国際社会の関心を得続けている。 本講義では、現代のアフリカを取り巻く国際関係を理解するのに必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用いて、地理的にはまだまだ遠いアフリカをより身近に感じてもらいたい。	第 1 回　講義の概要 第 2～4 回　歴史 第 5～7 回　国際支援の動向 第 8～9 回　紛争と平和構築 第 10 回　民主化 第 1 1 回　食糧問題 第 12 回　地域協力 第 13 回　宗教・文化 第 14 回　環境問題 第 15 回　講義のまとめ

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに授業で用いる資料を定期的に載せるので、予習・復習を怠らないこと。
テキスト、参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	レポート（20%）、学期末試験（80%）

13 年度以降	グローバル社会特殊講義	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
イギリス帝国の形成と解体・脱植民地化 　本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係（構造やプロセス）と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。 　講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係（冷戦）がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。 　イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体（を考えること）が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考え方を持つことができるであろう。	1. オリエンテーション（本講義の目的と概要） 2. 国際政治と帝国・脱植民地化① 3. 国際政治と帝国・脱植民地化② 4. 国際政治と帝国・脱植民地化③ 5. イギリス帝国の誕生と発展①～英帝国の誕生 6. イギリス帝国の誕生と発展②～英帝国の発展と解体、戦後 7. 前半の授業のまとめと質疑応答 8. 脱植民地化（総論） 9. 脱植民地化の展開①インドシナ半島 10. 脱植民地化の展開②インド・パキスタン 11. 脱植民地化の展開③マレーシア・シンガポール 12. 脱植民地化の展開④中東 13. 脱植民地化の展開⑤南太平洋 14. 帝国の終焉と現代国際関係 15. 授業の総括

到達目標	従来の科目では扱ってこなかったグローバル社会に関する特定の専門知識を習得し、そこにおける現状および課題等について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献の指定された部分を事前に読んでおくこと。また授業終了直前に提示されるレビューポイントにしたがって復習し、次回の授業までにまとめておくこと。
テキスト、参考文献	講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。
評価方法	リアクションペーパーの提出（40%）と学期末試験（論述形式、60%）による。

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係論に関わる日本語と英語の両方の文献を扱い、国際情勢を分析し、多角的な視点を身に付けることを目的とする。具体的には、内戦、援助、持続可能な開発目標（SDGs）、人権、テロなど現在国際社会が抱える様々な課題をテーマとして扱う。資料としては、新聞記事、論文、国連決議、国際機関の発行する報告書などを用いる。 この授業を通じ、文献（一次資料・二次資料）調査の方法を学び、プレゼンテーションやレポート・論文の執筆に役立ててもらいたい。また多様な物事の捉え方を身に付けてもらうために、ディスカッションの時間も設ける予定である。 学期完結の授業であり、授業を効率よく進めるためにも、毎回の授業でかなりの量の課題を出す。	第 1 回　授業概要の説明 第 2 回　レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方 第 3 回　文献調査の方法 第 4 回　国連 70 周年 第 5 回　内戦と人道支援 第 6 回　MDGs から SDGs へ 第 7 回　国際援助 1 第 8 回　国際援助 2（DAC から NDD へ） 第 9 回　人の移動（難民、移民） 第 10 回　国際テロ 第 11 回　食糧安全保障 1（土地争奪） 第 12 回　食糧安全保障 2（水問題） 第 13 回　貿易の自由化、地域経済共同体 第 14 回　発表 第 15 回　まとめ、小テスト

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータル・サイトに授業で使用する資料を載せるので、各自が熟読し、課題をこなし、翌週提出すること。
テキスト、参考文献	適宜配布する。
評価方法	課題 30%、授業の貢献度（発言回数）15%、小テスト 25%、学期末レポート 30%

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「平和の創造」を通年のテーマとして、関連文献の研究を通して平和の創造についての基本的な理論を学ぶとともに、平和の創造を取り巻く様々な課題を検討することによって理解を深めることを目的とします。 春学期では、まず、当該テーマにおけるクラシックともいえるJohn Paul Lederachの*Building Peace: Sustainable Reconciliation in Divided Societies*を読み進めます。 授業は、学生の主体的な参加を重視するため、グループワークによるプレゼン→全体での質疑応答・討論→担当講師による補足説明とまとめ　という流れで進めます。授業の進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 平和の創造という学問領域に関心のある学生の参加を歓迎します。	1. 講義のオリエンテーション 2. Global Overview 3. Characteristics of Deeply Divided Societies 4. Reconciliation: The Building of Relationship 5. Structure: Lenses for the Big Picture 6. Process: The Dynamics and Progression of Conflict 7. An integrated Framework for Peacebuilding 8. Resources: Making Peace Possible 9. Coordination: Points of Contact 10. Preparing for Peacebuilding 11. Strategies and Responsive Evaluation 12. Conclusion 13. Applying Concepts to Cases: Four African Case Studies 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備作業（パワーポイント）を行います。
テキスト、参考文献	John Paul Lederach (1997) *Building Peace: Sustainable Reconciliation in Divided Societies* (institute of Peace Press)
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業への貢献度で総合的に評価します。

13 年度以降	グローバル社会文献セミナー	担当者	石川　幸子

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、「平和の創造」を通年のテーマとして、関連文献の研究を通して平和の創造についての基本的な理論を学ぶとともに、平和の創造を取り巻く様々な課題を検討することによって理解を深めることを目的とします。 秋学期では、Daniel Philpott & Gerard F. Powers (2010) *Strategies of Peace: Transforming Conflict in a Violent World*を読み進めます。 授業は、学生の主体的な参加を重視するため、グループワークによるプレゼン→全体での質疑応答・討論→担当講師による補足説明とまとめ　という流れで進めます。授業の進め方の詳細は、最初の授業で説明します。 平和の創造という学問領域に関心のある学生の参加を歓迎します。	1. 講義のオリエンテーション 2. Strategic Peacebuilding: An Overview 3. Strategic Peacebuilding: Concepts & Challenges 4. The evaluation of Peacebuilding Initiatives 5. Reconciliation: An Ethic for Peacebuilding 6. Whose Strategy, Whose Peace? 7. How Strategic Is UN Peacebuilding? 8. Targeted Sanctions, Counterterrorism, & Strategic Peacebuilding 9. Peace and Justice? The Contribution of International Judicial Process to peacebuilding 10. Human Rights & Strategic peacebuilding 11. Economic Globalization & Strategic Peacebuilding 12. The Response Imperative 13. Turning from Hatred to Community Friendship 14. Religion and Peacebuilding 15. 講義のまとめ

到達目標	グローバル社会に関する文献研究を通じて、特定分野について専門知識と理論を習得し、グローバル社会における諸問題を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	受講生は各自、事前に課題の章を読んで授業に臨んでください。また、発表担当のグループは、プレゼンの事前準備作業（パワーポイント）を行います。
テキスト、参考文献	Daniel Philpott & Gerard F. Powers (2010) *Strategies of Peace: Transforming Conflict in a Violent World* (Oxford University Press)
評価方法	プレゼンテーションの準備と発表、及び授業への貢献度で総合的に評価します。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済 I）	担当者	平田　周

講義目的、講義概要	授業計画
現代のフランスの歴史家・政治学者であるパトリック・ヴェイユによれば、「フランス人」というアイデンティティは、社会・政治的な「四本の柱」によって支えられています。四本の柱とは、第一に、人権宣言に掲げられた〈平等〉原理、第二に、1539年にフランス王国によって確立され、教育制度を通じて文化統合の手段とされてきた〈フランス語〉、第三にヨーロッパ大陸の他の国々がもたない〈革命〉についての肯定的な記憶、第四の支柱として、1905年の政教分離法にみられるような〈ライシテ（非宗教性）〉の原理です。 本講義では、まず前半に三つの柱（平等、革命、ライシテ）の歴史的・理論的背景についての認識を深めます。講義の後半では、こうしたフランスの普遍的原理の拡張が抱える矛盾や困難を理解しながら、現在の政治経済の状況を学びます。	1.　講義目的と概要の説明 2.　平等について① 3.　平等について② 4.　革命について① 5　革命について② 6.　ライシテについて① 7.　ライシテについて② 8.　講義のまとめ① 9.　第三共和制 10.　第一次世界大戦前後の時代 11.　植民地主義① 12.　植民地主義② 13.　第五共和政と脱植民地化 14.　第五共和政と欧州統合 15.　講義のまとめ② 以上の授業計画には多少の変更もありえます。

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業で紹介する文献を精読してください。
テキスト、参考文献	レジュメを配布します。参考文献は講義のなかで適宜紹介します。
評価方法	レポート 80%、授業への参加度（コメントの記入・発言など）20%

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済 II）	担当者	平田　周

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、主に 1981 年のミッテラン政権誕生から現在にいたるまでの時代を対象とし、次の二つを目的とします。第一の目的は、フランスの政治・経済・社会政策の流れの変化を学ぶこと、第二の目的は、フランスの福祉国家の危機と欧州統合との関連を理解することです。 講義は、「テキスト、参考文献」欄に挙げた『現代フランス』に沿って進めますが、このテキストに取り上げられている考えや事象について適宜解説します。	1.　講義目的と概要の説明 2.　栄光の３０年 3.　６８年５月 4.　福祉国家① 5.　福祉国家② 6.　ミッテラン政権① 7.　ミッテラン政権② 8.　シラク政権① 9.　シラク政権② 10.　サルコジ政権① 11.　サルコジ政権② 12.　オランド政権① 13.　オランド政権② 14.　講義のまとめ① 15.　講義のまとめ② 以上の授業計画には多少の変更もありえます。

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献に掲げたテキスト並びにそこで言及されている文献を読み進めて理解を深めてください。
テキスト、参考文献	渡邊啓貴『現代フランス–「栄光の時代」の終焉、欧州への活路』岩波書店、2015 年。
評価方法	レポート 80%、授業への参加度（コメントの記入・発言など）20%

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （フランスの政治経済 II）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
戦後のフランスにとってヨーロッパ統合は国益追求の重要な手段だと見なされてきた。それゆえフランスは、統合の主導権を握ることを目指し、今日まで統合の進展において常に重要な役割を担ってきた。本講義では、第 2 次世界大戦以前から今日の EU に至るまでの過程において、ヨーロッパ統合構想にフランスがどのように関わってきたかを学んだうえで、ドイツ一人勝ちと言われる現在の EU におけるフランスの役割について考えていきたい。	1. 講義の概要 2. 戦前の統合構想（1） 3. 戦前の統合構想（2） 4. 第 2 次大戦期の統合構想 5. 戦後復興と経済近代化 6. シューマン・プランと ECSC 7. 欧州防衛共同体構想 8. EEC の設立に向けて 9. ドゴールとヨーロッパ統合（1） 10. ドゴールとヨーロッパ統合（2） 11. 1970 年代のフランスと統合 12. ミッテラン時代の統合政策 13. EU 誕生から今日まで（1） 14. EU 誕生から今日まで（2） 15. まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で挙げるキーワードについて事前に調べてくること。 授業で学んだ内容を自分の言葉で論理的に説明できるようにすること。
テキスト、参考文献	プリント配布 参考文献：授業中に紹介
評価方法	複数回のテスト（90%）と授業への参加度（10%）によって評価する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏歴史概論 a）	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。 【講義概要】 ハプスブルク君主国は中世から第一次世界大戦の終わりまでヨーロッパに存在した国家である。ここでは便宜上「ハプスブルク君主国」と呼んでいるが、実は 19 世紀になるまで正式な国家名称は存在することもなく、とらえどころのないあいまいな国家であった。その支配領域も中核となったオーストリア諸邦に加え、現在のチェコ、スロヴァキア、ハンガリー、スロヴェニア、クロアチア等々、多岐にわたり、言語構成も民族構成も多様であった。 春学期は、ドイツ語圏の歴史過程に大きな影響を与えていたハプスブルク君主国を中心に、神聖ローマ帝国解体までのドイツ語圏の歴史について扱う。	第1回　授業ガイダンス、 第2回　総論「ハプスブルク君主国の特色」 第3回　婚姻政策による拡大 第4回　オーストリア家、世界帝国への道 第5回　宗教改革、宗派化の時代 第6回　三十年戦争 第7回　ヴェストファーレン体制 第8回　第二次ウィーン包囲とその記憶 第9回　国事詔書と継承戦争 第10回　マリア・テレジア 第11回　ヨーゼフ 2 世の啓蒙改革 第12回　ヨーゼフ主義 第13回　ナポレオン戦争と神聖ローマ帝国解体 第14回　まとめ 第15回　まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義で扱う時代の歴史について、高校で使用した世界史の教科書を読んでおいてください。 事後：指定された参考文献について自分の関心に応じて読んでください。
テキスト、参考文献	講義中に適宜指示する。
評価方法	平常授業での課題（50%）、期末レポート（50%）、詳しくは授業ガイダンスで説明する。

09 年度以降	ヨーロッパの社会 （ドイツ語圏歴史概論 b）	担当者	上村　敏郎

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本講義は、ドイツ語圏の歴史と文化について基本的な知識を身につけるとともに歴史の眺め方を学ぶことを目的とする。 【講義概要】 春学期に引き続き、秋学期では１９世紀以降のドイツ語圏の歴史について扱っていく。本講義には二つの軸がある。ハプスブルク君主国の解体過程とドイツ国民（帝国）の形成過程である。 多様な民族構成を持っていた近代のハプスブルク君主国について学ぶことは、移民の背景を持つ人々が増加傾向にある現代のドイツ語圏の社会を考える上でも、あるいは我々自身の社会を考えていく上でも非常に重要なことである。 また、それまでバラバラの領邦国家に分散していたドイツ国民がいかにして誕生したのか、いかにしてドイツ国民というアイデンティティを生み出したのかについても考えていく。 理解を深めるため、春学期と継続して履修することが好ましい。	第1回　授業ガイダンス 第2回　19 世紀までのドイツ語圏の歴史概観 第3回　ウィーン体制 第4回　1848 年革命（I） 第5回　1848 年革命（II） 第6回　ドイツ国民とは何か 第7回　ドイツ帝国の誕生 第8回　ドイツ帝国誕生の裏側：その時、ハプスブルクは 第9回　第一次世界大戦（I） 第10回　第一次世界大戦（II） 第11回　ワイマール共和国 第12回　ポスト・ハプスブルクの時代 第13回　ナチズムの時代 第14回　まとめ 第15回　まとめ

到達目標	主にドイツ語圏、フランス語圏を中心としたヨーロッパの各種社会に関して専門知識を習得し、多様なヨーロッパの社会を、歴史、政治、経済などの視点から分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：講義で扱う時代の歴史について、高校で使用した世界史の教科書を読んでおいてください。 事後：指定された参考文献について自分の関心に応じて読んでください。
テキスト、参考文献	講義中に適宜指示する。
評価方法	平常授業での課題（50%）、期末レポート（50%）、詳しくは授業ガイダンスで説明する。

2016 年度

第二外国語（英語プラス1言語）
【全学共通授業科目】
シラバス

09 年度以降	ドイツ語（Ia 総合 1）	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 1 (3) 5. Lektion 2 (1) 6. Lektion 2 (2) 7. Lektion 2 (3) 8. Lektion 3 (1) 9. Lektion 3 (2) 10. Lektion 3 (3) 11. Lektion 4 (1) 12. Lektion 4 (2) 13. Lektion 4 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A1　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ib 総合 1）	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 5 (1) 3. Lektion 5 (2) 4. Lektion 5 (3) 5. Lektion 6 (1) 6. Lektion 6 (2) 7. Lektion 6 (3) 8. Lektion 7 (1) 9. Lektion 7 (2) 10. Lektion 7 (3) 11. Lektion 8 (1) 12. Lektion 8 (2) 13. Lektion 8 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A1　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ia 総合 2）	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 1 (3) 5. Lektion 2 (1) 6. Lektion 2 (2) 7. Lektion 2 (3) 8. Lektion 3 (1) 9. Lektion 3 (2) 10. Lektion 3 (3) 11. Lektion 4 (1) 12. Lektion 4 (2) 13. Lektion 4 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A1　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ib 総合 2）	担当者	S．ヴィーク

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ネイティヴ教員のもと、少しずつ段階を踏みながら、日常生活に関するさまざまなことがらが、ドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 　ネイティヴ教員のもと、日常的な場面で使われる典型的な表現を、さまざまな実際的練習を通して身につけていきます。練習は段階的に進められますが、そこで何より重要なのは、声を出して練習し、身体で覚えること。この授業で、ぜひ「ドイツ語を使う楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 5 (1) 3. Lektion 5 (2) 4. Lektion 5 (3) 5. Lektion 6 (1) 6. Lektion 6 (2) 7. Lektion 6 (3) 8. Lektion 7 (1) 9. Lektion 7 (2) 10. Lektion 7 (3) 11. Lektion 8 (1) 12. Lektion 8 (2) 13. Lektion 8 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A1　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ia 総合 3）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　ドイツ語の基本的能力の習得を目指します。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初習者が履修後にはドイツ語習得の入門段階を修了している。
テキスト、参考文献	清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD　Auf geht’s nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（Ib 総合 3）	担当者	辻本　勝好

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1）ドイツ語の基本的能力の習得です。具体的には、春学期＋秋学期の学習で「ドイツ語技能検定試験（独検）」4 級に合格できるレベル達成を目指します。 言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する（できるだけアクチュアルな）情報獲得を図ります。 講義概要 　ドイツ語を実際的な練習を通して身につけていきます。 　使用する教材は、ドイツ語の基礎を総合的に学べるよう考えられており、また使われている表現や語彙も、実際にドイツ語圏に旅行したり滞在するときに役立つものばかりです。また付属の DVD によって、映像を通してドイツ語／ドイツ事情を学ぶことができますし、さらに付属の CD は、リスニングや発音の練習にも役立ちます。 　授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の基本的な仕組みや語彙を、そしてドイツ事情を、楽しくかつ体系的に学びましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語習得の入門段階を修了している者が履修後には初級ドイツ語を修了している。
テキスト、参考文献	清野　智昭：『ドイツ語の時間＜ビデオ教材　恋するベルリン＞DVD 付き（Meine Deutschstunde mit DVD　Auf geht’s nach Berlin!)』（朝日出版社）2007 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIa 総合 1）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 (1) 3. Lektion 9 (2) 4. Lektion 10 (1) 5. Lektion 10 (2) 6. Lektion 11 (1) 7. Lektion 11 (2) 8. Lektion 12 (1) 9. Lektion 12 (2) 10. Lektion 12 (3) 11. Lektion 13 (1) 12. Lektion 13 (2) 13. Lektion 13 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIb 総合 1）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 (1) 3. Lektion 14 (2) 4. Lektion 15 (1) 5. Lektion 15 (2) 6. Lektion 16 (1) 7. Lektion 16 (2) 8. Lektion 17 (1) 9. Lektion 17 (2) 10. Lektion 17 (3) 11. Lektion 18 (1) 12. Lektion 18 (2) 13. Lektion 18 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIa 総合 2）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 9 (1) 3. Lektion 9 (2) 4. Lektion 10 (1) 5. Lektion 10 (2) 6. Lektion 11 (1) 7. Lektion 11 (2) 8. Lektion 12 (1) 9. Lektion 12 (2) 10. Lektion 12 (3) 11. Lektion 13 (1) 12. Lektion 13 (2) 13. Lektion 13 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIb 総合 2）	担当者	H．J．トロル

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ネイティヴ教員のもと、1 年次に学習したことを土台にして、身近なことがらに関するドイツ語圏の事情を学び、さらにそれに対応する日本事情をドイツ語で表現できるようになることを目指します。 講義概要 ネイティヴ教員のもと、さまざまな日常的テーマを扱いながら「話す、聞く、読む、書く」という 4 技能の一層の向上を図ります。対話、聞き取り、読み物、作文等、いろいろ変化に富んだ練習を行いますが、それによって実際的な言語応用能力を養成していきます。この授業で、ぜひ「ドイツ語で表現する楽しさ」を味わってみてください。	（ネイティヴ教員の授業は、週に 2 回） 1. 既習事項の復習と秋学期への導入 2. Lektion 14 (1) 3. Lektion 14 (2) 4. Lektion 15 (1) 5. Lektion 15 (2) 6. Lektion 16 (1) 7. Lektion 16 (2) 8. Lektion 17 (1) 9. Lektion 17 (2) 10. Lektion 17 (3) 11. Lektion 18 (1) 12. Lektion 18 (2) 13. Lektion 18 (3) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	DaF kompakt　A2　Kurs- und Übungsbuch mit 2 Audio-CDs (Klett) 2011
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIa 総合 3）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. ドイツ語学習への導入 2. Lektion 1 (1) 3. Lektion 1 (2) 4. Lektion 2 (1) 5. Lektion 2 (2) 6. Lektion 3 (1) 7. Lektion 3 (2) 8. Lektion 4 (1) 9. Lektion 4 (2) 10. Lektion 5 (1) 11. Lektion 5 (2) 12. Lektion 6 (1) 13. Lektion 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語初入門段階を修了している者が修了後にはドイツ語の基礎知識を包括的に理解する。
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIb 総合 3）	担当者	井村　行子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1)1 年次に学習したことを復習し、さらにそれを発展させながら、一層のドイツ語能力向上を図ります。2 年次春学期＋秋学期の学習を終えた段階で「ドイツ語技能検定試験（独検）」3 級に合格できるレベル達成を目指します。 2）1 年次に続き、言語の学習を通して、同時にドイツ語圏の生活や文化に関する情報の獲得を図ります。 講義概要 1 年次に学習したことを土台に、とりわけ読解を中心とした練習を通して、ドイツ語の応用能力を発展させていきます。使用する教材は、ドイツ語を読む楽しさを味わうことを目指しており、さまざまな練習を通して主体的にテクストとかかわることで、ドイツ語の仕組みを体得できるよう考えられています。 授業は日本人教員のもとで行われます。この授業を通して、ドイツ語の仕組みと、さらに深くドイツ文化を理解しましょう。	1. 既習事項の復習と新学期への導入 2. Lektion 7 (1) 3. Lektion 7 (2) 4. Lektion 8 (1) 5. Lektion 8 (2) 6. Lektion 9 (1) 7. Lektion 9 (2) 8. Lektion 10 (1) 9. Lektion 10 (2) 10. Lektion 11 (1) 11. Lektion 11 (2) 12. Lektion 12 (1) 13. Lektion 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語の基礎知識を包括的に把握した者が、履修後には基礎段階を修了し、中級段階へ至る。
テキスト、参考文献	橋本他：『グレードアップドイツ語』（郁文堂）2012 年
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIIa 応用）	担当者	E．ビリック

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 1 (1) 3. Abschnitt 1 (2) 4. Abschnitt 2 (1) 5. Abschnitt 2 (2) 6. Abschnitt 3 (1) 7. Abschnitt 3 (2) 8. Abschnitt 4 (1) 9. Abschnitt 4 (2) 10. Abschnitt 5 (1) 11. Abschnitt 5 (2) 12. Abschnitt 6 (1) 13. Abschnitt 6 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト、参考文献	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	ドイツ語（IIIb 応用）	担当者	E．ビリック

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 「ドイツ語 I+II」で修得したドイツ語の基本的能力を、さらに中級レベルへステップアップさせることが目的です。具体的には、「ドイツ語 III」を終えた時点で Goethe-Institut の ZD (Zertifikat Deutsch)および独検 2 級合格レベルに到達できることを目標とします。 講義概要 ドイツの若者たちの日常をテーマにした DVD 教材＜Treffpunkt Berlin＞を用い、言葉遊び、パートナー練習、役割練習など様々な練習を行います。豊富で実際的な練習を通して、ドイツ語による表現能力の向上を図りましょう。	1. 既習事項の復習と春学期への導入 2. Abschnitt 7 (1) 3. Abschnitt 7 (2) 4. Abschnitt 8 (1) 5. Abschnitt 8 (2) 6. Abschnitt 9 (1) 7. Abschnitt 9 (2) 8. Abschnitt 10 (1) 9. Abschnitt 10 (2) 10. Abschnitt 11 (1) 11. Abschnitt 11 (2) 12. Abschnitt 12 (1) 13. Abschnitt 12 (2) 14. ポイントの総復習 15. まとめ

到達目標	ドイツ語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	ドイツ語基礎段階を修了した者が中級段階に至り、修了後にはドイツ語の応用力を増している。
テキスト、参考文献	Treffpunkt Berlin 1 プリントを配布します。
評価方法	学期末テスト、平常点、および授業への参加度に基づいて評価を行います。

09 年度以降	フランス語（Ia 総合 1）	担当者	大原　知子

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（Ia 総合 1）は日本人講師、（Ia 総合 2）はフランス人講師が担当する。 この（Ia 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ib 総合 1）	担当者	大原　知子

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（Ib 総合 1）は日本人講師、（Ib 総合 2）はフランス人講師が担当する。 この（Ib 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ia 総合 2）	担当者	B．ピケ

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ia 総合 1：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. ガイダンス、1a 2. 1a, 1b 3. 2a, 2b 4. 2a, 2b 5. 3a, 3b 6. 3a, 3b 7. révision bilan 8. 4a, 4b 9. 4a, 4b 10. 5a, 5b 11. 5a, 5b 12. 6a, 6b 13. 6a, 6b 14. 7a 15. révision, bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ib 総合 2）	担当者	B．ピケ

講義目的、講義概要	授業計画
週 2 回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。フランス語の会話の基礎と決まった言い回しを学び、実際的なフランス語の実力を身に付けることを目指す。 フランス語（Ib 総合 1：日本人講師担当）とペアになる授業で、フランス人講師が担当する。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 7b 3. 8a, 8b 4. 8a, 8b 5. révision bilan 6. 9a, 9b 7. 9a, 9b 8. 10a, 10b 9. 10a, 10b 10. révision bilan 11. 11a, 11b 12. 11a, 11b 13. 12a, 12b 14. 12a, 12b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります）。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire*（Alma）
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります）。

09 年度以降	フランス語（Ia 応用）	担当者	野澤　督

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、実用フランス語技能検定試験（仏検）の受検対策を行ないながら、フランス語の基礎を学びます。春学期は仏検５級レベルのフランス語を学びます。仏検５級の試験範囲は１年生前期修了程度と考えてください。仏検５級の試験範囲となる文法事項を学ぶとともに、聞き取り、語彙や口語表現、発音の勉強も行います。仏検の過去問や対策問題を使って学習しますが、読み、書き、話し、聞く力を総合的に獲得することを考えてください。はじめて学ぶ言語ですから、フランス語がどういう言語かを発見することから始めましょう。そして仏検にチャレンジしてみましょう！なお、授業計画は目安です。進度により変更することがあります。	1. フランス語の発見：アルファベ、発音、簡単な表現 2. 名詞の前につくことば（１）冠詞 3. 名詞の前につくことば（２）指示形容詞、所有形容詞 4. 名詞の前につくことば（３）前置詞 à、de 5. 動詞の活用（１）主語人称代名詞と-er 動詞 6. 動詞の活用（２）avoir、être、aller、venir、 7. 動詞の活用（３）-ir 動詞、faire, prendre 8. 動詞の活用（４）その他の不規則動詞 9. 文の構造（１）肯定文、疑問文 10. 文の構造（２）否定文、命令文 11. 文の構造（３）形容詞 12. 文の構造（４）非人称構文、近接未来・近接過去 13. 文の構造（５）副詞、数量表現 14. 総合練習 15. まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業外の学習時間を大切にしてください。授業活動へ参加するために学習内容を事前に確認しましょう。また学習したことを復習する習慣をつけましょう。テレビやラジオ講座を利用することもお勧めします。
テキスト、参考文献	教科書：富田正二『完全予想仏検４級』（駿河台出版社） 参考文献：授業内で適宜配布します。また各種ガイドブック、フランス語検定対策用問題集を参考のこと。
評価方法	学期末試験７０％、授業への参加度（小テストを含む）３０％で判定します。仏検受検者はその成績も考慮します。

09 年度以降	フランス語（Ib 応用）	担当者	野澤　督

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、実用フランス語技能検定試験（仏検）の受検対策を行ないながら、フランス語の基礎を学びます。秋学期は仏検４級レベルのフランス語を学びます。仏検４級の試験範囲は１年間の学習終了程度と考えてください。授業では仏検４級の試験範囲となる文法事項を学ぶとともに、聞き取り、語彙や口語表現、発音の勉強も行います。実際に秋季試験で４級を受検できるように準備をします。仏検の過去問や対策問題を使って学習しますが、読み、書き、話し、聞く力を総合的に身につけることを目指します。春学期同様、フランス語がどういう言語かを発見することに努め、フランス語学習を継続するための基礎をつくりましょう。資格の取得は学習意欲の向上につながります。フランス語の運用能力を獲得するために、検定試験を活用しましょう。なお、授業計画は目安です。進度により変更することがあります。	1. 冠詞を中心とした問題 2. 代名詞に関する問題（１）目的語人称代名詞 3. 代名詞に関する問題（２）中性代名詞、指示代名詞 4. 対話文読解（１）計画、気持ち、情報を言う 5. 対話文読解（２）状況・日常を話す、依頼する 6. 動詞活用に関する問題（１）代名動詞、単純未来 7. 動詞活用に関する問題（２）複合過去、半過去 8. 動詞活用に関する問題（３）半過去、ジェロンディフ 9. 単語を並び替える問題（１）不定法と節、受動態 10. 単語を並び替える問題（２）関係代名詞、強調構文 11. 単語を並び替える問題（３）比較、慣用句 12. 前置詞に関する問題 13. 読解問題（１）短文読解 14. 読解問題（２）会話文読解 15. まとめ

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業外の学習時間を大切にしてください。授業活動へ参加するために学習内容を事前に確認しましょう。また学習したことを復習する習慣をつけましょう。テレビやラジオ講座を利用することもお勧めします。
テキスト、参考文献	教科書：富田正二『完全予想仏検４級』（駿河台出版社） 参考文献：授業内で適宜配布します。辞書を準備してください。
評価方法	学期末試験７０％、授業への参加度（小テストを含む）３０％で判定します。仏検受検者はその成績も考慮します。

09 年度以降	フランス語（IIa 総合 1）	担当者	平井　康和

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ia 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合 1）は日本人講師、(IIa 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（IIa 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（IIb 総合 1）	担当者	平井　康和

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ib 総合 1）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合 1）は日本人講師、(IIb 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（IIb 総合 1）では特に文法と語彙の習得が中心になり、文法や語彙に関する練習を数多く行う。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ文法事項・語彙を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（IIa 総合 2）	担当者	Ｆ．Ｘ．レット

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ia 総合 2）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIa 総合 1）は日本人講師、(IIa 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（IIa 総合 2）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 13a, 13b 3. 13a, 13b 4. 14a, 14b 5. 14a, 14b 6. 15a, 15b 7. 15a, 15b 8. révision bilan 9. 16a, 16b 10. 16a, 16b 11. 16a, 16b 12. 17a, 17b 13. 17a, 17b 14. 17a, 17b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（IIb 総合 2）	担当者	Ｆ．Ｘ．レット

講義目的、講義概要	授業計画
１年次のフランス語（Ib 総合 2）に引き続き、週２回の授業でフランス語の初歩を習得することを目的とした講義である。基本文法を学び、語彙を身につけて、簡単な会話ができるレベルに達することを目指す。 教科書は *Conversation et Grammaire* で、（IIb 総合 1）は日本人講師、(IIb 総合 2) はフランス人講師が担当する。 この（IIb 総合 2）では決まった言い回しと会話が中心となる。 右におおよその進度を示すが、実際の進度は異なることがある。	1. révision bilan 2. 18a, 18b 3. 18a, 18b 4. 18a, 18b 5. 19a, 19b 6. 19a, 19b, révision bilan 7. 20a. 20b 8. 20a, 20b 9. 20a, 20b 10. 21a, 21b 11. 21a, 21b, révision bilan 12. 22a, 22b 13. 22a, 22b 14. 22a, 22b 15. révision bilan

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に教科書に目を通す、授業で学んだ語彙・表現を復習する、指示された宿題をこなす、など（担当教員から指示があります)。
テキスト、参考文献	教科書：*Conversation et Grammaire* (Alma)
評価方法	平常点、学期末試験など（各担当教員より指示・説明があります)。

09 年度以降	フランス語（IIa 応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
将来，フランスが通じる国，地域に行って，少しでもフランス語を使ってみたいという人の，フランス語の力をさらに伸ばし，また世界のフランス語圏についての基本的な知識を身につけてもらおうという授業です。フランス語の「文」の理解に基づいた，それゆえ応用のきく語学力の習得を目指します．初級文法の復習も行います．	1. 授業の説明，履修者のフランス語力判定 2. 1 課会話．聞き取り．作文．名詞関連の文法復習 3. 1 課本文．名詞関連の文法復習 4. 2 課会話．聞き取り．作文．être と avoir 復習 5. 2 課本文．être と avoir 関連の文法復習 6. 3 課会話．聞き取り．作文，er 動詞復習 7. 3 課本文．er 動詞復習 8. 復習と応用 9. 4 課会話．聞き取り．作文．不規則動詞復習 1 10. 4 課本文．不規則動詞復習 11. 5 課会話．聞き取り．作文．不規則動詞復習 2 12. 5 課本文．不規則動詞復習 2 13. 復習と応用 14. 復習と応用 15. 復習と応用

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には，教科書巻末の各課ごとの文法まとめを読んでおいてください．事後は，テキストを構文という観点から復習してください．興味の持てた内容についてはいろいろ調べてもらいたいと思います．
テキスト、参考文献	小松　祐子，フランコフォニーへの旅 (駿河台出版社)
評価方法	平常点(発表，宿題など : 40%)と期末試験(60%)

09 年度以降	フランス語（IIb 応用）	担当者	竹内　久雄

講義目的、講義概要	授業計画
将来，フランスが通じる国，地域に行って，少しでもフランス語を使ってみたいという人の，フランス語の力をさらに伸ばし，また世界のフランス語圏についての基本的な知識を身につけてもらおうという授業です。フランス語の「文」の理解に基づいた，それゆえ応用のきく語学力の習得を目指します．初級文法の復習も行います．	1. 授業の説明，前期のまとめ 2. 6 課会話．聞き取り．作文．代名詞，代名動詞復習 3. 6 課本文．代名詞，代名動詞復習 4. 7 課会話．聞き取り．作文．複合過去復習 5. 7 課本文．複合過去復習 6. 8 課会話．聞き取り．作文，半過去復習 7. 8 課本文．半過去復習 8. 復習と応用 9. 9 課会話．聞き取り．作文．単純未来復習 10. 9 課本文．単純未来復習 11. 10 課会話．聞き取り．作文．条件法，接続法復習 12. 10 課本文．条件法，接続法復習 13. 復習と応用．試験説明 14. 復習と応用 15. 復習と応用

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前には，教科書巻末の各課ごとの文法まとめを読んでおいてください．事後は，テキストを構文という観点から復習してください．興味の持てた内容についてはいろいろ調べてもらいたいと思います．
テキスト、参考文献	小松　祐子，フランコフォニーへの旅 (駿河台出版社)
評価方法	平常点(発表，宿題など : 40%)と期末試験(60%)

09 年度以降	フランス語（IIIa 応用）	担当者	C．ラビニヤス

講義目的、講義概要	授業計画
Ce cours a pour objectif de vous préparer aux différentes épreuves du diplôme d'aptitude pratique du français – niveau 2.（仏検２級） Nous travaillerons ensemble à l'aide de photocopies les domaines suivants： - grammaire - vocabulaire - compréhension écrite et orale - expression écrite et orale - dictée	1. Présentation du test et des participants 2. Le présent, les prépositions (1) 3. Le présent, Dictée (1) 4. Compréhension écrite (1) 5. Compréhension orale (1) 6. Le futur, les expressions (1) 7. Le futur, Dictée (2) 8. Examen blanc 9. Le passé composé, les prépositions (2) 10. Le passé composé, Dictée (3) 11. L'imparfait, les expressions (1) 12. L'imparfait, Dictée (4) 13. Compréhension écrite (2) 14. Compréhension orale (2) 15. Examen final

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回予習しておいてください。
テキスト、参考文献	プリント
評価方法	定期試験 40%、宿題：40%、積極的な参加：20%

09 年度以降	フランス語（IIIb 応用）	担当者	C．ラビニヤス

講義目的、講義概要	授業計画
Ce cours a pour objectif de vous préparer aux différentes épreuves du diplôme d'aptitude pratique du français – niveau 2.（仏検２級） Nous travaillerons ensemble à l'aide de photocopies les domaines suivants： - grammaire - vocabulaire - compréhension écrite et orale - expression écrite et orale - dictée	1. Présentation du test et des participants 2. Le présent, les prépositions (1) 3. Le présent, Dictée (1) 4. Compréhension écrite (1) 5. Compréhension orale (1) 6. Le futur, les expressions (1) 7. Le futur, Dictée (2) 8. Examen blanc 9. Le passé composé, les prépositions (2) 10. Le passé composé, Dictée (3) 11. L'imparfait, les expressions (1) 12. L'imparfait, Dictée (4) 13. Compréhension écrite (2) 14. Compréhension orale (2) 15. Examen final

到達目標	フランス語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回予習しておいてください。
テキスト、参考文献	プリント
評価方法	定期試験 40%、宿題：40%、積極的な参加：20%

09 年度以降	スペイン語（Ia 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅰ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、それにより簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力を獲得することを目ざす。 （総合 1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語を習得することを目的とする。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 なお、この授業はスペイン語（Ⅰa 総合 2）とのペア授業である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	① 発音・アクセント ② 発音・アクセント ③ 名詞の性・数、冠詞 ④ 名詞の性・数、冠詞 ⑤ 形容詞 ⑥ ser, estar 動詞の使い方 ⑦ ser, estar 動詞の使い方 ⑧ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑨ 代名詞の用法 ⑩ 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 ⑪ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑫ 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 ⑬ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑭ 動詞の活用 --- 再帰動詞 ⑮ 今学期の復習

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ib 総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅰb 総合 1）は、スペイン語（Ⅰa 総合 1, 2）の継続の授業である。 直説法未来形・過去未来形までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し聞き取る能力の一層の向上を目ざす。直説法までの初級スペイン語文法の学習はすべて完了する。 （総合 1, 2）では、文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現を習得し、日常生活に支障がない程度に書きくこと、話すこと、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。 なお、この授業はスペイン語（Ⅰb 総合 2）とのペア授業である。この授業ではとくに予習が不可欠である。	① 春学期の復習 ② 動詞の活用---再帰動詞 ③ 再帰動詞と諸用法 ④ 動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ⑤ 動詞の活用---直説法現在完了形・現在進行形 ⑥ 比較表現 ⑦ 動詞の活用---直説法点過去規則活用 ⑧ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑨ 動詞の活用---直説法点過去不規則活用 ⑩ 動詞の活用---直説法線過去 ⑪ 点過去と線過去の違い ⑫ 受け身表現 ⑬ 動詞の活用---未来形・過去未来形 ⑭ 動詞の活用---未来形・過去未来形 ⑮ 今学期のまとめ

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ia 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合 2）はスペイン語（Ｉａ 総合 1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉａ 総合 1）と（Ｉａ 総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語（Ｉａ 総合 1）に同じ。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社 また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ib 総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ｉａ 総合 2）の継続の授業である。 スペイン語（Ｉｂ 総合 2）はスペイン語（Ｉｂ 総合 1）とのペア授業である。ふたりの教員によりリレー進行して行く。 受講生は週にスペイン語（Ｉｂ 総合 1）と（Ｉｂ 総合 2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語（Ｉｂ 総合 1）に同じ。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor Ⅰ（青い表紙）” 朝日出版社
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ia 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅰ）は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項を学び、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目ざす。 （会話）では、スペイン語（Ⅰa 総合 1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅰa 総合 1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅰa 総合 1）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。また、スペイン語－日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（Ib 会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅰa 会話）の継続の授業である。 直説法未来・過去未来までの基礎的文法事項を学び、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目ざす。直説法の初級スペイン語文法の学習を終える。 （会話）では、スペイン語（Ⅰb 総合 1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的とする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語（Ⅰb 総合 1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語（Ⅰb 総合 1）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（IIa 会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（IIb 会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話 1）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 1）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら会話の練習をし、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用い、その文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（IIa 会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱa 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（IIb 会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 会話 2）の継続の授業である。 スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎能力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （会話 2）では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、聞き取り能力を定着させること、また場面設定に合わせた受け答えができるようになることを目標に口答練習をおこなう。また作文力、語彙力の強化を図る。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、スペイン語（Ⅱb 総合）の担当者と相談の上、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（IIa 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱ）は、スペイン語（Ⅰ）で身につけたスペイン語の基礎力をもとに、それを発展、実用化する授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1 年目で未習の接続法を中心に扱う。また、命令表現を新たに学ぶとともに、点過去・線過去・現在完了・大過去、未来・過去未来、関係詞、前置詞などの重要文法事項については重点的に復習し、より高度な表現力を身につける。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に 1 年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（IIb 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅱa 総合）の継続の授業である。 この授業では、初級文法のうち、1 年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、その他の重要な文法事項についての復習も行い、接続法現在までの初級文法の学習を完了する。より高度な表現方法を学び、表現力をさらに向上させることも重視する。そのため、作文には力を入れる。 なお、文法の復習の際に 1 年目で使用した教科書を使用することがあるので持参のこと。この授業ではとくに予習が不可欠である。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	テキスト：パロマ・トレナド 他 著 “Plaza Mayor Ⅱ ソフト版（オレンジ色の表紙）” 朝日出版社
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（IIIa 応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲ）の授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 なお、接続法過去、条件文など、スペイン語（Ⅱ）までに必ずしも十分に学習できていない文法事項がある場合は、その学習にも重きをおき、中級文法を終了する。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）。復習の際に使用することがあるので、スペイン語（Ⅱa, b 総合）で使用した教科書も持参のこと。
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	スペイン語（IIIb 応用）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語（Ⅲa 応用）の継続の授業である。 この授業では、スペイン語（Ⅱ）までに培ったスペイン語力を基礎に、より高度なスペイン語の運用能力を獲得することを目標とする。具体的には、専門的な文章の一部や新聞記事などの読解力、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面でのプレゼンテーション能力を身につけることを目ざす。 この授業ではとくに予習が不可欠である。	クラスの状況、語学の習得具合から判断して、15 回分の授業構成について、各担当者が初回の授業で説明する。 左記の講義目的、講義概要を参照。

到達目標	スペイン語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト、参考文献	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
評価方法	授業への参加度、および、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

09 年度以降	中国語（Ia 講読・文法）	担当者	丸山　貴士

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及びその表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方、文法の基礎を学習し、平易な文章の読解ができることを目指す。 【講義概要】 ・週3回のうち、この時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・中国語の発音表記法であるローマ字を用いた“ピンイン”による表記法と発音のルールを知り、単語、フレーズ、文を音読できるようにする。 ・基本的な文型を学習し、作文練習などのドリルで知識を定着化し、さらに既習文型を用いた文章の読解をする。 ・1年間で初級レベルの語彙および基本的文法事項を学び、2年次でさらに発展した学習ができる基礎を作る。	1.　中国語とは？　授業の進め方など 2.　第 1 課　韻母―単母音・複合母音　声母 1 3.　第 2 課　声母 2、鼻母音、ピンイン、声調変化① 4.　第 3 課　軽声、変調②③、ｒ化、声調の組合せ 5.　第 4 課　“是”の文、“～吗”、副詞“也”“都” 6.　第 4 課　人称代名詞 7.　第 5 課　語順｛Ｓ＋Ｖ＋Ｏ｝、姓名の尋ね方と言い方 8.　第 5 課　疑問詞疑問文、選択疑問文 9.　まとめ、試験　など 10.　第 6 課　名詞述語文、省略疑問文、省略可能な“的” 11.　第 6 課・第 7 課　形容詞述語文、 12.　第 7 課　比較文、反復疑問文、指示代名詞 13.　第 8 課　所在の“在”、存在・所有の“有” 14.　第 8 課　時点と時量、量詞 15.　まとめ、試験、補足など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　（金星堂）
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ib 講読・文法）	担当者	丸山　貴士

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、語彙を増やし、基礎的文法事項を学び「使える単語」、「使える言い回し」を増やす。 【講義概要】 ・発音に留意し、「聞いて分かる単語」、「相手に通じる単語」＝「使える単語」にする。 ・基本文型を用いた作文練習などのドリルを通じて知識を定着させ、中国語の初級レベルの文法ルールを学ぶ。 ・それによって平易な文章の読解力をつけ、併せて「文を書く」「話す」などの発信できる力をつけられるように練習する。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第 9 課　前置詞、経験の“过”、数量補語など 3.　第 9 課　方位詞・第 10 課　主述述語文、２つの“了” 4.　第 10 課“有点儿”と“一点儿”、願望・意思の助動詞 5.　第 11 課　進行の“在”、持続の“着”、連動文 6.　第 11 課　結果補語、｛動/形｝を含む連体修飾節 7.　第 12 課　可能、必然・当然の助動詞、“是～的”構文 8.　第 12 課　副詞“就”と“才” 9.　まとめ、試験　など 10.　第 13 課　様態補語、二重目的語をとる動詞 11.　第 13 課　受け身文、動詞の重ね型 12.　第 14 課　存現文、方向補語 13.　第 14 課　可能補語、“把”構文 14.　第 15 課　使役文、副詞“又”と“再”、“不是～吗” 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『中国語への道　―近きより遠きへ―』内田慶市　他　著　（金星堂）
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ia 会話 1）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ｉａ（会話１）・中国語Ｉａ（会話２）は異なる科目として、異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語を初めて学ぶ学生を対象とする。発音の基礎及び中国語の表記法―“简体字”（中国で現在使用されている漢字)、ピンイン（中国で使用されている発音表記法）―から学び始め、基本的な文法を学習し、平易な会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・週3コマの中で（会話１，２）は語学力の4分野「聴く」「話す」「読む」「書く」のうち、「聴く」「話す」―（会話）に重点を置く。 ・単語レベル・フレーズレベル・文レベルで正しい発音・声調で読めるように徹底する。 ・学習した文法項目を練習により身についた知識とする。	1.　中国語について、発音 part1 2.　発音　part2 3.　発音　part3 4.　第 1 課　你好！　あいさつと応答表現 5.　第 2 課　我叫张瑞　中国語の句読点 6.　第 3 課　我很喜欢日本“动漫” 7.　第 4 課　我们看电影，怎么样? 8.　まとめ・試験など 9.　第 5 課　我有点儿饿了 10.　第 6 課　学校附近有商店吗? 11.　第 7 課　送礼物 12.　第 8 課　介绍家人 13.　第 9 課　打电话 14.　まとめ・試験など 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『たのしいの中国語　愉快的汉语』首都大学東京中国文学研究室編　　金星堂
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ib 会話 1）	担当者	張　亜紅

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 ・春学期に引き続き、基本的な文法を学習しつつ、平易な会話ができることを目指す。 ・常用の文を暗記し、それらを用いて中国語の初級レベルの運用能力を身につけることを目指す。 【講義概要】 ・春学期に引き続き発音訓練を行い、発音・声調の矯正を徹底する。 ・学んだ語彙・文型を用いて、場面に応じて表現練習を重ね、会話力習得に重点を置く。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第 10 課　回市内 3.　第 11 課　你吃得太多了 4.　第 12 課　飞机票买来了吗? 5.　第 13 課　味道好极了 6.　第 14 課　我们是坐飞机去的 7.　まとめ・試験など 8.　まとめ・試験など 9.　第 15 課　请你来我家玩儿吧 10.　第 16 課　汉语不这么说 11.　第 17 課　进修就要结束了 12.　第 18 課　张瑞的日记 13.　〈补充课文〉　山口的电子邮件 14.　まとめ・試験など 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『たのしいの中国語　愉快的汉语』首都大学東京中国文学研究室編　金星堂
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ia 会話 2）	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ｉａ（会話１）・中国語Ｉａ（会話２）は異なる科目として、異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 ・中国語を初めて学ぶ学生を対象とし、発音の基礎及び発音の表記法、簡体字（中国で現在使用されている漢字）の書き方から学び始め、文法の基礎を学習し、平易な日常会話ができることを目指す。 【講義概要】 ・（会話１）、（会話２）は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・言語をコミュニケーション手段として使いこなすには正しい発音・声調を身につけることが前提であり、授業において発音練習、リスニング練習などを行う。 ・基礎的な文法を理解し、ドリルなどによって定着した知識とする。	1.（発音編）声調、単母音、そり舌母音 2.　複合母音、子音、鼻母音 3.　発音のルール、中国語の音節構造 4.　声調の組合せ、あいさつ言葉 5.　第１課　人称代名詞、“是”、“吗”、“呢” 6.　第２課　所在の“在”、疑問詞疑問文、形容詞述語文 7.　第３課　存在・所有の“有”、数の数え方等 8.　第４課　動詞述語文、反復疑問文等 9.　まとめ、試験　など 10.　第５課　名詞述語文、完了の“了”等 11.　第６課　変化・新事態の発生の“了、経験の“过”等 12.　第７課　助動詞“会”、結果補語、可能補語等 13.　第８課　動作の進行、選択疑問文等 14.　まとめ、試験、補足など 15.　まとめ、試験、補足など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語』　楊凱栄・張麗群著　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（Ib 会話 2）	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続いて、コミュニケーション手段としての中国語の習得を目指す。 【講義概要】 ・「正しい発音・声調で話すこと」および「聴きとる」訓練を経て、「発音できる語彙」「聴きとれる語彙」を増やす。 ・学んだ基礎的文法事項を定着させるため、ドリルを通じて置き換え練習、聞き取り練習、作文などを適宜行う。 ・日常生活に関することを表現するに必要な教科書以外の語彙を補充する。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第９課　受益の“给”、様態補語など 3.　第 10 課　主述述語文、助動詞“能”等 4.　第 11 課　方向補語、“把”構文等 5.　第 12 課　存現文、受け身文等 6.　第 13 課　動作・状況の持続、動詞の重ね型等 7.　まとめ、試験　など 8.　まとめ、試験　など 9.　第 14 課　副詞の“再”、副詞の“就”等 10.　第 14 課　助動詞“要”、前置詞の“跟”等 11.　第 15 課　就要～了”、“打算”等 12.　第 15 課　仮定の“要是”、等 13.　第 16 課　形容詞＋“地”、“对～感兴趣” 14.　第 16 課　前置詞の“通过”、持続の“着” 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語』　楊凱栄・張麗群著　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（IIa 講読・文法）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1年次に中国語 I を履修した学生を対象とし、学んだ文法の基礎を確認しつつ更に進んだレベルの文法項目を学習し、250字程度の文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・週3回のうち、この時間は語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「書く」「読む」⇒「中国語の文法を知り、文章が読める」に重点を置く。 ・1年次より量的に多い文章に対し、語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう。 ・発音練習を適宜行う。 ・各課の内容に即して初歩的な中国事情を知る。	1.　1 年次の復習、ウォームアップ 2.　第 1 課 首都北京 3.　第 1 課 4.　第 2 課 民族和气候 5.　第 2 課 6.　第 3 課 人口 7.　第 3 課 8.　まとめ、試験など 9.　第 4 課 方言 10.　第 4 課 11.　第 5 課 泰山 12.　第 5 課 13.　第 6 課 节假日 14.　第 6 課 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『楽しく学ぼうやさしい中国語』　王　武雲　他　著　　郁文堂
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（IIb 講読・文法）	担当者	阿邉　淳

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 ・春学期に引き続き、文法の基礎を確認しつつ、更に進んだレベルの文法項目を学習し、やや長い文章を読みこなす読解力をつけることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「読む」「書く」ことに重点を置く。 ・文章の読解―語の意味を適切に把握し、学んだ文法事項を生かして文の意味を正確に読み取る練習をする。 ・学習した文法事項を用いた作文練習をおこなう、文章理解をもとに、内容についての中国語の質問に答えるなど、発信できる力を身につける練習をする。 ・発音練習を適時行う。 ・日本文化に大きな影響を与えてきた中国について知る。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第 7 課 饮食文化 3.　第 7 課 4.　第 8 課 药膳 5.　第 8 課 6.　第 9 課 体育健身运动 7.　第 9 課 8.　まとめ、試験　など 9.　第 10 課 动物 10.　第 10 課 11.　第 11 課 旗袍 12.　第 11 課 13.　第 12 課 大学 14.　第 12 課 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『楽しく学ぼうやさしい中国語』　王　武雲　他　著　　郁文堂
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（IIa 会話 1）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅱa（会話１）・中国語Ⅱa（会話２）は異なる科目として、異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 1年次に履修した中国語Ｉの基礎を適時復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めていくことを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　復習課　１年次の復習 2.　第１課　打电话　課文、ポイント、ドリル 3.　第１課・第２課　接风　課文、ポイント、ドリル 4.　第２課 5.　第３課　介绍　課文、ポイント、ドリル 6.　第３課・第４課 交通工具１課文、ポイント、ドリル 7.　第４課 8.　まとめ、試験　など 9.　第５課　换钱　課文、ポイント、ドリル 10.　第５課・第６課　吃饭　課文、ポイント、ドリル 11.　第６課 12.　第７課　生病　課文、ポイント、ドリル 13.　第７課 14.　まとめ、試験など 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（IIb 会話 1）	担当者	星野　芳欣

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、文法の基礎を復習しつつ、更に語彙や文法の知識を積み重ね、中国語の運用能力を高めることを目指す。 【講義概要】 ・語学力の四分野「聴く、話す、書く、読む」のうち、「聴く」「話す」⇒「会話」に重点を置く。 ・さまざまなテーマに基づく会話文を練習し、正しい発音、声調で音読できるようにする。 ・文法事項を学び、ドリルを経て定着させ、実際に会話などで使える知識とする。	1.　春学期の復習　第８課　交通工具２　課文 2.　第８課　ポイント、ドリル 3.　第９課　网上聊天儿１　課文、ポイント、ドリル 4.　第９課・第10課　网上聊天儿２　課文 5.　第10課　ポイント、ドリル 6.　第11課　买东西　課文、ポイント、ドリル 7.　まとめ、試験　など 8.　第12課　爱好　課文、ポイント、ドリル 9.　第13課　坐火车　課文、ポイント、ドリル 10.　補足、調整 11.　第14課　观光(游外滩)　課文、ポイント 12.　第15課　送行　課文、ポイント、ドリル 13.　補足、調整 14.　まとめ、試験など 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『スリム版　表現する中国語Ⅱ』　　楊凱栄・張麗群著　　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（IIa 会話 2）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅱa（会話１）と中国語Ⅱa（会話２）は2つの科目として異なる教員が担当し異なる教科書を使用する。 【講義目的】 中国語Ⅰで学んだ基礎の上に更に語彙・文法の知識を積み重ね、発音練習・会話練習により中国語の運用能力を高める。 【講義概要】 ・（会話１）とともに会話の習得に重点を置く。（会話２）では特に場面に即した会話を学び、“コミュニケーション表現”で様々な会話文のパターンを習得し、“練習”により定着させる。 ・単語レベル・フレーズレベル・文レベルでの発音練習を徹底する。	1.　１年次の復習、履修上の注意など 2.　第１課　「介绍」　本文、文型、ノート 3.　第１課　コミュニケーション表現、練習 4.　第２課　「第一节课」　本文、文型、ノート 5.　第２課　コミュニケーション表現、練習 6.　第３課　「聊天」 本文、文型、ノート 7.　第３課　コミュニケーション表現、練習 8.　まとめ、試験など 9.　第４課　「还价」　本文、文型、ノート 10.　第４課　コミュニケーション表現、練習 11.　第５課　「打的」　本文、文型、ノート 12.　第５課　コミュニケーション表現、練習 13.　第６課　「坐公共汽车 」本文、文型、ノート 14.　第６課　コミュニケーション表現、練習 15.　まとめ、試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『系統的に学ぼう　中国語Ⅱ　中級会話コース』顧　明耀他　著　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（IIb 会話 2）	担当者	秦　敏

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 春学期に引き続き、更に語彙・文法の知識を積み重ね、発音練習・会話練習により中国語の運用能力を高める。 【講義概要】 ・（会話１）とともに会話の習得に重点を置く。（会話２）では特に場面に即した会話を学び、“コミュニケーション表現”で様々な会話文のパターンを習得し、“練習”により定着させる。 ・春学期に引き続き、発音練習―発音の矯正・声調―を徹底する。 ・自然なイントネーションを身につけ、ナチュラルスピードで音読できることを目指す。	1.　春学期の復習、ウォームアップ 2.　第７課　「寄包裹」　本文、文型、ノート 3.　第７課　コミュニケーション表現、練習 4.　第８課　「在餐馆」　本文、文型、ノート 5.　第８課　コミュニケーション表現、練習 6.　第９課　「看病」　本文、文型、ノート 7.　第９課　コミュニケーション表現、練習 8.　まとめ、試験など 9.　第 10 課　「做客」　本文、文型、ノート 10.　第 10 課　コミュニケーション表現、練習 11.　第 11 課　「旅行」　本文、文型、ノート 12.　第 11 課　コミュニケーション表現、練習 13.　第 12 課　「春节见闻」　本文、文型、ノート 14.　第 12 課　コミュニケーション表現、練習 15.　まとめ・試験など

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し、学習した例文を暗記するなどして定着した知識とする。
テキスト、参考文献	『系統的に学ぼう　中国語Ⅱ　中級会話コース』顧　明耀他　著　白帝社
評価方法	中間・期末などの試験 70%　　授業への参加度など 30%

09 年度以降	中国語（IIIa 応用）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中国語の文章を読む、書く練習を主軸に置きます。閲読、作文などの能力を高めるとともに、学習した内容をスピーキング、リスニングに応用する力を身に付けることを目指します。授業の大まかな取り組み方は以下の通り。 ・新出単語、文法事項、構文を確認し、教科書の本文を翻訳します。また、それら活用し、作文練習を行います。 ・音声を通して、リスニングの力を養います。 ・読解や作文練習において常にピンインを取り入れ、ピンインをしっかり読み書きできることを目指します。 ・各課のテーマについて、中国語で書いた感想を話してもらいます。教員の質問に対して、中国語で答えもらいます。	1. ガイダンス、基本事項の復習 2. 第一課 大学生的周末 3. 第一課 大学生的周末 4. 第二課 北京的交通 5. 第二課 北京的交通 6. 第三課 中国人的主食――北方和南方 7. 第三課 中国人的主食――北方和南方 8. まとめ、中間試験 9. 第四課 对数字的喜好 10. 第四課 对数字的喜好 11. 第五課 大学生的“打工”现状 12. 第五課 大学生的“打工”现状 13. 第六課 集体生活的好处 14. 第六課 集体生活的好处 15. まとめ、期末試験

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：単語、本文を予習し、ある程度理解したうえで授業に臨むこと。 事後：学習した単語、構文などを復習し、作文できるようにすること。
テキスト、参考文献	使用テキスト：吉田泰謙、相原里美、葛婧 著『知っておきたい中国事情』、白水社、2014 年 2 月
評価方法	中間試験 40%、期末試験 40%、授業での練習の達成度 20%

09 年度以降	中国語（IIIb 応用）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
春学期同様。	1. 第七課 在北京购物 2. 第七課 在北京购物 3. 第八課 送礼的讲究 4. 第八課 送礼的讲究 5. 第九課 “中国式”结婚 6. 第九課 “中国式”结婚 7. まとめ、中間試験 8. 第十課 双职工家庭 9. 第十課 双职工家庭 10. 第十一課 中国人的称呼――辈分和面子 11. 第十一課 中国人的称呼――辈分和面子 12. 第十二課 大学生心目中的理想职业 13. 第十二課 大学生心目中的理想职业 14. 補足問題 15. まとめ、期末試験

到達目標	中国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：単語、本文を予習し、ある程度理解したうえで授業に臨むこと。 事後：学習した単語、構文などを復習し、作文できるようにすること。
テキスト、参考文献	使用テキスト：吉田泰謙、相原里美、葛婧 著『知っておきたい中国事情』、白水社、2014 年 2 月
評価方法	中間試験 40%、期末試験 40%、授業での練習の達成度 20%

09 年度以降	韓国語（Ia 総合 1）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎的知識を習得することを目標とし、主に「読み」「書き」に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめて簡単な挨拶、自己紹介、道をたずねるなど、旅行や日常生活に必要な基本文と共に、基礎的かつ重要な文法をしっかりと身に付けていく。 よく、「韓国語は日本語と似ているから習得しやすい」と言われるが、そうした思い込みは捨ててほしい。カタカナ読みの韓国語ではなく、「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. ハングルのしくみ① 2. ハングルのしくみ② 3. ハングルのしくみ③ 4. あいさつ① 5. あいさつ② 6. 名詞文 7. 存在文 8. 用言文 9. 数詞① 10.数詞② 11.否定形 12.尊敬形 13.連用形 14.해요体 15.해요体の尊敬形

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ib 総合 1）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 過去形 4. 連体形① 5. 連体形② 6. 未来意思形 7. ㄹ語幹 8. ㄷ変則用言 9. ㅅ変則用言 10.ㅂ変則用言 11.ㅎ変則用言 12.ㄹ変則用言 13.変則用言のまとめ 14.まとめと復習① 15.まとめと復習②

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ia 総合 2）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は「韓国語Ｉ（総合１）」で学んだ文法や単語を教室内で実際に使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。 主に「読み・書き」に力を入れていく。	1. ハングルのしくみ① 2. ハングルのしくみ② 3. ハングルのしくみ③ 4. あいさつ① 5. あいさつ② 6. 名詞文 7. 存在文 8. 用言文 9. 数詞① 10. 数詞② 11. 否定形 12. 尊敬形 13. 連用形 14. 해요体 15. 해요体の尊敬形

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ib 総合 2）	担当者	森　勇俊

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法を教室内で使用してみることにより、韓国語の実践力を鍛えることに重点を置く。	1. 基本事項の確認① 2. 基本事項の確認② 3. 過去形 4. 連体形① 5. 連体形② 6. 未来意思形 7. ㄹ語幹 8. ㄷ変則用言 9. ㅅ変則用言 10. ㅂ変則用言 11. ㅎ変則用言 12. 르変則用言 13. 変則用言のまとめ 14. まとめと復習① 15. まとめと復習②

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋　改訂版』白帝社
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ia 応用）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では，韓国語会話の基礎を習得することを目的とする。	1-2.　文字と発音 3-4.　挨拶と自己紹介 5-6.　場所を確認する 7-8.　物の位置などについて話す 9-10.　趣味と好き嫌い 11-12.　職業や夢について話す 13-14.　物を比較する 15.　まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『パランセ韓国語　会話入門』金京子著
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（Ib 応用）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に身につけた初歩の会話をさらに磨き，さまざまな表現ができるようにする。積極的な授業参加が期待される。	1-2.　注文する 3-4.　日程や予定について話す 5-6.　道案内 7-8.　ショッピング 9-10.　理由をたずねる 11-12.　天気について 13-14.　理由を説明する 15.　まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『パランセ韓国語　会話入門』金京子著
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（IIa 総合 1）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語 I 応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。	1.　第一課　空港に出迎え 2.　第二課　部屋探し 3.　第三課　自己紹介 4.　第四課　ソンミンの家で 5.　まとめと復習 6.　中間テスト 7.　アクティビティ 8.　第五課　帰り道 9.　第六課　百日記念日 10.　第七課　引越しパーティーの日 11.　アクティビティ 12.　第八課　汽車に乗っておでかけ 13-14.　まとめと復習 15.　期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（IIb 総合 1）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。	1.　春学期の復習 2.　春学期の復習 3.　第九課　村の風景 4.　第十課　ソンミンさんを訪ねて 5.　第六課～第十課の復習 6.　第十一課　下宿に帰って 7.　中間テスト 8.　アクティビティ 9.　第十二課　診察を受ける 10.　第十三課　和解 11.　第十四課　悲しみよ，さようなら 12.　第十一課から第一四課の復習 13.　アクティビティ 14.　まとめと復習 15.　期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（IIa 総合 2）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語 I 応用」で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1.　第一課　空港に出迎え 2.　第二課　部屋探し 3.　第三課　自己紹介 4.　第四課　ソンミンの家で 5.　まとめと復習 6.　アクティビティ 7.　第五課　帰り道 8.　第一課から第五課のまとめ 9.　第六課　百日記念日 10.　第七課　引越しパーティーの日 11.　アクティビティ 12.　第八課　汽車に乗っておでかけ 13-14.　まとめと復習 15.　アクティビティ

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（IIb 総合 2）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では前期で学習した内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には前期より深いコミュニケーションができるように期待したい。	1.　春学期の復習 2.　春学期の復習 3.　第九課　村の風景 4.　第十課　ソンミンさんを訪ねて 5.　第六課～第十課の復習 6.　第十一課　下宿に帰って 7.　中間テスト 8.　アクティビティ 9.　第十二課　診察を受ける 10.　第十三課　和解 11.　第十四課　悲しみよ，さようなら 12.　第十一課から第一四課の復習 13.　アクティビティ 14.　まとめと復習 15.　期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『もっとチャレンジ！韓国語』金順玉，阪堂千津子ほか
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（IIa 応用）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語Ⅰ」で学習した内容を応用しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。	1. 前年度の復習 2. ぞんざいな文末表現① 3. ぞんざいな文末表現② 4. 未来連体形を使う表現① 5. 未来連体形を使う表現② 6. 未来連体形を使う表現③ 7. 復習 8. 中間テスト 9. 引用形① 10.引用形② 11.名詞変化語尾① 12.名詞変化語尾② 13-14.復習 15.期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語（IIb 応用）	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では「韓国語Ⅰ」で学習した内容を応用しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。	1. 前年度の復習 2. ぞんざいな文末表現① 3. ぞんざいな文末表現② 4. 未来連体形を使う表現① 5. 未来連体形を使う表現② 6. 未来連体形を使う表現③ 7. 復習 8. 中間テスト 9. 引用形① 10.引用形② 11.名詞変化語尾① 12.名詞変化語尾② 13-14.復習 15.期末テスト

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	『ことばの架け橋中級表現編』生越直樹著
評価方法	中間テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語(IIIa 応用)	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、今まで身につけた知識を活かし，文法や表現を応用してより正確な表現力、会話運用力の習得を目指す。	1. 復習 2. ハングル能力試験対策 3. ハングル能力試験対策 4. ハングル能力試験対策 5. ハングル能力試験対策 6. ハングル能力試験対策 7. 第 1 課 病院で 8. 第 2 課 バス停留場で 9. 第 3 課 銀行で 10. 第 4 課 本を読む 11. 第 5 課 韓国料理 12. 第 6 課 天気 13―15. まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	李昌圭『韓国語上級』白帝社 李昌圭・安國煥共著『ハングル検定試験実践問題集 3 級』
評価方法	小テスト、期末テスト

09 年度以降	韓国語(IIIb 応用)	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、今まで身につけた知識を活かし，文法や表現を応用してより正確な表現力、会話運用力の習得を目指す。	1. 前期の復習 2. 第 7 課 趣味は何ですか 3. 第 7 課 文法と表現 4. 第 8 課 約束 5. 第 8 課 文法と表現 6. 第 9 課 道を歩く 7. 第 9 課 文法と表現 8. 第 10 課 引っ越し 9. 第 10 課 文法と表現 10. 第 11 課 あけましておめでとうございます 11. 第 11 課 文法と表現 12. 第 12 課 秋夕 13－15. まとめと復習

到達目標	韓国語の文化的背景を学びながら、その基本文法・構文を理解し、基本的なコミュニケーションをとることができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。 また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト、参考文献	李昌圭『韓国語上級』白帝社 李昌圭・安國煥共著『ハングル検定試験実践問題集 3 級』
評価方法	小テスト、期末テスト

2016 年度

外国語学部共通科目シラバス

09 年度以降	総合講座「自由とは何か」	担当者	阿部　明日香 （コーディネーター）

講義目的、講義概要	授業計画
近代に生きる私たちは、「自由な個人」なのでしょうか。ひとりひとりが自分の意思に基づいて考え行動しているのか、それとも、おかれた環境や文化に依存し、その規範を内面化することで自己決定をさせられているのでしょうか。あるいはもっと直接的に権力や制度などによって規制あるいは監視され、個人の自由が制限される場合もあります。本講座では、自由と自由を規制するもの（自己規制を含む）のせめぎ合いについて、時代を問わずさまざまな学問分野（政治、法律、思想、社会、文化、文学、言語、芸術、宗教など）から論じていきます。	1. 4/13 イントロダクション 2. 4/20 憲法（学）における「自由」の意味について　（右崎正博） 3. 4/27学部主催講演会に振替 4. 5/11 自由と紛争：人間の安全保障における自由を考える（石川幸子） 5. 5/18 北朝鮮における「不自由」と「自由」　（金子芳樹） 6. 5/25 環境分野から見た自由　（岡村りら） 7. 6/1 経済的自由と政治的自由の相克―なぜドイツでは「自由主義」が弱いのか　（大重光太郎） 8. 6/8 自由とメディアの関係史　（山口誠） 9. 6/15 ドレフュス事件とゾラ：『私は告発する』　（福田美雪） 10. 6/22 自由、それを失う可能性　（中島万紀子） 11. 6/29 アメリカを百万分の一インチ変えた詩、アレン・ギンズバーグの「吠える」("Howl")にみる解放のヴィジョン　（原成吉） 12. 7/6 帰属と自由　（上野直子） 13. 7/13「自由とは何か」を再考する―ルソーとラカンの場合（若森榮樹） 14. 7/20 フランスのテロ事件をめぐって（仮）　（西谷修） 15. まとめ

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された参考文献に目を通す。講義のノートを復習する。
テキスト、参考文献	担当講師から指示されます。
評価方法	毎回のコメントペーパー。学期末試験。

09 年度以降	総合講座「神話はいかにしてつくられるか」	担当者	廣田　愛理 （コーディネーター）

講義目的、講義概要	授業計画
神話とは一般にはまず「特定の民族・共同体に関わる世界の起源とその意味を説明する物語」を指しますが、20 世紀以降その用法は拡大し「現代社会の特定の集団において普遍と信じられている物語」を表す言葉としても用いられています。また「日本の安全神話」といったように、根拠なく事実だと思われている事象を指す用法も一般化してきました。そこで本講座では「特定の集団を広く支配し、考え方や行動を規定する原理となり得るもの」として、神話について時代を問わずさまざまな学問分野（政治、法律、思想、社会、文化、文学、言語、芸術、宗教など）から論じていきます。	1. 9/28 イントロダクション 2. 10/5 ヒーローのつくりかた―イタリア統一運動における絵画・挿絵・テクストの戦略―　（尾崎有紀子） 3. 10/12 レーニ・リーフェンシュタール―美と神話と政治のはざまで―　（山本淳） 4. 10/19 東ドイツの国民と国家の「神話」―自己解放と抵抗（伊豆田俊輔） 5. 10/26 アフリカをめぐる神話と国際情勢　（佐野康子） 6. 11/2 コロニアリズムという神話　（須永和博） 7. 11/9「女らしさの神話」のいま　（片山亜紀） 8. 11/16 男性ヌードの神話　（青山愛香） 9. 11/30「常識」を疑う　（川村肇） 10. 12/7 日常生活における神話　（平田周） 11. 12/14 The Universal Story: Themes and Motifs in Myths &Folktales（本橋エレン） 12. 12/21 メディアパラノイア　共振する暗殺者たち　（工藤達也） 13. 1/11 儀式殺人告発の神話　（佐藤唯行） 14. 1/18 まとめ 1 15. まとめ 2

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指示された参考文献に目を通す。講義のノートを復習する。
テキスト、参考文献	担当講師から指示されます。
評価方法	毎回のコメントペーパー。学期末試験。

09 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
西洋音楽史（1） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。 「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。 注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。	1. 導入、概観 2. 日本人と西洋音楽 3. 古代ギリシャ・ローマの音楽、グレゴリオ聖歌 4. ヨーロッパの中世の音楽 5. ルネサンス音楽（1）　フランドルを中心に 6. ルネサンス音楽（2）　イギリス・スペインを中心に 7. ルネサンス音楽（3）　イタリアを中心に 8. バロック音楽（1）　イタリアを中心に 9. バロック音楽（2）　フランスを中心に 10. バロック音楽（3）　リュリとラモーを中心に 11. バロック音楽（4）　イギリスを中心に 12. バロック音楽（5）　ヴィヴァルディとペルゴレージ 13. バロック音楽（6）　ドイツを中心に 14. 授業内試験 15. まとめ

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）

09 年度以降	総合講座	担当者	木村　佐千子

講義目的、講義概要	授業計画
西洋音楽史（2） いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を前提として話しますので、なるべく春学期から受講してください。 「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。 注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがあります。予め了解しておいて下さい。	1. 古典派の音楽（1）　ハイドン 2. 古典派の音楽（2）　モーツァルト 3. 古典派の音楽（3）　ベートーヴェン 4. 19 世紀の音楽（1）　ヴェーバー、シューベルト、シューマン 5. 19 世紀の音楽（2）　ヴィルトゥオーソの時代 6. 19 世紀の音楽（3）　フランスを中心に 7. 19 世紀の音楽（4）　ロシアを中心に 8. 19 世紀の音楽（5）　北欧と東欧を中心に 9. 19 世紀の音楽（6）　スペインを中心に 10. 19～20 世紀の音楽（1）　チェコ、ロシアを中心に 11. 19～20 世紀の音楽（2）　フランスを中心に 12. 19～20 世紀の音楽（3）　イタリアを中心に 13. 19～20 世紀の音楽（4）　イギリス、アメリカを中心に 14. まとめ 15. 授業内試験

到達目標	学科の専門領域を越えた総合的な知識を習得し、国際的・学際的視野をもって分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で扱う内容に関連する音楽を聴いたり、文献を読んだりしてください。
テキスト、参考文献	必要に応じ、『音楽中辞典』、『ニューグローヴ世界音楽大事典』、『図解音楽事典』等を参照してください。その他の参考文献は、授業中に紹介します。
評価方法	授業への参加度 25%、試験 75%（初回の授業で説明します）

09 年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム（OS） 6. プログラム言語 7. データ構造―リスト、スタック、キュー、2 分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11. 総合演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	コンピュータの基礎理論およびコンピュータ言語に関する知識を習得し、コンピュータの基本的操作ができるようになる。
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。
テキスト、参考文献	授業中指示するテキスト・参考文献を使用します。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 英語）	担当者	内田　富男

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 ヨーロッパ言語）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［入門］情報科学各論（情報処理演習 ヨーロッパ言語）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、［応用］科目を履修できる。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、受講者数や学習状況によって変更することがある	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、受講者数や学習状況によって変更することがある	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［応用］情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、［入門］科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	情報科学各論（言語情報処理１）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
【初回授業は 5 月 12 日です。学期中に補講を行います】 この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。 言語情報処理Ｉａでは、「言語情報とは何か？」、「コーパス（＝言語データ）とは何か？」、「言語情報処理とは何か？」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか？」、「コーパスをどのように分析するのか？」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題（Research question(s)）をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。 授業では、教科書（下記参照）に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思います。	1. 【ガイダンス】第１章「コーパス言語学への招待」 2. 第２章「コーパスとは何か」 3. 第３章「さまざまなコーパス」 4. 第５章「コーパス検索の技術」 第６章「コーパス頻度の処理」 5. 第７章「コーパスと語彙」（１） 6. 第７章「コーパスと語彙」（２） 7. 第８章「コーパスと語法」（１） 8. 第８章「コーパスと語法」（２） 9. 第９章「コーパスと文法」（１） 10. 第９章「コーパスと文法」（２） 11　プレゼンテーション準備（１）：RQ を検討 12. プレゼンテーション準備（２）：データ分析 13. プレゼンテーション準備（３）：資料作成 14. 発表（１） 15. 発表（２）

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。
テキスト、参考文献	『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎著　ひつじ書房）
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）

09 年度以降	情報科学各論（言語情報処理２）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
「日本人英語学習者のコーパス」を扱います。究極的な研究課題（Research question）は、「日本人英語学習者の話す／書く英語の特徴にはどのようなものがあるか？」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する（あるいはしない）文法項目、誤り（error）などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まってくるに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおかしてしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、<u>英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人に向いている</u>内容といえます。 授業では、学習者コーパスを構築し、分析する演習が中心になります。言語情報処理 Ia を履修していなくても構いませんが、PC 作業に慣れていることが望ましいです。	1. 【ガイダンス】学習者コーパスとは何か 2. 学習者の言語データと第二言語習得 3. 学習者コーパスの仕組み 4. 学習者データの収集（１） 5. 学習者データの収集（２） 6. 学習者データの入力 7. 学習者データの加工 8. 学習者コーパスの語彙分析 9. 学習者コーパスの文法分析 10. 学習者コーパスの流暢さ分析 11　学習者コーパスの誤り分析 12. プレゼンテーション準備（１）：データ分析 13. プレゼンテーション準備（２）：資料作成 14. 発表（１） 15. 発表（２）

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	課題が授業時間内に終わらない場合は、期日までに仕上げ、講義支援システム経由で提出する。
テキスト、参考文献	テキストは使用せず
評価方法	毎回の授業における課題への取り組み（50%）、最終プレゼンテーション（50%）

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 なお、クラスによって多少進度が異なることがある。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	担当教員より随時指示する。
テキスト、参考文献	適宜指示する。
評価方法	担当教員より指示する。

09 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、「HTML初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「HTMLを用いたホームページ作成技術を習得した人（FTPの理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTPなどの復習を行う。次にJavaScriptやCGIプログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：　評価方法等を詳しく説明しますので、 ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。	1. ガイダンスとイントロダクション 2. HTML と FTP の復習（1） 3. HTML と FTP の復習（2） 4. インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5. プログラミングの基礎知識 6. JavaScript（1） 7. JavaScript（2） 8. JavaScript（3） 9. JavaScript（4） 10. JavaScript（5） 11. CGI の利用 12. 総合課題（1） 13. 総合課題（2） 14. 総合課題（3） 15. 鑑賞会

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で指示される、課題、復習、準備等を行うこと。
テキスト、参考文献	授業用 Web にて資料等を配布。参考文献等は随時紹介。
評価方法	授業中に作成する課題（60%）と平常点（課題の途中経過等 40%）で総合評価する。

09 年度以降	経済原論 a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	1.　経済学の目的と方法 2.　家計の行動①－効用の概念と予算制約 3.　家計の行動②－効用最大化 4.　家計の行動③－消費者余剰の概念 5.　企業の行動①－生産技術の決定 6.　企業の行動②－費用曲線と利潤最大化 7.　企業の行動③－生産者余剰の概念 8.　市場価格の決定 9.　不完全競争市場 10.　厚生経済学の基本定理 11.　市場の失敗 12.　所得分配の決定 13.　政府の役割①－規制および補助金政策 14.　政府の役割②－租税政策 15.　まとめ

到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。
評価方法	定期試験の成績（80%）に授業内での小テストの結果（20%）を加味して評価する。

09 年度以降	経済原論 b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	1.　マクロ経済学の体系 2.　国民所得の諸概念 3.　消費と貯蓄の理論 4.　企業投資の理論 5.　国民所得決定の理論 6.　生産物市場の分析 7.　金融市場の分析 8.　財政政策の有効性 9.　金融政策の有効性 10.　国際収支と為替レートの決定要因 11.　開放マクロ経済下での経済政策 12.　公債発行と財政赤字 13.　経済成長の決定要因 14.　日本の公的債務と経済成長 15.　まとめ

到達目標	経済学の基礎知識を習得し、様々な経済事象を分析できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回の講義で解説した専門用語（プリントを配布）について復習し、十分に理解したうえで、次回の講義に臨むこと。
テキスト、参考文献	特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。
評価方法	定期試験の成績（80%）に授業内での小テストの結果（20%）を加味して評価する。

09 年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a，b では，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では，個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1.イントロダクション -「社会心理学」講義の前に 2.社会心理学の概要 3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7.自己(1)：自分はどんな人間か 8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11.社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14.期末試験と振り返り 15.社会的影響(5)：人間の力

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣; 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

09 年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a，b では，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2.コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション 3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8.信頼社会と安心社会 9.社会的感情(1)：互恵性を生み出す感情～感謝 10.社会的感情(2)：表情と感情 11.社会的感情(3)：生死を分ける感情 12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13.健康行動と社会心理学(2)：感染予防ための挑戦 14.期末試験と振り返り 15.社会心理学の未来

到達目標	社会心理学に関する基礎知識を習得し、社会に生きる個人および集団の認知過程や行動特徴などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト、参考文献	テキストは使用しない。参考書として以下 2 冊を勧める。亀田達也・村田光二（2000）．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』 有斐閣; 池田謙一 他（2010）．『社会心理学』 有斐閣
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 70%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

シラバス 交流文化学科

2016年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1656

DOKKYO UNIVERSITY

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	